玄海原子力発電所の運転状況及び
周 辺 環 境 調 査 結 果 （ 年 報 ）

（令和７年度）

（令和８年１０月）

佐　　賀　　県

はじめに

佐賀県は、九州電力株式会社との間で「原子力発電所の安全確保に関する協定書」（安全協定）を締結し、玄海原子力発電所の周辺地域住民の安全確保と周辺環境保全に万全を期しているところです。

この安全協定に基づき、佐賀県では、玄海原子力発電所の運転状況の確認を行うとともに、佐賀県及び九州電力株式会社では、環境放射能調査及び温排水影響調査を実施しています。

ここでは、令和７年度における玄海原子力発電所の運転状況、周辺環境放射能調査結果及び温排水影響調査結果についてとりまとめました。

令和８年１０月

佐　賀　県

－　内　　容　－

Ⅰ　玄海原子力発電所の運転状況
＜令和７年度＞

Ⅱ　玄海原子力発電所周辺環境放射能調査結果
＜令和７年度＞

Ⅲ　温排水影響調査結果（県実施分）
＜令和７年度＞

Ⅳ　温排水影響調査結果（九州電力実施分）
＜令和７年度＞

Ⅴ　玄海原子力発電所周辺環境調査計画
＜令和８年度＞

Ⅵ　原子力発電所の安全確保に関する協定書等

Ⅰ　玄海原子力発電所の運転状況

＜令和７年度＞

Ⅰ　目　次

１ 運転状況

（１）運転状況（３号機、４号機）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－１
（２）定期検査の実施状況（３号機、４号機）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－１
（３）廃止措置の実施状況（１号機、２号機）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－３

２ 事故・故障等の発生

（１）安全協定第６条に該当する事故・故障等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－７
（２）保全品質情報・・Ⅰ－13
（３）その他の情報・・Ⅰ－14

３ 放射性廃棄物等の管理状況

（１）放射性気体廃棄物の放出量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－19
（２）放射性液体廃棄物の放出量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－20
（３）放射性固体廃棄物の発生量及び保管量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－21
（４）使用済燃料の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－22

４ 燃料輸送等の状況

（１）新燃料（取替用燃料）の搬入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－23
（２）新燃料（未使用燃料）の搬出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－23
（３）使用済燃料の搬出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－23
（４）使用済燃料の構内運搬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－23
（５）低レベル放射性廃棄物の搬出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－23

＜資料＞

１ 営業運転開始までの経過

（１）１号機・・・Ⅰ－27
（２）２号機・・・Ⅰ－29
（３）３号機・・・Ⅰ－30
（４）４号機・・・Ⅰ－32

２ 運転状況の経過

（１）設備利用率等の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－34
（２）定期検査の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ－37

３ これまでの事故・故障等 ····· Ⅰ－43

４ 放射性廃棄物の放出及び発生実績
（１）放射性廃棄物の放出実績····· Ⅰ－45
（２）放射性固体廃棄物の発生実績····· Ⅰ－48

５ 従事者被ばく線量の経過
（１）放射線業務従事者年間線量の経過····· Ⅰ－50
（２）定期検査期間中の被ばく実績の経過····· Ⅰ－52

６ 燃料輸送の実績等
（１）新燃料（取替用燃料）の輸送実績····· Ⅰ－58
（２）使用済燃料の輸送実績····· Ⅰ－61
（３）燃料保管状況····· Ⅰ－63

1 運転状況

（1）運転状況（3号機、4号機）

	発電所合計	3号機	4号機
電気出力［MW］	2,360	1,180	1,180
発電電力量［MWh］	16,315,372	8,323,470	7,991,902
利用率［%］	78.9	80.5	77.3

※ 1号機は平成27年4月27日、2号機は平成31年4月9日に運転終了。

（2）定期検査の実施状況（3号機、4号機）

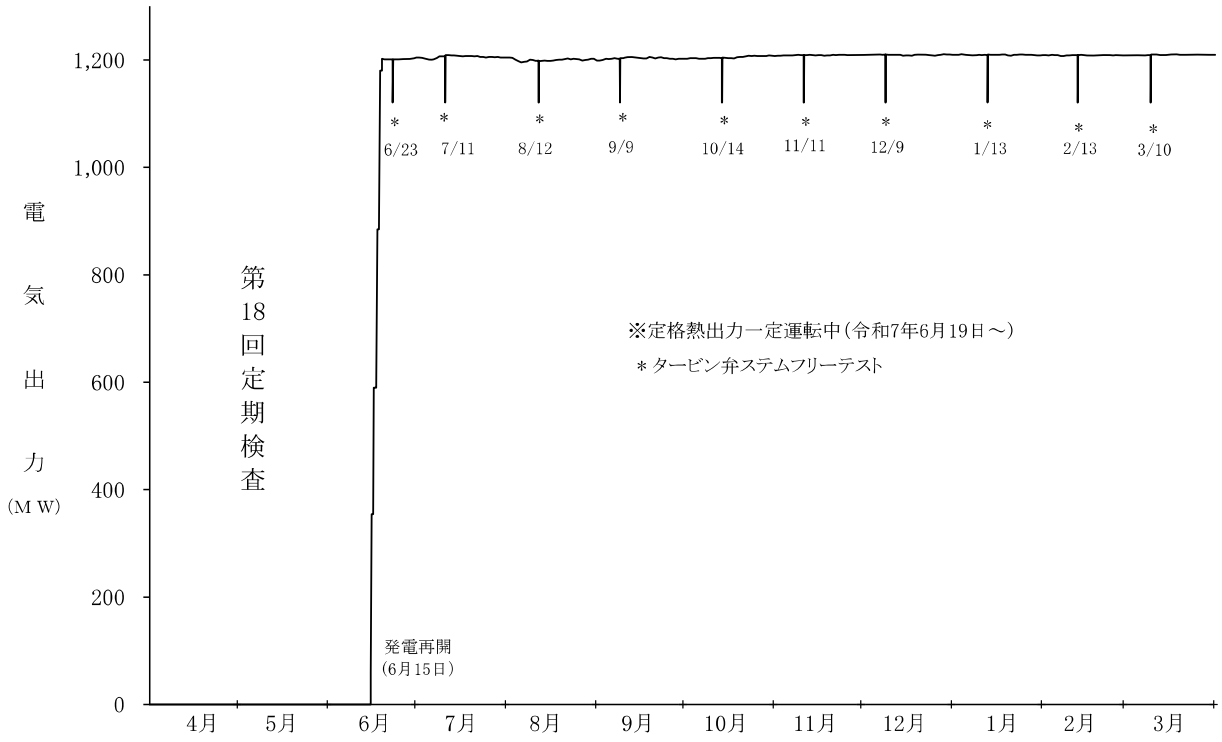
① 3号機　第18回定期検査

	概　　要
1 実施期間	・令和7年3月28日　～　令和7年7月10日 ［発電再開日　令和7年6月15日　停止期間 80日］
2 検査結果等の特記事項	－
3 検査以外に実施する主な作業等	・燃料集合体193体のうち、72体を新燃料に取り替えた。

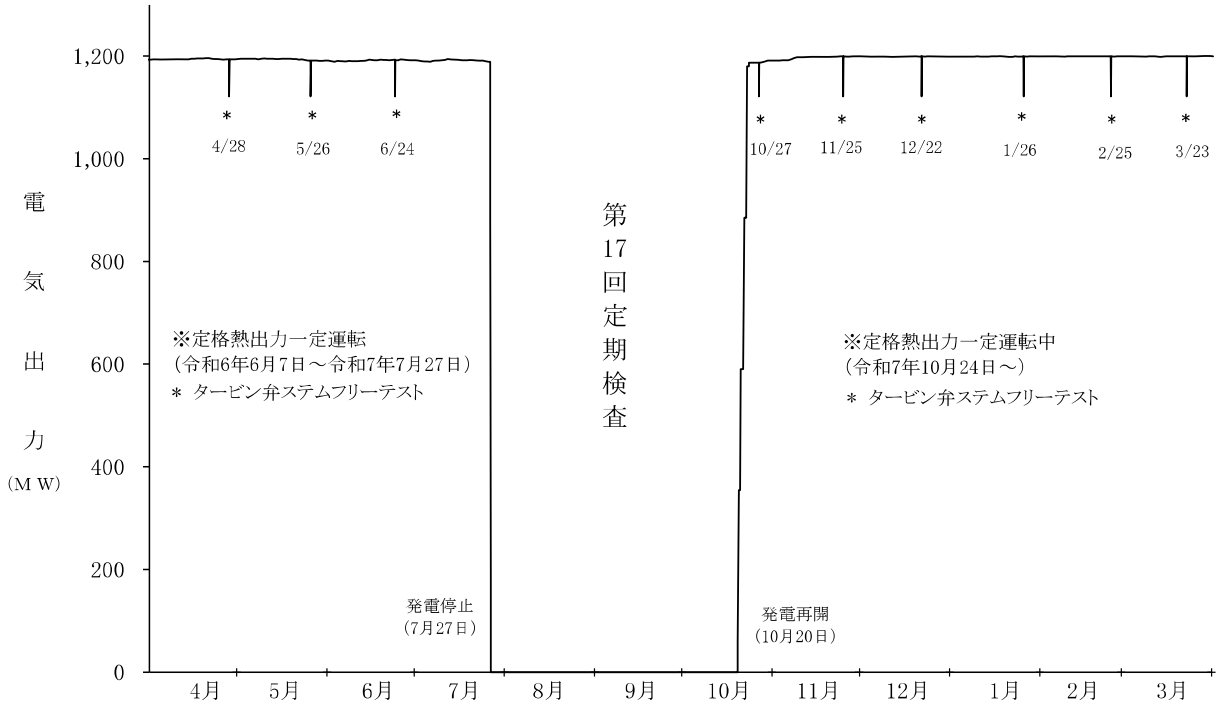
② 4号機　第17回定期検査

	概　　要
1 実施期間	・令和7年7月27日　～　令和7年11月14日 ［発電再開日　令和7年10月20日　停止期間 86日］
2 検査結果等の特記事項	－
3 検査以外に実施する主な作業等	・燃料集合体193体のうち、68体を新燃料に取り替えた。

玄　海　３　号　機　運　転　状　況
（令　和　７　年　度）



玄　海　４　号　機　運　転　状　況
（令　和　７　年　度）



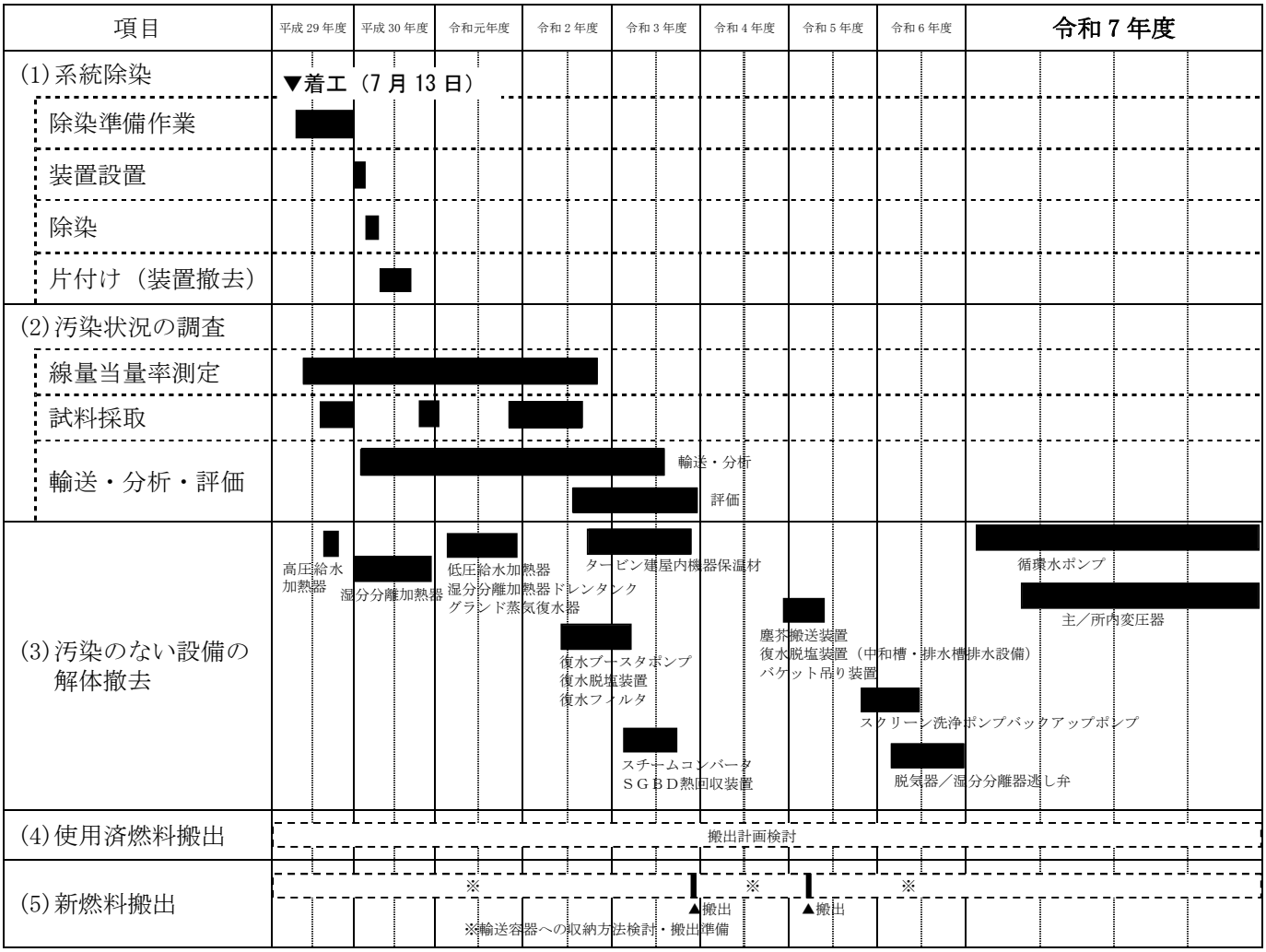
（３）廃止措置の実施状況（１号機、２号機）

①　１号機

ア　廃止措置の進捗状況

第１段階：解体工事準備期間（平成29年７月13日～令和７年度）

令和８年３月末現在



イ　汚染のない設備の解体撤去

解体廃棄物（令和７年度）　　（単位:トン）

種類	発生		処分		期末保管量
	発生量	累計発生量※	処分量	累計処分量※	
金　属　類	728.2	2085.8	728.2	2085.8	0
コンクリート類	0.3	47.3	0.3	47.3	0
そ　の　他	10.9	168.0	10.9	168.0	0

※ 平成 29 年７月以降の累計

ウ　定期検査（廃止措置段階）の実施状況

１号機　第７回定期検査

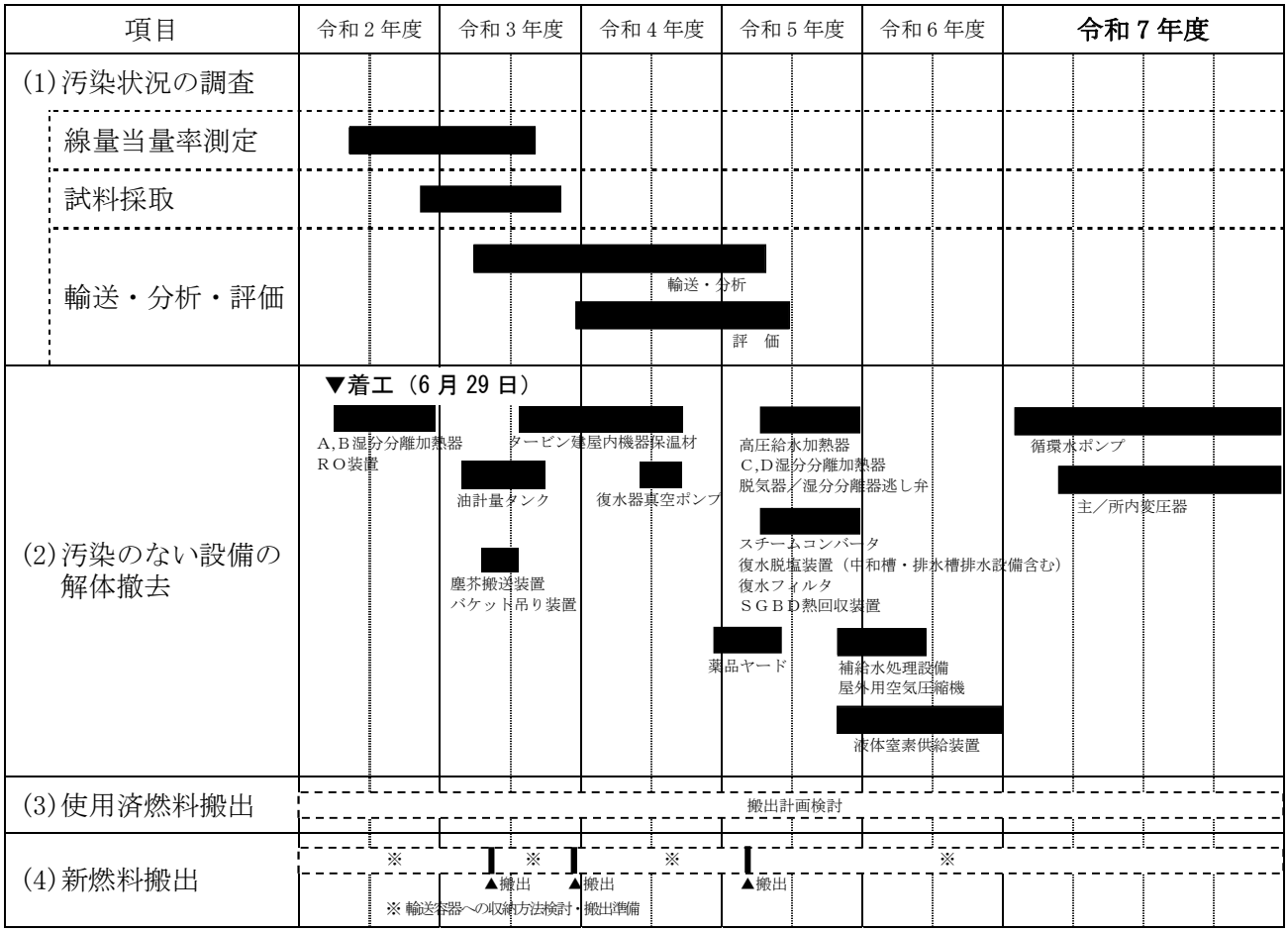
	概　　要
１　実　施　期　間	・令和８年１月９日　～　令和８年７月９日
２　主要検査及び確認結果	・廃止措置期間中に機能を維持すべき施設・設備について、それぞれ検査を実施した。 （検査対象の施設・設備の例） ➢ 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 ➢ 放射性廃棄物の廃棄施設 ➢ 放射線管理施設

②　２号機

ア　廃止措置の進捗状況

第１段階：解体工事準備期間（令和２年６月 29 日～令和７年度）

令和８年３月末現在



イ　汚染のない設備の解体撤去

解体廃棄物（令和７年度）　　（単位:トン）

種類	発生		処分		期末保管量
	発生量	累計発生量※	処分量	累計処分量※	
金　属　類	883.6	2296.3	883.6	2296.3	0
コンクリート類	1.4	143.4	1.4	143.4	0
そ　の　他	20.8	205.3	20.8	205.3	0

※ 令和２年６月以降の累計

ウ　定期検査（廃止措置段階）の実施状況

２号機　第４回定期検査

	概　　要
１　実　施　期　間	・令和８年１月９日　～　令和８年７月９日
２　主要検査及び確認結果	・廃止措置期間中に機能を維持すべき施設・設備について、それぞれ検査を実施した。 （検査対象の施設・設備の例） ➢ 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 ➢ 放射性廃棄物の廃棄施設 ➢ 放射線管理施設

２ 事故・故障等の発生

（１）安全協定第６条に該当する事故・故障等

①玄海原子力発電所３号機　第18回定期検査中における放射性物質の体内への取り込みについて

【発生年月日】令和７年５月11日

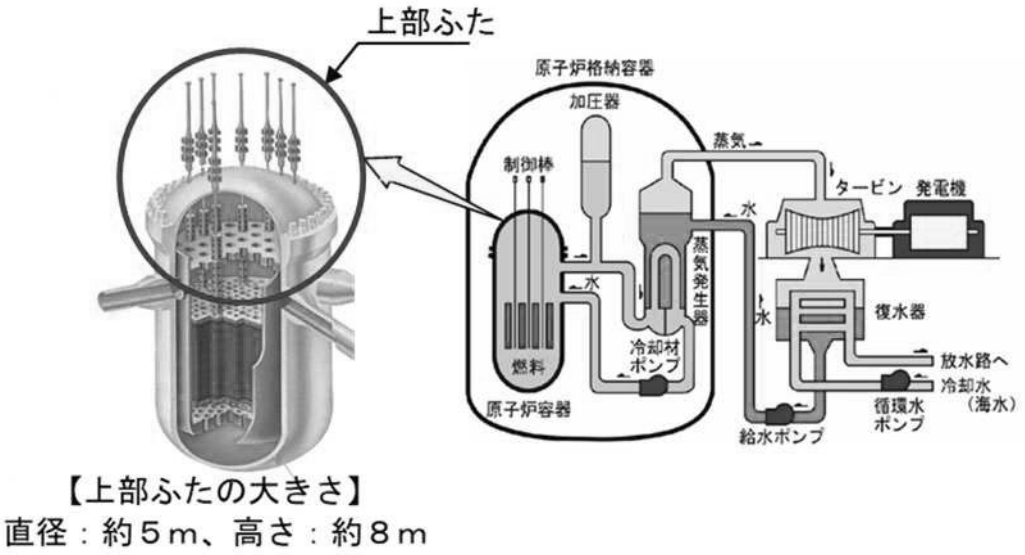
【事象の概要】

- 第18回定期検査中の玄海原子力発電所３号機において、令和７年５月10日、管理区域内で原子炉容器上部ふたの手入れ作業を行った協力会社作業員１名が、管理区域から退域する際の検査を行ったところ、顔付近に放射性物質による汚染が検出された。

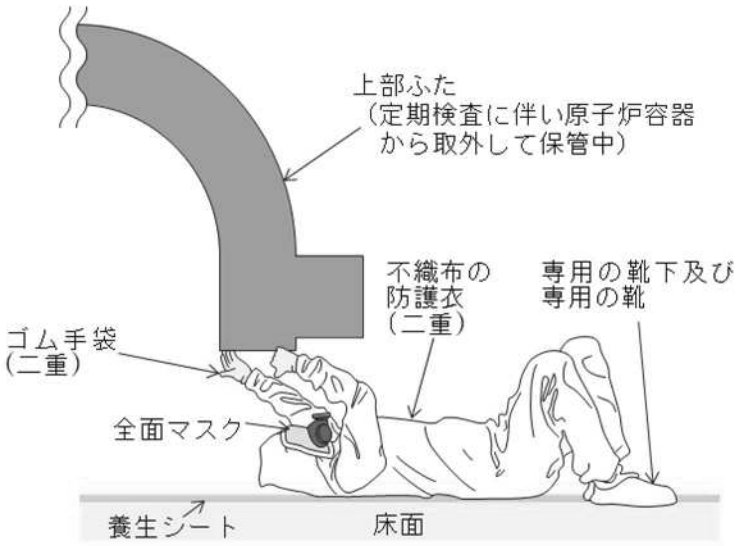
  このため、汚染部位の除染を行った上で、５月11日、専用の測定器で測定を実施した結果、微量の放射性物質の体内への取り込みを確認した。
- 内部被ばく量（今後 50 年間で受けるとした場合の評価値）は 0.01 ミリシーベルト※と法令に定める国への報告が必要となる線量（５ミリシーベルト）に比べて極めて低く、身体に影響を与えるものではなかった。

  また、当該作業員の体調に異変はなく、医療機関を受診した結果、身体に異常はないと診断された。

  ※５月 11 日の取り込み判断（九州電力公表）時点の暫定評価値は 0.02 ミリシーベルト
- この事案による環境への影響や、他の作業員の体内への放射性物質の取り込みはなかった。



【原子炉容器上部ふた概要図】



【原子炉容器上部ふたの手入れ作業】

【調査結果（作業員への聞き取り等）】

- 作業員は適切に全面マスク等の防護具を着用し、適切な手順で脱衣を行っていた。
- 当該作業員は、仰向けで作業を実施しており、防護具へ放射性物質が付着した可能性がある。
- 作業員が着用していた全面マスクを含む防護具について、使用後の状況を確認した結果、損傷等の異常はなかったが、全面マスク表面に汚染が確認された。

【推定原因】

- 作業員の汚染状況や防護具の脱衣手順等を確認した結果、防護具を脱衣する際、ゴム手袋や靴下に付着していた放射性物質により綿手袋が汚染し、綿手袋で顔付近を触れ、体内へ放射性物質を取り込んだのではないかと推定した。
  なお、放射性物質が付着していた全面マスクを取り外す際、放射性物質が鼻下に付着し、作業員が吸入した可能性も否定できない。

【対策】

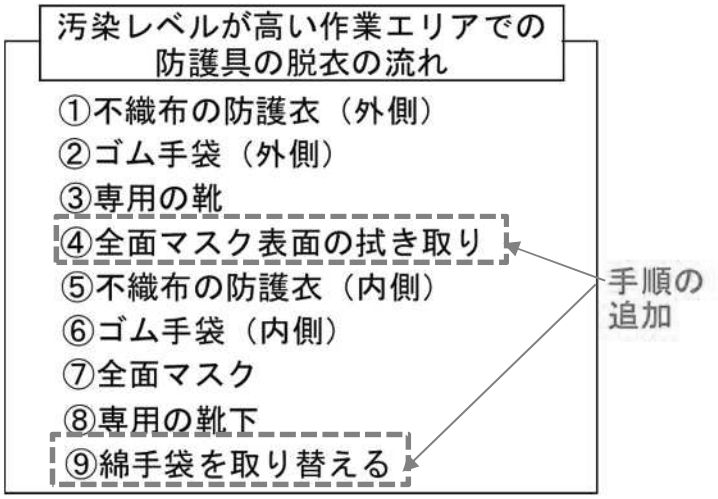
- 汚染レベルの高い作業エリアの作業後は、作業エリア退域時に綿手袋を取り替える。
- 全面マスクを使用する作業後は、マスク表面に放射性物質が付着している可能性があることから、脱衣補助者が放射性物質を除去するためマスク取り外し前に濡れた紙タオル等でマスク表面の拭き取りを行う。（脱衣補助者は半面マスクを着用する。）
- 再発防止対策及び管理区域内での基本的な遵守事項の徹底等について、関係者に周知を行うとともに、定期的に教育を行う。



（ 通常の管理区域で着用する綿手袋、布製管理服・帽子、靴下の外側に上記防護具を着用 ）

【防護具着用状況】





【脱衣時手順（追加対策を含む）】

②玄海原子力発電所３号機　第18回定期検査中における主蒸気系統圧力計の不具合について

【発生年月日】令和７年６月 28 日

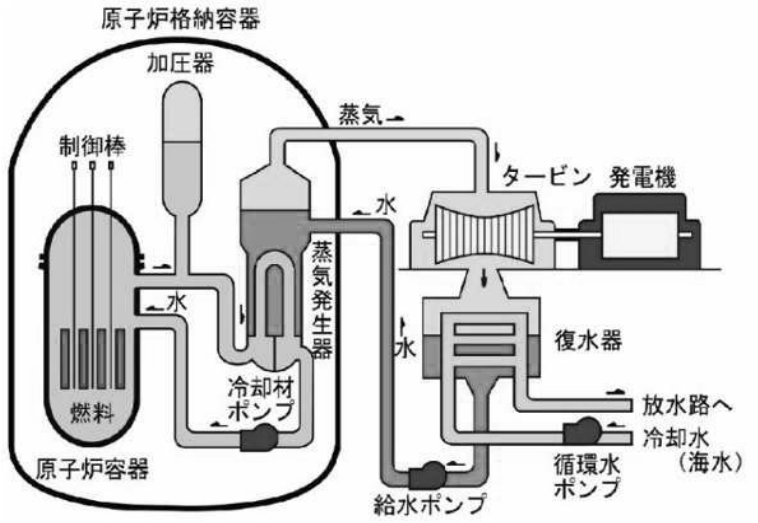
【事象の概要】

- 第 18 回定期検査中の玄海原子力発電所３号機において、４つある主蒸気系統のうちの１つの系統で、系統ごとに４台ある圧力計※1のうち１台の指示値が、その他の３台の指示値と比較して低下していることを確認したため、６月 28 日、当該計器の点検を実施するために計測を停止し、保安規定に定める運転上の制限の逸脱※2を判断した。

  ※１　当該主蒸気系統の４台の圧力計は、今回の定期検査で新品に取り替えていた。

※２　運転上の制限（LCO：Limiting Condition for Operation）
保安規定において、運転の際に実施すべき事項等を定めているもの。一時的にこれを満足しない状態が発生すると、運転上の制限の逸脱を判断し、あらかじめ保安規定に定めた措置を速やかに行う。

- 点検の結果、当該圧力計の伝送器において圧力を正しく計測できていないことを確認したため、予備の伝送器に取り替え、圧力が正常に計測されていることを確認し、６月 29 日、保安規定に定める運転上の制限の逸脱から復帰したと判断した。



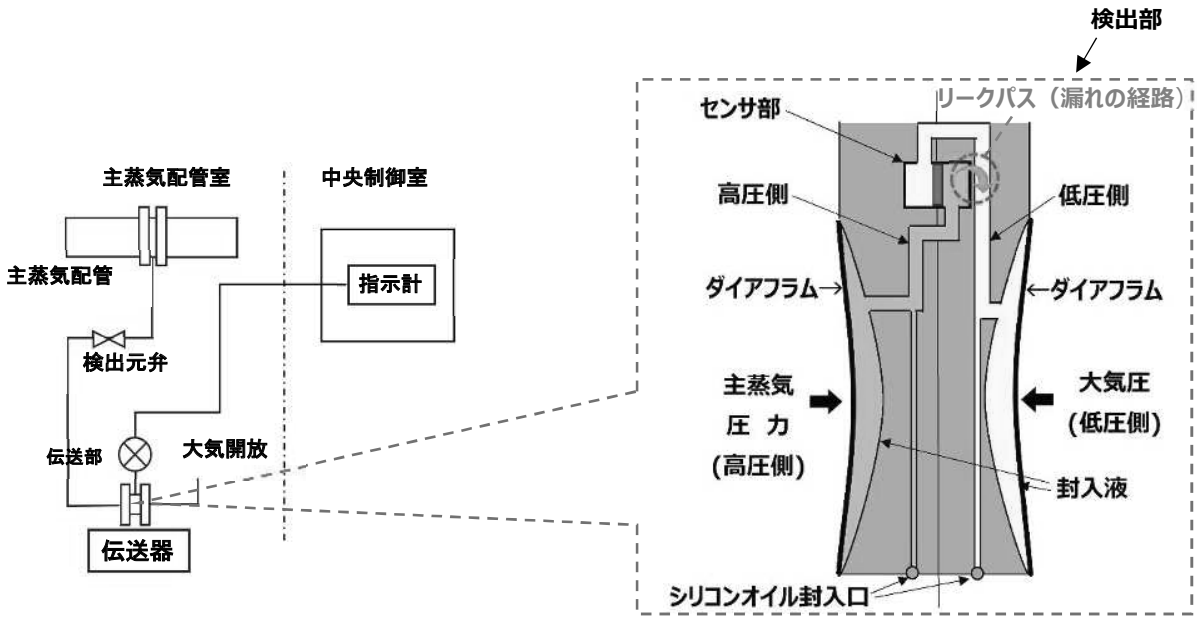
【発電所概要図】

【調査結果（圧力計メーカーによる調査）】
（検出部の分解前調査）

- 目視による伝送器の外観検査、電気回路の絶縁状態確認、電源電圧変動による出力信号への影響確認及び伝送器のエラー履歴確認では、異常は見られなかった。
- 伝送器内のダイアフラムに所定の圧力を加えた時の出力を確認したところ、本事象と同様の不具合（入力値に対して低い値が出力される傾向）が再現され、入出力特性の更なる悪化が確認されたことから、検出部について詳細調査を行った。

（検出部の詳細調査（分解調査））

- 圧力計を分解し、検出部の外観調査を行ったところ、低圧側ダイアフラムの変形（微小な膨らみ）及び高圧側の変形（微小なへこみ）が確認された。
  なお、系統配管と伝送器の接続部に異常はなく、封入液の外部への漏えいは見られなかった。
- さらに検出部を分解し、センサ溶接部（検出部にセンサ部を固定させるための溶接部）を水没させてガス加圧により漏えいの有無を確認する調査を行ったところ、センサ溶接部からの気泡（漏えい）を確認した。
- センサ溶接部の状態確認のため、溶接部を切断し目視確認等を行ったところ、当該部に微小なボイド（空孔）が見られたものの、リークパス（漏れの経路）となるような連続したボイドや割れは確認できなかった。



【圧力計検出原理概念図】

【推定原因】

- センサ溶接部に極微細なリークパスが発生し、高圧側の封入液が低圧側に漏れ、センサ部に正しい圧力が伝えられなくなったことが指示値低下の原因と推定した。
- 伝送器の製造段階では、溶接部にごく微細なボイドや割れが生じることがあり、伝送器取替後の起動操作等における圧力変動の繰り返しによって、このボイドや割れが偶発的に連結し、リークパスとなったものと推定した。
- なお、センサ溶接部の溶接工法、溶接機材及び溶接プロセスに問題はなく、また、今回と同様の不具合の発生確率は0.01%以下であることから、製品として十分な信頼性が確保されていると考えられる。

【対策】

- 万が一同様の事象が発生した場合にも速やかに取替が行えるよう予備品を確保する。
- 同様の事象が発生する可能性を低減させるため、同構造の計器の取替時には、据付前までに追加で圧力変動を与えたうえで、指示値に異常がないことを確認し、使用する。
- 市場における同型式の計器にセンサ溶接部の不具合が発生した場合には、その情報を随時提供するようメーカに依頼し、今回の事象との関連性を確認したうえで対応を検討する。

③玄海原子力発電所周辺上空における飛行中の機体が発する３つの光について

【発生年月日】令和７年７月26日

【事案の概要】

- 令和７年７月26日 21時頃、玄海原子力発電所周辺上空を飛行する機体が発する３つの光を、発電所正門の警備にあたっていた警備員が確認した。
- 九州電力は、３つの光の確認後、警備当局と連携して監視を継続するとともに、核物質防護上の「情報収集事態相当事案」と判断して原子力規制庁及び関係自治体へ通報連絡を行った。
- その後、発電所構内全域にわたり、落下物、不審物等がないことを確認し、翌日（７月 27 日）０時 30 分頃には、異常がないことを確認した。
  なお、明朝、再度、運転員及び警備員の巡視による捜索を行い、落下物や不審物がないことを改めて確認しており、その後も警備員による上空監視の強化を継続した。
- 本事案に伴う発電所設備への影響がないことを確認しており、発電所の安全性に問題はなかった。

【本事案を受けての対応】

≪運用面≫

項目	対応
通報連絡の改善	今回の一連の対応結果を踏まえ、関係機関への通報連絡をより速やかに、かつ正確に行うための改善点を抽出し、検討方針をまとめた（別表参照）。 今後、訓練等を通じて実効性を確認していく。
飛行体飛来時の撮影方針	飛行体等の不審な光を確認した際には、デジタルカメラ（スマートフォン含む）を用いて静止画や動画が撮影できる運用に改めた。
所内周知と監視強化	発電所員及び協力会社社員に対して、事案内容や不審物発見時の対応方法を改めて周知するとともに、監視を強化した。
夜間のドローン飛来時対応訓練	玄海原子力発電所における夜間のドローン飛来時の対応訓練（佐賀県警主催）を実施。今後も訓練を通じて対応能力の向上に努めていく。

（別表）通報連絡に係る課題と検討方針

課題	検討方針
①第１報通報までの即時性の改善	・警備員による事案の認知から第１報通報までの対応手順、対応者、役割を整理する。 ・整理結果を踏まえた対応目安時間を設定する。
②事案認知後の判断に関する改善	・核物質防護事案該当の判断基準を明確化する。
③情報の正確性の改善	・通報連絡様式の「補足情報」欄を活用し、確定情報か不確定情報かの正確性を確保する。
④国との情報連携に係る改善	・核物質防護事案と判断する前の段階における前広な国（原子力規制庁）等の関係機関への情報提供、協議に関するルールを整理する。
⑤体制の拡充に係る改善	・核物質防護事案と判断する前の段階における通報関係者に係る体制、役割分担に関するルールを整理する。
⑥通報連絡手順の改善	・国及び関係自治体に対して同時並行的に通報連絡を実施するための体制を検討し、対応要員の役割を明確化する。
⑦対外的な公表の在り方に関する検証、改善	・国等の関係機関への通報連絡後の対外的な公表の在り方に関して、核物質防護事案の詳細に関する公表内容や公表タイミングについて協議を実施する。

≪設備面≫

- 検知能力の更なる向上（視認性の向上）を目的とした監視機材を整備した。
  - ・双眼鏡及び暗視スコープを追加配備
  - ・投光器を新規配備
- 今後の対応として、ドローン等の小型無人機の早期検知のため、ドローン検知装置の導入に向けて、関係機関と協議しながら検討を進めている。

（２）保全品質情報（（１）に該当しない事象であって、電力会社や産学官で情報を共有することが有益な原子力発電所の保守・運営状況）

該当なし

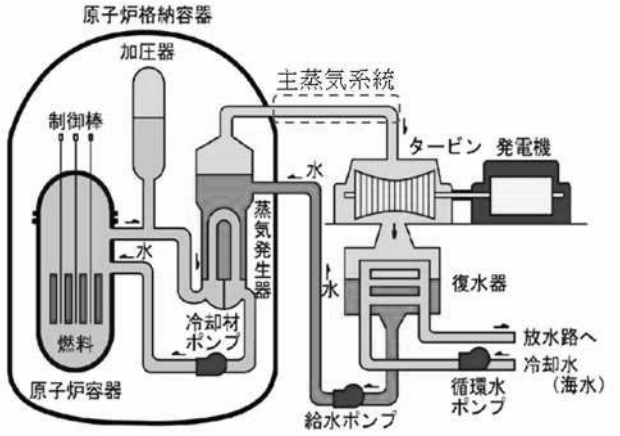
（３）その他の情報 （（１）及び（２）に該当しない事象ではあるが、発生について九州電力が公表したもの（発煙等））

①玄海原子力発電所３号機　第18回定期検査中における主蒸気隔離弁ベント弁に係る不具合について

【公表年月日】令和７年６月３日

【事象の概要】

- 第 18 回定期検査中の玄海原子力発電所３号機において、令和７年６月３日、主蒸気安全弁機能検査終了後の復旧時に、３Ａ～３Ｄの４つある主蒸気系統のうち３Ａ主蒸気系統の主蒸気隔離弁ベント弁で微少なシート漏れ（弁を閉じた状態でも異物の混入等による接触面のすき間の発生により蒸気が漏れる現象）が確認された。
  このため、補助工具を用いて当該ベント弁の増し締め操作を行ったがシート漏れは継続し、さらに強い力を加えられる工具（鋼管）を用いて締め込み操作を行ったところ弁棒が折損した。
- これを受けて、当該ベント弁の点検が必要であると判断し、１次冷却材系統を降温降圧した後、他の３つの系統の同位置にある弁を含めて点検を実施したうえで、３Ａ主蒸気隔離弁ベント弁の部品の一部を予備品に取り替えた。
  再度１次冷却材系統の昇温昇圧を行っていたところ、３Ｃ主蒸気隔離弁ベント弁でシート漏れを確認し、増し締め操作を実施したがシート漏れが継続したため、再度点検を行うため１次冷却材系統の降温降圧を行った。
- 改めてすべての主蒸気隔離弁ベント弁の点検を行い、３Ｃだけでなく他の主蒸気隔離弁ベント弁（３Ｂ、３Ｄ）についても部品の一部を予備品に交換し、再度１次冷却材系統の昇温昇圧を行い、すべての主蒸気隔離弁ベント弁からシート漏れがないことを確認した。
- 本事象による環境への影響はなかった。



【発電所概要図】

【調査結果】

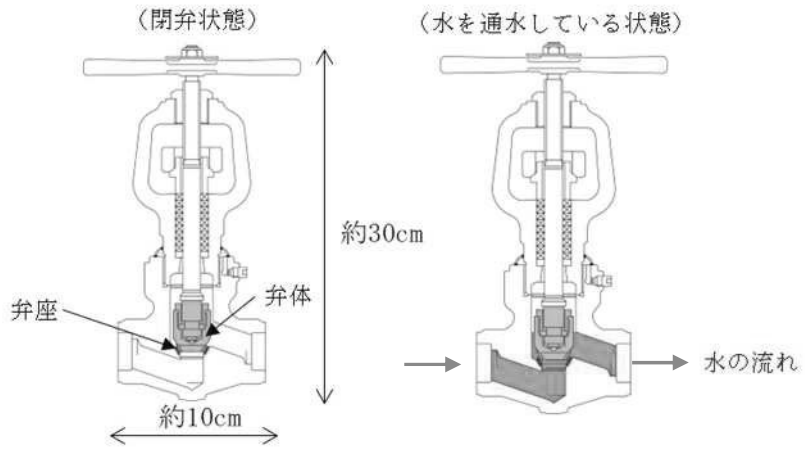
- ３Ａ主蒸気隔離弁ベント弁の分解点検を行ったところ、弁の部品の一部に固着が発生していたことを確認した。
  その他には、肉眼で確認できるような異物や傷は確認されなかったが、弁棒折損により、シート面の密着状態は確認することはできなかった。
- ３Ｃ主蒸気隔離弁ベント弁の分解点検を行ったところ、弁の一部のネジ部に変形が発生していたことを確認した。また、弁体のシート面にわずかな傷があることを確認したが、シート面の密着状態に関して異常はなかった。
  また、肉眼で確認できるような異物の付着はなかった。

【推定原因】

- ３Ａ主蒸気隔離弁ベント弁においては肉眼で確認できる異物はなかったが、異物の噛み込みの可能性は否定できない。また３Ｃ主蒸気隔離弁ベント弁においても同様に異物は確認されなかったが、弁体のシート面にわずかな傷があることから、異物の噛み込みの可能性は否定できない。
- 以上のことから、シート面への異物の噛み込みや、異物の噛み込みによる傷等によりシート漏れが発生したと考えられる。

【対策】

- 異物対策として、従前より可能な限り異物を除去するために適切な水質管理やフィルタへの通水を実施しているが、これに加えて、主蒸気安全弁機能検査の前に主蒸気隔離弁ベント弁を開弁した状態で通水を行い、弁のシート面から異物を除去することで異物の噛み込みを可能な限り低減させる。
- 本事案のようなシート漏れ発生の際に出力降下を伴う工程変更のリスクがある弁をあらかじめ抽出し、定期的な分解点検の実施を保全計画へ反映し、分解点検時に必要に応じて部品の取替を行う。
  なお、新たに抽出された弁について、今回、念のため分解点検を行ったが異常は見られず、昇温昇圧操作後もシート漏れがないことを確認している。
- 弁の固着や変形に関しては、閉弁時に過大な力を加えた結果によるものであると推定し、鋼管を用いた締め込み操作を禁止し、補助工具を使用した増し締め操作は管理職の指示のもと行うこととし、これらの運用について周知・教育を実施することとする。



【主蒸気隔離弁ベント弁概要図（閉弁状態）】

②玄海原子力発電所４号機　第17回定期検査中における主蒸気隔離弁ベント弁に係る不具合について

【発生年月日】令和７年９月28日

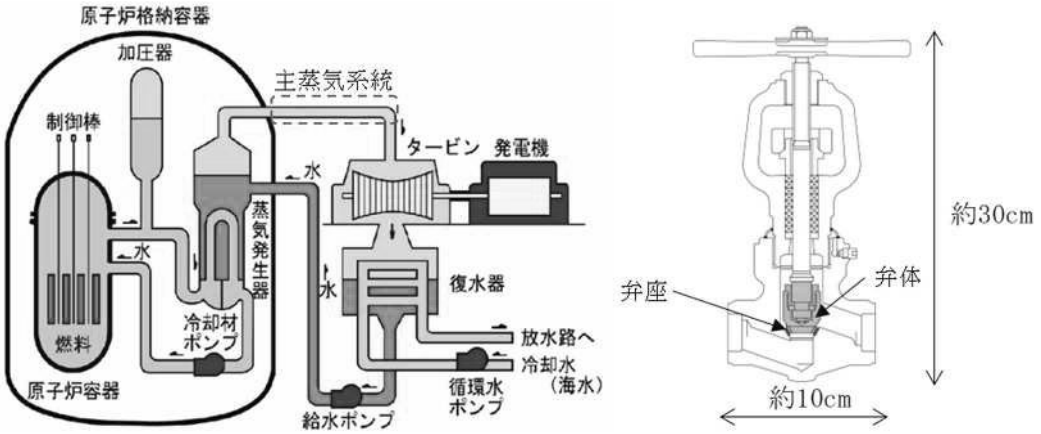
【事象の概要】

- 第 17 回定期検査中の玄海原子力発電所４号機において、令和７年９月 28 日、調整運転中に実施した主蒸気安全弁機能検査終了後の復旧時に、４つある主蒸気系統のうち１つの主蒸気系統の主蒸気隔離弁ベント弁で微少なシート漏れ（弁を閉じた状態でも異物の混入等による接触面のすき間の発生により蒸気が漏れる現象）を確認した。

（この弁を含むすべての主蒸気隔離弁ベント弁は、令和７年６月３日に玄海原子力発電所３号機の第 18 回定期検査中に発生した同弁からのシート漏れが発生した事案を受け、本定期検査において弁体を新品に交換しており、また、主蒸気安全弁機能検査の前に開弁状態で水を流して異物の噛み込みリスクを低減させる対策を実施している中で本事象が発生した。）

- シート漏れを確認したことから、補助工具を使用して当該ベント弁の増し締め操作を行ったがシート漏れは継続し、さらに増し締め操作を行ったところ弁棒が折損した。

  これを受けて、当該ベント弁の点検が必要であると判断し、１次冷却材系統を降温降圧した後、他系統の同じ弁を含めてシート面等の洗浄や点検を実施したうえで、シート漏れが起きた弁の部品の一部を予備品に取り替えた。
- その後、全ての弁の健全性を確認し、再度１次冷却材系統の昇温昇圧を行ったところ、シート漏れは確認されなかった。
- 本事象による環境への影響はなかった。



【発電所概要図及び主蒸気ベント弁概要図】

【調査結果】

- 当該主蒸気隔離弁ベント弁の分解点検を行ったところ、マクロ撮影による外観点検において、定期検査で取り替えた弁体のシート面に極微小の傷を確認した。
  その他の部品や、別の系統の主蒸気隔離弁ベント弁には異常は見られなかった。
- 玄海原子力発電所３号機に続いて同事象が連続して発生したことから、玄海原子力発電所３号機での事象発生前に実施した運用変更等が要因となっていないか確認したところ、主蒸気安全弁機能検査の検査方法や体制、手順、水質管理等について、事象発生前から変更はなかった。
- 玄海原子力発電所３号機で発生した同事象を踏まえた対策について、玄海原子力発電所４号機の第17回定期検査における実施状況を整理したところ、シート漏れへの対策や、弁の構成部品の固着及び変形に対する対策等について適切に実施していることを確認した。

【推定原因】

- 当該主蒸気隔離弁ベント弁において、定期検査で取り替えた弁体に極微小な傷が確認されたことから、シート面への異物の噛み込みによりシート漏れが発生したと考えられる。
- シート面への異物の噛み込みについては、異物噛み込みリスク低減のために水を流した時に開閉した以降、主蒸気安全弁機能検査装置取付時までシート漏れがなかったことから、検査装置取付後の高温高圧状態での開弁時に配管等に付着しているスケール（配管等の構成材料から溶出した鉄（イオン）が配管等の内面に付着したもの）が剥がれて弁の内部に流入し、閉弁時に異物の噛み込みが発生したものと推定した。

【対策】

- 異物低減対策として、配管等へのスケール付着の更なる低減を目的に、定期検査中の蒸気発生器（２次側）保管時の腐食防止強化のため脱酸素剤の濃度を上げることとし、鉄濃度及び濁度の管理値をより厳しくする。

- 主蒸気隔離弁ベント弁を点検するためには１次冷却材系統を降温降圧する必要があることから、主蒸気安全弁機能検査で使用する主蒸気圧力の取出口用の弁を別途追設し、主蒸気隔離弁ベント弁は同検査に使用しない（異物噛み込みリスクのある高温高圧状態での弁操作は行わない）こととする。
  追設する弁は、玄海原子力発電所３、４号機それぞれの次回定期検査時に設置することとし、仮にシート漏れが発生した場合でも１次冷却材系統が高温高圧状態のまま点検が可能となる系統構成とする。
- 弁棒が折損しないための対策として、弁棒折損に至らないトルクの管理値を定め、増し締め操作時にはトルク管理値の範囲内で操作を行う。
  また、増し締め操作時の補助工具の使用に係る運用について、周知・教育を定期的に実施する。
- また、今回の事案での復旧時には、発電再開に万全を期すため、シート漏れに対する更なる取組として、以下の取組を行った。
  ・主蒸気隔離弁ベント弁の分解点検後の組み立て時に、弁内部を純水や専用の洗浄液で洗浄し異物を除去
  ・昇温昇圧前に主蒸気隔離弁ベント弁を閉弁した状態で窒素加圧し、シート漏れがないことを確認
  ・主蒸気隔離弁ベント弁にシート漏れが発生した場合にただちに事象を発見できるよう、主蒸気隔離弁ベント弁の温度監視を強化（定期検査期間中に限らず、定期検査終了後の通常運転中においても温度監視の強化を継続）

3 放射性廃棄物等の管理状況

（1）放射性気体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

測定の箇所等＼種類		全希ガス	^{131}I	^{133}I	全粒子状物質	^{3}H
排気筒別内訳	1号機原子炉格納容器排気筒	ND	ND	ND	ND	4.3×10^{9}
	1号機原子炉補助建屋排気筒	ND	ND	ND	ND	2.0×10^{10}
	2号機原子炉格納容器排気筒	ND	ND	ND	ND	9.4×10^{8}
	2号機原子炉補助建屋排気筒	ND	ND	ND	ND	1.8×10^{10}
	3号機排気筒	ND	ND	ND	ND	9.9×10^{11}
	4号機排気筒	ND	ND	ND	ND	5.8×10^{11}
	雑固体焼却設備排気筒	ND	ND	ND	ND	3.6×10^{7}
	燃焼式雑固体廃棄物減容処理設備排気筒	ND	ND	ND	ND	1.5×10^{9}
	雑固体溶融処理設備排気筒	ND	ND	ND	ND	4.0×10^{7}
合計		ND	ND	ND	ND	1.6×10^{12}
年間放出管理目標値		1.0×10^{15}	3.0×10^{10}	－	－	－

2次系からのトリチウム放出量は、無視できる程小さいと推定される。

（注1） 放射性気体廃棄物の放出量(Bq)は、排気中の放射性物質の濃度(Bq/cm^3)に排気量(cm^3)を乗じて求めている。算出にあたり、放出放射能濃度の測定結果が検出限界未満の場合、放出量(Bq)はNDと表示する。

なお、それぞれの検出限界濃度は次のとおり。

- 全希ガス　2×10^{-2} Bq/cm^3 以下
- ^{131}I　7×10^{-9} Bq/cm^3 以下
- ^{133}I　7×10^{-8} Bq/cm^3 以下
- 全粒子状物質　4×10^{-9} Bq/cm^3 以下(^{60}Coで代表した値)
- ^{3}H　4×10^{-5} Bq/cm^3 以下

（２）放射性液体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

種類 ＼ 測定の箇所等		全核種（^{3}H を除く）	核種別						
			^{51}Cr	^{54}Mn	^{59}Fe	^{58}Co	^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs
放水口別内訳	1、2号機放水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
	3、4号機放水口	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
合計		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
年間放出管理目標値		7.5×10^{10}	－	－	－	－	－	－	－

種類 ＼ 測定の箇所等		核種別					^{3}H
		^{137}Cs	^{89}Sr	^{90}Sr	アルファ線を放出する放射性物質	ベータ線を放出する放射性物質	
放水口別内訳	1、2号機放水口	ND	ND	ND	ND	ND	1.6×10^{10}（ － ）
	3、4号機放水口	ND	ND	ND	ND	ND	3.9×10^{13}（ ND ）
合計		ND	ND	ND	ND	ND	3.9×10^{13}（ ND ）
年間放出管理目標値		－	－	－	－	－	－

（ ）内は２次系からのトリチウム放出量で内数。

（注2） 放射性液体廃棄物の放出量（Bq）は、排水中の放射性物質の濃度（Bq/cm^3）に排水量（cm^3）を乗じて求めている。算出にあたり、放出放射能濃度の測定結果が検出限界未満の場合、放出量（Bq）は ND と表示する。

なお、それぞれの検出限界濃度は次のとおり。

- ^{3}H を除く核種　2×10^{-2} Bq/cm^3 以下（^{60}Co で代表した値）
- ^{89}Sr、^{90}Sr　7×10^{-4} Bq/cm^3 以下（^{90}Sr で代表した値）
- アルファ線を放出する放射性物質　4×10^{-3} Bq/cm^3 以下
- ベータ線を放出する放射性物質　4×10^{-2} Bq/cm^3 以下
- ^{3}H　2×10^{-1} Bq/cm^3 以下
- 2次冷却水系の ^{3}H　1×10^{-1} Bq/cm^3 以下

（３）放射性固体廃棄物の発生量及び保管量

①　固体廃棄物貯蔵庫

［本：200ℓドラム缶］

種類／量	ドラム缶			その他	合計
	均質固化体	充填固化体	雑固体		
期首保管量	4,346本 (67本)	1,074本 (0本)	26,377本 (1,169本)	7,036本相当 (124本相当)	38,833本相当 (1,360本相当)
発生量	157本 (51本)	962本 (0本)	1,580本 (105本)	304本相当 (24本相当)	3,003本相当 (180本相当)
減少量	0本 (0本)	1,168本 (0本)	1,719本 (0本)	400本相当 (0本相当)	3,287本相当 (0本相当)
施設内減量 (焼却、溶融、圧縮)	0本 (0本)	0本 (0本)	1,719本 (0本)	400本相当 (0本相当)	2,119本相当 (0本相当)
施設外減量 (搬出)	0本 (0本)	1,168本 (0本)	0本 (0本)	0本相当 (0本相当)	1,168本相当 (0本相当)
期末保管量	4,503本 (118本)	868本 (0本)	※26,238本 (1,274本)	6,940本相当 (148本相当)	38,549本相当 (1,540本相当)
貯蔵設備容量	49,000本相当				

※ イオン交換樹脂50本（100ℓドラム缶99本を200ℓドラム缶50本に換算）を含む。

（ ）内は１号機及び２号機の廃止措置に伴い発生した放射性固体廃棄物の数量で内数。

②　その他の設備

種類／量	タンク等	蒸気発生器保管庫	
	イオン交換樹脂	蒸気発生器	保管容器 (原子炉容器上部ふた及び炉内構造物を含む)
期首保管量	212 m³ (6 m³)	4基 (0基)	766 m³ (0 m³)
発生量	3 m³ (0 m³)	0基 (0基)	0 m³ (0 m³)
減少量	0 m³ (0 m³)	0基 (0基)	0 m³ (0 m³)
施設内減量 (焼却、溶融、圧縮)	0 m³ (0 m³)	0基 (0基)	0 m³ (0 m³)
施設外減量 (搬出)	0 m³ (0 m³)	0基 (0基)	0 m³ (0 m³)
期末保管量	215 m³ (6 m³)	4基 (0基)	766 m³ (0 m³)

端数処理の影響で数値が一致しない場合がある。

（ ）内は１号機及び２号機の廃止措置に伴い発生した放射性固体廃棄物の数量で内数。

③　日本原燃（株）低レベル放射性廃棄物埋設センターへの搬出量

	均質固化体	充填固化体	合　　計
搬　　出　　量	0 本	1,168 本	1,168 本
発電所累積搬出量	7,856 本	14,288 本	22,144 本

（４）使用済燃料の管理

		期首保管量	期末保管量	発　生　量	搬　出　量
原子炉施設合計		2,517 体	2,619 体	102 体	0 体
原子炉別内訳	１　号　機	352 体 ※1（112 体）	352 体 ※1（112 体）	0 体	0 体
	２　号　機	422 体 ※1（168 体）	422 体 ※1（168 体）	0 体	0 体
	３　号　機	765 体	814 体	49 体	0 体
	４　号　機	978 体 ※2（168 体）	1,031 体 ※2（294 体）	53 体	0 体

３号機の使用済燃料の保管量には、使用済 MOX 燃料 36 体を含む。

※1　（　）内は４号機の使用済燃料ピットに保管している量で内数。

※2　（　）内は３号機の使用済燃料ピットに保管している量で内数。

４ 燃料輸送等の状況

（１）新燃料（取替用燃料）の搬入

搬入年月日	集合体数	搬入元	輸送手段	原子炉名
令和７年４月 21 日	72 体	三菱原子燃料㈱	船舶	４号機
令和７年７月 23 日	16 体	原子燃料工業㈱	船舶	３号機

（２）新燃料（未使用燃料）の搬出

該当なし

（３）使用済燃料の搬出

該当なし

（４）使用済燃料の構内運搬

運搬年月日	体数	運搬元	運搬先	運搬手段	運搬回数
令和７年 11 月 21 日 ～ 令和８年２月 11 日	126 体	４号機	３号機	専用車両	９回

（５）低レベル放射性廃棄物の搬出

搬出年月日	搬出数 (200ℓドラム缶)	搬出先	輸送手段
令和８年１月 28 日	1,168 本	日本原燃㈱	船舶

資　　料

1 営業運転開始までの経過

(1) 1 号 機

年 月 日	経 過
昭和45年５月29日	第52回電源開発調整審議会において電源開発基本計画に組み入れられる
10月20日	敷地造成、岸壁、護岸などの海上工事に着手
12月10日	内閣総理大臣が原子炉設置について許可及び通産大臣が電気工作物変更について許可
46年１月１日	玄海発電所建設所開設
３月12日	本館基礎掘削工事に着手
３月16日	起工式
９月９日	本館基礎掘削工事を終り通産省基盤検査終了
９月15日	原子炉建屋、原子炉補助建屋及びタービン建屋工事着工
47年１月５日	原子炉格納容器据付開始
６月23日	タービン建屋鉄骨建方開始
９月22日	原子炉格納容器使用前検査(耐圧漏洩)終了
12月22日	貯水池ダムの貯水開始
48年２月17日	貯水池ダム10トン貯水開始
４月14日	展示館開館式挙行
６月24日	復水器据付開始
７月６日	屋内開閉所建屋竣工
７月30日	取水路及び取水ピット工事竣工
８月24日	原子炉格納容器外周コンクリート壁完成
９月７日	原子炉圧力容器水切
９月18日	原子炉圧力容器据付開始
10月４日	タービン発動機据付開始
10月９日	本事務所竣工
11月３日	6.6 kV受電
12月６日	1次系配管フラッシング開始
49年１月22日	補機試運転開始
４月20日	主変圧器(590 MVA)据付工事終了
４月23日	固体廃棄物貯蔵庫新築工事着工
４月24日	220 kV受電
６月５日	機能試験開始
６月21日	初装荷用燃料入荷開始
７月11日	タービン発電機据付終了
８月３日	初装荷用燃料入荷完了
９月７日	原子炉格納容器漏洩率試験終了
11月12日	原子炉格納施設、原子炉補助建屋及びタービン建屋竣工

（続 き）

年　月　日	経　　過
昭和49年11月25日	固体廃棄物貯蔵庫竣工
12月12日	中性子源入荷
12月26日	燃料装荷完了
12月31日	原子炉上部炉内構造物及び原子炉容器蓋取付終了
50年１月28日	初臨界
２月14日	初並列（負荷60 MW）
２月27日	35％負荷到達（195 MW）
３月８日	50％負荷到達（280 MW）
４月11日	75％負荷到達（420 MW）
５月21日	90％負荷到達（503 MW）
６月10日	蒸気発生器漏洩故障停止
９月５日	再並列
９月20日	100％負荷到達（559 MW）
10月15日	全ての使用前検査に合格、合格書受領、営業運転開始
平成６年５月22日	第15回定期検査において、蒸気発生器を取替
～	
11月29日	

（2） 2 号 機

年　月　日	経　　過
昭和49年７月４日	第65回電源開発調整審議会において電源開発基本計画に組み入れられる
51年１月23日	内閣総理大臣が原子炉設置について許可及び通産大臣が電気工作物変更について許可
５月12日	通産大臣が第1回工事計画について認可
６月11日	佐賀県から建築物確認通知書受領
６月12日	本館基礎掘削工事に着手
52年２月１日	基盤検査終了
	原子炉基礎コンクリート工事開始
５月11日	原子炉格納容器据付開始
９月28日	タービン建屋鉄骨建方開始
53年１月27日	原子炉格納容器耐圧試験終了
８月14日	復水器組立開始
９月27日	原子炉容器水切
10月４日	タービン本体据付開始
10月18日	原子炉容器据付開始
11月１日	1次系配管フラッシング開始
11月10日	6.6 kV受電
54年６月13日	主変圧器据付工事終了
７月27日	1次冷却系統水圧試験
９月18日	温態機能試験開始
９月21日	初装荷用燃料入荷開始
10月８日	原子炉格納容器漏洩率試験終了
12月26日	中性子源入荷
55年１月23日	原子炉格納施設、原子炉補助建屋及びタービン建屋竣工
４月６日	燃料装荷完了
５月21日	初臨界
６月３日	初並列
６月11日	30％負荷到達(168 MW)
６月26日	50％負荷到達(280 MW)
８月６日	75％負荷到達(420 MW)
９月18日	90％負荷到達(503 MW)
56年１月７日	100％負荷到達(559 MW)
３月30日	使用承認証受理、営業運転開始
平成13年３月16日	第16回定期検査において蒸気発生器を取替
～	
10月16日	

（3） 3 号 機

年　月　日	経　過
昭和53年12月25日	九州電力㈱、県及び玄海町に3、4号機増設計画について申し入れ
57年７月16日	通産省、第1次公開ヒアリングの開催
９月14日	増設計画申し入れに対して県了解
９月21日	第89回電源開発調整審議会において電源開発基本計画に組み入れられる旨の決定
10月19日	九州電力㈱、原子炉設置変更許可申請
58年11月30日	通産省、原子力委員会及び原子力安全委員会への諮問
59年６月18日	原子力安全委員会、第2次公開ヒアリング開催
６月20日	3、4号機建設に係る建設協定を締結
６月22日	九州電力㈱、準備工事着工
10月４日	原子力安全委員会、通産省へ答申
10月５日	原子力委員会、通産省へ答申
10月12日	通産大臣が原子炉設置変更について許可
10月19日	通産大臣が電気工作物変更について許可
10月25日	九州電力㈱、工事計画認可申請
60年３月８日	通産大臣が第1回工事計画について認可
８月20日	九州電力㈱、建設工事着工
63年６月１日	基礎コンクリート工事開始
平成元年３月２日	原子炉格納容器建方開始
11月28日	タービン建屋鉄骨建方開始
３年９月21日	復水器据付開始
11月18日	原子炉格納容器水切
11月25日	原子炉格納容器据付開始
12月12日	タービン発電機据付開始
４年１月24日	220 kV受電
２月３日	1次系配管フラッシング開始
２月21日	蒸気発生器据付終了
５月22日	主変圧器据付終了
11月25日	機能試験開始
５年２月11日	初装荷燃料入荷開始
２月18日	格納容器漏洩率試験終了
４月６日	中性子源入荷
	原子炉格納施設、原子炉補助建屋及びタービン建屋竣工
４月21日	燃料装荷完了
５月28日	初臨界

（続 き）

年　月　日	経　　過
平成５年６月15日	初並列
６月18日	30％負荷到達(354 MW)
７月21日	50％負荷到達(590 MW)
９月24日	タービン軸振動のため原子炉手動停止
10月13日	再並列
10月15日	75％負荷到達(885 MW)
11月26日	100％負荷達成(1,180 MW)
６年３月18日	使用前検査合格書受理、営業運転開始

（4）４ 号 機

年　月　日	経　　過
昭和53年12月25日	九州電力㈱、県及び玄海町に3、4号機増設計画について申し入れ
57年７月16日	通産省、第1次公開ヒアリングの開催
８月14日	増設計画申し入れに対して県了解
９月21日	第89回電源開発調整審議会において電源開発基本計画に組み入れられる旨の決定
10月19日	九州電力㈱、原子炉設置変更許可申請
58年11月30日	通産省、原子力委員会及び原子力安全委員会への諮問
59年６月18日	原子力安全委員会、第2次公開ヒアリング開催
６月20日	3、4号機建設に係る建設協定を締結
６月22日	九州電力㈱、準備工事着工
10月４日	原子力安全委員会、通産省へ答申
10月５日	原子力委員会、通産省へ答申
10月12日	通産大臣が原子炉設置変更について許可
10月19日	通産大臣が電気工作物変更について許可
10月25日	九州電力㈱、工事計画認可申請
60年３月８日	通産大臣が第1回工事計画について認可
８月20日	九州電力㈱、建設工事着工
平成４年７月15日	基礎コンクリート工事開始
５年６月４日	原子炉格納容器建方開始
７月５日	タービン建屋鉄骨建方開始
６年12月14日	復水器据付開始
７年４月14日	原子炉格納容器水切
４月20日	原子炉格納容器据付開始
５月31日	タービン発電機据付開始
６月12日	220 kV受電
６月13日	1次系配管フラッシング開始
９月２日	蒸気発生器据付終了
10月７日	主変圧器据付終了
８年４月23日	温態機能試験開始
６月14日	初装荷燃料入荷開始
７月４日	格納容器漏洩率試験終了
８月20日	原子炉格納施設、原子炉補助建屋及びタービン建屋竣工
８月28日	中性子源入荷
９月11日	燃料装荷完了
10月23日	初臨界

（続 き）

年　月　日	経　過
平成８年11月12日	初並列
11月15日	30％負荷到達(354 MW)
９年１月13日	50％負荷到達(590 MW)
４月10日	75％負荷到達(885 MW)
５月17日	100％負荷達成(1,180 MW)
７月25日	使用前検査合格書受理、営業運転開始

2 運転状況の経過

(1) 設備利用率等の経過

年　度		S50	51	52	53	54	55	56	57	58	59
1号機	時間稼働率	＊93.2	76.6	78.9	83.7	58.2	77.8	60.6	69.7	75.3	92.0
	設備利用率	＊87.2	73.5	76.7	81.1	56.1	76.7	59.1	68.0	74.6	90.2
2号機	時間稼働率	－	－	－	－	－	＊100	81.7	95.6	82.4	83.7
	設備利用率	－	－	－	－	－	＊100	81.7	93.8	80.8	81.5
3号機	時間稼働率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	設備利用率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
4号機	時間稼働率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	設備利用率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
全国	時間稼働率	48.0	61.7	45.9	63.8	59.8	65.0	65.1	70.2	73.2	75.3
	設備利用率	42.2	52.8	41.8	56.7	54.6	60.8	61.7	67.6	71.5	73.9

(続 き)

年　度		S60	61	62	63	H1	2	3	4	5	6
1号機	時間稼働率	69.6	59.3	60.9	71.7	56.3	48.6	60.1	83.4	76.6	55.8
	設備利用率	67.3	57.4	60.7	68.6	54.3	46.6	59.8	81.4	74.7	54.6
2号機	時間稼働率	84.7	84.8	100	75.4	71.1	81.5	100	75.5	81.0	68.8
	設備利用率	82.4	83.4	99.8	74.1	69.7	80.6	99.5	74.5	79.9	67.6
3号機	時間稼働率	－	－	－	－	－	－	－	－	＊100	73.1
	設備利用率	－	－	－	－	－	－	－	－	＊100	73.0
4号機	時間稼働率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	設備利用率	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
全国	時間稼働率	77.2	76.9	78.2	72.6	71.1	73.6	74.8	75.1	76.1	77.2
	設備利用率	76.0	75.7	77.1	71.4	70.0	72.7	73.8	74.2	75.4	76.6

(注)

1　時間稼働率 ＝ $\dfrac{\text{認可出力}\times\text{稼働時間数}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}\times 100(\%)$

設備利用率 ＝ $\dfrac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}\times 100(\%)$

2 ＊欄は、当該発電所の運転初年度に当たり、運転開始以降の暦時間数に基づき計算している。

（続 き）

年　度		H7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1号機	時間稼働率	78.7	96.6	83.4	75.0	75.2	93.1	61.8	81.7	77.1	88.4
	設備利用率	77.8	96.0	82.7	73.7	73.2	92.8	61.2	82.9	78.2	90.4
2号機	時間稼働率	94.2	85.4	74.9	73.8	87.9	83.1	52.6	81.2	95.3	85.6
	設備利用率	94.1	84.0	74.1	73.1	87.8	82.3	52.0	82.7	98.2	87.4
3号機	時間稼働率	99.9	75.8	84.3	78.7	100	82.3	83.5	82.5	100	80.4
	設備利用率	98.8	74.8	83.3	77.9	100	81.5	82.8	82.1	102.1	81.6
4号機	時間稼働率	－	－	＊100	77.4	80.4	100	82.3	83.0	82.6	96.8
	設備利用率	－	－	＊100	76.8	79.8	100	81.5	82.8	83.1	97.8
全国	時間稼働率	81.0	81.4	81.8	84.7	80.6	82.1	80.9	73.2	59.0	68.4
	設備利用率	80.2	80.8	81.3	84.2	80.1	81.7	80.5	73.4	59.7	68.9

（続 き）

年　度		H17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1号機	時間稼働率	82.1	78.7	75.8	98.6	81.2	79.8	66.9	0.0	0.0	0.0
	設備利用率	83.2	80.2	77.3	101.8	83.8	82.3	69.3	0.0	0.0	0.0
2号機	時間稼働率	79.4	62.2	94.0	71.2	75.7	83.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	設備利用率	81.3	64.0	96.1	72.4	77.3	85.4	0.0	0.0	0.0	0.0
3号機	時間稼働率	85.9	75.7	100	82.0	80.4	69.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	設備利用率	87.2	76.6	101.9	82.9	81.2	70.7	0.0	0.0	0.0	0.0
4号機	時間稼働率	85.6	77.8	78.8	98.6	83.7	84.0	65.6	0.0	0.0	0.0
	設備利用率	86.2	77.8	78.9	99.1	83.8	84.0	65.6	0.0	0.0	0.0
全国	時間稼働率	71.4	69.3	60.3	59.4	65.0	66.5	23.2	3.9	2.3	0.0
	設備利用率	71.9	69.9	60.7	60.0	65.7	67.3	23.7	3.9	2.3	0.0

（注）

1　時間稼働率 ＝ $\dfrac{\text{認可出力}\times\text{稼働時間数}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}$ ×100(%)

設備利用率 ＝ $\dfrac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}$ ×100(%)

2 ＊欄は、当該発電所の運転初年度に当たり、運転開始以降の暦時間数に基づき計算している。

（続 き）

年　度		H27	28	29	30	R1	2	3	4	5	6
1号機	時間稼働率	** 0.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	設備利用率	** 0.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
2号機	時間稼働率	0.0	0.0	0.0	0.0	** 0.0	－	－	－	－	－
	設備利用率	0.0	0.0	0.0	0.0	** 0.0	－	－	－	－	－
3号機	時間稼働率	0.0	0.0	1.5	95.2	80.7	81.8	80.8	30.0	76.9	99.0
	設備利用率	0.0	0.0	0.7	96.6	81.8	82.6	82.0	30.2	78.0	101.2
4号機	時間稼働率	0.0	0.0	0.0	78.4	81.0	75.2	100	38.4	98.6	82.6
	設備利用率	0.0	0.0	0.0	78.0	81.2	75.3	100.9	37.8	99.8	83.0
全国	時間稼働率	2.5	4.8	8.7	18.7	20.0	13.1	23.7	18.7	28.0	31.2
	設備利用率	2.5	5.0	9.1	19.3	20.6	13.4	24.4	19.3	28.9	32.3

（続 き）

年　度		R7
1号機	時間稼働率	－
	設備利用率	－
2号機	時間稼働率	－
	設備利用率	－
3号機	時間稼働率	79.2
	設備利用率	80.5
4号機	時間稼働率	76.8
	設備利用率	77.3
全国	時間稼働率	32.5
	設備利用率	33.6

（注）

1　時間稼働率 ＝ $\dfrac{\text{認可出力}\times\text{稼働時間数}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}$ ×100(%)

設備利用率 ＝ $\dfrac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力}\times\text{暦時間数}}$ ×100(%)

2　** 欄は、当該発電所の運転終了年度に当たり、運転終了日までの暦時間数に基づき計算している。

3　－欄は、当該発電所の運転終了のため、「－」としている。

(2)定期検査の実績

①－1　1号機[運転期間中]

回	定検開始月日 (運転停止)	運転開始月日 (送電開始)	定検終了月日 (通常運転復帰)	停止期間
第　1　回	S51.10.31	S52. 1.24	S52. 2.23	86日
第　2　回	S53. 2. 1	S53. 4.28	S53. 5.31	87日
第　3　回	S54. 2.28	S54. 8.14	S54. 9. 5	168日
第　4　回	S55. 3.29	S55. 6.20	S55. 7.25	84日
第　5　回	S56. 5.30	S56.10.21	S56.11.16	145日
第　6　回	S57.10.22	S58. 2.10	S58. 3.15	112日
第　7　回	S59. 1. 6	S59. 4.28	S59. 5.31	114日
第　8　回	S60. 4.19	S60. 8. 7	S60. 9. 6	111日
第　9　回	S61. 8.15	S62. 1.10	S62. 2. 6	149日
第　10　回	S62.11.10	S63. 4. 9	S63. 5. 6	152日
第　11　回	H1. 3. 6	H1. 9. 7	H1.10. 5	186日
第　12　回	H2. 8. 3	H3. 2. 7	H3. 3.28	189日
第　13　回	H3.11. 7	H4. 4. 9	H4. 5. 8	155日
第　14　回	H5. 2. 8	H5. 6.26	H5. 7.23	139日
第　15　回	H6. 5.22	H6.10.30	H6.11.29	162日
第　16　回	H7.11.23	H8. 2. 9	H8. 3. 5	79日
第　17　回	H9. 3.19	H9. 5.31	H9. 6.25	74日
第　18　回	H10. 6.12	H10. 8.22	H10. 9.17	72日
第　19　回	H11.10.15	H12. 1.14	H12. 2. 9	92日
第　20　回	H13. 3. 6	H13. 8.18	H13. 9.14	166日
第　21　回	H14. 6. 9	H14. 8.15	H14. 9.10	68日
第　22　回	H15. 9.30	H15.12.23	H16. 1.20	85日
第　23　回	H17. 2.17	H17. 6. 5	H17. 7. 1	109日
第　24　回	H18. 7.27	H18.10.13	H18.11. 7	79日
第　25　回	H19.11.25	H20. 2.21	H20. 3.19	89日
第　26　回	H21. 3.26	H21. 6. 8	H21. 7. 3	75日
第　27　回	H22. 7.25	H22.10. 7	H22.11. 2	75日
第　28　回	H23.12. 1	※1 －	※2 H29. 4.19	※1 －

※1 平成27年4月27日に運転終了。

※2 平成29年4月19日、廃止措置計画認可に伴い、同日、定期検査終了。

①－２ 1号機[廃止措置段階]

回	定検開始月日	定検終了月日	定検期間
第 1 回	H30. 1.16	H30. 5.10	115日
第 2 回	H31. 2. 4	R1. 5.30	116日
第 3 回	R2. 1.14	R2. 3.10	57日
第 4 回	R3. 4. 9	R3.10. 8	183日
第 5 回	R4.11. 7	R5. 5.12	187日
第 6 回	R6. 6.11	R6.12.11	184日
第 7 回	R8. 1. 9	R8. 7. 9	182日

②－1　2号機[運転期間中]

回	定検開始月日 (運転停止)	運転開始月日 (送電開始)	定検終了月日 (通常運転復帰)	停止期間
第　1　回	S57. 1.24	S57. 4.10	S57. 5.13	77日
第　2　回	S58. 3.25	S58. 6. 4	S58. 7. 7	72日
第　3　回	S59. 7.22	S59. 9.19	S59.10.16	60日
第　4　回	S60.10.27	S60.12.21	S61. 1.21	56日
第　5　回	S62. 1.24	S62. 3.20	S62. 4.17	56日
第　6　回	S63. 4.19	S63. 7.17	S63. 8.10	90日
第　7　回	H1. 8.13	H1.11.26	H1.12.22	106日
第　8　回	H3. 1.18	H3. 3.26	H3. 4.22	68日
第　9　回	H4. 4.12	H4. 7.10	H4. 8. 7	90日
第　10　回	H5. 9. 4	H5.11.12	H5.12.10	70日
第　11　回	H6.11.12	H7. 3. 6	H7. 3.31	115日
第　12　回	H8. 3.10	H8. 5.24	H8. 6.18	76日
第　13　回	H9. 7.17	H9.10.17	H9.11.11	93日
第　14　回	H10.10.18	H11. 1.22	H11. 2.16	97日
第　15　回	H12. 2.16	H12. 5.17	H12. 6.13	92日
第　16　回	H13. 3.16	H13. 9.20	H13.10.16	189日
第　17　回	H14.11.13	H15. 1.21	H15. 2.18	70日
第　18　回	H16. 3.14	H16. 5.23	H16. 6.17	71日
第　19　回	H17. 7.16	H17. 9.23	H17.10.18	70日
第　20　回	H18.11.14	H19. 4.19	H19. 5.16	157日
第　21　回	H20. 3.28	H20. 7.15	H20. 8.13	110日
第　22　回	H21. 9.12	H21.12.10	H22. 1. 8	90日
第　23　回	H23. 1.29	※3 －	※4　R2. 3.18	※3 －

※3 平成31年4月9日に運転終了。

※4 令和2年3月18日、廃止措置計画認可に伴い、同日、定期検査終了。

②－２ 2号機[廃止措置段階]

回	定検開始月日	定検終了月日	定検期間
第　1　回	R3. 4. 9	R3.10.15	190日
第　2　回	R4.11. 7	R5. 5.12	187日
第　3　回	R6. 6.11	R6.12.11	184日
第　4　回	R8. 1. 9	R8. 7. 9	182日

③ 3号機

回	定検開始月日 (運転停止)	運転開始月日 (送電開始)	定検終了月日 (通常運転復帰)	停止期間
第 1 回	H6.12.23	H7. 4. 1	H7. 4.27	100日
第 2 回	H8. 4.13	H8. 7.10	H8. 8. 6	89日
第 3 回	H9. 9. 5	H9.11. 1	H9.11.27	58日
第 4 回	H10.12.21	H11. 3. 9	H11. 4. 6	79日
第 5 回	H12. 4.30	H12. 7. 4	H12. 7.28	66日
第 6 回	H13. 8.27	H13.10.26	H13.11.20	61日
第 7 回	H14.12.19	H15. 2.20	H15. 3.18	64日
第 8 回	H16. 4.14	H16. 6.24	H16. 7.21	72日
第 9 回	H17. 9.13	H17.11. 3	H17.11.29	52日
第 10 回	H18.12.17	H19. 3.16	H19. 4.11	90日
第 11 回	H20. 5. 2	H20. 7. 6	H20. 7.31	66日
第 12 回	H21. 8.30	H21.11. 9	H21.12. 2	72日
第 13 回	H22.12.11	H30. 3.25	H30. 5.16	2,662日
第 14 回	R1. 5.13	R1. 7.22	R1. 8.20	71日
第 15 回	R2. 9.18	R2.11.23	R2.12.22	67日
第 16 回	R4. 1.21	R4.12.12	R5. 1.10	326日
第 17 回	R5.11.10	R6. 2. 2	R6. 2.29	85日
第 18 回	R7. 3.28	R7. 6.15	R7. 7.10	80日

④ 4号機

回	定検開始月日 (運転停止)	運転開始月日 (送電開始)	定検終了月日 (通常運転復帰)	停止期間
第 1 回	H10. 8.24	H10.11.14	H10.12.10	83日
第 2 回	H11.12.23	H12. 3. 4	H12. 3.29	73日
第 3 回	H13. 4.23	H13. 6.27	H13. 7.24	66日
第 4 回	H14. 8.23	H14.10.24	H14.11.19	63日
第 5 回	H15.12.18	H16. 2.19	H16. 3.16	64日
第 6 回	H17. 4.14	H17. 6. 5	H17. 6.30	53日
第 7 回	H18. 8.26	H18.11. 5	H18.12.15	72日
第 8 回	H20. 1. 5	H20. 3.22	H20. 4.16	78日
第 9 回	H21. 5.15	H21. 7.13	H21. 8. 7	60日
第 10 回	H22. 9. 4	H22.11. 1	H22.11.26	59日
第 11 回	H23.12.25	H30. 6.19	H30. 7.19	2,369日
第 12 回	R1. 8.16	R1.10.24	R1.11.20	70日
第 13 回	R2.12.19	R3. 3.19	R3. 4.15	91日
第 14 回	R4. 4.30	R4. 7.13	R4. 8. 9	75日
第 15 回	R4. 9.12	R5. 2. 9	R5. 3. 8	151日
第 16 回	R6. 3.27	R6. 6. 3	R6. 6.28	69日
第 17 回	R7. 7.27	R7.10.20	R7.11.14	86日

3 これまでの事故・故障等

（安全協定第6条に該当するもの）

発生年月日	原子炉	状況
S50. 6.10	1号機	蒸気発生器内に残置された鋼製巻尺により損傷。調査のため原子炉停止。
S51. 3. 9	1号機	化学体積制御系ベント弁誤操作のため微量の放射性物質を放出。
S54. 3.21	1号機	定期検査中、制御棒クラスタ案内管たわみピンの損傷発見。
S54.12. 3	1号機	微少な異物混入による加圧器逃がし弁のシート漏れのため原子炉停止。
S56. 3.11	2号機	試運転中、2次側給水制御弁の弁開度調整装置の不調のため原子炉停止（自動停止）。
S56. 8.31	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管233本の損傷を発見。
S57. 4.10	2号機	定期検査中の発電再開後、所内変圧器保護継電器動作のため自動停止。
S57.12.22	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管176本の損傷を発見。
S58. 9. 2	1号機	雷撃により自動停止し、点検中に加圧器逃がし弁のシート漏れ発見。
S59. 3. 8	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管120本の損傷を発見。
S60. 3.27	1号機	定格出力運転中、所内電源母線短路のため自動停止。
S60. 5.23	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管228本の損傷を発見。
S61. 9.24	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管466本の損傷を発見。
S61.10.10～11	1号機	定期点検中、余熱除去ポンプ主軸の折損を発見。
S62. 2. 7	2号機	定期検査中、燃料集合体リーフスプリング止め金具の脱落を発見。
S62.12.23	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管447本の損傷を発見。
S63. 6. 6	1号機	定格出力運転中、余熱除去系配管破損による1次冷却水漏洩により原子炉停止。
H1. 4.27	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管410本の損傷を発見。
H1.10.20	2号機	定期検査中、非常用ディーゼル発電機の試運転を実施したところ、過電流リレーが動作し、当該発電機が自動停止（固定子巻線の一部の焼損）。
H2. 9.25	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管294本の損傷を発見。
H4. 1.10	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管163本の損傷を発見。
H5. 4. 6	1号機	定期検査中、蒸気発生器細管75本の損傷を発見。
H5. 9.24	3号機	試運転中、低圧タービンの軸振動上昇のため、原子炉手動停止。
H9. 3.15	1号機	定格出力運転中、復水器細管損傷のため出力低下（50%）。
H9. 9. 1	2号機	定期検査中、蒸気発生器細管39本の損傷を発見。
H10.11.30	2号機	定期検査中、蒸気発生器細管68本の損傷を発見。
H11. 1.29	1号機	定格出力運転中、1次冷却材ポンプ封水戻り流量漸増のため原子炉手動停止。
H11. 7.18	1号機	定格出力運転中、復水器細管損傷のため出力低下（50%）。
H12. 3.31	2号機	定期検査中、蒸気発生器細管79本の損傷を発見。
H16. 9.16	4号機	定格熱出力運転中、発電機冷却用水素ガス補給量増加のため原子炉手動停止。
H18.11.12	4号機	調整運転中、加圧器逃がし弁からの漏えいにより原子炉手動停止。
H19. 1.16	2号機	定期検査中、余剰抽出配管にひび割れを発見。
H20. 6.20	4号機	発電機自動停止に伴う原子炉自動停止。

（続き）

発生年月日	原子炉	状況
H23.10. 4	4号機	復水器の真空度の異常低下に伴う原子炉の自動停止。
H23.12.16	3号機	定期検査中、C充てんポンプ主軸を折損。
H24. 6.15	－	雑固体溶融処理建屋において照明用ケーブルが焼損。
H26.10.28	－	3、4号機補助建屋内第1放射化学室において火災が発生。
H28.12. 5	－	発電所構内において建設機械の火災が発生。
R1.12.10	－	玄海原子力発電所内の玄海変電所において火災が発生。
R2. 9.24	3号機	定期検査中、屋外に設置した仮設電源盤に接続された仮設ケーブルの火災が発生。
R3.11.16	－	特定重大事故等対処施設の工事現場において火災が発生。
R6. 3.26	4号機	定期検査のための出力降下中、原子炉内の出力のばらつきが発生。（「運転上の制限」逸脱）
R6. 5.27	4号機	定期検査中、電動補助給水ポンプ2台のうち1台で起動失敗。（「運転上の制限」逸脱）
R6. 7.19	4号機	重大事故等対処設備の一部で動作確認期限を超過。（「運転上の制限」逸脱）
R7. 5.11	3号機	定期検査中、作業員の微量の放射性物質の体内取り込みが発生。
R7. 6.28	3号機	定期検査中、主蒸気系統圧力計伝送器の不具合が発生。（「運転上の制限」逸脱）
R7. 7.26	－	発電所周辺上空にて飛行中の機体が発する3つの光の確認。

4 放射性廃棄物の放出及び発生実績

(1) 放射性廃棄物の放出実績

(単位:Bq)

年度	気体廃棄物		液体廃棄物	
	全希ガス※	^{131}I	全核種(^{3}Hを除く)	^{3}H
S50	1.9×10^{12}	ND	7.0×10^{6}	4.4×10^{12}
S51	1.7×10^{12}	ND	ND	9.6×10^{12}
S52	2.6×10^{12}	ND	ND	1.1×10^{13}
S53	1.2×10^{12}	ND	ND	1.1×10^{13}
S54	1.0×10^{12}	ND	ND	6.7×10^{12}
S55	1.4×10^{12}	ND	ND	2.1×10^{13}
S56	2.4×10^{12}	2.3×10^{6}	ND	1.6×10^{13}
S57	1.8×10^{12}	ND	ND	2.0×10^{13}
S58	2.5×10^{12}	5.6×10^{6}	ND	1.9×10^{13}
S59	9.3×10^{11}	ND	ND	2.3×10^{13}
S60	1.3×10^{12}	ND	ND	2.1×10^{13}
S61	1.4×10^{12}	＊8.5×10^{6}	ND	3.2×10^{13}
S62	1.0×10^{12}	ND	ND	2.9×10^{13}
S63	1.1×10^{12}	ND	ND	1.7×10^{13}
H1	6.9×10^{11}	ND	ND	2.6×10^{13}
H2	6.5×10^{11}	ND	ND	3.4×10^{13}
H3	5.2×10^{11}	ND	ND	2.6×10^{13}
H4	3.7×10^{11}	ND	ND	2.4×10^{13}
H5	2.3×10^{11}	ND	ND	3.6×10^{13}
H6	1.7×10^{11}	ND	ND	5.0×10^{13}
H7	1.3×10^{11}	ND	ND	5.8×10^{13} (3.6×10^{9})
H8	8.5×10^{10}	ND	ND	4.6×10^{13} (8.5×10^{9})
H9	6.6×10^{10}	ND	ND	6.1×10^{13} (1.4×10^{10})

( )内は、2次系からのトリチウム放出量で内数。ただし、平成7年度は第4四半期のみ。

※ 平成26年度までの全希ガスの放出量には天然核種等を含む。

＊ 旧ソ連原子力発電所事故の影響と推定される。

（続 き）

年 度	気 体 廃 棄 物		液 体 廃 棄 物	
	全 希 ガ ス※	^{131}I	全核種(^{3}Hを除く)	^{3}H
H10	3.1×10^{11}	3.9×10^{6}	ND	9.5×10^{13} (1.3×10^{10})
H11	2.9×10^{10}	ND	ND	7.7×10^{13} (1.3×10^{10})
H12	1.1×10^{10}	ND	ND	7.5×10^{13} (1.1×10^{10})
H13	8.8×10^{9}	ND	ND	6.0×10^{13} (5.4×10^{9})
H14	1.2×10^{10}	ND	ND	9.1×10^{13} (5.0×10^{9})
H15	9.9×10^{9}	ND	ND	9.5×10^{13} (5.5×10^{9})
H16	1.6×10^{10}	ND	ND	7.3×10^{13} (1.8×10^{9})
H17	5.1×10^{11}	4.6×10^{6}	ND	7.4×10^{13} (1.3×10^{9})
H18	8.1×10^{11}	3.9×10^{6}	ND	9.9×10^{13} (1.6×10^{9})
H19	4.6×10^{10}	ND	ND	8.6×10^{13} (ND)
H20	2.6×10^{10}	ND	ND	6.9×10^{13} (ND)
H21	2.5×10^{10}	ND	ND	8.1×10^{13} (ND)
H22	2.6×10^{11}	3.2×10^{6}	ND	1.0×10^{14} (ND)
H23	4.5×10^{10}	8.4×10^{5}	ND	5.6×10^{13} (ND)
H24	1.3×10^{10}	ND	ND	2.0×10^{12} (－)
H25	1.8×10^{10}	ND	ND	8.6×10^{11} (－)
H26	7.6×10^{9}	ND	ND	1.1×10^{11} (－)
H27	ND	ND	ND	1.9×10^{11} (－)
H28	ND	ND	ND	2.5×10^{11} (－)
H29	ND	ND	ND	5.2×10^{11} (－)
H30	ND	ND	ND	2.8×10^{13} (ND)
R1	3.0×10^{9}	ND	ND	5.0×10^{13} (ND)

( )内は、2次系からのトリチウム放出量で内数。なお、平成24年度～平成29年度は全プラント停止中のため、二次系からのトリチウム放出なし。

※ 平成26年度までの全希ガスの放出量には天然核種等を含む。

（続 き）

年 度	気 体 廃 棄 物		液 体 廃 棄 物	
	全 希 ガ ス	^{131}I	全核種(^{3}Hを除く)	^{3}H
R2	3.4×10^{8}	ND	ND	7.1×10^{13} (ND)
R3	2.2×10^{11}	9.0×10^{6}	ND	5.4×10^{13} (ND)
R4	ND	ND	ND	1.9×10^{13} (ND)
R5	ND	ND	ND	5.4×10^{13} (ND)
R6	ND	ND	ND	5.1×10^{13} (ND)
R7	ND	ND	ND	3.9×10^{13} (ND)
放出管理目標値等(**)	1.0×10^{15}	3.0×10^{10}	7.5×10^{10}	1.4×10^{14}

( )内は、2次系からのトリチウム放出量で内数。

** 令和8年3月末時点。

（2）放射性固体廃棄物の発生実績

年 度	発生量(本)	焼却等に伴う減少量(本) ( )内は、搬出に伴う減少量で内数
S49	163	0
S50	965	0
S51	1,492	0
S52	1,420	0
S53	1,515	0
S54	1,935	0
S55	1,720	0
S56	2,020	209
S57	1,712	672
S58	2,204	765
S59	1,865	1,037
S60	2,234	1,315
S61	2,248	1,164
S62	744	1,932
S63	806	1,536
H1	817	1,202
H2	733	252
H3	777	78
H4	823	92
H5	1,117	830 (600)
H6	2,822	1,339 (960)
H7	1,652	2,333 (960)
H8	2,297	2,669 (960)
H9	2,103	2,562 (960)
H10	2,385	2,494 (840)
H11	1,974	1,129 (320)
H12	2,136	995 (336)
H13	3,235	1,166
H14	2,094	2,303 (600)
H15	2,347	1,801
H16	4,066	1,051
H17	3,078	845
H18	2,259	611
H19	2,242	402
H20	3,266	641
H21	4,140	923
H22	5,362	2,275 (320)

（続 き）

年 度	発生量(本)	焼却等に伴う減少量(本) ( )内は、搬出に伴う減少量で内数
H23	5,359	3,791 (440)
H24	5,170	6,113 (1,040)
H25	5,430	6,896 (808)
H26	4,348	2,790
H27	3,981	2,652
H28	3,766	3,275
H29	3,465	3,240
H30	2,112	3,763 (1,848)
R1	2,495	3,333 (1,720)
R2	3,462	3,732 (1,720)
R3	2,983	2,821 (1,384)
R4	4,160	3,751 (1,720)
R5	3,874	3,660 (1,720)
R6	3,353	3,453 (1,720)
R7	3,003	3,287 (1,168)
合 計	131,729	93,180
累積保管量(本)	38,549	
貯 蔵 能 力 (本)	約49,000	

※ 200ℓドラム缶相当本数。

5 従事者被ばく線量の経過

(1) 放射線業務従事者年間線量の経過

項目＼年度		S49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	126	145	197	221	221	243	302	307	308	270	265	247	247	288	272
	関係会社社員	418	699	931	930	1,122	1,373	1,462	1,667	1,463	1,690	1,466	1,799	1,725	1,431	1,534
	計	544	844	1,128	1,151	1,343	1,616	1,764	1,974	1,771	1,960	1,731	2,046	1,999	1,719	1,806
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0	0.06	0.14	0.23	0.17	0.26	0.16	0.29	0.17	0.18	0.14	0.15	0.13	0.06	0.13
	関係会社社員	0	0.41	1.90	2.02	1.41	2.25	2.21	4.04	3.00	3.25	2.24	3.80	3.80	2.48	2.47
	計	0	0.46	2.04	2.25	1.58	2.51	2.38	4.33	3.18	3.44	2.39	3.95	3.93	2.54	2.60
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.0	0.4	0.7	1.1	0.8	1.1	0.5	1.0	0.6	0.7	0.5	0.6	0.5	0.2	0.5
	関係会社社員	0.0	0.6	2.0	2.2	1.3	1.6	1.5	2.4	2.1	1.6	1.5	2.6	2.2	1.7	1.6
	計	0.0	0.6	1.8	2.0	1.2	1.6	1.3	2.2	1.8	1.8	1.4	1.9	2.0	1.5	1.4
最高線量（mSv）	九州電力社員	0.0	10.0	15.0	16.0	12.8	14.0	8.0	12.3	9.7	6.5	6.3	5.4	4.1	3.9	7.1
	関係会社社員	0.0	14.0	21.0	20.0	15.3	21.0	20.5	30.2	24.2	18.2	14.7	17.1	21.9	14.9	15.4
原子炉基数		1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2

（続　き）

項目＼年度		H1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	266	250	251	359	415	448	479	495	499	458	458	468	459	445	461
	関係会社社員	1,551	1,607	1,492	2,187	2,573	3,109	2,423	2,934	3,116	3,152	2,876	3,103	4,137	3,188	2,935
	計	1,817	1,857	1,748	2,546	2,988	3,557	2,902	3,429	3,615	3,610	3,334	3,571	4,596	3,633	3,396
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.09	0.08	0.03	0.04	0.07	0.08	0.04	0.05	0.08	0.11	0.08	0.06	0.11	0.11	0.06
	関係会社社員	3.09	3.86	2.24	1.99	2.46	2.67	1.67	1.82	3.12	3.89	2.99	1.96	4.98	4.97	2.73
	計	3.17	3.94	2.27	2.04	2.53	2.75	1.71	1.88	3.20	4.00	3.07	2.02	5.09	5.08	2.79
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.3	0.1
	関係会社社員	2.0	2.4	1.5	0.9	1.0	0.9	0.7	0.6	1.0	1.2	1.0	0.6	1.2	1.6	0.9
	計	1.7	2.1	1.3	0.8	0.9	0.8	0.6	0.6	0.9	1.1	0.9	0.6	1.1	1.4	0.8
最高線量（mSv）	九州電力社員	5.1	4.8	2.1	2.4	2.7	3.8	3.6	2.4	4.6	3.7	3.1	2.2	5.6	6.2	3.9
	関係会社社員	16.3	18.6	13.5	11.8	11.7	11.0	10.5	8.3	14.1	15.2	13.7	9.8	17.2	17.8	12.0
原子炉基数		2	2	2	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4

（続　き）

項目＼年度		H16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	476	469	472	487	514	536	544	535	523	534	551	550	619	637	693
	関係会社社員	3,220	3,091	3,316	3,187	3,404	4,023	4,218	3,730	2,348	2,770	2,730	2,873	2,831	2,390	2,075
	計	3,696	3,560	3,788	3,674	3,918	4,559	4,762	4,265	2,871	3,304	3,281	3,423	3,450	3,027	2,768
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.08	0.14	0.13	0.06	0.06	0.10	0.09	0.04	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01
	関係会社社員	3.47	3.75	3.99	2.73	2.69	4.26	4.88	2.47	0.38	0.36	0.34	0.69	0.35	0.25	0.24
	計	3.56	3.89	4.12	2.79	2.76	4.36	4.97	2.51	0.39	0.37	0.35	0.70	0.36	0.25	0.24
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	関係会社社員	1.1	1.2	1.2	0.9	0.8	1.1	1.2	0.7	0.2	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
	計	1.0	1.1	1.1	0.8	0.7	1.0	1.0	0.6	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1
最高線量（mSv）	九州電力社員	4.8	7.7	7.1	3.7	2.9	5.6	3.9	3.2	1.1	0.7	0.2	0.4	0.6	1.2	1.5
	関係会社社員	14.0	16.6	13.4	10.9	10.3	14.2	15.5	9.5	5.3	2.7	2.6	7.7	5.5	6.6	4.5
原子炉基数		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	※4	※4	※4(1)	※4(1)

（続　き）

項目＼年度		R1	2	3	4	5	6	7
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	670	645	627	616	629	578	582
	関係会社社員	2,695	2,680	2,555	3,240	2,627	2,476	2,616
	計	3,365	3,325	3,182	3,856	3,256	3,054	3,198
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.03	0.03	0.01	0.03	0.01	0.01	0.02
	関係会社社員	1.25	1.07	0.76	1.39	0.69	0.40	0.78
	計	1.28	1.10	0.77	1.42	0.71	0.41	0.80
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	関係会社社員	0.5	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2	0.3
	計	0.4	0.3	0.2	0.4	0.2	0.1	0.2
最高線量（mSv）	九州電力社員	6.5	7.6	0.9	4.8	1.1	1.1	2.6
	関係会社社員	15.3	9.0	7.5	12.5	5.5	4.1	8.8
原子炉基数		※4(2)	※4(2)	※4(2)	※4(2)	※4(2)	※4(2)	※4(2)

（ ）内は廃止措置中の原子炉基数で内数。

※ 玄海1号機は平成27年4月27日に運転終了、平成29年7月13日に廃止措置着手。

※ 玄海2号機は平成31年4月9日に運転終了、令和2年6月29日に廃止措置着手。

（2） 定期検査期間中の被ばく実績の経過

①－1　1号機[運転期間中]

項目＼回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
定期検査期間	自	S51.10.31	S53. 2. 1	S54. 2.28	S55. 3.29	S56. 5.30	S57.10.22	S59. 1. 6	S60. 4.19	S61. 8.15	S62.11.10
	至	S52. 2.23	S53. 5.31	S54. 9. 5	S55. 7.25	S56.11.16	S58. 3.15	S59. 5.31	S60. 9. 6	S62. 2. 6	S63. 5. 6
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	193	230	234	281	292	272	244	212	229	222
	関係会社社員	865	807	1,014	885	1,210	1,103	1,211	1,219	1,158	1,183
	計	1,058	1,037	1,248	1,166	1,502	1,375	1,455	1,431	1,387	1,405
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.12	0.18	0.25	0.14	0.21	0.11	0.105	0.084	0.068	0.065
	関係会社社員	1.72	1.84	2.77	1.95	2.84	2.32	2.634	2.630	2.331	2.500
	計	1.84	2.02	3.03	2.09	3.05	2.43	2.739	2.714	2.399	2.565
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.6	0.8	1.1	0.5	0.7	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
	関係会社社員	2.0	2.3	2.7	2.2	2.4	2.1	2.2	2.2	2.0	2.1
	計	1.7	2.0	2.4	1.8	2.0	1.8	1.9	1.9	1.7	1.8
最高線量（mSv）	九州電力社員	11.0	14.0	15.0	7.0	10.0	8.0	5.0	3.0	2.1	2.9
	関係会社社員	20.0	17.0	26.0	19.0	20.0	21.0	15.0	13.0	17.3	16.2
定期検査期間（日数）		116	120	190	119	171	145	147	141	176	179

（続　き）

項目＼回数		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
定期検査期間	自	H1. 3. 6	H2. 8. 3	H3.11. 7	H5. 2. 8	H6. 5.22	H7.11.23	H9. 3.19	H10. 6.12	H11.10.15	H13. 3. 6
	至	H1.10. 5	H3. 3.28	H4. 5. 8	H5. 7.23	H6.11.29	H8. 3. 5	H9. 6.25	H10. 9.17	H12. 2. 9	H13. 9.14
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	230	211	191	215	250	183	186	218	206	231
	関係会社社員	1,136	1,270	1,347	1,535	1,742	1,208	1,282	1,489	1,639	2,655
	計	1,366	1,481	1,538	1,750	1,922	1,391	1,468	1,707	1,845	2,886
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.05	0.04	0.03	0.02	0.02	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04
	関係会社社員	2.54	2.96	2.05	1.58	0.91	1.12	1.29	1.35	1.34	1.52
	計	2.60	3.00	2.08	1.16	0.93	1.16	1.32	1.39	1.37	1.56
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	関係会社社員	2.2	2.3	0.15	1.0	0.5	0.9	1.0	0.9	0.8	0.6
	計	1.9	2.0	0.1	0.9	0.5	0.8	0.9	0.8	0.8	0.5
最高線量（mSv）	九州電力社員	2.8	3.2	2.6	1.3	1.1	3.2	2.4	2.3	2.5	2.8
	関係会社社員	18.7	19.3	14.0	10.8	6.7	8.3	8.9	9.4	8.5	7.6
定期検査期間（日数）		214	238	184	166	192	104	99	98	118	193

（続　き）

項目＼回数		21	22	23	24	25	26	27	※28
定期検査期間	自	H14. 6. 9	H15. 9.30	H17. 2.17	H18. 7.27	H19.11.25	H21. 3.26	H22. 7.25	H23.12. 1
	至	H14. 9.10	H16. 1.20	H17. 7. 1	H18.11. 7	H20. 3.19	H21. 7. 3	H22.11. 2	H29. 4.19
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	217	194	214	215	226	245	226	－
	関係会社社員	1,618	1,713	1,820	1,718	1,941	2,094	2,108	－
	計	1,835	1,904	2,034	1,933	2,167	2,339	2,334	－
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	－
	関係会社社員	0.78	0.85	0.82	0.65	0.59	1.19	0.61	－
	計	0.80	0.87	0.85	0.67	0.61	1.22	0.62	－
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.1	0.1	0.2	0.1	0.09	0.1	0.1	－
	関係会社社員	0.5	0.5	0.5	0.4	0.31	0.57	0.3	－
	計	0.4	0.5	0.4	0.3	0.28	0.52	0.3	－
最高線量（mSv）	九州電力社員	1.1	1.7	3.3	1.0	1.67	2.09	1.9	－
	関係会社社員	5.5	6.8	5.8	6.4	6.58	8.11	5.9	－
定期検査期間（日数）		94	113	135	104	116	100	101	1,967

※ 平成29年4月19日、廃止措置計画認可に伴い、同日、定期検査終了。

①－２　1号機[廃止措置段階]

項目＼回数		1	2	3	4	5	6	7
定期検査期間	自	H30. 1.16	H31. 2. 4	R2. 1.14	R3. 4. 9	R4.11. 7	R6. 6.11	R8. 1.9
	至	H30. 5.10	R1. 5.30	R2. 3.10	R3.10. 8	R5. 5.12	R6.12.11	R8. 7.9
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	213	212	132	117	103	86	157
	関係会社社員	679	633	473	292	346	466	595
	計	892	845	605	409	449	552	752
総線量（人・mSv）	九州電力社員	3.03	0.70	0.09	0.09	0.00	0.00	0.03
	関係会社社員	26.88	12.86	1.42	0.14	0.14	0.04	0.02
	計	29.91	13.56	1.51	0.23	0.14	0.04	0.05
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	関係会社社員	0.04	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	計	0.03	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
最高線量（mSv）	九州電力社員	0.31	0.09	0.02	0.03	0.00	0.00	0.02
	関係会社社員	1.17	0.56	0.11	0.02	0.05	0.01	0.02
定期検査期間（日数）		115	116	57	183	187	184	182

※ 定期検査以外の作業に係る線量を含む。

②－１　2号機[運転期間中]

項目＼回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
定期検査期間	自	S57. 1.24	S58. 3.25	S59. 7.22	S60.10.27	S62. 1.24	S63. 4.19	H1. 8.13	H3. 1.18	H4. 4.12	H5. 9. 4
	至	S57. 5.13	S58. 7. 7	S59.10.16	S61. 1.21	S62. 4.17	S63. 8.10	H1.12.22	H3. 4.22	H4. 8. 7	H5.12.10
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	275	263	226	197	213	218	200	182	203	200
	関係会社社員	925	1,045	1,082	959	1,003	934	895	870	992	1,141
	計	1,200	1,308	1,308	1,156	1,216	1,152	1,095	1,052	1,195	1,341
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.09	0.067	0.066	0.061	0.04	0.07	0.06	0.04	0.04	0.04
	関係会社社員	1.12	1.090	1.201	1.215	0.02	1.49	1.16	1.01	1.37	1.51
	計	1.22	1.157	1.267	1.276	1.06	1.56	1.22	1.05	1.41	1.55
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
	関係会社社員	1.2	1.0	1.1	1.3	1.0	1.6	1.3	1.2	1.4	1.3
	計	1.0	0.9	1.0	1.1	0.9	1.4	1.1	1.0	1.2	1.2
最高線量（mSv）	九州電力社員	4.0	3.7	0.4	0.3	2.0	4.0	4.5	2.8	2.8	1.9
	関係会社社員	14.0	9.7	8.4	10.0	8.0	12.0	10.2	7.8	9.3	8.5
定期検査期間（日数）		110	105	87	87	84	114	132	95	118	98

（続　き）

項目＼回数		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
定期検査期間	自	H6.11.12	H8. 3.10	H9. 7.17	H10.10.18	H12. 2.16	H13. 3.16	H14.11.13	H16. 3.14	H17. 7.16	H18.11.14
	至	H7. 3.31	H8. 6.18	H9.11.11	H11. 2.16	H12. 6.13	H13.10.16	H15. 2.18	H16. 6.17	H17.10.18	H19. 5.16
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	188	176	207	205	223	222	197	195	213	222
	関係会社社員	1,241	1,303	1,554	1,596	1,801	2,827	1,578	1,534	1,518	1,739
	計	1,429	1,479	1,761	1,801	2,024	3,049	1,775	1,729	1,731	1,961
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	関係会社社員	1.07	1.56	1.72	1.65	1.64	2.06	1.17	0.83	0.68	0.78
	計	1.09	1.59	1.76	1.69	1.67	2.09	1.20	0.86	0.71	0.81
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1
	関係会社社員	0.9	1.2	1.1	1.0	0.9	0.7	0.7	0.5	0.4	0.5
	計	0.8	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7	0.7	0.5	0.4	0.4
最高線量（mSv）	九州電力社員	2.2	3.3	2.8	2.3	2.4	2.4	2.4	4.5	2.0	2.9
	関係会社社員	8.9	8.7	9.6	8.5	8.9	12.7	8.1	7.2	4.8	6.7
定期検査期間（日数）		140	101	118	122	119	215	98	96	95	184

（続　き）

項目＼回数		21	22	※23
定期検査期間	自	H20. 3.28	H21. 9.12	H23. 1.29
	至	H20. 8.13	H22. 1. 8	R2. 3.18
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	247	229	－
	関係会社社員	2,021	2,030	－
	計	2,268	2,259	－
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.02	0.01	－
	関係会社社員	0.73	0.88	－
	計	0.75	0.89	－
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.09	0.06	－
	関係会社社員	0.36	0.43	－
	計	0.33	0.39	－
最高線量（mSv）	九州電力社員	1.65	1.06	－
	関係会社社員	6.77	7.06	－
定期検査期間（日数）		139	119	3,337

※ 令和2年3月18日、廃止措置計画認可に伴い、同日、定期検査終了。

②－２ 2号機[廃止措置段階]

項目＼回数		1	2	3	4
定期検査期間	自	R3. 4. 9	R4.11. 7	R6. 6.11	R8. 1.9
	至	R3.10.15	R5. 5.12	R6.12.11	R8. 7.9
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	139	82	81	124
	関係会社社員	480	350	482	602
	計	619	432	563	726
総線量（人・mSv）	九州電力社員	0.24	0.04	0.02	0.01
	関係会社社員	4.76	2.11	0.14	0.30
	計	5.00	2.15	0.16	0.31
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.00	0.00	0.00	0.00
	関係会社社員	0.01	0.01	0.00	0.00
	計	0.01	0.00	0.00	0.00
最高線量（mSv）	九州電力社員	0.08	0.01	0.02	0.01
	関係会社社員	0.22	0.29	0.02	0.04
定期検査期間（日数）		190	187	184	182

※ 定期検査以外の作業に係る線量を含む。

③ 3号機

項目＼回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
定期検査期間	自	H6.12.23	H8. 4.13	H9. 9. 5	H10.12.21	H12. 4.30	H13. 8.27	H14.12.19	H16. 4.14	H17. 9.13	H18.12.17
	至	H7. 4.27	H8. 8. 6	H9.11.27	H11. 4. 6	H12. 7.28	H13.11.20	H15. 3.18	H16. 7.21	H17.11.29	H19. 4.11
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	166	176	186	191	207	195	201	221	196	201
	関係会社社員	1,220	1,372	1,305	1,423	1,294	1,468	1,543	1,673	1,472	1,542
	計	1,386	1,548	1,491	1,614	1,501	1,663	1,744	1,894	1,668	1,743
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.04
	関係会社社員	0.43	0.54	0.41	0.42	0.59	1.02	1.19	1.62	1.34	1.08
	計	0.45	0.56	0.42	0.43	0.61	1.05	1.22	1.66	1.39	1.12
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2
	関係会社社員	0.4	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	0.9	0.7
	計	0.3	0.4	0.3	0.3	0.4	0.6	0.7	0.9	0.8	0.6
最高線量（mSv）	九州電力社員	1.5	1.8	1.2	1.6	2.4	2.3	3.6	2.7	3.5	3.1
	関係会社社員	4.4	5.5	5.0	4.4	5.2	8.4	8.8	8.3	7.1	6.5
定期検査期間（日数）		126	166	84	107	90	86	90	99	78	116

（続　き）

項目＼回数		11	12	13	14	15	16	17	18
定期検査期間	自	H20. 5. 2	H21. 8.30	H22.12.11	R1. 5.13	R2. 9.18	R4. 1.21	R5.11.10	R7. 3.28
	至	H20. 7.31	H21.12. 2	H30. 5.16	R1. 8.20	R2.12.22	R5. 1.10	R6. 2.29	R7. 7.10
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	226	239	693	415	423	546	437	418
	関係会社社員	1,655	1,667	5,905	1,881	1,838	2,792	2,037	1,856
	計	1,881	1,906	6,598	2,296	2,261	3,338	2,474	2,274
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.04	0.03	0.07	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01
	関係会社社員	1.58	0.93	3.07	0.60	0.42	1.10	0.55	0.34
	計	1.61	0.96	3.14	0.61	0.44	1.12	0.56	0.35
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.16	0.13	0.1	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03
	関係会社社員	0.95	0.56	0.5	0.32	0.23	0.39	0.27	0.18
	計	0.86	0.5	0.5	0.27	0.19	0.34	0.23	0.16
最高線量（mSv）	九州電力社員	2.57	2.4	2.8	3.23	3.25	2.76	1.04	1.32
	関係会社社員	7.99	6.26	12.0	6.88	5.69	9.2	5.07	5.13
定期検査期間（日数）		91	95	2,714	100	96	355	112	105

④ 4号機

項目＼回数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
定期検査期間	自	H10. 8.24	H11.12.23	H13. 4.23	H14. 8.23	H15.12.18	H17. 4.14	H18. 8.26	H20. 1. 5	H21. 5.15	H22. 9. 4
	至	H10.12.10	H12. 3.29	H13. 7.24	H14.11.19	H16. 3.16	H17. 6.30	H18.12.15	H20. 4.16	H21. 8. 7	H22.11.26
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	180	180	188	181	208	204	199	212	257	230
	関係会社社員	1,225	1,182	1,226	1,515	1,470	1,342	1,554	1,732	1,685	1,919
	計	1,405	1,362	1,414	1,696	1,678	1,546	1,753	1,944	1,942	2,149
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.04	0.05	0.03	0.03	0.03
	関係会社社員	0.44	0.58	0.56	1.28	1.25	1.08	1.09	1.64	0.80	1.14
	計	0.45	0.61	0.58	1.31	1.29	1.12	1.13	1.67	0.83	1.17
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2	0.14	0.12	0.1
	関係会社社員	0.4	0.5	0.5	0.8	0.9	0.8	0.7	0.95	0.48	0.6
	計	0.3	0.4	0.4	0.8	0.8	0.7	0.6	0.86	0.43	0.5
最高線量（mSv）	九州電力社員	1.8	2.1	3.6	2.7	3.8	4.1	3.3	3.15	2.21	1.3
	関係会社社員	5.0	5.9	5.7	8.6	8.7	8.4	5.9	8.88	5.60	8.0
定期検査期間（日数）		109	98	93	89	90	78	112	103	85	84

（続　き）

項目＼回数		11	12	13	14	15	16	17
定期検査期間	自	H23.12.25	R1. 8.16	R2.12.19	R4. 4.30	R4. 9.12	R6. 3.27	R7. 7.27
	至	H30. 7.19	R1.11.20	R3. 4.15	R4. 8. 9	R5. 3. 8	R6. 6.28	R7. 11.14
放射線業務従事者数（人）	九州電力社員	657	364	406	333	359	397	422
	関係会社社員	5,866	1,778	2,000	1,522	1,933	1,785	1,801
	計	6,523	2,142	2,406	1,855	2,292	2,182	2,223
総線量（人・Sv）	九州電力社員	0.06	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01
	関係会社社員	2.61	0.41	0.44	0.32	0.44	0.31	0.34
	計	2.66	0.42	0.45	0.33	0.45	0.33	0.36
平均線量（mSv）	九州電力社員	0.1	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03
	関係会社社員	0.4	0.23	0.22	0.21	0.23	0.18	0.19
	計	0.4	0.20	0.19	0.18	0.20	0.15	0.16
最高線量（mSv）	九州電力社員	3.3	2.21	3.13	1.26	1.24	1.16	1.30
	関係会社社員	16.8	4.55	4.91	3.02	5.05	4.11	4.06
定期検査期間（日数）		2,399	97	118	102	178	94	111

6 燃料輸送の実績等

(1) 新燃料(取替用燃料)の輸送実績

MNF:三菱原子燃料(株)　NFI:原子燃料工業(株)

年度	回数	搬入年月日	燃料体数	搬入元	原子炉名(体数)
S49	1	S49. 6.21	20	MNF	1号機
	2	S49. 6.28	20	MNF	1号機
	3	S49. 7.11	23	MNF	1号機
	4	S49. 7.19	24	MNF	1号機
	5	S49. 8. 3	36	MNF	1号機
50	6	S50. 5.15	10	MNF	1号機
51	7	S51. 5.27	30	MNF	1号機
	8	S51.11.17	16	MNF、NFI	1号機
52	9	S52.11.10	24	MNF	1号機
	10	S52.11.17	24	MNF	1号機
53	11	S53. 9.28	20	MNF	1号機
	12	S53.11. 9	20	MNF	1号機
54	13	S54. 9.21	16	MNF	2号機
	14	S54.10. 3	32	MNF	2号機
	15	S54.10.10	28	MNF	2号機
	16	S54.10.17	31	MNF	2号機
	17	S54.10.31	16	MNF	2号機
	18	S55. 3. 5	24	NFI	1号機
	19	S55. 3.12	24	MNF	1号機
55	20	S56. 1.14	24	MNF	1号機
	21	S56. 1.21	24	NFI	1号機
56	22	S56.10. 3	40	MNF	2号機
	23	S57. 1.21	40	MNF	2号機
57	24	S57. 8.20	40	MNF、NFI	1号機
	25	S57.12. 2	40	MNF	2号機
58	26	S58. 9. 8	40	MNF、NFI	1号機
59	27	S59. 4. 5	40	MNF、NFI	1号機(4体)、2号機(36体)
	28	S59. 6.27	40	MNF、NFI	1号機
	29	S60. 1.23	40	MNF	1号機(28体)、2号機(12体)
60	30	S60. 4. 6	62	MNF	2号機
	31	S61. 3. 5	28	NFI	1号機
	32	S61. 3.13	40	MNF、NFI	1号機(20体)、2号機(20体)
61	33	S61.10.23	40	MNF	1号機(28体)、2号機(12体)
	34	S62. 3.11	20	MNF	2号機
62	35	S62. 7.23	20	NFI	1号機
	36	S62. 8.27	40	MNF	2号機
63	37	S63.10.19	8	MNF	1号機

（続 き）

MNF:三菱原子燃料(株)　NFI:原子燃料工業(株)

年度	回数	搬入年月日	燃料体数	搬入元	原子炉名(体数)
H1	38	H1. 7. 4	32	MNF	2号機
	39	H2. 3.20	37	MNF、NFI	1号機
2	40	H2. 7.24	56	MNF	2号機
3	41	H3. 8. 6	40	MNF、NFI	1号機
	42	H3.12.10	52	MNF	2号機
4	43	H4.10.20	36	MNF、NFI	1号機
	44	H5. 2.11	99	MNF	3号機
	45	H5. 3. 9	98	MNF	3号機
5	46	H5. 7.13	60	MNF	2号機
	47	H6. 3. 1	56	MNF、NFI	1号機
6	48	H6.10. 7	116	MNF、NFI	2号機(52体)、3号機(64体)
7	49	H7. 9. 4	64	MNF、NFI	1号機(36体)、2号機(28体)
	50	H8. 3. 5	76	MNF、NFI	3号機
8	51	H8. 6.14	98	MNF	4号機
	52	H8. 7.12	99	MNF	4号機
	53	H8.11.19	36	MNF、NFI	1号機
9	54	H9. 6. 2	116	MNF、NFI	2号機(48体)、3号機(68体)
10	55	H10. 4. 4	116	MNF、NFI	1号機(32体)、4号機(84体)
	56	H10. 9.28	120	MNF、NFI	2号機(36体)、3号機(84体)
	57	H11. 2. 6	40	MNF、NFI	1号機
11	58	H11. 6.11	64	MNF、NFI	4号機
	59	H11.10. 8	104	MNF、NFI	2号機(24体)、3号機(80体)
12	60	H12.11.17	112	MNF、NFI	1号機(36体)、4号機(76体)
	61	H12.12. 4	96	MNF、NFI	2号機(32体)、3号機(64体)
14	62	H14. 4.15	100	MNF、NFI	1号機(28体)、4号機(72体)
	63	H14. 8. 9	108	MNF、NFI	2号機(36体)、3号機(72体)
15	64	H15. 9. 1	104	MNF、NFI	1号機(32体)、4号機(72体)
	65	H16. 2. 2	108	MNF、NFI	2号機(36体)、3号機(72体)
16	66	H17. 3. 7	108	MNF、NFI	1号機(32体)、4号機(76体)
17	67	H17. 6.15	120	MNF、NFI	2号機(44体)、3号機(76体)
18	68	H18. 6. 5	152	MNF、NFI	1号機(32体)、2号機(40体)、4号機(80体)
	69	H18.10.16	80	MNF、NFI	3号機
19	70	H19. 7. 2	108	MNF、NFI	1号機(32体)、3号機(76体)
	71	H19. 9.14	112	MNF、NFI	2号機(40体)、4号機(72体)
20	72	H20.12. 7	188	MNF、NFI	1号機(34体)、3号機(76体)、4号機(76体)

（続 き）

MNF:三菱原子燃料(株)　NFI:原子燃料工業(株)

年度	回数	搬入年月日	燃料体数	搬入元	原子炉名(体数)
21	73	H21. 5.23	16	メロックス社	3号機
	74	H21. 6.22	28	MNF	2号機
	75	H22. 3.15	104	MNF、NFI	1号機(36体)、4号機(68体)
22	76	H22. 6.28	20	メロックス社	3号機
	77	H22.10.18	96	MNF、NFI	2号機(32体)、3号機(64体)
23	78	H23. 9.12	48	MNF、NFI	1号機(28体)、4号機(20体)
	79	H23.11.11	16	NFI	3号機
	80	H24. 2.13	88	MNF、NFI	2号機(32体)、4号機(56体)
24	81	H24. 5.14	56	MNF	3号機
	82	H24.12.17	98	MNF、NFI	1号機(32体)、4号機(66体)
25	83	H25. 8. 5	102	MNF、NFI	2号機(36体)、3号機(66体)
30	84	H30. 7. 6	66	MNF	4号機
	85	H30. 8. 6	28	NFI	3号機
	86	H30.11.13	70	MNF	3号機(34体)、4号機(36体)
	87	H31. 3. 8	56	NFI	4号機
R5	88	R5.10.18	84	MNF	3号機
	89	R6. 1.24	76	MNF	4号機
R6	90	R7. 2.26	56	MNF	3号機
R7	91	R7. 4.21	72	MNF	4号機
	92	R7. 7.23	16	NFI	3号機
計			5,371		

（2） 使用済燃料の輸送実績

PNC:動力炉・核燃料開発事業団　　JAERI:日本原子力研究所
BNFL:英国核燃料会社　　COGEMA:仏国核燃料会社

年度	回数	搬出年月日	燃料体数	搬出先	原子炉名(体数)
S54	1	S54.10. 2	14	PNC	1号機
55	2	S55. 6. 5	14	PNC	1号機
	3	S55. 8.21	14	PNC	1号機
	4	S56. 2.16	14	PNC	1号機
56	5	S56.11. 6	14	PNC	1号機
	6	S56.11. 6	1	JAERI	1号機
	7	S57. 1.14	14	PNC	1号機
58	8	S58. 5.21	28	BNFL	1号機
	9	S58.10.22	24	COGEMA	1号機
59	10	S59. 6. 8	28	BNFL	1号機
	11	S59.11. 9	24	COGEMA	1号機
60	12	S60. 6.27	35	BNFL	2号機
	13	S60.12.18	36	COGEMA	1号機
61	14	S61. 6.28	35	BNFL	1号機
	15	S61.12.18	36	COGEMA	2号機
	16	S62. 3. 2	14	PNC	1号機
62	17	S62. 7.10	35	BNFL	1号機
	18	S62. 8.21	14	PNC	1号機
	19	S62.11. 2	36	COGEMA	2号機
63	20	S63. 6.21	42	BNFL	1号機
	21	S63. 9.14	72	COGEMA	2号機
	22	S63.12. 8	35	BNFL	2号機
H1	23	H1. 4.21	28	BNFL	2号機
	24	H1. 6.26	48	COGEMA	2号機
	25	H1.11.17	14	PNC	1号機
	26	H1.12.23	42	BNFL	1号機
2	27	H2.10.23	35	BNFL	2号機
	28	H2.12.27	36	COGEMA	1号機
3	29	H3.10.21	28	BNFL	1号機
4	30	H4.11. 5	14	PNC	1号機
	31	H4.12.17	28	BNFL	2号機
5	32	H5. 9.27	14	PNC	1号機
	33	H5.12.16	35	BNFL	1号機
6	34	H6. 4.26	36	COGEMA	2号機
	35	H7. 3.20	14	PNC	1号機
7	36	H7. 7.31	14	PNC	1号機
	37	H7.11. 6	14	PNC	2号機

（続　き）

JNFL：日本原燃(株)

年度	回数	搬出年月日	燃料体数	搬出先	原子炉名(体数)
16	38	H16.10.12	70	JNFL	3号機
	39	H16.12. 2	56	JNFL	2号機
17	40	H17.12.10	42	JNFL	2号機
	41	H18. 3. 6	70	JNFL	1号機
18	42	H18. 5.18	56	JNFL	3号機
	43	H18. 6.21	56	JNFL	3号機
19	44	H19.10.20	70	JNFL	3号機
	45	H19.11.30	42	JNFL	2号機
20	46	H20.12.10	56	JNFL	1号機
	47	H21. 2.18	112	JNFL	2号機(56体)、3号機(56体)
21	48	H21. 7.17	42	JNFL	1号機
	49	H21. 9.30	56	JNFL	1号機
	50	H22. 2.17	112	JNFL	2号機(56体)、3号機(56体)
23	51	H23. 8.24	14	JNFL	3号機
24	52	H24.11.21	14	JNFL	1号機
27	53	H27. 8.27	14	JNFL	1号機
合計			1,861		

（3） 燃料保管状況

令和8年3月末時点の燃料の保管状況

（単位:体）

	炉内挿入用 （取替用燃料）	装荷量	払出用 （※）	計
1号機	－	－	352 ＊1（112）	352 ＊1（112）
2号機	－	－	422 ＊1（168）	422 ＊1（168）
3号機	156	193	814	1,163
4号機	157	193	1,031 ＊2（294）	1,381 ＊2（294）
計	313	386	2,619	3,318

＊1（ ）内は4号使用済燃料ピットに保管している量で内数。
＊2（ ）内は3号使用済燃料ピットに保管している量で内数。

※ 1号機は、未使用の新燃料16体を含む。
2号機は、未使用の新燃料28体を含む。
3号機は、使用済MOX燃料36体を含む。

Ⅱ　玄海原子力発電所周辺環境放射能調査結果

＜令和７年度＞

Ⅱ　目　次

１ 目的 ····· Ⅱ－１

２ 実施機関 ····· Ⅱ－１

３ 調査期間 ····· Ⅱ－１

４ 調査項目

（１）空間放射線 ····· Ⅱ－１
（２）環境試料中の放射能 ····· Ⅱ－２
（３）大気浮遊じん中の放射能 ····· Ⅱ－２

５ 調査及び評価の方法

（１）空間放射線 ····· Ⅱ－３
（２）環境試料中の放射能 ····· Ⅱ－３
（３）大気浮遊じん中の放射能 ····· Ⅱ－３

６ 調査結果及び評価

（１）空間放射線 ····· Ⅱ－４
（２）環境試料中の放射能 ····· Ⅱ－９
（３）大気浮遊じん中の放射能 ····· Ⅱ－15

＜添 付 資 料＞

１ 空間放射線測定結果（詳細） ····· Ⅱ－19
２ 環境試料中の放射能（詳細） ····· Ⅱ－35
３ 大気浮遊じん中の放射能（詳細） ····· Ⅱ－39
４ 令和７年度　クロスチェック結果(測定実施機関の En スコアによる比較) Ⅱ－41
５ 令和７年度　調査地点図 ····· Ⅱ－42
６ 測定方法及び測定機器 ····· Ⅱ－46
７ 測定値の表示単位及び取扱い ····· Ⅱ－48

＜参 考 資 料＞

１　玄海原子力発電所３号機における法令報告値を下回る微量の放射性物質の体内への取り込みについて ····· Ⅱ－53
（令和７年度第２回佐賀県環境放射能技術会議資料１－２）
２　令和７年度に更新予定の機器について ····· Ⅱ－58
（令和７年度第２回佐賀県環境放射能技術会議資料１－３）
３　ストロンチウム分析における測定結果の一部訂正について ····· Ⅱ－60
（令和７年度第３回佐賀県環境放射能技術会議資料１－２）
４　令和８年度玄海原子力発電所周辺環境放射能調査計画（案）について ·· Ⅱ－66
（令和７年度第４回佐賀県環境放射能技術会議資料１－２（参考））
５　令和７年度第３四半期の放水口モニタ「平常の変動範囲」の一部訂正について ····· Ⅱ－68
（令和８年度第１回佐賀県環境放射能技術会議資料１－１－３）

1　目的

佐賀県と九州電力株式会社では、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」に基づき、周辺地域住民の安全確保と周辺環境の保全のため、玄海原子力発電所周辺の環境放射能調査を実施している。

また、この調査は、玄海原子力発電所からの放射性物質放出を検知した場合あるいはその可能性が否定できない場合に、その影響による被ばく線量を推定するためにも実施するが、これまでに玄海原子力発電所の影響による放射線等の異常は確認されていない。

なお、我が国における原子力施設周辺の平常の環境放射線モニタリングを規定している「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」（平成 30 年 4 月、原子力規制庁）においては、平常時の環境放射線モニタリングの目的について、「原子力施設の平常時の周辺環境における空間放射線量率及び放射性物質の濃度を把握しておくことにより、緊急時モニタリングに備えておくとともに、原子力施設の異常を早期に検出し、その周辺住民及び周辺環境への影響を評価すること」とされており、具体的には次の 4 項目に集約されている。

- 周辺住民等の被ばく線量の推定及び評価
- 環境における放射性物質の蓄積状況の把握
- 原子力施設からの予期しない放射性物質又は放射線の放出の早期検出及び周辺環境への影響評価
- 緊急事態が発生した場合への平常時からの備え

本調査は、年度ごとに上記 4 項目を網羅した調査計画を策定し、実施するものである。

2　実施機関

佐賀県：環境センター、唐津保健福祉事務所、東松浦農業振興センター、
　　玄海水産振興センター
九州電力株式会社：玄海原子力発電所

3　調査期間

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで（令和 7 年度）

4　調査項目

（1）空間放射線

ア　モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

イ　モニタリングポスト（電離箱式検出器）

ウ　放水口モニタ

エ　走行サーベイ

（2）環境試料中の放射能

ア　ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

イ　放射化学分析による放射能測定

①　放射性ストロンチウム分析

②　トリチウム分析

（3）大気浮遊じん中の放射能

ア　大気浮遊じんの連続測定

イ　大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

5　調査及び評価の方法

平常時には空間放射線、環境試料中の放射能及び大気浮遊じん中の放射能の各調査を実施する。
今年度調査する項目の平常の変動範囲は次表のとおり設定する。
なお、前年度のデータ収集がない調査項目については平常の変動範囲を設定しない。

調査項目	評価対象データ	平常の変動範囲	変動範囲設定のためのデータ収集期間
空間放射線量率 (NaI(Tl)ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝ式検出器)	1 時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の 3 倍の範囲	過去 3 か年
空間放射線量率 (電離箱式検出器)	1 時間平均値	地点ごとの過去の最大値	測定開始～前年度
放水口計数率	1 時間平均値	地点ごとの測定値の平均値(M) ±標準偏差(σ)の 3 倍の範囲	過去 3 か年
環境試料中の放射能	^{60}Co、^{131}I、^{134}Cs、^{137}Cs、^{90}Sr、^{3}H の放射能濃度	試料ごとの過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度
大気浮遊じん中の放射能	^{60}Co、^{134}Cs、^{137}Cs、^{131}I の放射能濃度	過去の放射能濃度範囲	測定開始～前年度

測定結果が平常の変動範囲を超過した場合、次の原因調査を行い、玄海原子力発電所からの影響の有無について判断する。その結果、玄海原子力発電所からの影響があったと判断した場合には、玄海原子力発電所からの影響分の外部被ばく線量又は内部被ばく線量の推定を行う。

（原因調査項目）

・試料採取方法・処理方法、測定器の性能、測定方法等の測定条件の変化
・降雨、降雪、雷、積雪等の気象要因及び地理・地形上の要因等の自然条件の変化
・核爆発実験等の影響
・医療・産業用の放射性同位元素等の影響
・原子力施設の運転状況の変化

（1）空間放射線

次のアからエの検出器又は測定方法により、空間放射線量率等の連続測定を行い、測定データについては、テレメータシステムによる収集、解析を行う。

ア　モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所周辺の空間放射線量率の変動を把握する。

イ　モニタリングポスト（電離箱式検出器）

空間放射線量率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

ウ　放水口モニタ

放水口計数率の連続測定、テレメータシステムによる測定データの収集、解析を行い、玄海原子力発電所から放出される排水中の放射性物質の濃度変化を計数率として把握する。

エ　走行サーベイ

走行サーベイ車又はモニタリングカーで走行しながら空間放射線量率の測定を行い、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の平常値を把握する。

（2）環境試料中の放射能

次のア及びイの分析方法により、環境試料中の放射能測定を行い、各試料の放射能の平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア　ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行う。

イ　放射化学分析による放射能測定

環境試料中に含まれる放射性物質の量を把握するため、①放射性ストロンチウム分析法、②トリチウム分析法による放射能測定を行う。

（3）大気浮遊じん中の放射能

次のア及びイの測定方法により、大気浮遊じん中の放射能測定を行い、平常値の把握、玄海原子力発電所からの影響の有無等について評価を行う。

ア　大気浮遊じんの連続測定

ダストサンプラにより大気を一定期間連続吸引し、ろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析を行い、大気浮遊じん中に含まれる放射性物質の平常値を把握する。

イ　大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

ヨウ素サンプラにより大気を連続吸引し、活性炭カートリッジ及びろ紙上に大気浮遊じんを採取し、ゲルマニウム半導体検出器又はヨウ素モニタにより放射性ヨウ素の測定を行う。

測定結果は、緊急時への備えとして玄海原子力発電所から 30km 圏内の放射性ヨウ素の平常値を把握する。

６　調査結果及び評価

令和７年度の調査結果については、一部の測定において、平常の変動範囲の上限値を超過するものがあり、要因調査を行ったところ、海水中のトリチウムについて、玄海原子力発電所からのトリチウムの放出との関連が考えられた。

その他の調査においては、玄海原子力発電所からの影響があったと考えられる結果は確認されなかった。

（１）空間放射線

ア　モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

NaI(Tl)シンチレーション式検出器によるモニタリングポスト（10 局）での空間放射線量率（低線量率）の1時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであった。各局で平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、いずれも降雨の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

（単位:nGy/h）

局名		令和７年度 線量率範囲	令和７年度 年間平均値	令和７年度 平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
				(M-3σ)	(M+3σ)		
県設置局	今村	26 ～ 83	30	18	41	226 （2.59）	降雨
	平尾	32 ～ 81	34	24	45	211 （2.41）	降雨
	串	30 ～ 82	33	23	43	219 （2.50）	降雨
	先部	29 ～ 84	32	21	43	218 （2.49）	降雨
	外津浦	30 ～ 69	33	25	41	205 （2.34）	降雨
	京泊先	29 ～ 78	32	23	41	209 （2.39）	降雨
九電設置局	正門南	23 ～ 59	25	17	33	260 （3.00）	降雨
	岸壁	21 ～ 53	23	15	30	228 （2.63）	降雨
	値賀崎	20 ～ 47	22	16	28	209 （2.41）	降雨
	ダム南	22 ～ 60	24	16	32	244 （2.82）	降雨

イ　モニタリングポスト（電離箱式検出器）

電離箱式検出器によるモニタリングポスト（26 局）での空間放射線量率（高線量率）の 1 時間平均値の連続測定結果は、次表のとおりであり、立花局で過去の最大値を超えたものがあったが、降雨の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

（単位：nGy/h）

局名	令和 7 年度 線量率範囲	令和 7 年度 年間平均値	過去の最大値	平常の変動範囲を 超えたﾃﾞｰﾀ数	超えた要因
今村	61 ～ 113	64	134	0	
平尾	65 ～ 112	68	134	0	
串(注1)	60 ～ 96	65	137	0	
先部	65 ～ 116	69	135	0	
外津浦	63 ～ 100	66	114	0	
京泊先	64 ～ 110	67	126	0	
屋形石	62 ～ 100	65	118	0	
大良	73 ～ 119	77	136	0	
諸浦	61 ～ 112	65	133	0	
入野	60 ～ 116	63	139	0	
寺浦	61 ～ 109	66	131	0	
名護屋	65 ～ 127	69	149	0	
石室	60 ～ 99	63	132	0	
加倉	61 ～ 110	64	137	0	
呼子	70 ～ 111	73	123	0	
馬渡島(注2)	57 ～ 120	66	128	0	
加唐島(注2)	70 ～ 129	73	135	0	
向島(注2)	64 ～ 109	67	124	0	
小川島(注2、3)	60 ～ 150	70	157	0	
二タ子(注2)	70 ～ 118	74	131	0	
山本(注2)	74 ～ 128	79	152	0	
波多津(注4)	70 ～ 113	75	131	0	
田野(注2)	72 ～ 132	80	147	0	
相知(注5)	66 ～ 102	72	139	0	
松浦(注6)	56 ～ 109	71	149	0	
立花(注2)	72 ～ 137	77	135	1	降雨

（注1）串局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和6年7月3日からの測定値を評価から除外しており、令和7年12月16日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（注2）馬渡島局、加唐島局、向島局、小川島局、二タ子局、山本局、田野局、立花局は、令和８年３月に電離箱検出器を半導体検出器に更新したため、更新前の電離箱検出器による測定値を評価している。更新期間中は可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。

（注3）小川島局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和7年7月4日から予備の電離箱検出器により代替測定を実施。

（注4）波多津局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和7年3月19日から予備の電離箱検出器により代替測定を実施し、令和7年7月3日からは可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。令和7年12月16日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（注5）相知局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和6年7月26日から可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。令和7年12月16日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（注6）松浦局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和7年6月18日から可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。令和7年12月16日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

ウ　放水口モニタ

放水口モニタ(3 局)による計数率の 1 時間値の測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、降雨の影響によるものであり、玄海原子力発電所に起因すると考えられる放射線の異常は認められなかった。

（単位:cpm）

局名		令和 7 年度 計数率範囲	令和 7 年度 年間平均値	令和 7 年度 平常の変動範囲		平常の変動範囲を 超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた 要因
				(M-3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	1、2 号放水口	434 ～ 933	456	407	513	76 （0.88）	降雨

(注1)「1、2号放水口モニタ」は「3号及び4号放水口モニタ」より計数率の変動が大きい。これは、3号機及び4号機は水深約10～13m から海水の取水を行っているのに対し、1号機及び2号機が海面～水深約9m から取水を行っていること、また、「3号及び4号放水口モニタ」は放水管から放水を取り出し、建屋内で測定しているのに対し、「1、2号放水口モニタ」は屋外の放水口(海中)で測定していることから、降雨などによる環境放射線の変動の影響を受けやすいためと考えられる。

（単位:cpm）

局名		令和 7 年度 計数率範囲	令和 7 年度 年間平均値	令和 7 年度 平常の変動範囲			平常の変動範囲を 超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた 要因
				期間	(M-3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	3 号放水口	347 ～ 402	361	4月～6月	351	375	0 （0.00）	－
				7月～3月	350	374	74 （1.19）	降雨
	4 号放水口	365 ～ 417	379	4月～6月	367	394	20 （0.95）	降雨
				7月～3月	365	398	11 （0.18）	降雨

(注2) 3 号放水口モニタは令和 7 年 2 月 21 日に検出器を更新したため、更新後の平常の変動範囲は
4～6 月については、令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年 3 月 31 日
7～3 月については、令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年 6 月 30 日　の期間から算出している。

(注3) 4 号放水口モニタは令和 7 年 3 月 7 日に検出器を更新したため、更新後の平常の変動範囲は
4～6 月については、令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年 3 月 31 日
7～3 月については、令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年 6 月 30 日　の期間から算出している。

エ　走行サーベイ

走行サーベイ車又はモニタリングカーによる空間放射線量率の連続測定結果は、次表のとおりであり、過去の測定と同程度であった。

（単位:nGy/h）

測定地点	令和7年度 線量率範囲	令和7年度 平均値	測定 年月日	測定結果		測定機器 （調査機関）
発電所周辺道路 （発電所から 5km未満）	20　～　37	25	R7. 6. 4	最小値 平均値 最大値	20 23 31	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 （九州電力㈱）
			R7.12.15	最小値 平均値 最大値	22 27 37	

（単位μSv/h）

測定地点	測定結果	測定 年月日	測定機器 （調査機関）
発電所周辺道路 （発電所から 5km～30km）	全て0.20未満 （参考:測定値範囲0.03～0.06）※	R7. 4.16 R7. 5.22 R7. 5.26 R7. 7. 1 R7. 8.21 R7. 9. 1 R7.10.27 R7.11.17 R7.12. 9 R8. 2.19 R8. 2.25 R8. 3. 4	CsI(Tl)シンチレーション式検出器 （環境センター、唐津保健福祉事務所）

※高線量域を対象とした測定器であり、精度保証範囲外（0.20μSv/h未満）は参考値とした。

（2）環境試料中の放射能

ア　ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析

ガンマ線スペクトロメトリーによる環境試料中の放射能測定結果は下表ａからｄのとおりであり、いずれも平常の変動範囲内にあった。

なお、一部の試料から、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられるセシウム 137（^{137}Cs）が検出されたが、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

ａ 農畜産物･植物　　（単位:Bq/kg 生　ただし牛乳は Bq/L）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
葉菜	たまねぎ（外皮を除く）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND	無	
	きゃべつ（根を除く）	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND	無	
	ほうれん草（根を除く）	3	^{60}Co	ND	ND	無	
		3	^{131}I	ND	ND	無	
		3	^{134}Cs	ND	ND	無	
		3	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.48	無	
牛乳	牛乳（原乳）	10	^{60}Co	ND	ND	無	
		10	^{131}I	ND	ND ～ 0.072	無	
		10	^{134}Cs	ND	ND	無	
		10	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.29	無	
穀物	米（精米、玄米）	4	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		4	^{134}Cs	ND	ND	無	
		4	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.33	無	
指標生物	松葉（葉のみ）	6	^{60}Co	ND	ND	無	
		6	^{131}I	ND	ND	無	
		6	^{134}Cs	ND	ND	無	
		6	^{137}Cs	ND ～ 0.037	ND ～ 4.1	無	
その他	ばれいしょ（表皮を含む）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.30	無	
	みかん（外皮を除く）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.074	無	
	かんしょ（全体）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.15	無	

b 海産生物　　（単位:Bq/kg 生）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
魚	たい（全身）	4	^{60}Co	ND	ND	無	
		4	^{134}Cs	ND	ND	無	
		4	^{137}Cs	ND ～ 0.084	ND ～ 0.48	無	
	かわはぎ（全身）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.19	無	
	えそ類（全身）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	0.13 , 0.15	ND ～ 0.52	無	
無脊椎動物	いか（全身）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.26	無	
	さざえ（身）	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.37	無	
	なまこ（全身）	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.19	無	
海藻類	わかめ（全藻）	1	^{60}Co	ND	ND	無	
		1	^{131}I	ND	ND	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.33	無	
指標生物	ほんだわら類（付着器を除く）	4	^{60}Co	ND	ND	無	
		4	^{131}I	ND	ND	無	
		4	^{134}Cs	ND	ND	無	
		4	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.19	無	
その他	むらさきいんこがい（身）	1	^{60}Co	ND	ND ～ 0.22	無	
		1	^{134}Cs	ND	ND	無	
		1	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.039	無	

c 水　　（単位:mBq/L）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
陸水	水道水	9	^{60}Co	ND	ND	無	
		9	^{131}I	ND	ND	無	
		9	^{134}Cs	ND	ND	無	
		9	^{137}Cs	ND	ND	無	
	河川水	6	^{60}Co	ND	ND	無	
		6	^{131}I	ND	ND	無	
		6	^{134}Cs	ND	ND	無	
		6	^{137}Cs	ND	ND	無	
	ダム水	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{131}I	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	ND	ND	無	
海水	表層水（放水口付近）	10	^{60}Co	ND	ND	無	
		10	^{131}I	ND	ND	無	
		10	^{134}Cs	ND	ND	無	
		10	^{137}Cs	ND ～ 2.1	ND ～ 11	無	
	表層水（取水口付近）	10	^{60}Co	ND	ND	無	
		10	^{131}I	ND	ND	無	
		10	^{134}Cs	ND	ND	無	
		10	^{137}Cs	1.4 ～ 2.1	ND ～ 11	無	

d 土　　（単位:Bq/kg 乾）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
土壌	表層土	17	^{60}Co	ND	ND	無	
		17	^{134}Cs	ND	ND	無	
		17	^{137}Cs	ND ～ 8.9	ND ～ 43	無	
	ダム底土	2	^{60}Co	ND	ND	無	
		2	^{134}Cs	ND	ND	無	
		2	^{137}Cs	4.4 , 4.7	ND ～ 20	無	
海底土	表層土（放水口付近）	6	^{60}Co	ND	ND	無	
		6	^{134}Cs	ND	ND	無	
		6	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.67	無	
	表層土（取水口付近）	6	^{60}Co	ND	ND	無	
		6	^{134}Cs	ND	ND	無	
		6	^{137}Cs	ND	ND ～ 3.0	無	

（注 1）ND…検出下限値未満を示す。

（注 2）試料数が 2 以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

（注 3）昭和 61 年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故（昭和 61 年 4 月 26 日発生）の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和 61 年度分を除いたものを記載している。

（注 4）平成 23、24 年度に測定した環境試料の測定値については、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成 23、24 年度分を除いたものを記載している。

イ　放射化学分析による放射能測定

①　放射性ストロンチウム分析

環境試料中の放射性ストロンチウム（^{90}Sr）の測定結果は下表 a から d のとおりであり、九州電力が採取し測定を行った海底土の１試料（3、4 号放水口付近表層土）について、平常の変動範囲を若干超過した。

そのため、平常時の変動範囲を超過したときの原因調査を行ったところ、測定条件や自然条件の変化、医療・産業用の放射性同位元素等の影響、原子力施設の運転状況の変化は確認できなかったことから、検出された放射性ストロンチウムは主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられた。

なお、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

また、佐賀県環境センターと九州電力との測定結果の En スコア比較（クロスチェック）において、測定結果は妥当であることを確認している。

a 農畜産物･植物　（単位:Bq/kg 生）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
葉菜	ほうれん草	1	^{90}Sr	ND	0.035 ～ 1.3	無	
牛乳	牛乳	2	^{90}Sr	ND	ND ～ 0.21	無	
穀物	米	2	^{90}Sr	ND	ND ～ 0.15	無	
指標生物	松葉	1	^{90}Sr	0.079	ND ～ 21	無	
その他	かんしょ	1	^{90}Sr	0.047	0.037 ～ 0.85	無	

b 海産生物　（単位:Bq/kg 生）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
魚	たい	1	^{90}Sr	ND	ND ～ 0.074	無	
	かわはぎ	1	^{90}Sr	ND	ND ～ 0.26	無	
無脊椎動物	なまこ	2	^{90}Sr	ND , 0.025	ND ～ 0.15	無	
海藻類	わかめ	1	^{90}Sr	ND	ND	無	
指標生物	ほんだわら類	3	^{90}Sr	ND ～ 0.077	ND ～ 0.37	無	

c 水　　（単位:mBq/L）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
陸水	水道水	6	^{90}Sr	ND ～ 1.4	ND ～ 7.4	無	
	河川水	2	^{90}Sr	0.56 , 0.79	0.61 ～ 7.4	無	
	ダム水	1	^{90}Sr	0.52	ND ～ 15	無	
海水	表層水（放水口付近）	4	^{90}Sr	ND ～ 0.60	ND ～ 7.4	無	
	表層水（取水口付近）	4	^{90}Sr	ND ～ 1.2	ND ～ 7.4	無	

d 土　　（単位:Bq/kg 乾）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
土壌	表層土	13	^{90}Sr	ND ～ 1.7	ND ～ 35	無	
	ダム底土	1	^{90}Sr	0.26	ND ～ 2.0	無	
海底土	表層土（放水口付近）	4	^{90}Sr	ND ～ 0.37	ND ～ 0.32	有	（注5）
	表層土（取水口付近）	4	^{90}Sr	ND	ND ～ 0.18	無	

（注 1）ND…検出下限値未満を示す。

（注 2）試料数が 2 以上で測定結果が範囲を示していない試料は、測定結果がすべて同一値である。

（注 3）昭和 61 年度に測定した環境試料の測定値については、旧ソ連原子力発電所事故（昭和 61 年 4 月 26 日発生）の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は昭和 61 年度分を除いたものを記載している。

（注 4）平成 23、24 年度に測定した環境試料の測定値については、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故の影響を受けているものがあるため、平常の変動範囲は平成 23、24 年度分を除いたものを記載している。

（注 5）検出された要因は、主に過去の大気中の核実験の影響によるものと考えられる。

② トリチウム分析

海水・陸水中のトリチウム（^{3}H）の測定結果は次表のとおりであり、平常の変動範囲の上限値を超えたものがあったが、玄海原子力発電所からのトリチウムの管理放出による影響と推定している。なお、検出された放射性物質の量はいずれもごく微量であり、健康へ影響を与えることはない。

（単位:Bq/L）

試料名		試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
陸水	水道水	9	^{3}H	ND	ND ～ 2.3	無	
	河川水	4	^{3}H	ND	ND ～ 2.3	無	
	ダム水	2	^{3}H	ND , 0.33	ND ～ 1.6	無	
海水	表層水（放水口付近）	6	^{3}H	ND ～ 24	ND ～ 3.5	有	管理放出による影響と推定(注3)
	表層水（取水口付近）	6	^{3}H	ND ～ 0.28	ND ～ 3.1	無	

（注1）ND…検出下限値未満を示す。

（注2）海水については、過去、発電所からのトリチウムの放出(管理された放出であり、法令等に定める基準以下)の影響により、それ以外の測定値に比べ高い値(放水口付近 41Bq/L、取水口付近 3.2 Bq/L、5.8Bq/L)となったと考えられるものがあるため、平常の変動範囲は当該値を除いたものを記載している。

（注3）第2四半期に県が実施した海水の放水口付近表層水の採取は、7月29日10時ごろ実施しているが、当日6時ごろまで玄海原子力発電所からトリチウムの放出(管理された放出であり、法令等に定める基準以下)が行われていたことから、その影響によるものと考えられる。

（3）大気浮遊じん中の放射能

ア　大気浮遊じんの連続測定

大気浮遊じんの連続測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲内にあった。

（単位:mBq/m^3）

試料名	試料数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
大気浮遊じん	15	^{60}Co	ND	ND	無	
	15	^{134}Cs	ND	ND	無	
	15	^{137}Cs	ND	ND ～ 0.26	無	

（注）ND…検出下限値未満を示す。

イ　大気中の放射性ヨウ素濃度の測定

大気中の放射性ヨウ素（^{131}I）濃度の測定結果については次表のとおりであり、平常の変動範囲内にあった。

（単位:Bq/m^3）

試料名	地点数	核種名	測定結果	平常の変動範囲	超過の有無	超えた要因
大気中 放射性ヨウ素	19	^{131}I	ND	ND	無	

（注）ND…検出下限値未満を示す。

資　　料

1　空間放射線測定結果（詳細）

（1）モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）

（単位:nGy/h）

局名		月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)		
県設置局	今村	4	27	29	62	18	41	7 (0.97)	降雨
		5	26	30	51			33 (4.48)	降雨
		6	27	30	67			28 (3.89)	降雨
		7	26	29	45			1 (0.13)	降雨
		8	27	30	83			30 (4.03)	降雨
		9	26	29	51			4 (0.56)	降雨
		10	26	30	73			22 (2.96)	降雨
		11	28	30	48			5 (0.69)	降雨
		12	26	30	63			24 (3.26)	降雨
		1	28	29	46			1 (0.13)	降雨
		2	27	30	55			30 (4.48)	降雨
		3	27	30	68			41 (5.53)	降雨
		期間	26	30	83			226 (2.59)	
	平尾	4	32	34	64	24	45	7 (0.97)	降雨
		5	32	34	53			27 (3.66)	降雨
		6	32	34	68			25 (3.47)	降雨
		7	32	34	47			1 (0.13)	降雨
		8	32	35	81			31 (4.17)	降雨
		9	32	33	51			2 (0.28)	降雨
		10	32	35	73			22 (2.96)	降雨
		11	33	34	48			3 (0.42)	降雨
		12	32	35	66			24 (3.26)	降雨
		1	32	33	56			2 (0.27)	降雨
		2	32	34	61			30 (4.48)	降雨
		3	32	34	69			37 (4.98)	降雨
		期間	32	34	81			211 (2.41)	
	串	4	31	33	63	23	43	8 (1.11)	降雨
		5	31	33	51			27 (3.66)	降雨
		6	30	33	60			24 (3.33)	降雨
		7	31	32	45			1 (0.13)	降雨
		8	30	34	82			28 (3.76)	降雨
		9	31	32	49			2 (0.28)	降雨
		10	31	34	69			23 (3.09)	降雨
		11	32	34	49			6 (0.83)	降雨
		12	32	34	64			27 (3.63)	降雨
		1	31	33	50			2 (0.27)	降雨
		2	31	34	56			30 (4.46)	降雨
		3	31	33	69			41 (5.51)	降雨
		期間	30	33	82			219 (2.50)	

(続き)　　(単位:nGy/h)

局名		月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)		
県設置局	先部	4	30	32	62	21	43	7 (0.97)	降雨
		5	30	32	53			33 (4.47)	降雨
		6	29	32	66			26 (3.61)	降雨
		7	30	32	43			0 (0.00)	－
		8	29	33	84			32 (4.30)	降雨
		9	30	31	52			3 (0.42)	降雨
		10	30	33	78			19 (2.55)	降雨
		11	31	32	45			5 (0.69)	降雨
		12	30	33	66			22 (2.99)	降雨
		1	30	32	48			3 (0.40)	降雨
		2	29	32	57			31 (4.62)	降雨
		3	29	32	67			37 (4.98)	降雨
		期間	29	32	84			218 (2.49)	
	外津浦	4	31	32	53	25	41	7 (0.97)	降雨
		5	31	33	48			30 (4.07)	降雨
		6	31	33	59			25 (3.47)	降雨
		7	31	32	43			1 (0.13)	降雨
		8	30	33	69			28 (3.76)	降雨
		9	31	32	47			2 (0.28)	降雨
		10	31	33	62			20 (2.69)	降雨
		11	31	33	45			4 (0.56)	降雨
		12	31	33	55			23 (3.12)	降雨
		1	31	32	43			1 (0.13)	降雨
		2	31	33	50			26 (3.87)	降雨
		3	31	33	59			38 (5.11)	降雨
		期間	30	33	69			205 (2.34)	
	京泊先	4	30	32	56	23	41	7 (0.97)	降雨
		5	30	32	49			27 (3.67)	降雨
		6	30	32	65			26 (3.61)	降雨
		7	30	31	41			0 (0.00)	－
		8	29	32	78			27 (3.63)	降雨
		9	29	31	46			3 (0.42)	降雨
		10	30	32	60			25 (3.36)	降雨
		11	30	32	44			5 (0.69)	降雨
		12	30	32	58			20 (2.71)	降雨
		1	30	31	51			2 (0.27)	降雨
		2	30	32	59			31 (4.61)	降雨
		3	30	32	66			36 (4.85)	降雨
		期間	29	32	78			209 (2.39)	

(続き)　　(単位:nGy/h)

局名		月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	正門南	4	24	25	40	17	33	9 (1.30)	降雨
		5	24	25	42			36 (5.00)	降雨
		6	23	26	54			33 (4.61)	降雨
		7	23	24	36			2 (0.27)	降雨
		8	23	25	59			31 (4.17)	降雨
		9	23	25	40			6 (0.83)	降雨
		10	24	26	57			25 (3.36)	降雨
		11	24	25	39			7 (0.98)	降雨
		12	24	26	52			28 (3.77)	降雨
		1	24	25	35			1 (0.14)	降雨
		2	24	26	46			36 (5.37)	降雨
		3	24	26	53			46 (6.39)	降雨
		期間	23	25	59			260 (3.00)	
	岸壁	4	21	23	40	15	30	8 (1.16)	降雨
		5	21	23	37			34 (4.62)	降雨
		6	21	23	50			28 (3.92)	降雨
		7	21	22	32			2 (0.27)	降雨
		8	21	23	53			32 (4.31)	降雨
		9	21	22	36			3 (0.42)	降雨
		10	21	23	53			21 (2.83)	降雨
		11	21	23	34			6 (0.84)	降雨
		12	21	23	43			22 (2.96)	降雨
		1	21	22	33			1 (0.14)	降雨
		2	21	23	39			29 (4.32)	降雨
		3	21	23	44			42 (5.83)	降雨
		期間	21	23	53			228 (2.63)	
	値賀崎	4	20	22	39	16	28	10 (1.39)	降雨
		5	20	22	35			21 (2.83)	降雨
		6	20	22	46			26 (3.63)	降雨
		7	20	21	29			1 (0.13)	降雨
		8	20	21	44			28 (3.77)	降雨
		9	20	21	33			3 (0.43)	降雨
		10	20	22	47			15 (2.05)	降雨
		11	21	22	32			7 (0.98)	降雨
		12	21	22	39			26 (3.50)	降雨
		1	21	22	30			1 (0.14)	降雨
		2	21	22	38			33 (4.92)	降雨
		3	21	23	42			38 (5.28)	降雨
		期間	20	22	47			209 (2.41)	

(続き)　　(単位:nGy/h)

局名		月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M-3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	ダム南	4	22	24	46	16	32	8 (1.16)	降雨
		5	22	24	42			35 (4.76)	降雨
		6	22	24	53			28 (3.92)	降雨
		7	22	23	35			2 (0.27)	降雨
		8	22	24	60			32 (4.31)	降雨
		9	22	24	39			4 (0.56)	降雨
		10	22	24	56			23 (3.10)	降雨
		11	23	24	38			7 (0.98)	降雨
		12	23	25	50			25 (3.36)	降雨
		1	22	24	36			1 (0.14)	降雨
		2	23	25	44			34 (5.07)	降雨
		3	22	25	51			45 (6.25)	降雨
		期間	22	24	60			244 (2.82)	

（2）モニタリングポスト（電離箱式検出器）

（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
今村	4	62	65	96	134	0	
	5	62	65	84		0	
	6	62	65	97		0	
	7	62	64	78		0	
	8	61	65	113		0	
	9	61	63	83		0	
	10	62	64	103		0	
	11	61	64	80		0	
	12	62	64	95		0	
	1	61	63	79		0	
	2	62	65	87		0	
	3	61	65	100		0	
	期間	61	64	113		0	
平尾	4	66	68	97	134	0	
	5	66	68	87		0	
	6	65	68	100		0	
	7	66	68	81		0	
	8	66	69	112		0	
	9	66	67	84		0	
	10	66	68	104		0	
	11	66	68	81		0	
	12	66	68	98		0	
	1	65	67	89		0	
	2	66	68	93		0	
	3	65	68	102		0	
	期間	65	68	112		0	
串(注1)	4	－	－	－	137	－	
	5	－	－	－		－	
	6	－	－	－		－	
	7	－	－	－		－	
	8	－	－	－		－	
	9	－	－	－		－	
	10	－	－	－		－	
	11	－	－	－		－	
	12	60	65	91		0	
	1	62	64	79		0	
	2	62	65	84		0	
	3	62	64	96		0	
	期間	60	65	96		0	

（注1）串局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和6年7月3日からの測定値を評価から除外しており、令和7年12月16日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（続き）　　（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
先部	4	67	69	96	135	0	
	5	66	69	89		0	
	6	65	69	100		0	
	7	66	69	78		0	
	8	66	70	116		0	
	9	66	68	88		0	
	10	66	69	110		0	
	11	66	68	81		0	
	12	66	69	99		0	
	1	66	68	85		0	
	2	66	69	93		0	
	3	66	69	102		0	
	期間	65	69	116		0	
外津浦	4	64	66	85	114	0	
	5	64	66	80		0	
	6	64	66	90		0	
	7	63	66	76		0	
	8	63	66	100		0	
	9	63	65	79		0	
	10	64	66	93		0	
	11	64	65	76		0	
	12	64	66	87		0	
	1	63	65	75		0	
	2	64	66	83		0	
	3	64	66	92		0	
	期間	63	66	100		0	
京泊先	4	66	68	91	126	0	
	5	65	68	85		0	
	6	64	67	96		0	
	7	65	67	77		0	
	8	65	68	110		0	
	9	65	67	80		0	
	10	65	67	92		0	
	11	65	67	78		0	
	12	65	68	92		0	
	1	65	67	86		0	
	2	65	68	92		0	
	3	64	68	100		0	
	期間	64	67	110		0	

（続き）　　（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
屋形石	4	64	66	89	118	0	
	5	63	66	88		0	
	6	63	65	92		0	
	7	63	64	73		0	
	8	62	65	100		0	
	9	63	64	75		0	
	10	63	65	93		0	
	11	62	64	74		0	
	12	63	65	91		0	
	1	62	64	82		0	
	2	63	65	91		0	
	3	63	66	94		0	
	期間	62	65	100		0	
大良	4	74	77	99	136	0	
	5	74	77	94		0	
	6	73	77	106		0	
	7	73	76	90		0	
	8	74	77	116		0	
	9	73	76	89		0	
	10	74	77	110		0	
	11	73	76	89		0	
	12	74	77	102		0	
	1	75	78	97		0	
	2	75	79	119		0	
	3	75	78	112		0	
	期間	73	77	119		0	
諸浦	4	64	66	96	133	0	
	5	64	66	82		0	
	6	62	65	97		0	
	7	61	64	77		0	
	8	61	65	112		0	
	9	62	64	78		0	
	10	63	65	98		0	
	11	63	65	76		0	
	12	64	66	90		0	
	1	62	65	87		0	
	2	63	66	97		0	
	3	63	66	97		0	
	期間	61	65	112		0	

（続き）　　（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
入野	4	61	63	94	139	0	
	5	60	62	80		0	
	6	60	63	90		0	
	7	61	63	72		0	
	8	60	63	116		0	
	9	61	62	80		0	
	10	61	63	93		0	
	11	60	63	77		0	
	12	61	64	92		0	
	1	61	63	95		0	
	2	61	64	98		0	
	3	60	63	97		0	
	期間	60	63	116		0	
寺浦	4	63	67	93	131	0	
	5	62	65	79		0	
	6	62	66	91		0	
	7	61	65	74		0	
	8	63	67	109		0	
	9	64	66	80		0	
	10	64	67	97		0	
	11	65	67	80		0	
	12	65	68	91		0	
	1	63	67	86		0	
	2	64	68	103		0	
	3	61	67	102		0	
	期間	61	66	109		0	
名護屋	4	66	69	102	149	0	
	5	65	69	94		0	
	6	66	69	103		0	
	7	66	69	80		0	
	8	66	70	127		0	
	9	66	68	88		0	
	10	67	69	116		0	
	11	67	69	83		0	
	12	67	70	102		0	
	1	67	69	90		0	
	2	67	70	100		0	
	3	66	70	106		0	
	期間	65	69	127		0	

（続き）　　（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
石室	4	61	63	83	132	0	
	5	60	63	77		0	
	6	60	62	83		0	
	7	60	62	72		0	
	8	60	63	94		0	
	9	60	62	77		0	
	10	61	63	86		0	
	11	61	63	73		0	
	12	62	64	90		0	
	1	61	63	79		0	
	2	61	64	84		0	
	3	61	64	99		0	
	期間	60	63	99		0	
加倉	4	62	64	93	137	0	
	5	61	64	85		0	
	6	61	64	104		0	
	7	61	64	79		0	
	8	62	65	110		0	
	9	62	64	85		0	
	10	62	64	106		0	
	11	62	63	77		0	
	12	62	64	104		0	
	1	61	63	94		0	
	2	62	64	102		0	
	3	62	65	105		0	
	期間	61	64	110		0	
呼子	4	70	73	94	123	0	
	5	70	73	93		0	
	6	70	73	100		0	
	7	71	73	81		0	
	8	70	74	111		0	
	9	70	72	89		0	
	10	70	72	105		0	
	11	70	72	83		0	
	12	71	73	101		0	
	1	70	73	87		0	
	2	72	74	94		0	
	3	72	75	101		0	
	期間	70	73	111		0	

（続き）　　（単位：nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
馬渡島(注2)	4	67	69	101	128	0	
	5	66	68	89		0	
	6	62	67	100		0	
	7	60	65	75		0	
	8	57	64	120		0	
	9	58	63	84		0	
	10	58	65	101		0	
	11	64	66	82		0	
	12	65	67	94		0	
	1	64	66	87		0	
	2	65	68	91		0	
	3	65	67	92		0	
	期間	57	66	120		0	
加唐島(注2)	4	71	73	100	135	0	
	5	70	73	88		0	
	6	71	73	96		0	
	7	71	73	81		0	
	8	71	74	129		0	
	9	71	73	96		0	
	10	71	74	104		0	
	11	71	73	86		0	
	12	72	74	98		0	
	1	70	73	89		0	
	2	71	74	92		0	
	3	71	74	92		0	
	期間	70	73	129		0	
向島(注2)	4	65	67	92	124	0	
	5	64	67	87		0	
	6	64	67	94		0	
	7	64	66	77		0	
	8	64	68	109		0	
	9	64	66	83		0	
	10	64	66	93		0	
	11	64	66	78		0	
	12	64	67	89		0	
	1	64	66	84		0	
	2	64	67	92		0	
	3	64	67	91		0	
	期間	64	67	109		0	

（注2）馬渡島局、加唐島局、向島局は、令和8年3月に電離箱検出器を半導体検出器に更新したため、更新前の電離箱検出器による測定値を評価している。更新期間中は可搬型モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)による代替測定を実施。

（続き）　　（単位：nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
小川島(注3、4)	4	68	70	100	157	0	
	5	67	70	92		0	
	6	60	69	105		0	
	7	59	70	80		0	
	8	65	71	150		0	
	9	65	69	93		0	
	10	67	71	112		0	
	11	69	71	89		0	
	12	69	71	104		0	
	1	68	70	100		0	
	2	68	71	100		0	
	3	68	71	96		0	
	期間	60	70	150		0	
二タ子(注3)	4	71	74	94	131	0	
	5	70	74	92		0	
	6	70	74	106		0	
	7	72	74	89		0	
	8	71	75	118		0	
	9	71	73	89		0	
	10	71	74	110		0	
	11	71	74	87		0	
	12	72	74	104		0	
	1	70	73	98		0	
	2	71	74	104		0	
	3	71	74	95		0	
	期間	70	74	118		0	
山本(注3)	4	77	79	105	152	0	
	5	76	79	101		0	
	6	76	79	112		0	
	7	75	79	91		0	
	8	74	79	128		0	
	9	74	77	88		0	
	10	76	79	122		0	
	11	77	80	92		0	
	12	76	81	114		0	
	1	76	79	105		0	
	2	75	80	113		0	
	3	76	79	104		0	
	期間	74	79	128		0	

（注3）小川島局、二タ子局、山本局は、令和 8 年 3 月に電離箱検出器を半導体検出器に更新したため、更新前の電離箱検出器による測定値を評価している。更新期間中は可搬型モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)による代替測定を実施。

（注4）小川島局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和 7 年 7 月 4 日から予備の電離箱検出器により代替測定を実施。

（続き）　　（単位：nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
波多津(注5)	4	73	76	101	131	0	
	5	72	76	98		0	
	6	72	76	113		0	
	7	72	74	77		0	
	8	—	—	—		—	
	9	—	—	—		—	
	10	—	—	—		—	
	11	—	—	—		—	
	12	70	75	100		0	
	1	70	74	87		0	
	2	71	75	111		0	
	3	70	74	101		0	
	期間	70	75	113		0	
田野(注6)	4	78	80	113	147	0	
	5	75	80	101		0	
	6	76	80	114		0	
	7	76	79	98		0	
	8	76	79	132		0	
	9	76	78	99		0	
	10	77	79	108		0	
	11	77	79	96		0	
	12	77	80	120		0	
	1	77	79	103		0	
	2	78	81	130		0	
	3	72	80	108		0	
	期間	72	80	132		0	
相知(注7)	4	—	—	—	139	—	
	5	—	—	—		—	
	6	—	—	—		—	
	7	—	—	—		—	
	8	—	—	—		—	
	9	—	—	—		—	
	10	—	—	—		—	
	11	—	—	—		—	
	12	69	73	102		0	
	1	68	71	92		0	
	2	68	72	100		0	
	3	66	72	92		0	
	期間	66	72	102		0	

（注5）波多津局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和 7 年 3 月 19 日から予備の電離箱検出器により代替測定を実施し、令和 7 年 7 月 3 日からは可搬型モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)による代替測定を実施。令和 7 年 12 月 16 日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（注6）田野局は、令和 8 年 3 月に電離箱検出器を半導体検出器に更新したため、更新前の電離箱検出器による測定値を評価している。更新期間中は可搬型モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)による代替測定を実施。

（注7）相知局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和 6 年 7 月 26 日から可搬型モニタリングポスト(NaI(Tl)シンチレーション式検出器)による代替測定を実施。令和 7 年 12 月 16 日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（続き）　　（単位：nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			過去の最大値	平常の変動範囲を超えたデータ数	超えた要因
		最小値	平均値	最大値			
松浦(注8)	4	56	64	96	149	0	
	5	56	65	98		0	
	6	56	65	105		0	
	7	－	－	－		－	
	8	－	－	－		－	
	9	－	－	－		－	
	10	－	－	－		－	
	11	－	－	－		－	
	12	72	76	107		0	
	1	71	75	92		0	
	2	72	76	109		0	
	3	72	76	97		0	
	期間	56	71	109		0	
立花(注9)	4	75	77	109	135	0	
	5	73	77	113		0	
	6	72	77	110		0	
	7	72	76	96		0	
	8	72	77	137		1	降雨
	9	72	75	98		0	
	10	73	76	101		0	
	11	74	77	91		0	
	12	74	77	118		0	
	1	73	76	95		0	
	2	74	78	107		0	
	3	73	77	104		0	
	期間	72	77	137		1	

（注8）松浦局について、測定機器の異常と推定される空間放射線量率の変動がみられたため、令和 7 年 6 月 18 日から可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。令和 7 年 12 月 16 日から修繕した電離箱式検出器による測定を再開した。

（注9）立花局は、令和 8 年 3 月に電離箱検出器を半導体検出器に更新したため、更新前の電離箱検出器による測定値を評価している。更新期間中は可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定を実施。

【参考：可搬型モニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション式検出器）による代替測定結果】

（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			備考
		最小値	平均値	最大値	
馬渡島	3	33	34	34	3/26 から 3/27 まで
加唐島	3	45	51	57	3/27
向島	3	28	31	52	3/20 から 3/27 まで
小川島	3	24	27	46	3/16 から 3/27 まで
二タ子	3	30	35	48	3/24 から 3/27 まで
山本	3	33	36	52	3/19 から 3/27 まで
波多津	7	33	37	55	7/3 から
	8	33	37	89	
	9	33	36	52	
	10	36	38	64	
	11	35	38	51	
	12	35	38	60	12/16 まで
田野	3	36	39	52	3/23 から 3/27 まで
相知	4	24	25	47	
	5	23	25	47	
	6	23	25	47	
	7	21	23	31	
	8	21	23	66	
	9	19	25	41	
	10	29	31	69	
	11	29	31	42	
	12	29	31	49	12/16 まで
松浦	6	36	39	59	6/18 より代替測定開始
	7	37	40	53	
	8	36	40	110	
	9	36	38	53	
	10	37	40	78	
	11	37	40	54	
	12	36	39	51	12/16 まで
立花	3	33	37	59	3/19 から 3/27 まで

【参考：半導体検出器による測定結果】

（単位:nGy/h）

局名	月	線量率(1 時間値)			備考
		最小値	平均値	最大値	
馬渡島	3	39	44	60	3/27 から 3/31 まで
加唐島	3	41	45	60	
向島	3	38	42	64	
小川島	3	38	43	65	
二タ子	3	39	45	62	
山本	3	41	51	68	
田野	3	43	49	78	
立花	3	43	48	63	

（3）放水口モニタ

（単位：cpm）

局名		月	線量率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたデータ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M−3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	1、2号放水口	4	438	455	778	407	513	10 (1.39)	降雨
		5	441	457	557			6 (0.81)	降雨
		6	441	455	487			0 (0.00)	−
		7	444	455	476			0 (0.00)	−
		8	443	463	933			17 (2.29)	降雨
		9	445	459	595			3 (0.42)	降雨
		10	440	457	580			3 (0.43)	降雨
		11	434	452	533			3 (0.42)	降雨
		12	437	452	593			9 (1.21)	降雨
		1	437	452	611			8 (1.09)	降雨
		2	437	453	611			8 (1.19)	降雨
		3	438	456	593			9 (1.25)	降雨
		期間	434	456	933			76 (0.88)	
	3号放水口	4	355	364	373	351	375	0 (0.00)	−
		5	354	363	372			0 (0.00)	−
		6	350	358	369			0 (0.00)	−
								期間 0 (0.00)	
		7	350	360	371	350	374	0 (0.00)	−
		8	350	359	383			2 (0.29)	降雨
		9	352	360	369			0 (0.00)	−
		10	351	361	368			0 (0.00)	-
		11	347	358	369			0 (0.00)	-
		12	351	360	399			9 (1.27)	降雨
		1	349	362	377			1 (0.14)	降雨
		2	356	365	396			25 (3.75)	降雨
		3	357	365	402			37 (5.22)	降雨
								期間 74 (1.19)	
		期間	347	361	402				
	4号放水口	4	375	386	404	367	394	19 (2.66)	降雨
		5	371	382	395			1 (0.14)	降雨
		6	367	376	389			0 (0.00)	−
								期間 20 (0.95)	
		7	366	376	390	365	398	0 (0.00)	−
		8	365	376	385			0 (0.00)	−
		9	370	378	388			0 (0.00)	−
		10	369	380	391			0 (0.00)	-
		11	368	377	392			0 (0.00)	-
		12	365	375	417			3 (0.45)	降雨
		1	368	377	397			0 (0.00)	−
		2	371	382	398			0 (0.00)	−
		3	372	383	410			8 (1.13)	降雨
								期間 11 (0.18)	
		期間	365	379	417				

（注1）「1、2号放水口モニタ」は「3号及び4号放水口モニタ」より計数率の変動が大きい。これは、3号機及び4号機は水深約10～13mから海水の取水を行っているのに対し、1号機及び2号機が海面～水深約9mから取水を行っていること、また、「3号及び4号放水口モニタ」は放水管から放水を取り出し、建屋内で測定しているのに対し、「1、2号放水口モニタ」は屋外の放水口（海中）で測定していることから、降雨などによる環境放射線の変動の影響を受けやすいためと考えられる。

（注2）3号放水口モニタは令和7年2月21日に検出器を更新したため、更新後の平常の変動範囲は

4～6 月については、令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年 3 月 31 日

7～3 月については、令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年 6 月 30 日　の期間から算出している。

（注3）4 号放水口モニタは令和 7 年 3 月 7 日に検出器を更新したため、更新後の平常の変動範囲は

4～6 月については、令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年 3 月 31 日

7～3 月については、令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年 6 月 30 日　の期間から算出している。

2　環境試料中の放射能（詳細）

（1）農畜産物・植物、海産生物

試料名		採取場所	採取年月日	測定者	単位	^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs	^{137}Cs	^{90}Sr	参考核種	
											^{40}K	その他※1
農畜産物・植物	たまねぎ（外皮を除く）	値賀	R7. 5.20	県	Bq/kg 生	ND	―	ND	ND	―	42	ND
		納所	R7. 6. 4	県		ND	―	ND	ND	―	48	ND
	きゃべつ（根を除く）	轟木	R7.12. 9	県		ND	ND	ND	ND	―	68	ND
	ほうれん草（根を除く）	今村	R7. 4.15	九電		ND	ND	ND	ND	―	170	ND
			R7.12.16	九電		ND	ND	ND	ND	―	210	ND
			R8. 2. 2	九電		ND	ND	ND	ND	ND	190	ND
	牛乳（原乳）	栄	R7. 6.17	県	Bq/L	ND	ND	ND	ND	―	54	ND
			R7. 9.29	県		ND	ND	ND	ND	ND	52	ND
			R8. 3.10	県		ND	ND	ND	ND	―	53	ND
		田野	R7. 6.17	県		ND	ND	ND	ND	―	45	ND
			R7. 9.29	県		ND	ND	ND	ND	―	46	ND
			R8. 3.10	県		ND	ND	ND	ND	―	48	ND
		浜野浦	R7. 5.13	九電		ND	ND	ND	ND	―	51	ND
			R7. 8. 5	九電		ND	ND	ND	ND	―	56	ND
			R7.10.14	九電		ND	ND	ND	ND	ND	47	ND
			R8. 2.17	九電		ND	ND	ND	ND	―	51	ND
	米（精米、玄米）※2	平尾	R7. 8.17	県	Bq/kg 生	ND	ND	ND	ND	―	23	ND
		諸浦	R7. 9. 1	県		ND	―	ND	ND	ND	24	ND
		普恩寺	R7.10. 1	九電		ND	ND	ND	ND	ND	78	ND
		下宮	R7.10.14	九電		ND	―	ND	ND	―	78	ND
	松葉（葉のみ）	名護屋	R7. 6.26	県		ND	ND	ND	0.037	―	66	ND
			R7.12. 3	県		ND	ND	ND	0.029	―	78	ND
		敷地内	R7. 5.12	九電		ND	ND	ND	ND	0.079	67	ND
			R7. 7. 2	九電		ND	ND	ND	0.019	―	72	ND
			R7.11.10	九電		ND	ND	ND	0.025	―	65	ND
			R8. 1.27	九電		ND	ND	ND	0.028	―	89	ND
	ばれいしょ（表皮を含む）	平尾	R7. 6.27	県		ND	―	ND	ND	―	130	ND
		納所	R7. 6.27	県		ND	―	ND	ND	―	150	ND
	みかん（外皮を除く）	平尾	R7.11.28	県		ND	―	ND	ND	―	39	ND
		串	R7.11.14	県		ND	―	ND	ND	―	42	ND
	かんしょ（全体）	普恩寺	R7.10.14	九電		ND	―	ND	ND	0.047	110	ND
		今村	R7.10.14	九電		ND	―	ND	ND	―	140	ND

※1　その他の参考核種として、^{54}Mn、^{59}Fe、^{65}Zn、^{95}Zr 及び ^{144}Ce を測定。

※2　米は、県は精米、九州電力は玄米を試料として測定を実施している。

（続き）

試料名		採取場所	採取年月日	測定者	単位	^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs	^{137}Cs	^{90}Sr	参考核種	
											^{40}K	その他※
海産生物	たい（全身）	発電所から10km 圏内の海域	R7. 6. 6	九電	Bq/kg 生	ND	－	ND	0.084	－	110	ND
			R7. 8.27	県		ND	－	ND	ND	－	100	ND
			R7.10.29	県		ND	－	ND	ND	－	110	ND
			R7.10. 7	九電		ND	－	ND	0.078	ND	110	ND
	かわはぎ（全身）		R7. 8.20	県		ND	－	ND	ND	ND	87	ND
			R7.11.14	県		ND	－	ND	ND	－	81	ND
	えそ類（全身）		R7. 9. 9	県		ND	－	ND	0.13	－	110	ND
			R7.10.29	県		ND	－	ND	0.15	－	110	ND
	いか（全身）		R7. 6. 4	九電		ND	－	ND	ND	－	110	ND
			R7. 7. 2	九電		ND	－	ND	ND	－	120	ND
	さざえ（身）	八田浦周辺	R7.10.30	九電		ND	－	ND	ND	－	60	ND
	なまこ（全身）		R8. 3. 6	県		ND	－	ND	ND	0.025	24	ND
			R8. 3.18	九電		ND	－	ND	ND	ND	20	ND
	わかめ（全藻）		R7. 4. 8	九電		ND	ND	ND	ND	ND	260	ND
	ほんだわら類（付着器を除く）		R7. 4.22	九電		ND	ND	ND	ND	ND	260	ND
			R7. 7. 7	県		ND	ND	ND	ND	0.077	350	ND
			R7.10.29	九電		ND	ND	ND	ND	－	310	ND
			R8. 3.16	県		ND	ND	ND	ND	0.033	250	ND
	むらさきいんこがい（身）		R7. 7. 8	県		ND	－	ND	ND	－	8.8	ND

※ その他の参考核種として、^{54}Mn、^{59}Fe、^{65}Zn、^{95}Zr 及び ^{144}Ce を測定。

（2）陸水、海水

試料名		採取場所	採取年月日	測定者	単位	^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs	^{137}Cs	^{90}Sr	^{3}H	参考核種	
												^{40}K	その他
陸水	水道水	値賀出張所	R7. 4. 2	県	mBq/L［^{3}H は Bq/L］	ND	ND	ND	ND	0.79	ND	47	ND
			R7. 7.16	県		ND	ND	ND	ND	—	ND	46	ND
			R7.10.27	県		ND	ND	ND	ND	—	ND	50	ND
			R8. 2. 3	県		ND	ND	ND	ND	—	ND	54	ND
		西大久保飲料水供給施設	R7. 6. 9	県		ND	ND	ND	ND	—	ND	45	ND
			R7. 6.25			—	—	—	—	ND	—	—	—
		瀬戸木場浄水場	R7. 8.18	県		ND	ND	ND	ND	ND	ND	25	ND
		城簡易水道	R7.12. 8	県		ND	ND	ND	ND	0.82	ND	ND	ND
		日南郷飲料水供給施設	R7.12. 8	県		ND	ND	ND	ND	0.48	ND	23	ND
		馬渡島浄水場	R8. 2.17	県		ND	ND	ND	ND	1.4	ND	88	ND
	河川水	志礼川	R7. 5.20	県		ND	ND	ND	ND	0.79	ND	68	ND
			R7. 5.20	九電		ND	ND	ND	ND	—	—	70	ND
			R7. 7.28	九電		ND	ND	ND	ND	—	ND	67	ND
			R7.12. 1	県		ND	ND	ND	ND	—	ND	51	ND
			R7.11. 5	九電		ND	ND	ND	ND	—	—	83	ND
			R8. 2.17	九電		ND	ND	ND	ND	0.56	ND	57	ND
	ダム水	敷地内	R7. 7.29	九電		ND	ND	ND	ND	—	ND	93	ND
			R8. 1. 7	九電		ND	ND	ND	ND	0.52	0.33	78	ND
海水	表層水（放水口付近）	1、2 号放水口付近	R7. 4. 7	九電	mBq/L［^{3}H は Bq/L］	ND	ND	ND	1.9	0.60	ND	—	ND
			R7. 7.29	県		ND	ND	ND	ND	ND	1.0	—	ND
			R7. 7. 1	九電		ND	ND	ND	2.1	—	—	—	ND
			R7.10. 7	九電		ND	ND	ND	1.6	—	ND	—	ND
			R8. 1.14	九電		ND	ND	ND	1.7	—	—	—	ND
		3、4 号放水口付近	R7. 4. 7	九電		ND	ND	ND	1.8	—	ND	—	ND
			R7. 7.29	県		ND	ND	ND	ND	0.57	24	—	ND
			R7. 7. 1	九電		ND	ND	ND	1.9	—	—	—	ND
			R7.10. 7	九電		ND	ND	ND	1.9	ND	ND	—	ND
			R8. 1.14	九電		ND	ND	ND	1.9	—	—	—	ND
	表層水（取水口付近）	1、2 号取水口付近	R7. 4. 7	九電		ND	ND	ND	2.1	0.77	ND	—	ND
			R7. 7.22	九電		ND	ND	ND	2.0	—	—	—	ND
			R7.10. 7	九電		ND	ND	ND	1.4	—	0.28	—	ND
			R8. 1.19	県		ND	ND	ND	1.9	0.76	ND	—	ND
			R8. 1.19	九電		ND	ND	ND	1.8	—	—	—	ND
		3、4 号取水口付近	R7. 4. 7	九電		ND	ND	ND	1.7	—	ND	—	ND
			R7. 7.22	九電		ND	ND	ND	1.7	—	—	—	ND
			R7.10. 7	九電		ND	ND	ND	1.7	ND	ND	—	ND
			R8. 1.19	県		ND	ND	ND	1.6	1.2	ND	—	ND
			R8. 1.19	九電		ND	ND	ND	1.7	—	—	—	ND

※ その他の参考核種として、^{54}Mn、^{59}Fe、^{65}Zn、^{95}Zr 及び ^{144}Ce を測定。

（3）土壌、海底土

試料名		採取場所	採取年月日	測定者	単位	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	^{90}Sr	参考核種	
										^{40}K	その他※
土壌	表層土	串	R7. 5. 1	県	Bq/kg乾	ND	ND	0.53	―	530	ND
		九電値賀寮	R7. 5. 1	県		ND	ND	ND	ND	730	ND
		岸壁側	R7. 4. 1	九電		ND	ND	6.4	―	170	ND
		正門南	R7. 4. 1	九電		ND	ND	8.1	0.84	180	ND
		九電今村寮	R7. 4. 1	九電		ND	ND	8.3	1.7	180	ND
		鏡山小学校	R7. 8. 8	県		ND	ND	0.73	ND	760	ND
		ひれふりランド	R7. 8. 8	県		ND	ND	0.65	ND	520	ND
		半田ふれあいセンター	R7. 8. 8	県		ND	ND	ND	ND	660	ND
		唐津市浜玉林業構造改善センター	R7. 8. 8	県		ND	ND	ND	0.13	510	ND
		七山小中学校	R7. 8. 8	県		ND	ND	ND	ND	570	ND
		二タ子局	R7.11. 6	県		ND	ND	ND	ND	780	ND
		山本局	R7.11. 6	県		ND	ND	ND	ND	770	ND
		佐志小学校	R7.11. 6	県		ND	ND	0.73	ND	690	ND
		唐津第一中学校	R7.11. 6	県		ND	ND	ND	ND	730	ND
		高島公民館前	R7.10.30	県		ND	ND	0.92	ND	600	ND
		岸壁側	R7.11.17	九電		ND	ND	6.3	―	170	ND
		正門南	R7.11.17	九電		ND	ND	8.9	―	180	ND
	ダム底土	敷地内	R7. 4. 1	九電		ND	ND	4.7	0.26	320	ND
			R7.11.17	九電		ND	ND	4.4	―	330	ND
海底土	表層土（放水口付近）	1、2 号放水口付近	R7. 7.29	県	Bq/kg乾	ND	ND	ND	ND	120	ND
			R7. 7. 1	九電		ND	ND	ND	ND	97	ND
			R8. 1.14	九電		ND	ND	ND	―	140	ND
		3、4 号放水口付近	R7. 7.29	県		ND	ND	ND	0.29	130	ND
			R7. 7. 1	九電		ND	ND	ND	0.37	120	ND
			R8. 1.14	九電		ND	ND	ND	―	140	ND
	表層土（取水口付近）	1、2 号取水口付近	R7. 7.22	九電		ND	ND	ND	ND	190	ND
			R8. 1.19	県		ND	ND	ND	ND	110	ND
			R8. 1.19	九電		ND	ND	ND	―	170	ND
		3、4 号取水口付近	R7. 7.22	九電		ND	ND	ND	ND	100	ND
			R8. 1.19	県		ND	ND	ND	ND	200	ND
			R8. 1.19	九電		ND	ND	ND	―	120	ND

※ その他の参考核種として、^{54}Mn、^{59}Fe、^{65}Zn、^{95}Zr 及び ^{144}Ce を測定。

3　大気浮遊じん中の放射能（詳細）

（1）大気浮遊じん（連続測定）

試料名	採取場所	採取年月日	測定者	単位	^{60}Co	^{134}Cs	^{137}Cs	参考核種	
								^{40}K	その他※
大気浮遊じん	今村局	R7. 4. 1～ R7. 4.30	県	mBq/m^3	ND	ND	ND	0.46	ND
		R7. 5. 1～ R7. 5.31	県		ND	ND	ND	0.50	ND
		R7. 6. 1～ R7. 6.30	県		ND	ND	ND	0.49	ND
		R7. 7. 1～ R7. 7.31	県		ND	ND	ND	0.46	ND
		R7. 8. 1～ R7. 8.31	県		ND	ND	ND	0.49	ND
		R7. 9. 1～ R7. 9.30	県		ND	ND	ND	0.48	ND
		R7.10. 1～ R7.10.31	県		ND	ND	ND	0.49	ND
		R7.11. 1～ R7.11.30	県		ND	ND	ND	0.44	ND
		R7.12. 1～ R7.12.31	県		ND	ND	ND	0.49	ND
		R8. 1. 1～ R8. 1.10, R8. 1.14～ R8. 1.24	県		ND	ND	ND	0.55	ND
		R8. 2.12～ R8. 2.28	県		ND	ND	ND	0.51	ND
	正門南局	R7. 3.31～ R7. 6.30	九電		ND	ND	ND	0.48	ND
		R7.6.30～ R7. 9.30	九電		ND	ND	ND	0.51	ND
		R7. 9.30～ R7.12.26	九電		ND	ND	ND	0.46	ND
		R7.12.26～ R8. 3.31	九電		ND	ND	ND	0.47	ND

※1　その他の参考核種として、^{54}Mn、^{59}Fe、^{65}Zn、^{95}Zr 及び ^{144}Ce を測定。

※2　今村局の大気浮遊じん中放射能の 1 月分及び2月分は機器不調のため一部期間が欠測。また、3月分は測定機器の更新・調整のため欠測。

（2）大気中の放射性ヨウ素濃度

測定地点	発電所からの		測定年月日	測定者	単位	測定結果	調査機関
	方位	距離(km)					
諸浦局	SE	5.8	R7. 6. 5	県		ND	環境センター
小川島局	NNE	10.9	R7. 6.17	県		ND	
田野局	S	10.5	R7. 9. 1	県		ND	
二タ子局	ESE	13.1	R7. 9. 1	県		ND	
波多津局	SSE	16.0	R7.12. 1	県		ND	
今村局	SE	0.8	R8. 3.25	県		ND	
相知局	SE	24.0	R8. 3.12	県		ND	
立花局	S	28.0	R8. 3.12	県		ND	
名護屋局	ENE	3.7	R8. 3. 2	県		ND	試料採取：唐津保健福祉事務所 測定：環境センター
発電所口	SE	0.7	R7.12. 9	九電	Bq/m^3	ND	九州電力株式会社
串崎	NNE	0.9	R7.12. 9	九電		ND	
外津	ESE	1.0	R7.12. 9	九電		ND	
普恩寺	SSE	1.2	R7.12. 9	九電		ND	
串公民館	ENE	1.4	R7.12. 9	九電		ND	
今村交差点	SE	2.1	R7.12. 9	九電		ND	
串浦	E	2.1	R7.12. 9	九電		ND	
値賀取水場	ESE	2.2	R7.12. 9	九電		ND	
名護屋南	ENE	2.3	R7.12. 9	九電		ND	
値賀出張所	SSE	2.4	R7.12. 9	九電		ND	

４　令和７年度　クロスチェック結果（測定実施機関の En スコアによる比較）

佐賀県環境センターと九州電力玄海原子力発電所において、同一試料の測定結果に基づくEnスコアの算定による測定実施機関間比較（クロスチェック）を行っており、令和７年度における結果のうち、測定値が両機関とも「ND（検出下限値未満）」となった測定項目を除いた比較結果は下表のとおりであった。

第１四半期の「ほんだわら類」、第３四半期の「海水」の^{90}Sr試料でEnスコアの絶対値がそれぞれ１を超えたため、両者の前処理の違いや測定機器の差異、解析段階の確認等の技術的検討を行ったが、いずれの試料においても、計数誤差による不確かさ以外に、両者で大きく異なる不確かさの要因はなかった。いずれの測定結果も検出下限値付近の極めて低い放射能濃度であったため、測定値のばらつきが大きくなり、両機関の測定値の差が見積もった拡張不確かさを上回ってしまったことによるものと考えられる。

表　令和7年度　クロスチェック結果（En スコアによる比較）

試料名	採取場所	採取年月日	測定部位	各核種測定における En スコアの絶対値						
				^{60}Co	^{131}I	^{134}Cs	^{137}Cs	^{90}Sr	^{3}H	^{40}K
ほんだわら類	八田浦	R7. 4.22	付着器を除く	－	－	－	－	1.3	／	0.15
土壌	正門南	R7. 4. 1	表層土	－	／	－	0.33	0.28	／	0.36
海底土	3､4号放水口	R7. 7. 1	表層土	－	／	－	－	0.40	／	0.25
牛乳	浜野浦	R7.10.14	原乳	－	－	－	－	－	／	0.48
海水	3､4号放水口	R7.10. 7	表層水	－	－	－	0.75	1.2	－	／
ほうれん草	今村	R8. 2. 2	根を除く	－	－	－	－	0.66	／	0.59

－:測定値が両機関とも ND のため判定せず
／:調査対象外

＜判定基準＞

En スコアの絶対値が1より大きくなった場合は、分析・測定結果について技術的な検討を行う。

$$\text{En スコア} = \frac{X_{県} - X_{九電}}{\sqrt{U_{県}^2 + U_{九電}^2}}$$

$X_{県}$:県の分析・測定結果
$X_{九電}$:九電の分析・測定結果
$U_{県}$:県の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ
$U_{九電}$:九電の分析・測定結果に伴う拡張不確かさ

【En スコアについて】

分析機関における分析・測定結果を比較し、技術的検討を行うために使用する統計量

※ JIS マニュアル「試験所間比較による技能試験に使用する統計的方法 JIS Z8405:2021」を参照

５　令和７年度　調査地点図

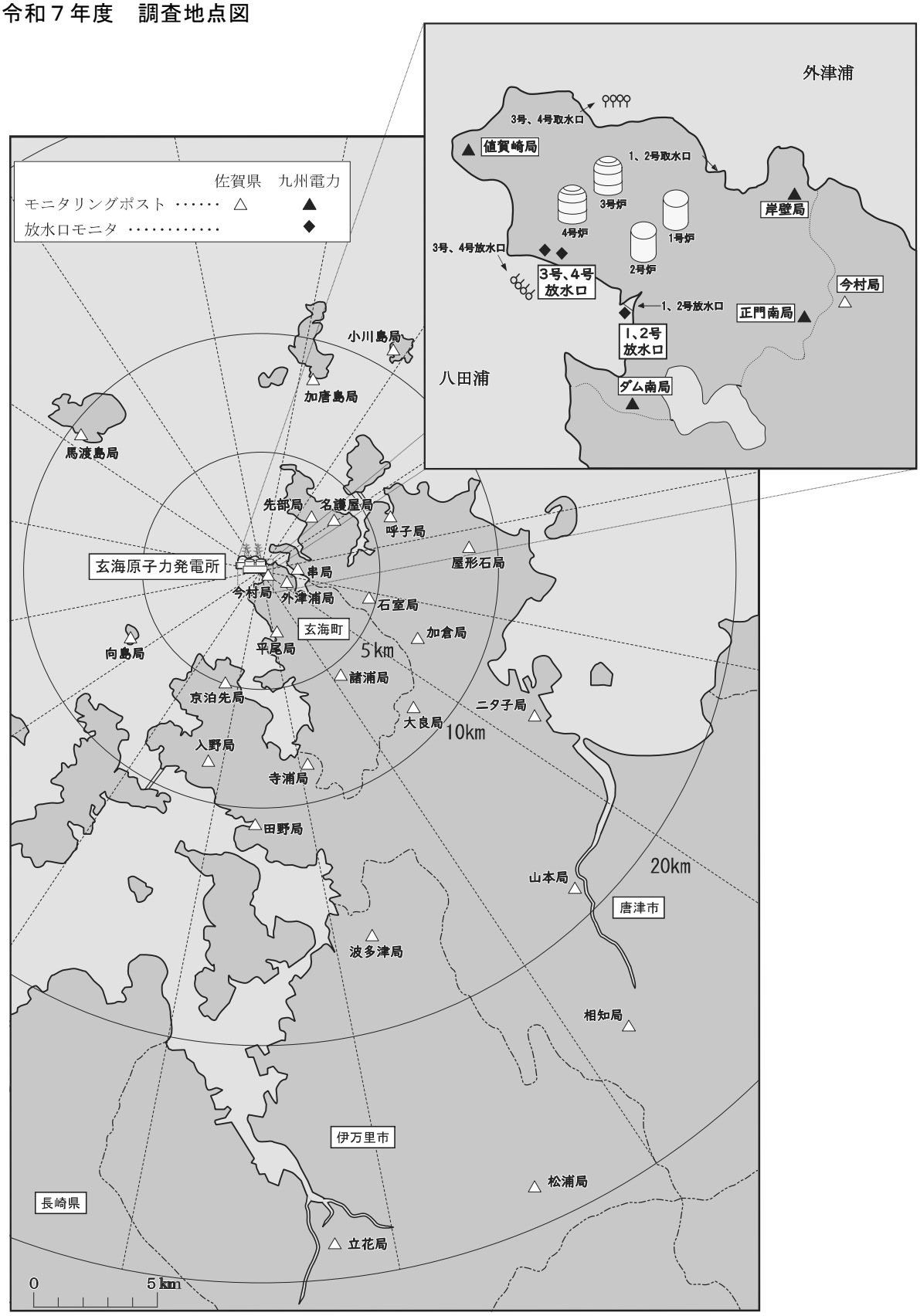


図１　空間放射線測定地点

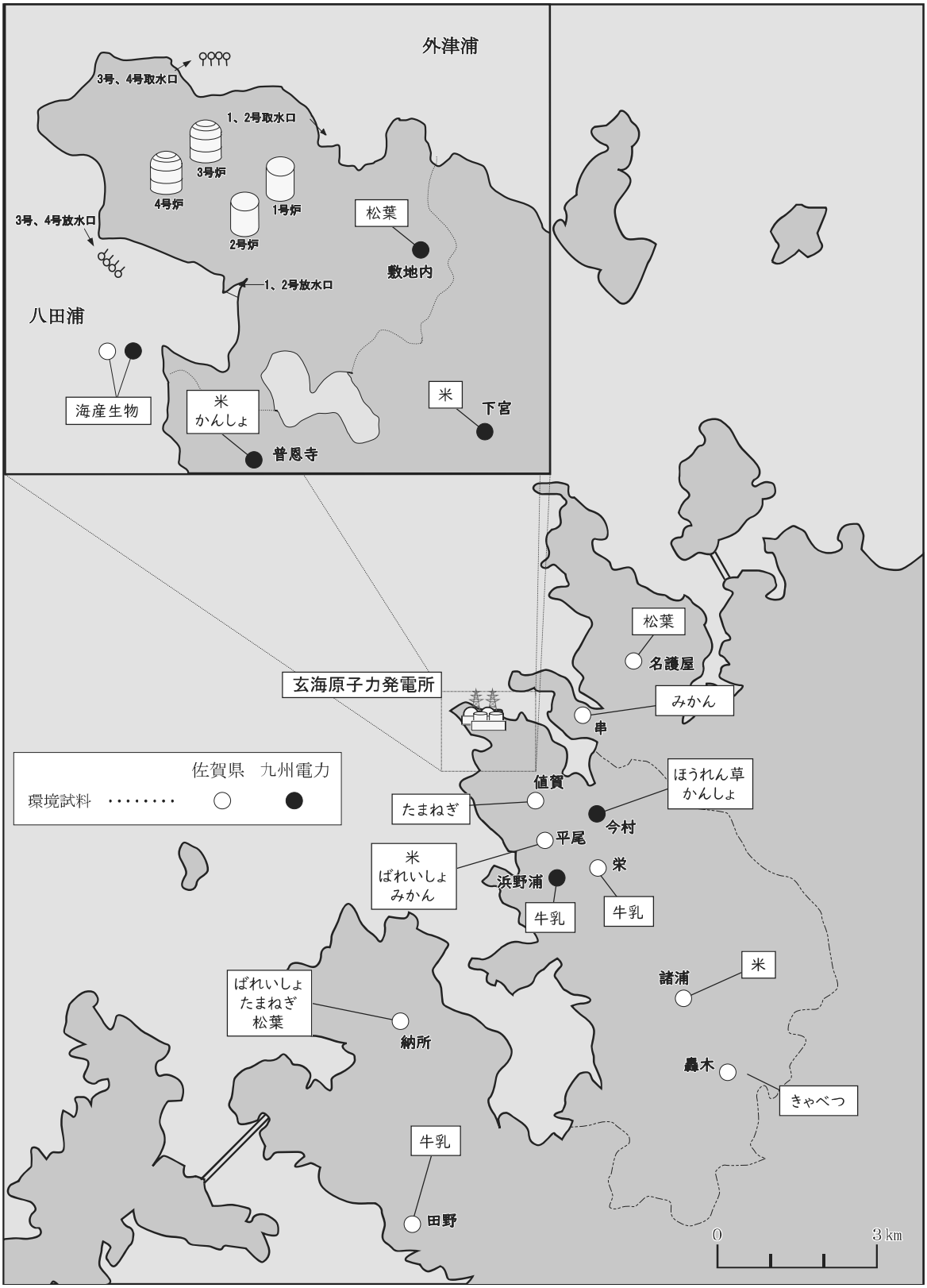


図２　環境試料採取地点（農畜産物・植物、海産生物）

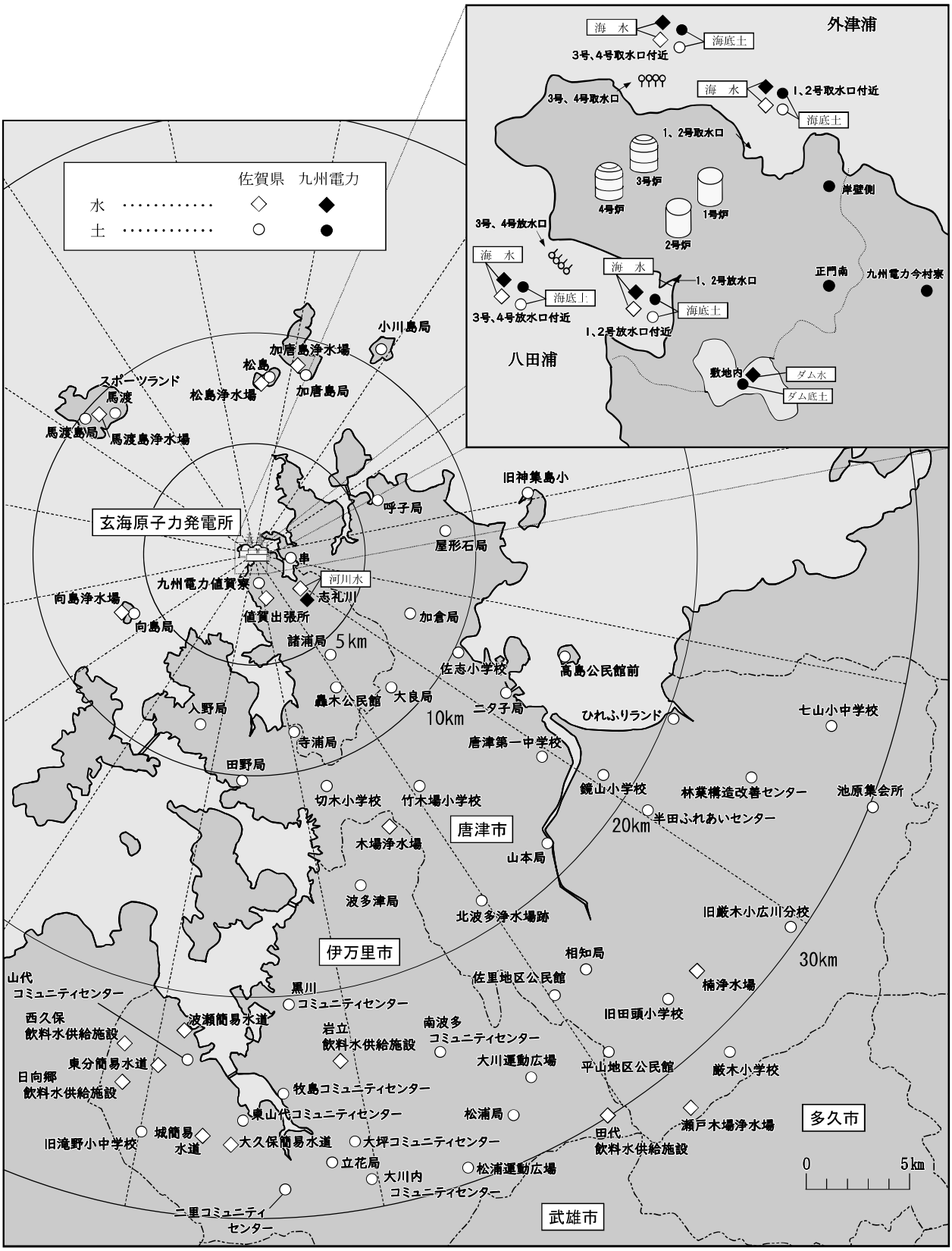


図３　環境試料採取地点（水、土）

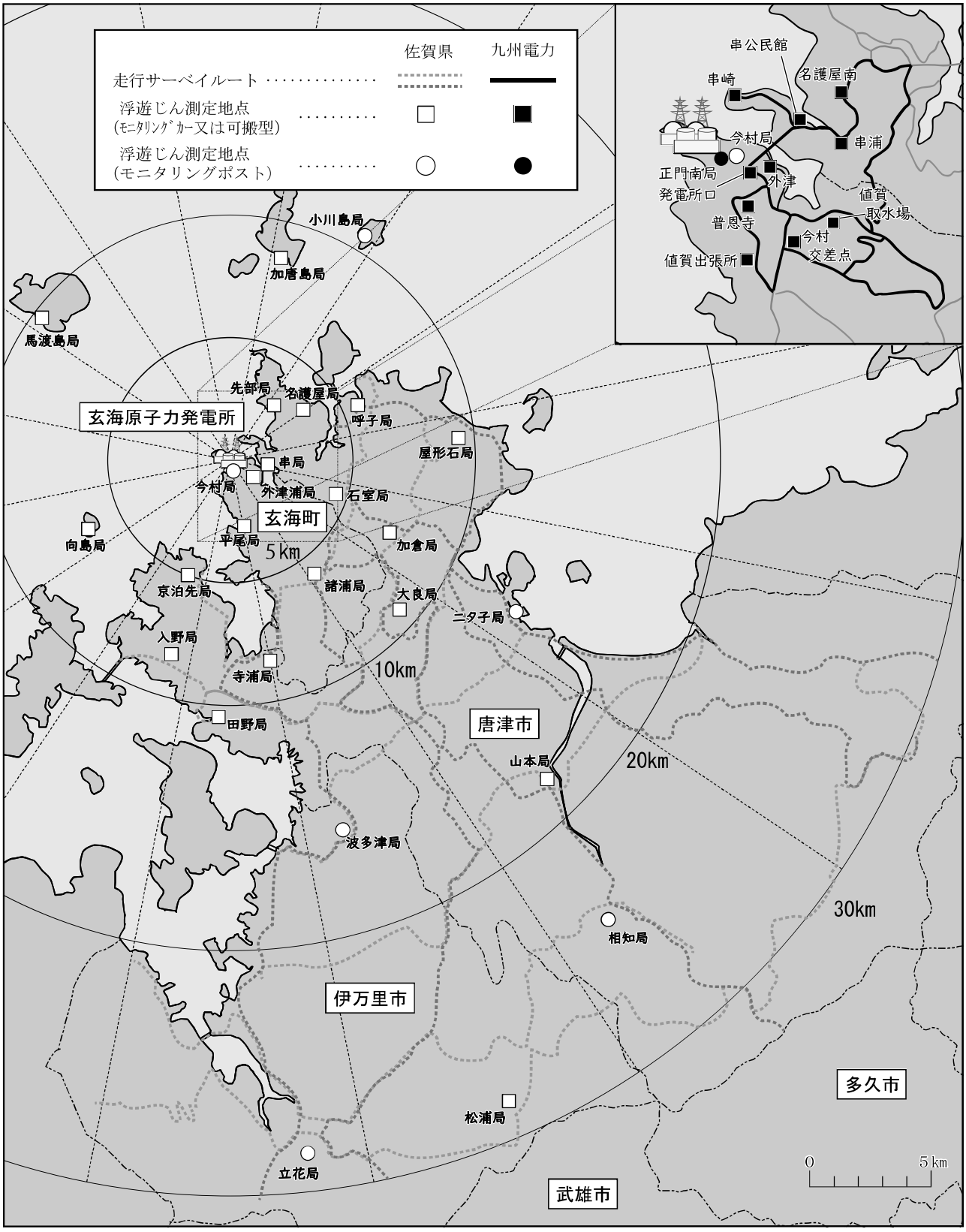


図４　空間放射線等測定地点（走行サーベイ、大気浮遊じん）

6　測定方法及び測定機器

調査項目＼調査機関		測定法	測定器	
			佐賀県	九州電力
空間放射線	空間放射線量率（モニタリングポスト） 放水口計数率（放水口モニタ）	固定型モニタリングポスト（県・九電）、放水口モニタ（九電）による連続測定（テレメータシステム） 「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 日立アロカメディカル （多重波高分析器付） MSR-R69-22234 電離箱式検出器 14L 球形加圧型（N_2＋Ar ガス） 日立アロカメディカル MSR-R69-21090R1 MSR-R69-22205	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2″φ×2″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 富士電機 NDS3AAA2-BYYYY-S NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 富士電機 N16E-116 NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償回路付） 日立製作所 ADP-1132
	空間放射線量率（走行サーベイ車、モニタリングカー）	車載型検出器による連続走行測定 「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	CsI(Tl)シンチレーション式検出器 2″φ×2″円柱型 シリコンダイオード検出器 （ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） ミリオンテクノロジーズ HDS-101G	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 日立製作所 ADP-1132
環境試料中の放射能	ガンマ線放出核種 ・^{60}Co ・^{131}I ・^{134}Cs ・^{137}Cs	「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」（令和2年改訂 原子力規制庁）及び「放射性ヨウ素分析法」（平成8年改訂 文部科学省）に準ずる。	高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ GEM-C8065-LB-C-HJ-S※ キャンベラジャパン GX4018-7915-30ULB※ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a MCA-7※ キャンベラジャパン DSA-1000※	高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a
	ストロンチウム 90（^{90}Sr）	「放射性ストロンチウム分析法」（令和7年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4502 キャンベラジャパン LB4200※	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4602
	トリチウム（^{3}H）	「トリチウム分析法」（令和5年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB7	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB8

※ 分析委託先（一般財団法人九州環境管理協会）が使用。

（続き）

調査項目		測定法	測定器	
			佐賀県	九州電力
大気浮遊じん中の放射能	ガンマ線放出核種 ・^{60}Co ・^{134}Cs ・^{137}Cs	・捕集 県:ダストサンプラで1か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 九電:エアーサンプラで3か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 ・測定 環境試料中の放射能−ガンマ線放出核種と同様	・捕集 ダストサンプラ 応用光研工業 S−3063 ・測定 高純度ｹﾞﾙﾏﾆｳﾑ半導体検出器 オルテック GEM30−70−LB−C−HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA−7a	・捕集 ダストサンプラ 富士電機 NAD−TA7C5463C01 ・測定 高純度ｹﾞﾙﾏﾆｳﾑ半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA−7a
	放射性ヨウ素 ・^{131}I （今村局）	約72m^{3}吸引後測定 「緊急時における放射性ヨウ素測定法」（令和5年改訂　原子力規制庁）に準ずる。	・捕集 ヨウ素サンプラ アロカ DSM−1401BU1R1 ・測定 高純度ｹﾞﾙﾏﾆｳﾑ半導体検出器 オルテック GEM30−70−LB−C−HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA−7a	
	放射性ヨウ素 ・^{131}I （小川島局、二タ子局、波多津局、相知局、立花局）	約18m^{3}吸引後測定 「緊急時における放射性ヨウ素測定法」（令和5年改訂　原子力規制庁）に準ずる。	・捕集 ヨウ素サンプラ 富士電機 NAD−TA7C3412C01 ・測定 高純度ｹﾞﾙﾏﾆｳﾑ半導体検出器 オルテック GEM30−70−LB−C−HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA−7a	
	放射性ヨウ素 ・^{131}I （上記以外の測定地点）	約0.50m^{3}吸引後測定 （佐賀県） 約0.25m^{3}吸引後測定 （九州電力） 「緊急時における放射性ヨウ素測定法」（令和5年改訂　原子力規制庁）に準ずる。	・捕集 ヨウ素サンプラ アロカ DSM−R60 ・測定 高純度ｹﾞﾙﾏﾆｳﾑ半導体検出器 オルテック GEM30−70−LB−C−HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA−7a	・捕集 ヨウ素サンプラ 日立製作所 DSM−362BU3R1 ・測定 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション検出器 2″φ×2″円柱型 日立製作所 ADP−1122

（注）メーカ名は購入時。

7　測定値の表示単位及び取扱い

<table>
<tr><th colspan="3">測定項目</th><th>単位</th><th>測定値の取扱い</th></tr>
<tr><td rowspan="3">空間放射線量率</td><td colspan="2">モニタリングポスト</td><td>nGy/h</td><td rowspan="2">表示は整数とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">走行サーベイ</td><td>九州電力</td><td>nGy/h</td></tr>
<tr><td>佐賀県</td><td>μSv/h</td><td>表示は小数点以下 2 桁とする。
0.20μSv/h 未満の測定値は、測定器の測定精度保証範囲外であるため参考値とする。</td></tr>
<tr><td colspan="3">放水口計数率</td><td>cpm</td><td>表示は整数とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="8">環境試料中の放射能</td><td rowspan="6">ガンマ線
放出核種

ストロンチウム 90</td><td>農産物</td><td>Bq/kg 生</td><td rowspan="8">有効数字は 2 桁とする。
検出下限値は次の通りとする。

3×ΔN
ΔN は放射能の計数誤差とする。

検出下限値未満の測定値は
「ND」と表示する。
「-」は調査計画外を示す。</td></tr>
<tr><td>植物</td><td>Bq/kg 生</td></tr>
<tr><td>牛乳</td><td>Bq/L</td></tr>
<tr><td>海産生物</td><td>Bq/kg 生</td></tr>
<tr><td>土壌・海底土</td><td>Bq/kg 乾</td></tr>
<tr><td>陸水・海水</td><td>mBq/L</td></tr>
<tr><td>トリチウム</td><td>陸水・海水</td><td>Bq/L</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">大気浮遊じん中の放射能</td><td>核種分析</td><td>mBq/m^3</td></tr>
<tr><td>放射性ヨウ素</td><td>Bq/m^3</td></tr>
</table>

放射線の単位について

単位	読み	意味
cpm	シーピーエム	・カウントパーミニッツ(カウント/分)の略。 ・調査結果では、1分間に放射線測定装置で測定される放射線の数を表す。
Bq	ベクレル	・放射能の強度又は放射性物質の量を表す単位。 ・1秒間に1個の原子核が崩壊して放射線を出す物質の放射能強度又は放射性物質の量を1Bqという。 ・調査結果では、測定試料の単位重量(単位体積)当たりの放射能強度又は放射性物質の量を示している。(Bq/kg、Bq/L、Bq/m^3など)
Gy	グレイ	・ある物質が放射線を受けて吸収したエネルギー量を表す単位。 ・物質1kg当たり1J(ジュール)のエネルギー吸収があるときの放射線量を1Gyという。 ・調査結果では、測定地点における1時間当たりの空気の吸収エネルギー量を示している。(Gy/h)
Sv	シーベルト	・放射線が人体に及ぼす影響の度合いを表す単位。 ・γ(ガンマ)線、β(ベータ)線では、1Gy ＝ 1Sv ・α(アルファ)線では、 1Gy ＝ 20Sv ・調査結果では、測定地点における1時間当たりの放射線量を示している。(Sv/h)

接頭語

記号	読み	意味
m	ミリ	・基本となる単位の前に付く接頭語で、千分の一(10^{-3})を表す。 ・1mGyは、1Gyの千分の一(1Gy ＝ 1,000mGy)。
μ	マイクロ	・基本となる単位の前に付く接頭語で、百万分の一(10^{-6})を表す。 ・1μGyは、1Gyの百万分の一(1Gy ＝ 1,000,000μGy)。
n	ナノ	・基本となる単位の前に付く接頭語で、十億分の一(10^{-9})を表す。 ・1nGyは、1Gyの十億分の一(1Gy ＝ 1,000,000,000nGy)。

参　考　資　料

＜参考資料１＞

令和７年度　第２回
佐賀県環境放射能技術会議
資料１－２

2025 年 8 月 25 日
九 州 電 力 株 式 会 社

玄海原子力発電所３号機における法令報告値を下回る微量の放射性物質の体内への取り込みについて

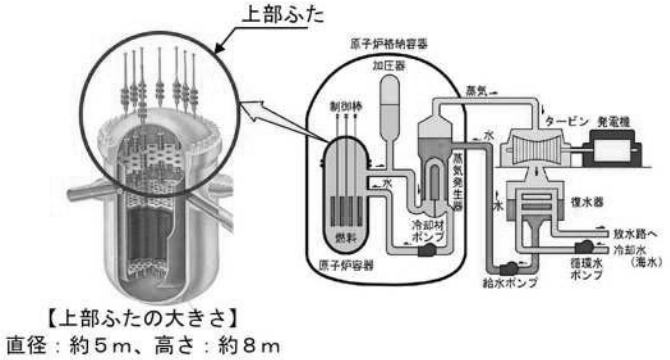
１．概　要

○定期検査中の玄海原子力発電所３号機において、2025 年５月 10 日、原子炉容器上部ふたの手入れ作業終了後、作業を実施していた協力会社の作業員１名の顔付近に汚染が確認されました。このため、５月 11 日、体内への放射性物質の取り込みの有無についてホールボディカウンタにて測定を実施し、微量の放射性物質を体内に取り込んだものと判断しました。

○当該作業員に異常は見られず、内部被ばく量（今後 50 年間で受けるとした場合の評価値）は、0.01 ミリシーベルト※であり、一般の方が自然界から受ける１年間の線量（平均約 2.1 ミリシーベルト）及び国へ報告が必要となる線量（５ミリシーベルト）に比べて極めて低く、身体に影響を与えるものではありませんでした。当該作業員は、５月 12 日に医療機関を受診し、身体に異常はないとの診断を受けています。

なお、本事象による環境への影響や、他の作業員の体内への放射性物質の取り込みはありませんでした。

※　５月 11 日の取り込み判断（公表）時点の暫定評価値 0.02 ミリシーベルト



【原子炉容器上部ふた概要図】



【原子炉容器上部ふたの手入れ作業】

２．内部被ばく線量評価について

（１）ホールボディカウンタによる測定結果

５月 11 日の取り込み判断（公表）時点のホールボディカウンタによる測定結果（γ核種）は以下のとおりでした。

項　目	コバルト-58	コバルト-60	カリウム-40	暫定値 （合計）
内部被ばく線量 ［mSv/50 年］	0.0014	0.0068	0.0075	0.02 (0.0157)

（２）バイオアッセイによる分析結果

被ばく線量の測定・評価マニュアル 2000（原子力安全技術センター）に基づき、原子力発電所で発生する可能性がある核種のうちγ線を測定するホールボディカウンタでは評価できない、以下のα，β核種の測定を行いました。その結果、尿試料からは、ウラン-238 及びトリチウムが検出されましたが、糞試料から核種は検出されませんでした。

また、原子炉格納容器内の作業環境中にはトリチウムは常時存在しており、その他のα，β核種は検出されていないことから、以下のとおり考察しました。

・ウラン-238：天然に存在し、体内にも存在する核種であることから当該事象による取込みではないと考えています。なお、今回の分析結果（0.041mBq/L）は、日本人の一般の尿中濃度（0.01～0.44mBq/L（中央値:0.056mBq/L））※1と同程度です。

・トリチウム：分析結果（420Bq/L）から体内のトリチウム摂取量は、約 18,000Bq※2と求められます。一方、当該事象発生時の原子炉格納容器内の環境下（空気中トリチウム濃度 4.2×10^{-4}Bq/cm^3）で当該作業員と同程度の 3 時間作業を行った場合、呼吸によるトリチウム摂取量は約 15,000Bq※3と求められます。このため、今回の分析結果は、作業中に原子炉格納容器内に存在する空気中のトリチウムを呼吸したことによるものと考えています。なお、当該作業は乾燥した環境下で行われ、液体の水の取り扱いはありませんでした。

（参考）当該事象発生時の空気中トリチウム濃度(4.2×10^{-4}Bq/cm^3)は、法令で定められている濃度限度(8.0×10^{-1}Bq/cm^3)を大きく下回っています。

項　目	尿				糞	
	ｳﾗﾝ-235 （α）	ｳﾗﾝ-238 （α）	ｽﾄﾛﾝﾁｳﾑ-90 （β）	ﾄﾘﾁｳﾑ （β）	ﾌﾟﾙﾄﾆｳﾑ- 239+240 （α）	ｱﾒﾘｼｳﾑ- 241 （α）
分析結果	検出せず	0.041 mBq/L	検出せず	420 Bq/L	検出せず	検出せず

※1 Urinary excretion of uranium in adult inhabitants of the Czech Republic, Irena Malátová et al., 2016, Journal of Environmental Radioactivity　より算出

※2 摂取量（Bq）＝分析結果（420Bq/L）／排泄率（2.3×10^{-2}）

※3 原子炉格納容器内で 3 時間程度（当該者の作業時間）作業した場合のトリチウムの摂取量は、次のとおり求められる。

計算式（Ｉ＝Ｃ×ｂ×ｔ×Ｆ／Ｐ）			単位
Ｉ	摂取量	**約 15,000**	Bq
Ｃ	空気中の放射性物質の平均濃度（原子炉格納容器内トリチウム濃度を使用）	4.2×10^{-4}	Bq/cm^3
ｂ	単位時間当たりの呼吸する空気量	1.2×10^{6}	cm^3/h
ｔ	作業者の管理区域内作業時間（当該者の作業時間を使用）	3	h
Ｆ	空気中の放射性物質濃度と定置式ダストモニタの空気中の放射性物質との比（実測されていない場合は 10 の値を使用）	10	—
Ｐ	防護マスクの防護係数（使用していない場合は 1 を用いる）	1	—

（３）内部被ばく線量評価値

これまでは、ホールボディカウンタにより検出した天然核種（カリウム-40）も含めて保守的に算定し、暫定値（0.02mSv）としていました。

一方、ICRP1990 年勧告では、自然放射線源である身体内のカリウム-40 や地殻中の放射性核種等を被ばく管理の範囲外としています。

今回の被ばく評価では、この勧告に基づき、天然核種（カリウム-40、ウラン-238）を除外し、さらにバイオアッセイによる分析結果を踏まえ、正式な評価値を 0.01mSv としました。

項　目		ホールボディカウンタ 測定結果（γ）			バイオアッセイ 分析結果（α、β）		合計値
		ｺﾊﾞﾙﾄ-58	ｺﾊﾞﾙﾄ-60	ｶﾘｳﾑ-40	ｳﾗﾝ-238	ﾄﾘﾁｳﾑ	
内部被ばく線量［mSv/50 年］	暫定値	0.0014	0.0068	0.0075	（未実施）		0.02 (0.0157)
	正式評価値	0.0014	0.0068	（対象外）	（対象外）	0.00033※4	**0.01** (0.0085)

（４）まとめ

ホールボディカウンタ及びバイオアッセイの結果から内部被ばく線量は 0.01mSv/50 年であり、法令で定められている線量限度（50mSv/年、100mSv/5 年）を十分下回っており、また、一般の方が自然界から受ける１年間の線量（平均約 2.1 mSv）及び国へ報告が必要となる線量（5 mSv）に比べても極めて低く、身体に影響を与えるものではありません。

※4 線量（mSv/50 年）＝分析結果（420Bq/L）×実効線量係数（1.8×10^{-11} Sv/Bq）$\times10^{3}$／排泄率（2.3×10^{-2}）

３．推定原因

○作業員の汚染状況や防護具の脱衣手順等を確認し、作業員が体内に放射性物質を取り込んだ経路を以下のとおり推定しました。

・防護具を脱衣する際、ゴム手袋や靴下に付着していた放射性物質により綿手袋が汚染し、その綿手袋で鼻下を触り、体内へ放射性物質を取り込んだ。

・なお、放射性物質が付着していた全面マスクを取り外す際、放射性物質が鼻下に付着し、作業員が吸入した可能性も否定できない。

４．対策

○内部被ばく防止に万全を期すため、以下の対策を実施しています。

・汚染レベルの高い作業エリアの作業後は、作業エリア退域時に綿手袋を取替える。

・全面マスクを使用する作業後は、マスク表面に放射性物質が付着している可能性があることから、マスク取り外し前に脱衣補助者が濡れた紙タオル等でマスク表面の拭き取りを行う。

・再発防止対策や綿手袋で顔を触らない等の管理区域内での基本的な遵守事項の徹底等について、関係者に周知を行うとともに、定期的に教育を行う。



（通常の管理区域で着用する綿手袋、布製管理服・帽子、靴下の外側に上記防護具を着用）

【防護具着用状況】



〈全面マスク取り外し前に濡れた紙タオルでマスク表面を拭き取る〉

汚染レベルが高い作業エリアでの防護具の脱衣の流れ

①不織布の防護衣（外側）
②ゴム手袋（外側）
③専用の靴
④全面マスク表面の拭き取り
⑤不織布の防護衣（内側）
⑥ゴム手袋（内側）
⑦全面マスク
⑧専用の靴下
⑨綿手袋を取り替える

手順の追加

5. 佐賀県環境放射能技術会議でのご意見について（ご回答）

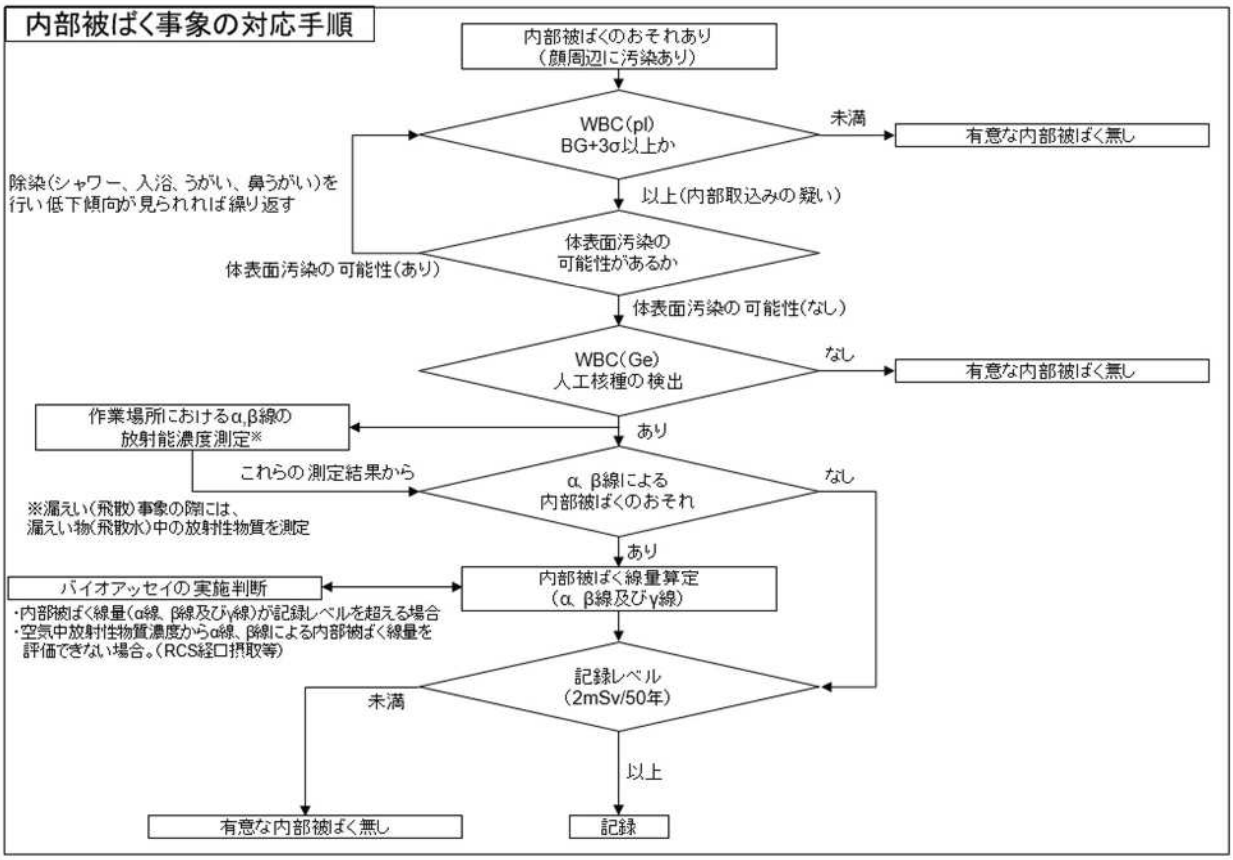
○佐賀県環境放射能技術会議（2025 年 5 月 19 日開催）において「玄海原子力発電所 3 号機における法令報告値を下回る微量の放射性物質の体内への取込について」に関する報告を行った際、意見を頂きましたので、回答します。

【ご意見】

- もっと早く核種分析を行い、トリチウムが含まれるのであればバイオアッセイをするといった方針を早めに決めておくべき
- β線放出核種を多く含むものを体内に取り込んだ場合などはバイオアッセイを実施する判断も必要ではないか

【ご回答】

▪ ご意見を踏まえ、内部被ばく事象が発生した場合は、作業場所（漏えい物、飛散水等含む）のα，β線の測定を迅速に行い、その後、α，β線放出核種（トリチウム含む）を多く体内に取込んだと判明した場合にバイオアッセイを実施する対応手順に見直しました。
（２０２５年　７月２８日）



以上

<参考資料２>

令和７年度　第２回
佐賀県環境放射能技術会議
資料１－３

令和７年度に更新予定の機器について

令和７年８月 25 日
佐賀県環境センター

１　概要

令和６年度第３回佐賀県環境放射能技術会議において、空間放射線量率測定機器等の更新予定について説明を行った（令和６年度第３回会議資料 1-5 参照）。

その後、各自治体のテレメータシステム等をクラウド上に集約するため、国が開発しているシステム（放射線モニタリングプラットフォーム）に、今年度移行する自治体として本県が選定された。国と協議の結果、テレメータシステムの更新を最優先とし、その他の測定機器等の更新予定を変更したため、その内容について報告する。

２　更新予定の機器及び更新に伴う変更点等

① 環境放射線テレメータシステム（次頁別図参照）

・令和７年度に国が開発するクラウドシステムへ移行（目的は、複数ある放射線監視システムの集約、一元管理による業務効率化、遠隔拠点への冗長化による可用性の向上）

※現在は、県環境センターにシステムサーバを設置し運用している。

② ダストサンプラ・モニタ

・メーカ：アロカ（株）

・集じんと同時に計測する連続方式を採用

「原子力災害対策指針補足参考資料（平常時・緊急時モニタリング）」（原子力規制庁　令和３年度改訂）及び放射能測定法シリーズへの対応）

※現在は、集じん終了後に計測する間欠測定方式

③ ヨウ素サンプラ

・メーカ：アロカ（株）

・平常時の運用に変更なし（ヨウ素カートリッジを Ge 検出器で測定）

④ 走行サーベイ用測定機器

・メーカ未定

・ＢＧレベルでの測定が可能な測定機器の採用を検討

※現在は、ＢＧレベルは精度保証範囲外

・機器調達後、現行機器との並行測定を実施予定

⑤ 空間放射線量率測定機器

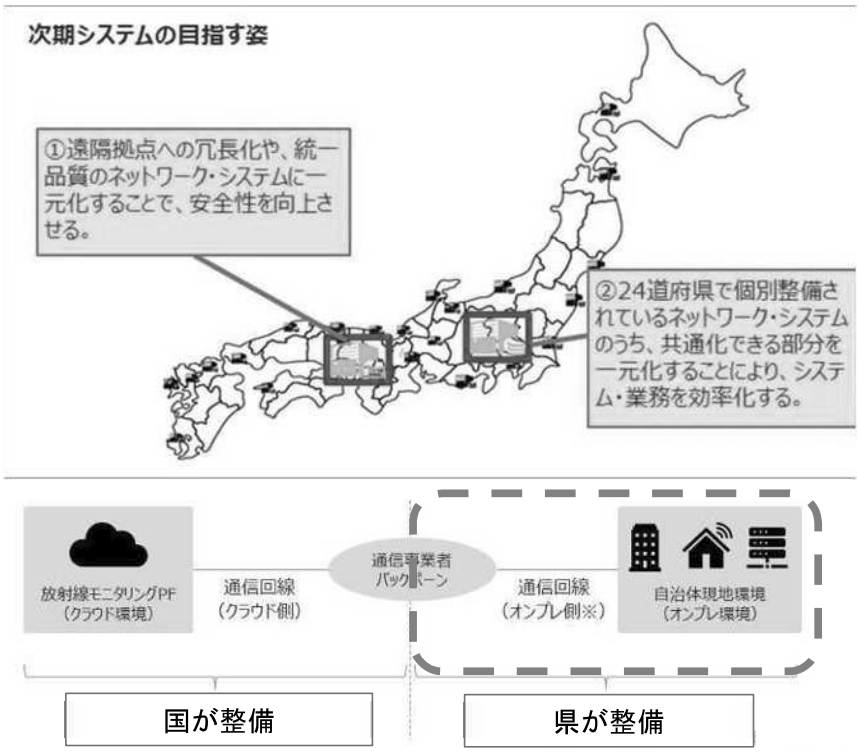
・メーカ未定

・高線量率計の一部を更新（低線量率計は更新しない）

・機器調達後、代表地点において、現行機器との並行測定を実施予定

※その他、局舎に設置している非常用発電機、無停電電源装置も一部更新予定

（別図：放射線モニタリングプラットフォームの目指す姿）



（参考：現行測定機器写真）



② ダストサンプラ・モニタ（左）
③ ヨウ素サンプラ（右）



④ 走行サーベイ用測定機器
（SmartRAMPU）



⑤ 空間放射線量率測定機器
（高線量率計：電離箱式検出器）

＜参考資料３＞

令和７年度　第３回
佐賀県環境放射能技術会議
資料１－２

ストロンチウム分析における測定結果の一部訂正について

令和７年１１月２１日
佐賀県環境センター

１　概要

Sr 分析では、^{90}Sr と放射平衡状態となった^{90}Ｙを分離し、低 BG 放射能自動測定装置（LBC）で^{90}Ｙの壊変で放出されるβ線を測定しています。

^{90}Sr 濃度を算出するためには、^{90}Ｙの分離時点から測定までの経過時間が必要となり、解析では、測定開始と測定終了の中間の時刻を測定時刻として計算することとしています。

今回、平成30年度第４四半期から令和７年度第１四半期までに計算に用いた測定時刻に誤りがあり、^{90}Sr 濃度を高く算出していたことが判明しましたので、正しい測定時刻で計算した^{90}Sr 濃度に訂正するとともに、評価結果に影響を与えるものではないことを確認しました。

２　経緯

○現在使用している機器は、平成31年３月に更新したものです。
○更新前の機器では測定開始時刻を記録する設定になっており、記録された時刻の30分後を測定時刻としていました。（１試料の測定時間60分）
○更新後の機器では測定終了時刻を記録する設定になっており、記録された時刻の30分前を測定時刻とすべきところ、更新前と同じように30分後を測定時刻としていました。

３　訂正内容

平成30年度第４四半期から令和７年度第１四半期までに報告した141試料のうち、46試料の結果について、別表１のとおり訂正します。

併せて、九州電力とのクロスチェック結果として平成30年度第４四半期から令和７年度第１四半期までに報告した39試料のうち、27試料の結果について、別表２のとおり訂正します。

なお、正しい測定時刻で計算した^{90}Sr 濃度は、報告していた値より約1.08％低い値であり、玄海原子力発電所からの影響はなかったとする評価結果に訂正はありません。

４　原因

○機器更新時の確認において、更新前と同様に測定開始時刻が記録されると思い込んでおり、設定の変更に気付けなかった。

○測定の都度出力される帳票には、測定開始時刻と測定終了時刻のどちらが印字されているかの記載がなく、測定終了時刻が印字されていることを認識できていなかった。

○測定を開始した時刻と、出力帳票の時刻を比較する手順としていなかった。

○機器の定期点検報告書には、記録時刻の設定が測定終了時刻になっていることは記載されていたものの、帳票に印字される時刻は測定開始時刻と思い込んでおり、濃度算出の際に誤って使用していることに気づかなかった。

５　再発防止策について

○機器の出力帳票の印字を測定開始時刻に変更し、定期点検の前後及び四半期ごとに、機器の時刻設定を確認するよう運用を見直します。

○測定毎に測定を開始した時刻を記録し、出力帳票の印字の時刻にずれがないことを確認する手順を追加します。

○機器更新時に、機器の設定内容、帳票の記載項目等の変更の有無を確認するとともに、定期点検時の報告書の確認を徹底します。

別表１

放射化学分析による放射能測定結果

年度	四半期	試料名	採取場所	単位	従来の報告値	訂正後の報告値
H30	4	松葉	普恩寺	Bq/kg生	0.82	0.81
	4	海水	1、2号放水口付近	mBq/L	0.79	0.78
R1	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.62	0.61
	1	河川水	志礼川	mBq/L	0.62	0.61
	2	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.030	0.029
	2	海水	3、4号放水口付近	mBq/L	0.68	0.67
	3	水道水	中山浄水場	mBq/L	0.80	0.79
	3	水道水	長倉浄水場	mBq/L	0.84	0.83
	4	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.044	0.043
R2	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.93	0.92
	1	河川水	志礼川	mBq/L	0.65	0.64
	1	土壌(表層土)	九電値賀寮	Bq/kg乾	0.47	0.46
	3	水道水	大川浄水場	mBq/L	0.63	0.62
	4	松葉	普恩寺	Bq/kg生	0.67	0.66
	4	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.034	0.033
	4	なまこ	八田浦周辺	Bq/kg生	0.026	0.025
R3	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.90	0.89
	1	河川水	志礼川	mBq/L	0.86	0.85
	2	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.089	0.088
	2	水道水	厳木多久浄水場	mBq/L	0.92	0.91
	2	海水	1、2号放水口付近	mBq/L	0.87	0.86
	3	水道水	浦ノ崎浄水場	mBq/L	0.44	0.43
	3	水道水	久原1区浄水場	mBq/L	0.52	0.51
	4	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.053	0.052
	4	海水	1、2号取水口付近	mBq/L	0.95	0.94
	4	海水	3、4号取水口付近	mBq/L	0.92	0.91
R4	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.92	0.91
	1	河川水	志礼川	mBq/L	1.1	1.0
	1	土壌(表層土)	九電値賀寮	Bq/kg乾	0.66	0.65
	2	水道水	和多田浄水場	mBq/L	0.97	0.96
	2	海水	3、4号放水口付近	mBq/L	0.93	0.92
	3	水道水	滝川内浄水場	mBq/L	0.97	0.96
	3	水道水	久原2区浄水場	mBq/L	0.42	0.41
	4	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.053	0.052
	4	水道水	浜崎浄水場	mBq/L	0.78	0.77
	4	海水	1、2号取水口付近	mBq/L	0.83	0.82

つづき

年度	四半期	試料名	採取場所	単位	従来の報告値	訂正後の報告値
R5	1	河川水	志礼川	mBq/L	0.85	0.84
	2	海水	3、4号放水口付近	mBq/L	0.75	0.74
	3	水道水	峰浄水場	mBq/L	0.25	0.24
	4	松葉	納所	Bq/kg生	0.066	0.065
	4	海水	1、2号取水口付近	mBq/L	0.84	0.83
R6	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.93	0.92
	1	河川水	志礼川	mBq/L	0.95	0.94
	2	ほんだわら類	八田浦周辺	Bq/kg生	0.043	0.042
	2	海水	3、4号放水口付近	mBq/L	0.87	0.86
	4	海水	3、4号取水口付近	mBq/L	0.95	0.94
R7	1	水道水	値賀出張所	mBq/L	0.80	0.79

※上記訂正に伴い、令和2年度から令和7年度の河川水の平常の変動範囲の最小値を0.62から0.61に、令和6年度の水道水の平常の変動範囲の最小値を0.25から0.24に訂正します。

別表２

クロスチェック結果

年度	四半期	試料名	採取場所	単位	従来の報告値	訂正後の報告値	従来の拡張不確かさ	訂正後の拡張不確かさ	従来の En スコア	訂正後の En スコア
H30	4	ほうれん草	外津	Bq/kg 生	0.0461	0.0455	0.0185	0.0183	0.0	変更なし
R1	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0343	0.0339	0.0166	0.0165	1.0	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	1.31	1.30	0.315	0.313	1.3	変更なし
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	0.982	0.971	0.464	0.460	0.02	0.04
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0254	0.0251	0.0169	0.0168	0.44	0.45
R2	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0512	0.0506	0.0188	0.0186	0.5	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	1.23	1.21	0.264	0.260	0.1	0.0
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	ND (0.558)	ND (0.552)	0.399	0.396	0.6	変更なし
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0643	0.0636	0.0238	0.0237	0.6	変更なし
R3	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0340	0.0337	0.0166	0.0164	0.6	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	1.02	1.01	0.247	0.246	0.4	変更なし
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	1.36	1.34	0.216	0.438	0.8	変更なし
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0381	0.0377	0.0180	0.0178	0.3	変更なし
R4	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0436	0.0432	0.0181	0.0179	0.9	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	1.11	1.10	0.258	0.256	0.0	変更なし
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	0.853	0.844	0.437	0.433	0.0	変更なし
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0415	0.0410	0.0212	0.0210	0.1	変更なし
R5	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0349	0.0345	0.0190	0.0189	1.03	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	1.06	1.05	0.262	0.260	0.29	0.26
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	1.29	1.28	0.481	0.476	0.54	0.53
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0331	0.0327	0.0198	0.0196	0.13	0.14

つづき

年度	四半期	試料名	採取場所	単位	従来の報告値	訂正後の報告値	従来の拡張不確かさ	訂正後の拡張不確かさ	従来のEnスコア	訂正後のEnスコア
R6	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0472	0.0468	0.0179	0.0178	0.84	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	0.914	0.906	0.224	0.223	0.09	0.07
	3	海水	3、4 号放水口付近	mBq/L	1.29	1.28	0.472	0.468	0.54	0.53
	4	ほうれん草	今村	Bq/kg 生	0.0633	0.0628	0.0220	0.0219	0.92	0.91
R7	1	ほんだわら類	八田浦	Bq/kg 生	0.0572	0.0568	0.0209	0.0207	1.3	変更なし
	1	土壌	正門南	Bq/kg 乾	0.957	0.950	0.284	0.282	0.29	0.28

＜参考資料４＞

令和７年度第４回
佐賀県環境放射能技術会議
資料１－２（参考）

令和8年度玄海原子力発電所周辺環境放射能調査計画(案)について

1 空間放射線量率測定機器の種類の変更

馬渡島局、加唐島局、向島局、小川島局、二タ子局、山本局、田野局、立花局の計8局の電離箱式検出器について、経年劣化に伴う更新(入札)の結果、シリコン(Si)半導体式検出器に変更する。

2 環境試料中の放射能

令和7年度調査計画からの変更点については下表のとおり

測定試料	頻度	試料名	地点名	採取時期(四半期)				核種分析				
				1	2	3	4	γ※1	^{131}I	^{90}Sr	^{3}H	Pu※2
(令和7年度)												
植物	指標生物	年2回	松葉	名護屋(なごや)	○		○		2	2			
		年2回	松葉	納所(のうさ)		○		○☆	2	2	1		
海産	指標生物	年2回	ほんだわら類	八田浦周辺(はったうら)		○☆		○☆	2	2	2		
土	土壌	年1回	表層土	松浦局			○		1		1		
計					―				60	29	33	15	0
⇓													
(令和8年度)													
植物	指標生物	年1回	松葉	名護屋(なごや)				○☆	1	1	1		
		年2回	杉葉	納所(のうさ)		○		○☆	2	2	1		
海産	指標生物	年2回	ほんだわら類	八田浦周辺(はったうら)		○☆		○	2	2	1		
土	土壌	年1回	表層土	松浦局			○		1		1		1
計					―				59	28	33	15	1

※1 :ガンマ線放出核種として、^{60}Co、^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定
※2 :^{238}Pu 及び $^{239+240}$Pu を測定
○ :核種分析の実施時期
○☆ :^{90}Sr を含む核種分析の実施時期

（1）指標生物の種類の変更（p.2）

農畜産物・植物の指標生物の松葉に関して、納所地区で採取していた松葉の大部分が枯れ、採取が困難となった。このため、以下のとおり調査計画を変更する。

① 松葉（納所）を杉葉に変更

松葉採取の代替地点の探索を行った際、納所地区等の玄海原子力発電所から南方位の地域では松葉の植生が少ないことが明らかになったため、より植生が確認されている杉葉を調査対象とする。

また、この変更に伴い、これまで納所地区の松葉で実施していたストロンチウム分析を名護屋地区の松葉で実施する。

② 松葉（名護屋）を年2回から年1回に変更

名護屋地区の松葉はこれまでも採取できている状況ではあるが、今後、納所地区と同様に植生が少なくなる恐れがあることから、試料採取頻度を年2回から年1回に変更する。

③ ほんだわら類におけるストロンチウム分析を年2回から年1回に変更

①及び②の見直しに合わせ、分析試料数の調整のため、指標生物であるほんだわら類のストロンチウム分析を年2回から年1回に変更する。

（2）土壌調査（5か年計画）の一部変更（p.3、5）

土壌のうち別表2に示す 50 地点については、緊急事態が発生した場合への平常時からの備えのために必要な平常時モニタリングとして、5か年で各地点のγ線放出核種（^{60}Co、^{134}Cs、^{137}Cs）及び ^{90}Sr について測定することとしているが、令和8年度に実施予定の松浦局について、同年度中に実施予定の局舎の移設に伴い、緊急時における採取地点が変更となるためプルトニウム分析（^{238}Pu 及び $^{239+240}$Pu）も実施する。

【参考】

環境試料の採取頻度として、「5年程度で実施範囲である PAZ 及び UPZ 内の計画された地点すべてで調査できるよう、計画的に採取を行い、その後も継続して5年程度で計画された地点すべてで環境試料中の放射性物質の濃度の水準を把握することとする。ただし、土壌中のプルトニウムについては、計画された地点すべてで最低1回調査を行うこととする。」とされている。（原子力規制庁「平常時モニタリングについて（原子力災害対策指針補足参考資料）」p.17～18より抜粋）

＜参考資料５＞

令和８年度第１回
佐賀県環境放射能技術会議
資料1－1－3

令和７年度第３四半期の放水口モニタ「平常の変動範囲」の一部訂正について

令和７年度第４回の環境放射能技術会議において報告した玄海原子力発電所周辺の環境放射能調査結果のうち、３号及び４号放水口計数率における「平常の変動範囲」の記載に誤りがありましたので、以下のとおり訂正します。

（正）　（単位 cpm）

局名		月	計数率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M−3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	1､2 号放水口	10	440	457	580	407	513	3 (0.43)	降雨
		11	434	452	533			3 (0.42)	降雨
		12	437	452	593			9 (1.21)	降雨
	3 号放水口	10	351	361	368	350	374	0 (0.00)	－
		11	347	358	369			0 (0.00)	－
		12	351	360	399			9 (1.27)	降雨
	4 号放水口	10	369	380	391	365	398	0 (0.00)	－
		11	368	377	392			0 (0.00)	－
		12	365	375	417			3 (0.45)	降雨

(注2)3 号放水口モニタは令和 7 年 2 月 21 日に検出器を更新したため、平常の変動範囲は令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年6月 30 日の期間から算出している。

(注3)4 号放水口モニタは令和 7 年 3 月 7 日に検出器を更新したため、平常の変動範囲は令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年6月 30 日の期間から算出している。

（誤）　（単位 cpm）

局名		月	計数率(1時間値)			平常の変動範囲		平常の変動範囲を超えたﾃﾞｰﾀ数(%)	超えた要因
			最小値	平均値	最大値	(M−3σ)	(M+3σ)		
九電設置局	1､2 号放水口	10	440	457	580	407	513	3 (0.43)	降雨
		11	434	452	533			3 (0.42)	降雨
		12	437	452	593			9 (1.21)	降雨
	3 号放水口	10	351	361	368	349	373	0 (0.00)	－
		11	347	358	369			0 (0.00)	－
		12	351	360	399			9 (1.27)	降雨
	4 号放水口	10	369	380	391	363	395	0 (0.00)	－
		11	368	377	392			0 (0.00)	－
		12	365	375	417			3 (0.45)	降雨

(注2)3 号放水口モニタは令和 7 年 2 月 21 日に検出器を更新したため、平常の変動範囲は令和 7 年 2 月 21 日～令和 7 年 9 月 30 日の期間から算出している。

(注3)4 号放水口モニタは令和 7 年 3 月 7 日に検出器を更新したため、平常の変動範囲は令和 7 年 3 月 7 日～令和 7 年 9 月 30 日の期間から算出している。

Ⅲ　温排水影響調査結果（県実施分）

＜令和７年度＞

Ⅲ　　目　　次

１　拡散調査……Ⅲ－１

２　流動調査……Ⅲ－１

３　水質調査……Ⅲ－２

４　底質・底生生物調査……Ⅲ－２

５　付着生物調査……Ⅲ－２

６　まとめ……Ⅲ－２

令和7年度温排水影響調査結果

玄海原子力発電所から放出される温排水が周辺の環境及び海洋生物に及ぼす影響を把握するために、調査を実施した。

令和7年度調査時の発電所の稼働状況については、夏季調査時には4号機が定期検査中で停止して3号機のみが稼働し、冬季調査時には3、4号機ともに稼働していた。1、2号機は運転を終了しており、廃止措置中である。

なお、1、2号機は表層放水方式、3、4号機は水中放水方式である。

１．拡散調査

夏季（9月2日）の下げ潮時と上げ潮時の水深1m層における水温の水平分布を図2-1～2、水温鉛直分布調査ラインにおける鉛直分布を図3-1～2に示した。水平分布を見ると、水深1mにおける水温は28.2～29.5℃の範囲で、温排水の影響によって取水水温と比較し1℃以上昇温した地点は、上げ潮時の3、4号機放水口付近の１点のみであり、範囲は限定的であった。また、鉛直分布を見ると、取水水温と比較し1℃以上高い水温が下げ潮時のSt.90の7～14m層、上げ潮時のSt.90の4～12m層およびSt.36の表層~1m層のいくつかの層で確認された程度で、温排水の影響による昇温の範囲は限定的であった。

冬季（3月15日）の水温の水平分布を図2-3～4、鉛直分布を図3-3～4に示した。水平分布を見ると、水深1mにおける水温は13.7～15.7℃の範囲で、温排水の影響によって取水水温と比較し1℃以上昇温した地点は、下げ潮時に放水口周辺の10地点、上げ潮時に放水口周辺の4地点で確認されたものの、範囲は限定的で、過去の調査で昇温が確認された範囲であった。また、鉛直分布を見ると、取水水温と比較し1℃以上高い水温が下げ潮時のSt.36の表層～17m層とSt.90の表層～6m層およびSt.35の表層～3m層のいくつかの層、上げ潮時のSt.90の表層～8m層で確認されたものの、範囲は限定的であった。

２．流動調査

夏季(9月25日)に実施した調査で観測された流向および流速を表3、図4に示した。St.36では主に北東向きの10～20cm/sの流れが確認された。その他の調査点では主に西～北向きの5～20cm/sの流れが確認され、全ての調査点で過去の変動の範囲内であった。

３．水質調査

夏季（7月29日）に実施した調査結果を表4-1、図5-1に示した。夏季の各項目の測定範囲は、水温：24.1～26.9℃、pH：8.09～8.13、DO：6.66～7.15mg/L、濁度：0.2～0.9 mg/L、クロロフィル-a：0.38～2.14μg/Lであり、過去の変動の範囲内であった。

冬季（1月19日）に実施した調査結果を表4-2、図5-2に示した。冬季の各項目の測定範囲は、水温：15.4～16.4℃、pH：8.18～8.24、DO：7.84～8.09mg/L、濁度：0.2～1.0mg/L、クロロフィル-a：0.80～1.42μg/Lであり、水温を除く項目については過去の変動の範囲内であった。水温は、全ての定点で3、4号機のみの稼働となった平成30年度以降で最高値を記録したが、取水口付近のSt.14が最高値を記録したことに加え、放水口側の各定点とSt.14の水温差が過去の変動の範囲であったことから、今回の水温上昇は取水水温の上昇が要因であると判断された。なお、取水水温が高かった要因は、調査海域に接する壱岐水道の水温が平年と比較してやや高めであったことなどが影響したものと考えられた。

４．底質・底生生物調査

夏季（7月29日）に実施した底質調査結果を表5に、CODの経年変化を図6に、底生生物調査結果を図7に示した。CODは1.2～3.9mg/g乾泥の範囲であった。粒度組成は、調査点のうち最も南西部に位置するSt.36では礫および粗砂が主要であり、その他の調査点では粗砂および細砂が主要であった。底生生物については、環形動物（多毛類）のゴカイ類、節足動物（甲殻類）のヨコエビ類が多くの地点で確認され、過去の出現傾向と同様であった。

５．付着生物調査

夏季（8月21日、22日）に実施した調査結果を表6-1、図8-1に、冬季（2月19日、20日、21日）に実施した調査結果を表6-2、図8-2に示した。動物では巻貝類のタマキビ類、甲殻類のフジツボ類が多くの地点で確認された。また、植物では褐藻類のヒジキ、紅藻類のサンゴモ類が多くの地点で確認され、過去の出現傾向と同様であった。

６．まとめ

令和7年度の拡散調査では、夏季及び冬季調査時に取水水温と比較し1℃以上の昇温が放水口周辺で確認されたものの、範囲は限定的であった。

水質調査では、冬季調査で全ての定点の水温が3、4号機のみの稼働となった平成30年度以降で最高値を記録したが、取水水温が最高値であったことなどから放水口側の水温も最高値を記録したものと判断された。夏季調査および冬季調査のその他の項目は過去の変動の範囲内であった。

流動・底質・底生生物・付着生物の調査結果は、過去の変動の範囲内であった。

表1 調査実施状況

項目	調査月日	内容	調査点数	観測層	調査方法および使用機器	摘要
拡散調査	9月2日 3月15日	水温 塩分	74	水温:0.3(表層), 1,2,3,4,5,7,10, 15,20m 塩分:0.3(表層)m	・水温、塩分:多項目水質計による現場測定 (JFEアドバンテック社 ASTD102)	図2-1～4 図3-1～4
流動調査	9月25日	流向 流速	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・流向・流速計による現場測定 (JFEアドバンテック社 AEM213-D型)	表3 図4
水質調査	7月29日 1月19日	水温 pH DO 濁度 クロロフィルa	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・ナンセン転倒採水器による採水 ・水温、DO、濁度:多項目水質計による現場測定 (JFEアドバンテック社 ASTD102) ・pH:卓上測定器による測定 (HORIBA社 卓上pH計) ・クロロフィルーa:蛍光法	表4-1～2 図5-1～2
底質・底生生物調査	7月29日	粒度組成 COD ベントス	10	海底土	・スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥 ・粒度組成:ふるい分け法 ・COD:アルカリ性法 ・ベントス:マクロベントスについて定量・同定	表5 図6 図7
付着生物調査	8月21日 22日 2月19日 20日 21日	動物 植物	10	潮間帯	・ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸ばし、1.5 m毎に50 cm枠の中の種類、数量(被度)を調査	表6-1～2 図8-1～2

表2 拡散調査における出力及び環境等の状況

九州電力資料

[夏 季]			拡散調査	
			下げ潮時	上げ潮時
調査年月日			令和7年9月2日	
調査時間			9:24～10:32	12:39～13:42
出力	1号機	MW	-	-
	2号機	MW	-	-
	3号機	MW	1,198	1,199～1,200
	4号機	MW	-	-
取水口水温	1、2号機	℃	28.8～29.3	28.9～29.1
	3、4号機	℃	28.1～28.3	27.8～28.2
放水口水温	1、2号機	℃	28.4～28.5	28.4～28.5
	3、4号機	℃	29.9～35.0	29.8～34.8
取放水口水温差	1、2号機	℃	-0.3～-0.9	-0.4～-0.7
	3、4号機	℃	1.7～6.7	1.6～6.7
気象海象等	風向・風速	m／s	S・5.5～9.5	S～SSW・3.2～5.7
	月齢※1	日	9.9	
	潮位※2	m	1.0～1.2	1.0～1.2
	気温	℃	23.1～23.9	24.5～26.6
	塩分※3		32.7～33.2	32.7～33.2

[冬 季]			拡散調査	
			下げ潮時	上げ潮時
調査年月日			令和8年3月15日	
調査時間			11:24～14:11	14:41～15:55
出力	1号機	MW	-	-
	2号機	MW	-	-
	3号機	MW	1,208～1,210	1,209～1,210
	4号機	MW	1,198～1,199	1,199
取水口水温	1、2号機	℃	13.8～14.4	14.2
	3、4号機	℃	13.8	13.8
放水口水温	1、2号機	℃	13.8～14.0	13.9～14.0
	3、4号機	℃	20.6～20.7	20.7～20.8
取放水口水温差	1、2号機	℃	-0.4～0.0	-0.3～-0.2
	3、4号機	℃	6.8～6.9	6.9～7.0
気象海象等	風向・風速	m／s	N～NE・2.9～4.8	N・2.4～2.5
	月齢※1	日	25.6	
	潮位※2	m	0.9～1.2	0.9～1.1
	気温	℃	12.5～13.8	12.6～12.8
	塩分※3		34.0～34.5	34.0～34.5

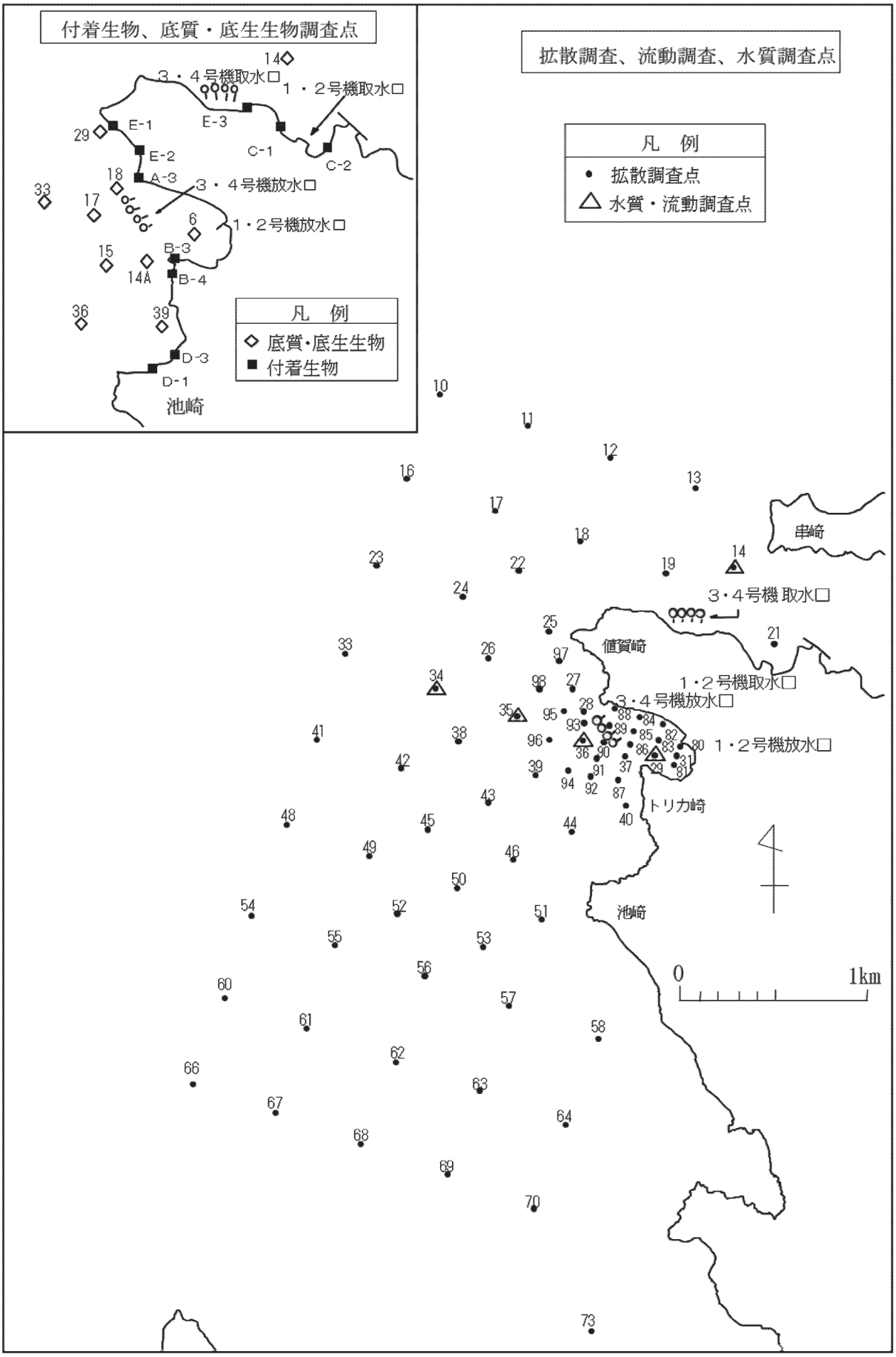
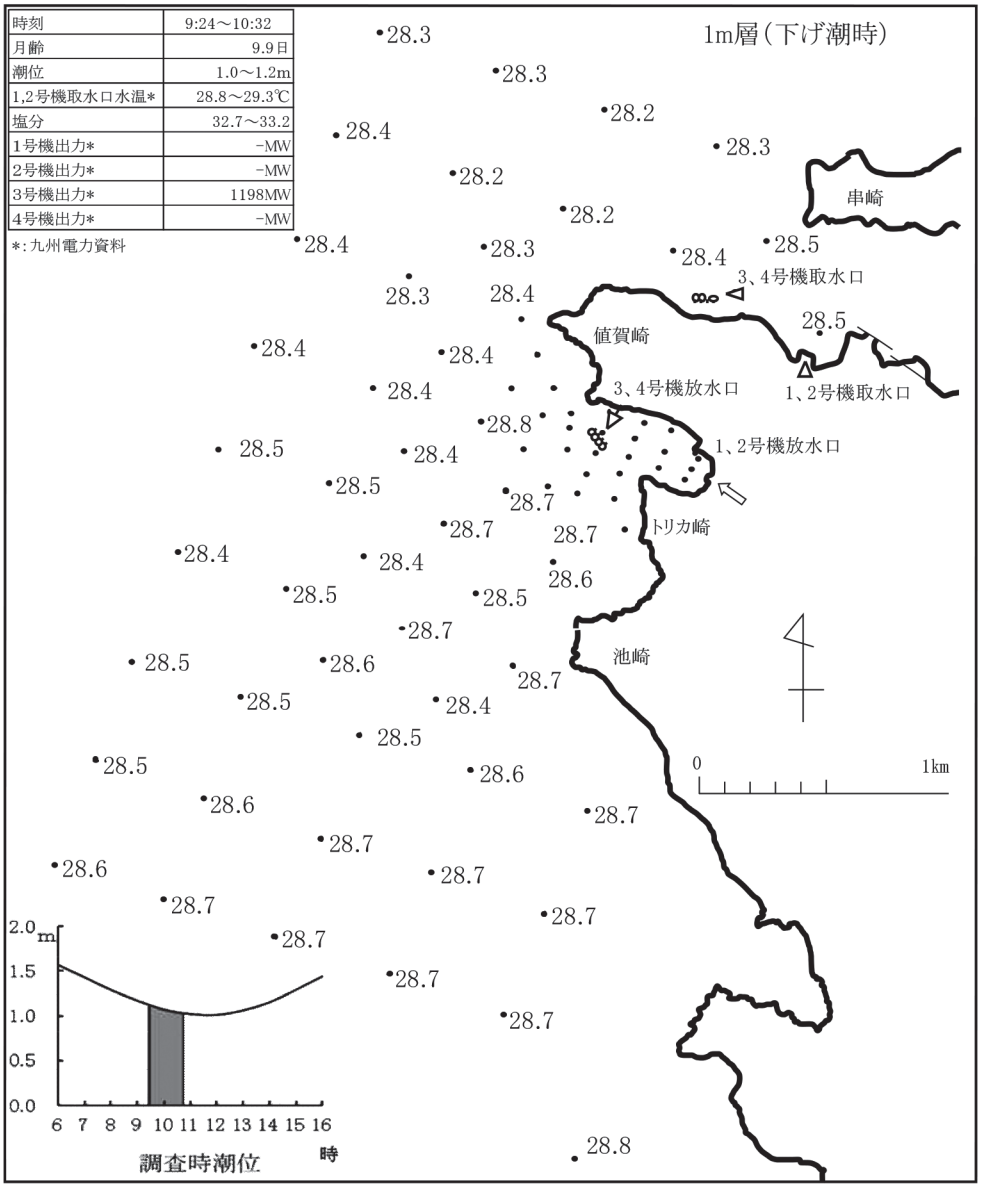
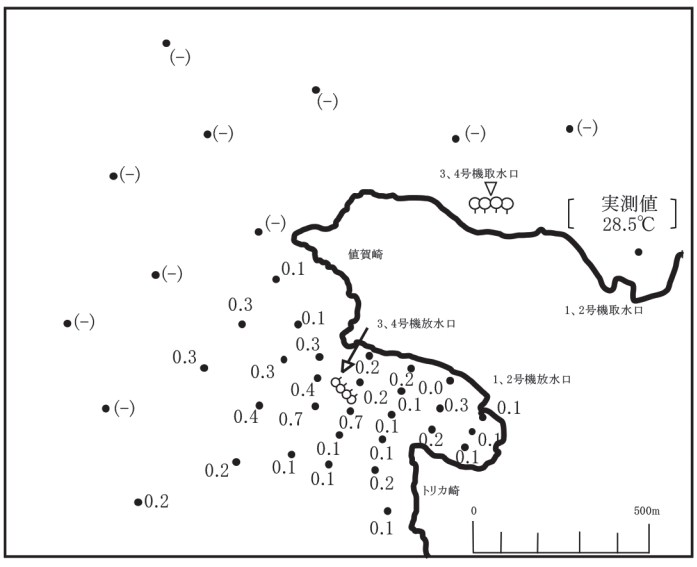

付着生物、底質・底生生物調査点
14
３・４号機取水口
１・２号機取水口
E-1
E-3
29
E-2
C-1
C-2
18
A-3
３・４号機放水口
33
17
6
１・２号機放水口
B-3
15
14A
B-4
36
39
凡　例
底質・底生生物
付着生物
D-3
D-1
池崎
拡散調査、流動調査、水質調査点
凡　例
拡散調査点
水質・流動調査点
串崎
３・４号機 取水口
値賀崎
１・２号機取水口
３・４号機放水口
１・２号機放水口
トリカ崎
池崎
0
1km

図1　調査点図

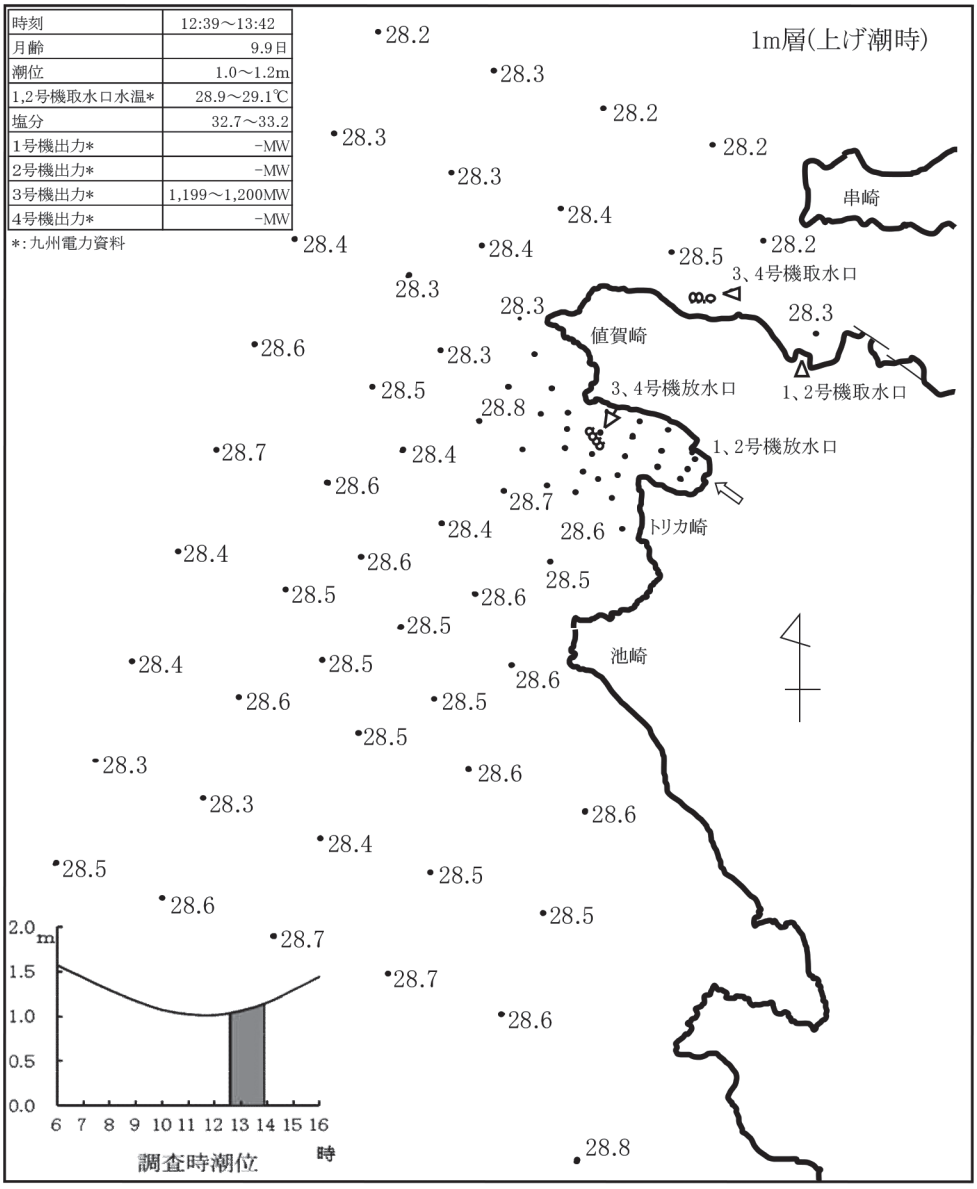


放水口周辺のSt.21(28.5℃)に対する温度差の水平分布

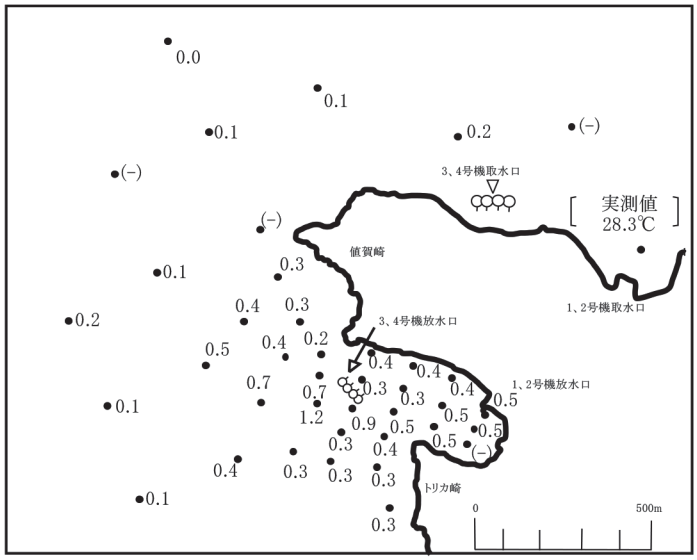


(-):取水口付近(st.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

図2-1 夏季調査の下げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)

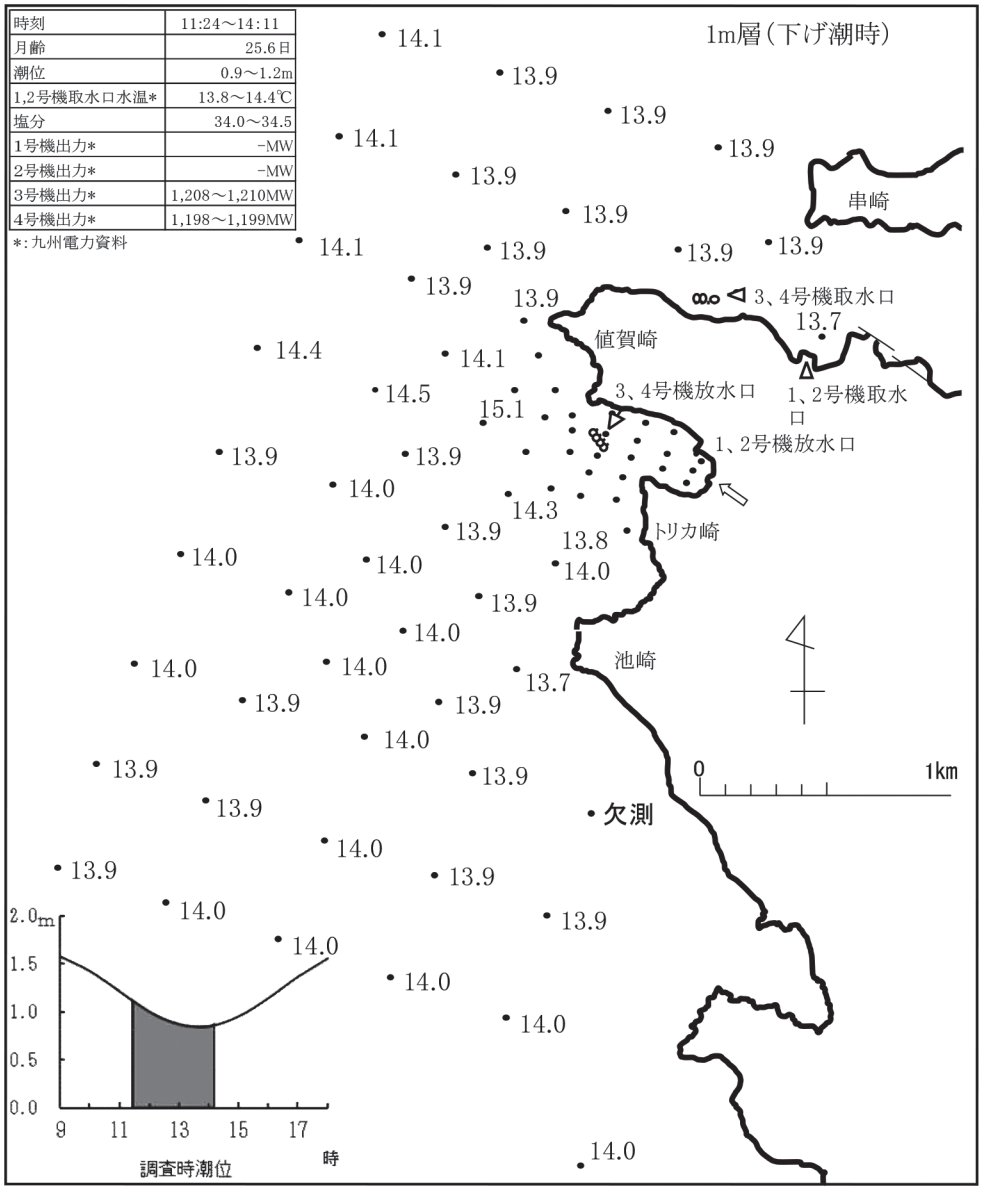


放水口周辺のSt.21(28.3℃)に対する温度差の水平分布



(-):取水口付近(st.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

図2-2 夏季調査の上げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)



放水口周辺のSt.21(13.1℃)に対する温度差の水平分布

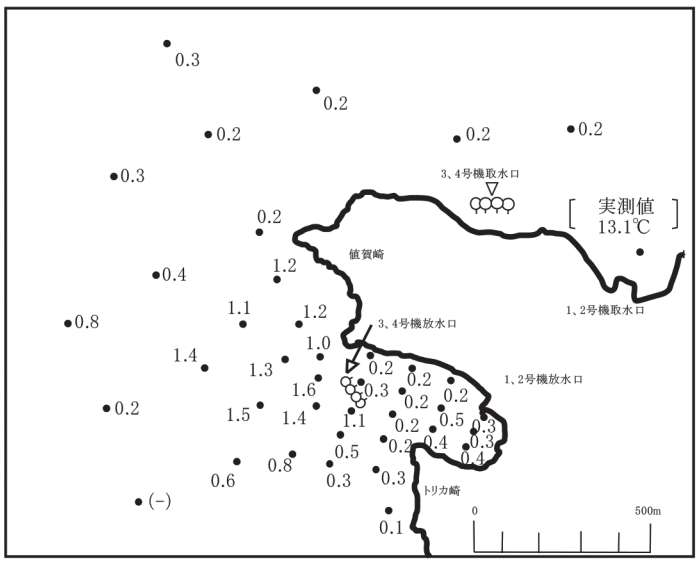
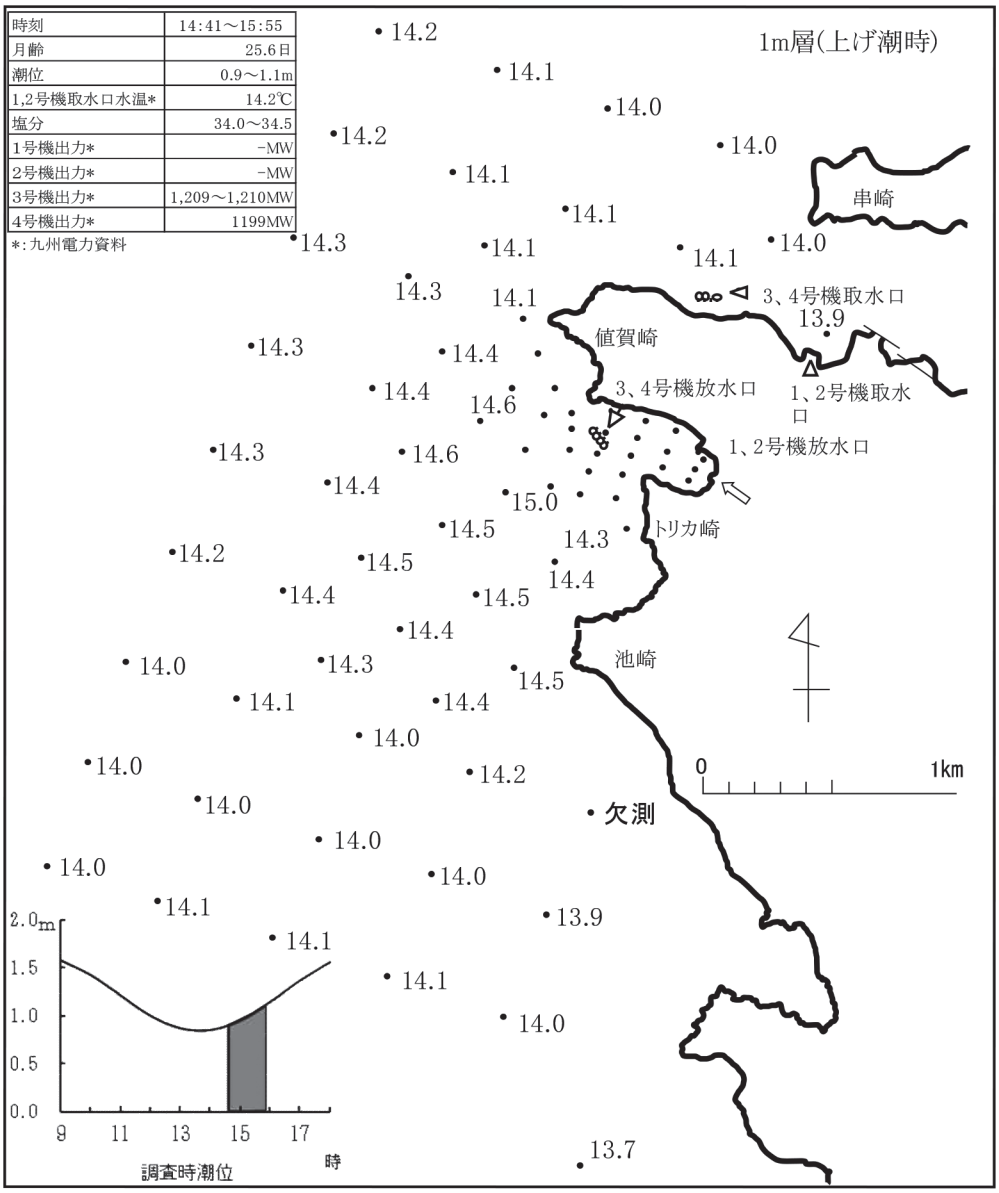
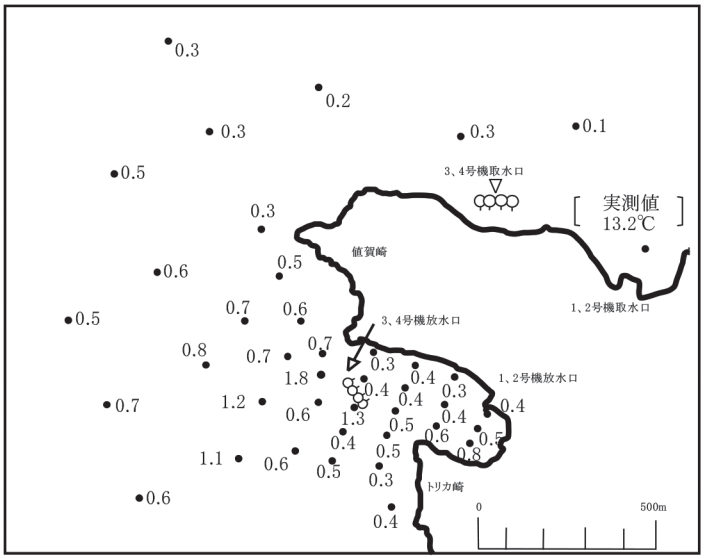


図2-3 冬季調査の下げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)



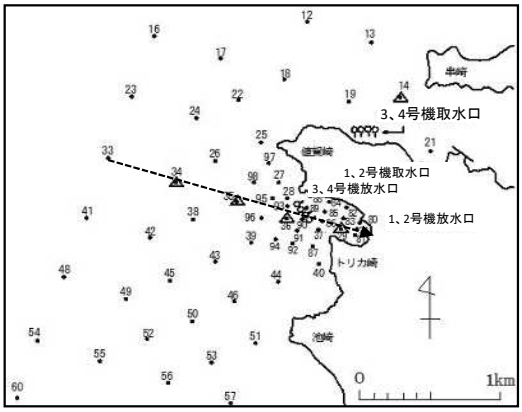
放水口周辺のSt.21(13.2℃)に対する温度差の水平分布



(-)：取水口付近(st.21)に対し、低い水温が観測された地点を示す

図2-4 冬季調査の上げ潮時における水深1m層の水温分布(上段)および放水口周辺の水温差分布(下段)

水温鉛直分布調査ライン



取水水温からの昇温値による色分け

0.01未満	…	
0.01～0.50	…	
0.51～0.99	…	
1.00以上	…	

－：取水水温に対し、低い水温が観測された地点

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	－	－	0.28	0.56	0.72	0.13	0.09	0.06
1	－	－	0.27	0.68	0.73	0.14	0.24	0.08
2	－	－	0.25	0.65	0.70	0.15	0.26	0.21
3	－	－	0.23	0.59	0.69	0.17	0.26	0.33
4	－	－	0.22	0.64	0.66	0.19	0.25	0.27
5	－	－	0.19	0.73	0.63	0.19	0.23	0.25
6	－	－	0.09	0.49	0.48	0.15	0.21	0.26
7	－	－	0.05	0.13	1.13	0.08		
8	－	－	－	0.12	0.55	0.04		
9	－	－	－	－	0.71	－		
10	－	－	－	－	1.75	－		
11	－	－	－	－	1.49	－		
12	－	－	－	－	0.18			
13	－	－	－	－	0.11			
14	－	－	－	－	1.06			
15	－	－	－	－	0.86			
16	－	－	－	－	0.30			
17	－	－	－	－	0.39			
18	－		－	－				
19			－	－				
20			－	－				

1,2号機 放水口（表層放水）

3,4号機 放水口（水中放水）

図3-1 夏季下げ潮時における水温鉛直分布

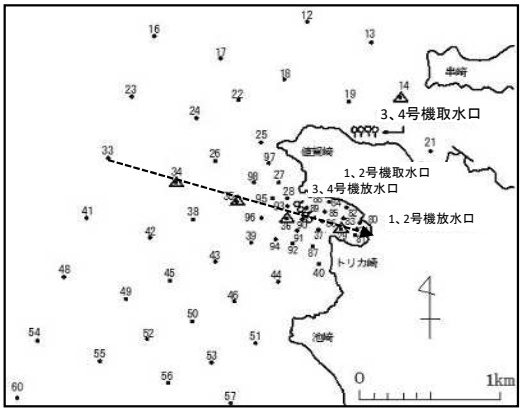
(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	0.27	0.25	0.55	1.13	0.92	0.42	0.54	0.53
1	0.28	0.23	0.52	1.18	0.92	0.46	0.53	0.53
2	0.27	0.15	0.52	－	0.90	0.35	0.50	0.49
3	0.27	0.18	0.50	0.16	0.92	0.35	0.42	0.43
4	0.27	0.08	0.46	0.09	1.00	0.33	0.40	0.40
5	0.26	0.08	0.47	0.06	1.42	0.32	0.38	0.35
6	0.26	0.04	0.33	0.08	1.38	0.28	0.30	0.31
7	0.26	0.05	0.20	0.12	1.58	0.27	0.31	0.31
8	0.25	0.07	0.07	0.07	1.85	0.29	0.27	
9	0.23	0.04	0.04	－	2.02	0.28		
10	0.22	－	0.02	－	1.64	0.29		
11	0.19	－	－	－	0.09			
12	0.00	－	－	－	1.05			
13	－	－	－	－	－			
14	－	－	－	－	－			
15	－	－	－	－	0.44			
16	－	－	－	－	0.24			
17	－	－	－	－	－			
18	－	－	－	－				
19	－	－	－	－				
20	－	－	－	－				

1,2号機 放水口（表層放水）

3,4号機 放水口（水中放水）

図3-2 夏季上げ潮時における水温鉛直分布

水温鉛直分布調査ライン



取水水温からの昇温値による色分け

0.01未満	…	
0.01～0.50	…	
0.51～0.99	…	
1.00以上	…	

－：取水水温に対し、低い水温が観測された地点

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	0.77	0.82	1.48	1.45	1.06	0.24	0.43	0.32
1	0.77	0.80	1.45	1.46	1.13	0.21	0.43	0.29
2	0.77	0.80	0.94	1.46	1.06	0.20	0.22	0.26
3	0.77	0.76	1.06	1.47	0.84	0.22	0.28	0.23
4	0.74	0.76	0.86	1.46	0.92	0.22	0.26	0.23
5	0.73	0.70	0.89	1.45	1.01	0.23	0.25	0.25
6	0.60	0.70	0.95	1.47	0.78	0.22	0.25	0.24
7	0.60	0.65	0.95	1.41	0.47	0.23	0.25	0.25
8	0.59	0.60	0.62	1.36	0.34	0.23	0.26	
9	0.61	0.54	0.82	1.38	0.25	0.22		
10	0.60	0.48	0.53	1.37	0.23	0.22		
11		0.46	0.47	1.31	0.23			
12		0.45	0.47	1.31	0.23			
13		0.45	0.49	1.32	0.22			
14		0.42	0.57	1.31	0.22			
15		0.41	0.50	1.30	0.22			
16		0.38	0.51	1.20	0.22			
17		0.36	0.42	1.33	0.22			
18		0.34	0.33	0.99				
19		0.31	0.32	0.22				
20			0.30	0.22				

1,2号機 放水口（表層放水）

3,4号機 放水口（水中放水）

図3-3 冬季下げ潮時における水温鉛直分布

(m) \ (st)	33	34	35	36	90	86	29	31
0	0.50	0.56	0.83	0.61	1.22	0.46	0.68	0.55
1	0.49	0.54	0.76	0.62	1.28	0.46	0.68	0.49
2	0.46	0.53	0.79	0.64	1.32	0.46	0.56	0.29
3	0.45	0.44	0.79	0.80	1.46	0.35	0.51	0.17
4	0.41	0.42	0.78	0.79	1.33	0.25	0.15	0.16
5	0.41	0.41	0.68	0.76	1.33	0.14	0.13	0.17
6	0.38	0.33	0.68	0.80	1.32	0.18	0.12	0.16
7	0.38	0.32	0.70	0.73	1.23	0.13	0.12	0.16
8	0.32	0.30	0.70	0.86	1.26	0.13		
9	0.31	0.30	0.66	0.85	0.99	0.13		
10	0.30	0.25	0.68	0.69	0.89	0.14		
11		0.21	0.63	0.67	0.98			
12		0.20	0.63	0.74	0.39			
13		0.18	0.50	0.37	0.39			
14		0.13	0.35	0.37	0.41			
15		0.09	0.32	0.38	0.40			
16		0.09	0.29	0.39	0.41			
17		0.09	0.23	0.40	0.40			
18		0.09	0.22	0.42	0.33			
19		0.09	0.19	0.26	0.20			
20		0.08	0.17	0.18				

1,2号機 放水口（表層放水）

3,4号機 放水口（水中放水）

図3-4 冬季上げ潮時における水温鉛直分布

表3　夏季流動(流向・流速)調査結果

令和7年9月25日(月齢3.3日)

調査回次		1回目		2回目		3回目		4回目	
調査時間		11:10～11:40		12:40～13:10		14:10～14:40		15:40～16:10	
調査点	観測層	流速(cm/s)	流向(度)	流速(cm/s)	流向(度)	流速(cm/s)	流向(度)	流速(cm/s)	流向(度)
St.14	表層	20	290	20	230	15	270	20	10
	5m	10	290	15	260	15	240	5	240
	10m	15	210	10	320	10	280	10	250
	底層	5	330	15	310	20	280	25	270
St.34	表層	25	30	20	40	10	10	15	300
	5m	20	350	20	350	15	20	10	320
	10m	15	330	20	340	15	360	5	210
	底層	15	300	15	310	15	20	5	160
St.35	表層	20	360	20	330	15	280	15	300
	5m	15	340	25	310	20	310	10	290
	10m	10	300	25	300	20	310	5	60
	底層	15	350	15	340	10	30	10	100
St.36	表層	20	40	15	60	5	330	20	300
	5m	10	50	15	100	5	40	10	40
	10m	10	60	15	80	15	40	20	20
	底層	15	60	15	20	10	60	20	10
St.29	表層	5	320	15	80	15	350	10	280
	5m	5	50	5	230	5	330	10	20
	10m	5	30	5	340	10	300	5	270
	底層	0	340	5	320	15	300	5	280

九州電力資料		1回目	2回目	3回目	4回目
風向・風速(m/s)		WSW・2.2	W・3.0～3.1	W・3.9	WNW～NNE・1.4～2.9
出力(MW)	1号機	－	－	－	－
	2号機	－	－	－	－
	3号機	1,203	1,203	1,202	1,202
	4号機	－	－	－	－
1～4号機の合計放水量(1時間あたり平均値)			166.1 m^3/s		

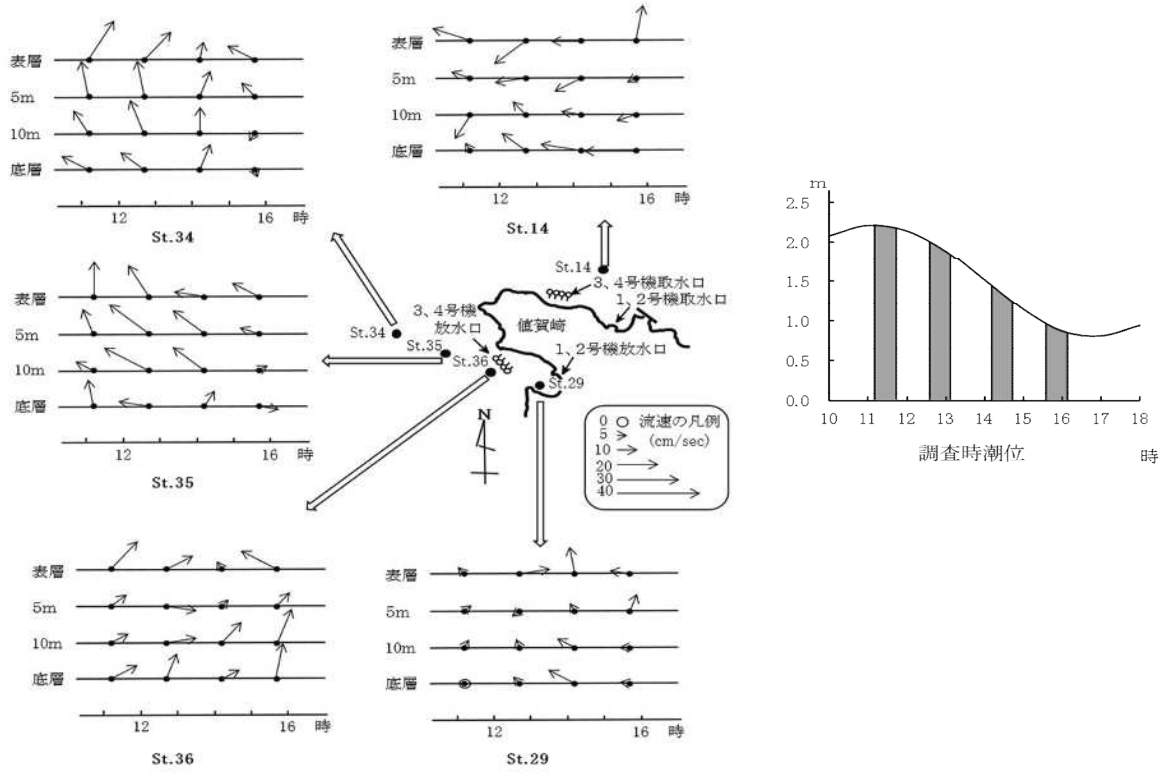


図4　夏季流動(流向・流速)調査結果

表4-1 夏季水質調査結果

（令和7年7月29日）

項目＼調査点	取水口側 St.14 (1、2号機 取水口付近)	放水口側 St.29 (1、2号機 放水口付近)	放水口側 St.36 (3、4号機 放水口付近)	放水口側 St.35 (3、4号機 放水口沖)	放水口側 St.34 (3、4号機 放水口沖)
水温 (℃)	24.7 ～ 26.1	25.5 ～ 26.9	24.3 ～ 26.0	24.1 ～ 26.0	24.8 ～ 25.9
pH	8.09 ～ 8.10	8.10 ～ 8.11	8.10 ～ 8.12	8.10 ～ 8.12	8.10 ～ 8.13
DO (mg/L)	6.89 ～ 7.10	6.90 ～ 7.15	6.71 ～ 7.05	6.66 ～ 7.06	6.96 ～ 7.02
濁度 (mg/L)	0.2 ～ 0.4	0.3 ～ 0.4	0.3 ～ 0.5	0.3 ～ 0.7	0.3 ～ 0.9
ｸﾛﾛﾌｨﾙ-a (μg/L)	0.43 ～ 2.14	1.31 ～ 2.13	0.53 ～ 1.21	0.77 ～ 1.23	0.38 ～ 1.11
水深(m)	22	12	23	36	41

表示は、0.3(表層),5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲〔最低～最高〕を示す。

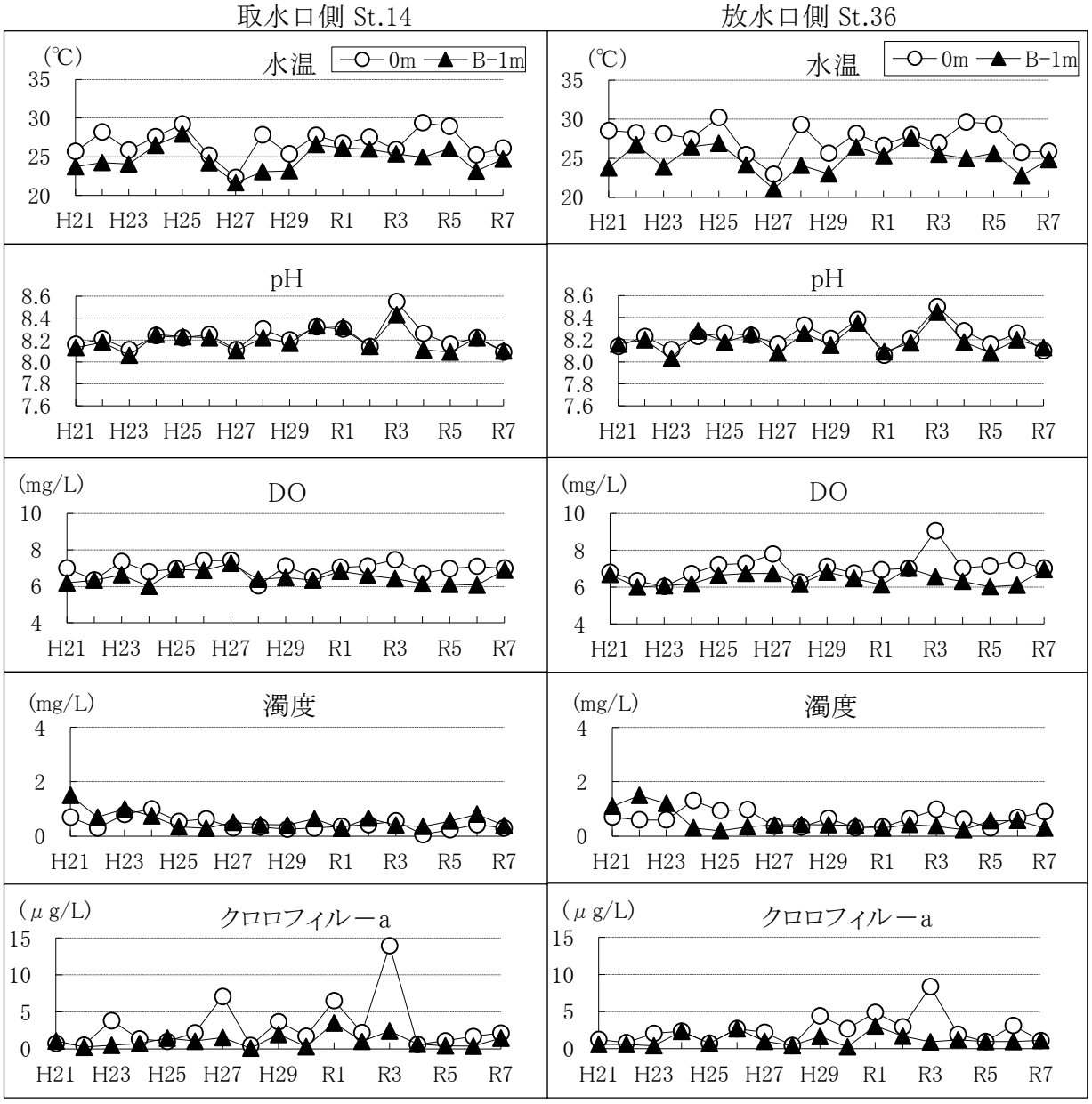


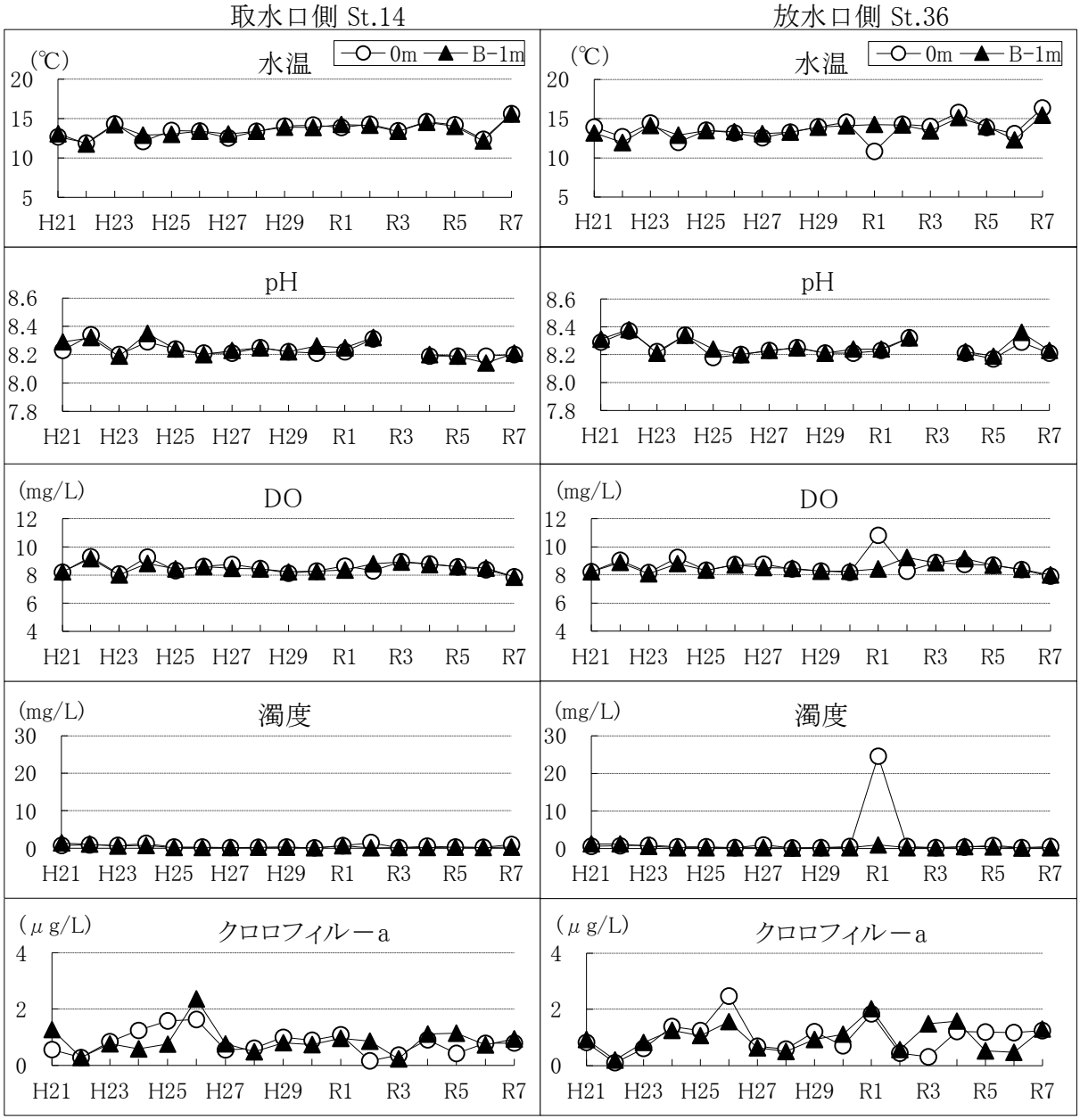
図5-1 夏季水質調査の経年変化

表4-2 冬季水質調査結果

（令和8年1月19日）

項目＼調査点	取水口側 St.14（1、2号機 取水口付近）	放水口側 St.29（1、2号機 放水口付近）	St.36（3、4号機 放水口付近）	St.35（3、4号機 放水口沖）	St.34（3、4号機 放水口沖）
水温 (℃)	15.6 ～ 15.6	15.6 ～ 15.6	15.5 ～ 16.4	15.4 ～ 16.3	15.6 ～ 15.8
pH	8.18 ～ 8.21	8.23 ～ 8.24	8.21 ～ 8.23	8.18 ～ 8.22	8.18 ～ 8.23
DO (mg/L)	7.86 ～ 7.93	7.87 ～ 7.93	7.91 ～ 8.09	7.89 ～ 8.04	7.84 ～ 7.94
濁度 (mg/L)	0.3 ～ 1.0	0.2 ～ 0.4	0.2 ～ 0.5	0.2 ～ 0.4	0.3 ～ 0.4
ｸﾛﾛﾌｨﾙ-a (μg/L)	0.80 ～ 1.15	0.94 ～ 1.13	1.24 ～ 1.31	1.06 ～ 1.27	0.92 ～ 1.42
水深(m)	24	14	23	33	41

表示は、0.3(表層),5,10,B-1(底層)mの測定値の範囲〔最低～最高〕を示す。



※R3のpHについては、機器に不具合があることが判明したため、冬季の値は採用しない。

図5-2 冬季水質調査の経年変化

表5　夏季底質調査結果

（令和7年7月29日）

調査点(St.)		取水口側	放水口側								
		14	6	14A	15	17	18	29	33	36	39
COD（mg／g乾泥）		2.0	1.2	1.6	3.9	3.9	2.0	2.7	3.6	2.1	2.2
粒度組成（%）	礫（2mm以上）	1	1	2	9	6	27	11	11	40	28
	粗　砂（2～0.425mm）	23	17	50	19	13	42	16	16	42	50
	細　砂（0.425～0.075mm）	73	69	45	50	61	27	57	57	8	19
	シルト・粘土（0.075mm以下）	3	14	4	22	20	3	16	16	11	3

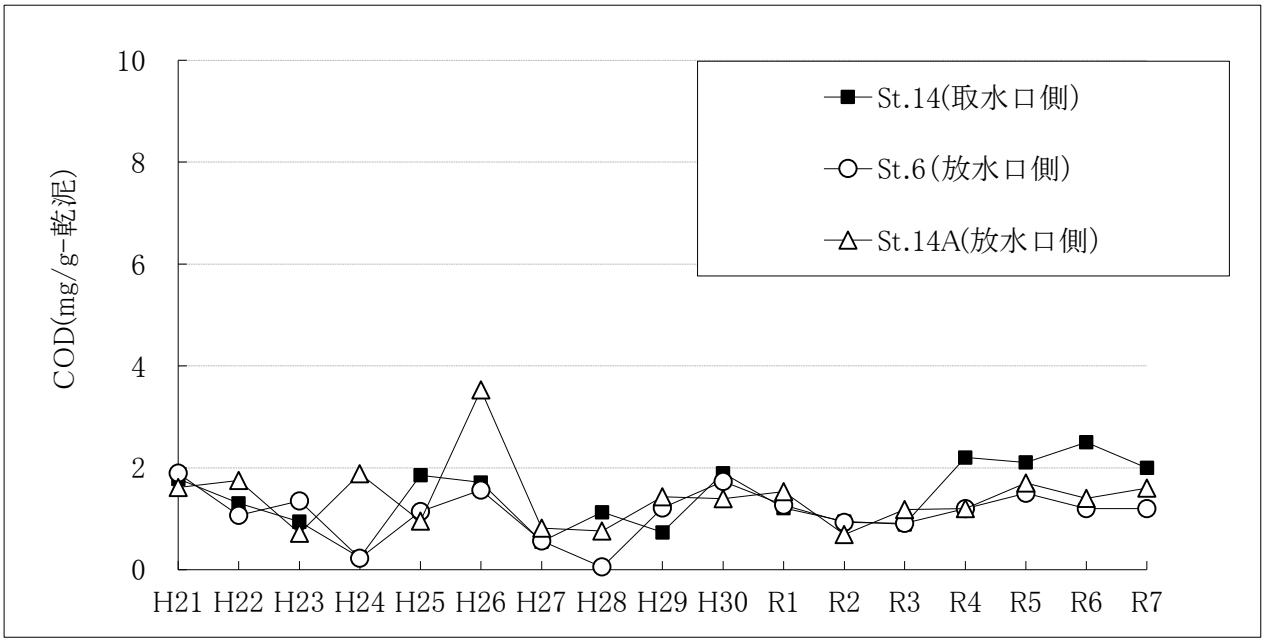


図6 夏季底質CODの経年変化

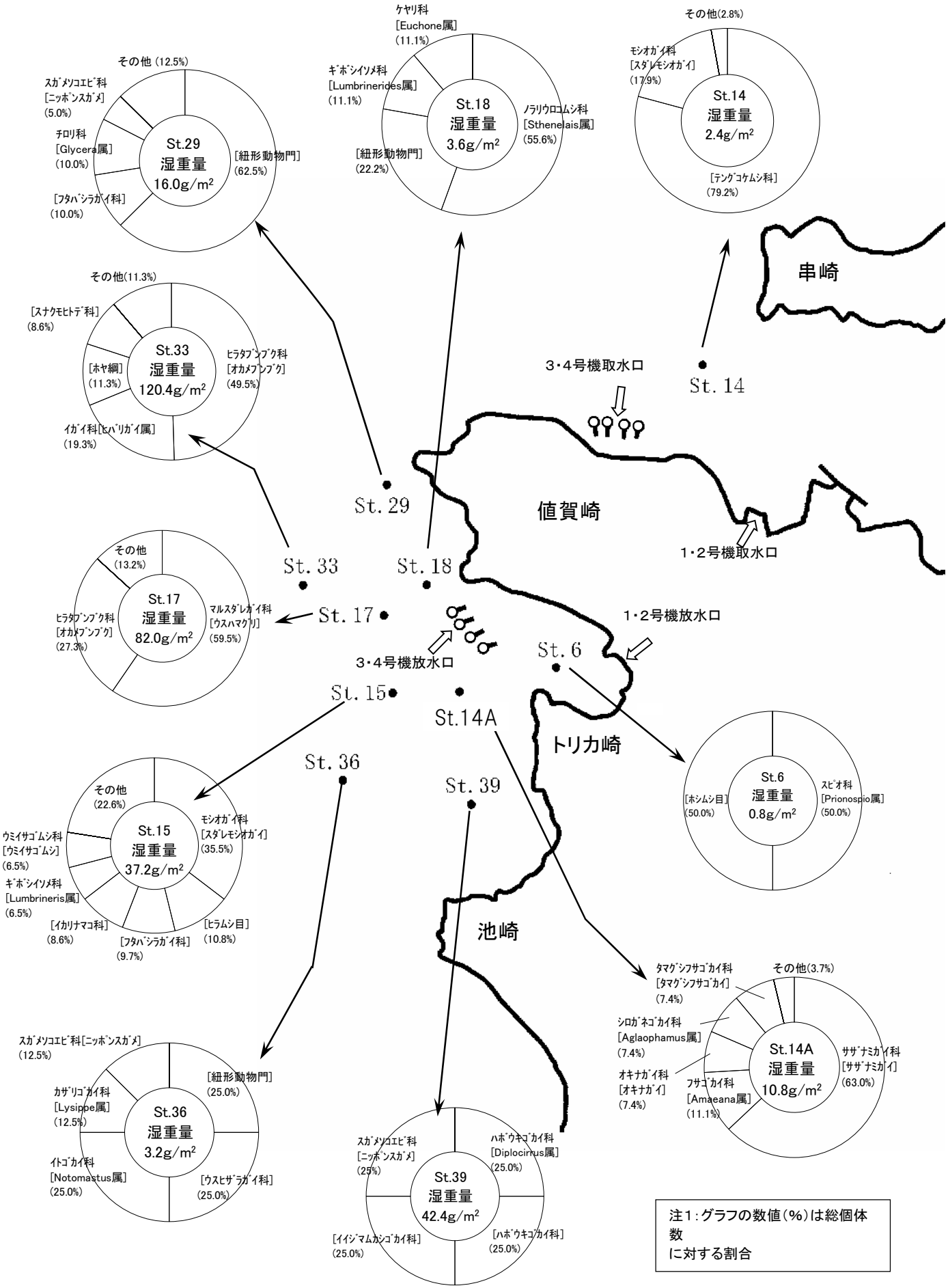


図7　夏季底生生物調査（令和7年7月29日）

表6-1 夏季付着生物調査結果

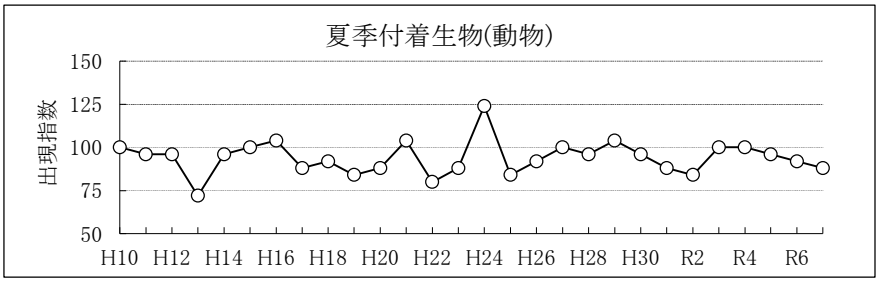
潮間帯付近の動物　　調査年月日：令和7年8月21日～8月22日

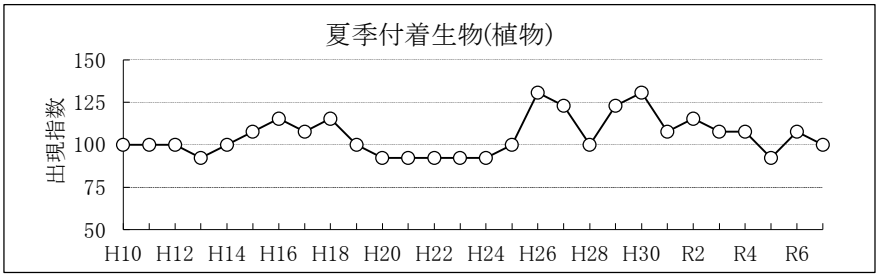
種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ科	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ									r	
				ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	r	r								
軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾆｼｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ				r		r				
				ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	r	c	r	c		r	r	c	r	r
			ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科				r		r	r	r		
	ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ﾂﾀﾉﾊ科	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ		r		c	r	r	c	r		
				ﾖﾒｶﾞｶｻ	r			c	r	c	r	c		r
			ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ	r			r	c			r		
			ﾆｼｷｳｽﾞ科	ｲｼﾀﾞﾀﾐ						r	c	r		
				ｸﾏﾉｺｶﾞｲ						r	r			
			ﾘｭｳﾃﾝ科	ｽｶﾞｲ				r					r	
			ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｶﾞｲ						r	c		r	
		ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	c	c	cc	cc	c	c	c	c	c	c
				ｺﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞ(被度%)				r						
				ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科						r	c	r	r	
			ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ			r			r		r		
		ﾊﾞｲ目	ｱｸｷｶﾞｲ科	ﾚｲｼｶﾞｲ	r			r				r		
			ｱｸｷｶﾞｲ科	ｲﾎﾞﾆｼ	r	c	c	r	r	r	r	r		c
			ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ						r	r			
	ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ(被度%	r	cc	cc	cc	r	r	r		r	r
		ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	ｹｶﾞｷ	r			cc	cc			r	r	
		ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科								r		
環形動物門	ｺﾞｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ(被度%)	r	r	r	r		r	r	r	r	r
節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞｶﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ(被度%)	r	c	r	c		r	r	r	c	r
			ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ(被度%)	cc	r	r					r	r	r
			ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ(被度%)	cc	cc	r	r	r			cc	r	r
棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ	r	c	r	c						

潮間帯付近の植物　　調査年月日：令和7年8月21日～8月22日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属	r	r							r	
		ﾐﾙ目	ﾐﾙ科	ﾐﾙ属	r			r				r		
褐藻植物門	同形世代綱	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科	ｳﾐｳﾁﾜ属						r				
				ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科								r		
	異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ	r	c	r	r	r			r	r	r
		ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ	r	r				r			r	
	円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ	r	r	r	c		r		r		r
				ｳﾐﾄﾗﾉｵ	r	r	c	r				r	r	r
				ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属						r				
紅藻植物門	真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	r	r	r	r		r	r	r	r	r
				ﾃﾝｸﾞｻ科	r			r		c	r	c		c
		ｶｸﾚｲﾄ目	ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	r	c	c	cc	cc	cc	r	cc	r	cc
				ｻﾝｺﾞﾓ亜科	c	c	r	r	c	c		c		r

注1：「r：極少量見られる　c：少量見られる　cc：普通に見られる　ccc：多く見られる」
注2：上表の動物のうち個体数として計測することが困難な種類は被度（%）で測定し、種類の欄に「(被度%)」と記載





出現指数は平成10年度の総出現種類数（動物;25種、植物;13種）を100としている

図8-1 夏季付着生物の出現指数の経年変化

表6-2 冬季付着生物調査結果

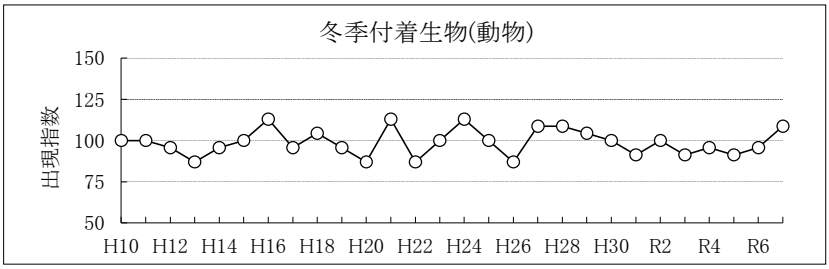
潮間帯付近の動物　　調査年月日：令和8年2月19日～2月21日

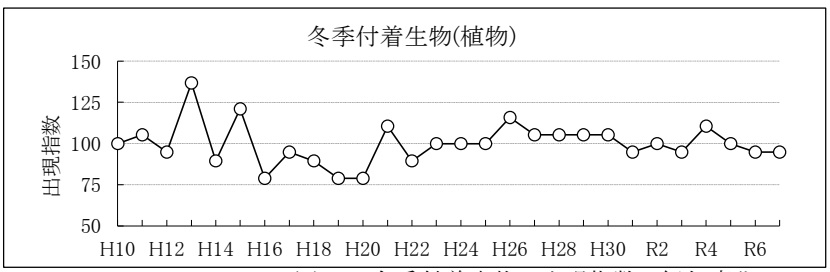
種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	ｳﾒﾎﾞｼｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ科	ﾓｴｷﾞｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ						r	r			
				ｳﾒﾎﾞｼｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ							r			
			ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ科	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ						r			r	r
				ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	r	r	r	r		r				c
軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾆｼｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ						r		r		
				ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	r	r	r	c	r		r	c	r	c
			ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科			r	r	r	r	r	r		
	ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ﾂﾀﾉﾊ科	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	r	c		r	c	r	c	c	r	r
				ﾖﾒｶﾞｶｻ	r	r		c	c	c	c	c	r	c
			ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ	r	r		r	c	r	r	r	c	
				ｶﾓｶﾞｲ								r		r
			ﾆｼｷｳｽﾞ科	ｲｼﾀﾞﾀﾐ						r	r	r		
				ｸﾛﾂﾞｹｶﾞｲ							r			
				ｸﾎﾞｶﾞｲ						r				
				ｸﾏﾉｺｶﾞｲ						r		r		
				ｵｵｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ										
			ﾘｭｳﾃﾝ科	ｽｶﾞｲ									r	
			ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｵﾌﾞﾈ								r		
				ｱﾏｶﾞｲ						r	c		r	
		ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科	ﾀﾏｷﾋﾞ					r	c	c	c	c	r
				ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	ccc	ccc	ccc	cc	cc	cc	cc	r	cc	c
				ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科									r	c
			ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ		r				r	r	r		
		ﾊﾞｲ目	ｱｸｷｶﾞｲ科	ｲﾎﾞﾆｼ	c	c	c	r	c	r	r	r	r	c
			ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ						r	r	r	r	
	ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ(被度%)	r	c	cc	cc	r	r	c		r	c
		ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科	ｹｶﾞｷ				cc	cc				r	
		ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科	r			r						r
環形動物門	ｺｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺｶｲ科	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ(被度%)	r	r		r	r	r	r	r	r	r
節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞﾄﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ(被度%)	r	c	c	c	r	r	r	r	c	r
			ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ(被度%)	cc	r	r	r		r			r	r
			ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ(被度%)	cc	c	cc	r	r		r	cc	r	r
棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ	r	c							r	

潮間帯付近の植物　　調査年月日：令和8年2月19日～2月21日

種類					調査側線									
					A-3	B-3	B-4	C-1	C-2	D-1	D-3	E-1	E-2	E-3
緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属	r	r						r	r	r
		ﾐﾙ目	ﾐﾙ科	ﾐﾙ属					r			r		
褐藻植物門	同形世代綱	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科	ｳﾐｳﾁﾜ		r						r		
				ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科						r		r		
	異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ﾈﾊﾞﾘﾓ科	ｼﾜﾉｶﾜ		r	r	r	r	r	r	r		r
			ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ	r	r	r	r	r			c	r	r
		ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ	r	r			r	r			r	
			ｶﾔﾓﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾉﾘ					r	r		r		
				ﾊﾊﾞﾉﾘ類	r	c	r	r	r	r		r	r	c
	円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ	r	r		c	c	r		c		r
				ｳﾐﾄﾗﾉｵ	r	r	r	r				r	r	r
				ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属					r			r		
紅藻植物門	真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	r	r	r	r		r	r	r	r	r
				ﾃﾝｸﾞｻ科	r		r	r		c		r		r
		ｶｸﾚｲﾄ目	ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	c	cc	c	cc	cc	cc	r	cc	r	cc
				ｻﾝｺﾞﾓ亜科	c	c	r	r	cc	c		c		r
			ﾌﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾌﾉﾘ	r			r		r	r	r	r	
		ｲｷﾞｽ目	ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科	ｿｿﾞ属						c		r		

注1：「r：極少量見られる　c：少量見られる　cc：普通に見られる　ccc：多く見られる」
注2：上表の動物のうち個体数として計測することが困難な種類は被度（%）で測定し、種類の欄に「(被度%)」と記載





出現指数は平成10年度の総出現種類数（動物;25種、植物;13種）を100としている

図8-2 冬季付着生物の出現指数の経年変化

Ⅳ　温排水影響調査結果（九州電力実施分）

＜令和７年度＞

Ⅳ　目　次

１　調査概要……Ⅳ－１

２　調査実施状況……Ⅳ－２

３　調査結果の要約……Ⅳ－４

４　調査結果
（１）流況……Ⅳ－８
（２）水温……Ⅳ－９
（３）水質……Ⅳ－27
（４）底質……Ⅳ－27
（５）プランクトン……Ⅳ－28
（６）潮間帯生物……Ⅳ－28

５　経年変化……Ⅳ－29

1　調査概要

玄海原子力発電所周辺海域の令和７年度調査実施概要は下表のとおりであり、調査は「玄海原子力発電所周辺海域環境調査計画(令和７年度)」に基づき実施した。

調査項目		春　季 R7.5.27、5.28	夏　季 R7.8.14～8.30	秋　季 R7.11.22、11.23	冬　季 R8.2.12～3.2
流況		－	○ (R7.8.14～8.30)	－	○ (R8.2.12～3.2)
水温		○ (R7.5.27)	○ (R7.8.23)	○ (R7.11.22)	○ (R8.2.17)
水質		○ (R7.5.28)	○ (R7.8.24)	○ (R7.11.23)	○ (R8.2.19)
底質		－	○ (R7.8.15)	－	○ (R8.2.13)
プランクトン		－	○ (R7.8.24)	－	○ (R8.2.19)
潮間帯生物		－	○ (R7.8.20～8.22)	－	○ (R8.2.19～21、3.2)
発電所運転状況	１号機	平成 27 年４月 27 日　運転終了			
	２号機	平成 31 年４月９日　運転終了			
	３号機	第 18 回定期検査中	通常運転	通常運転	通常運転
	４号機	通常運転	第 17 回定期検査中	通常運転	通常運転

定格熱出力一定運転導入時期
３号機：平成15年３月７日
４号機：平成14年11月12日

(参考)
１号機：平成23年12月１日から停止中
２号機：平成23年１月29日から停止中
３号機：令和７年３月28日から
令和７年６月15日まで停止
４号機：令和７年７月27日から
令和７年10月20日まで停止

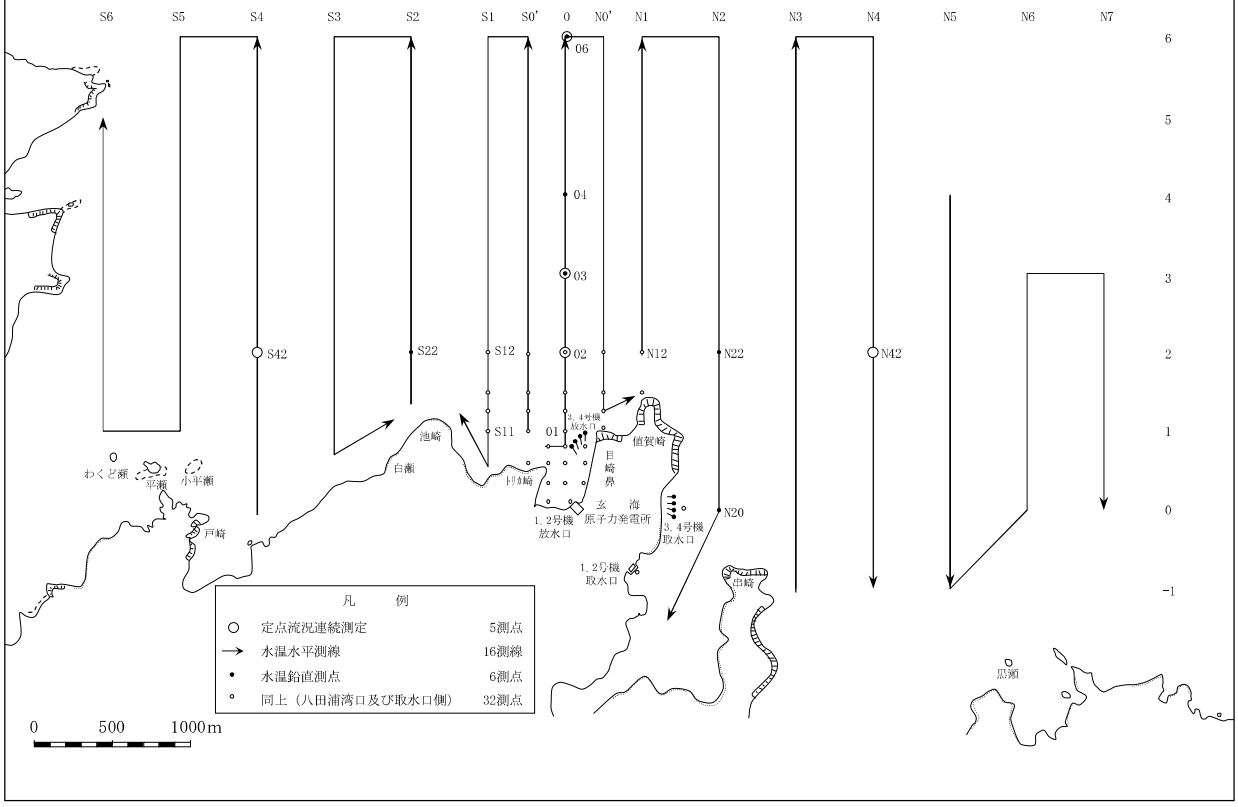
２　調査実施状況

調査測定点位置を第１図及び第２図に示す。

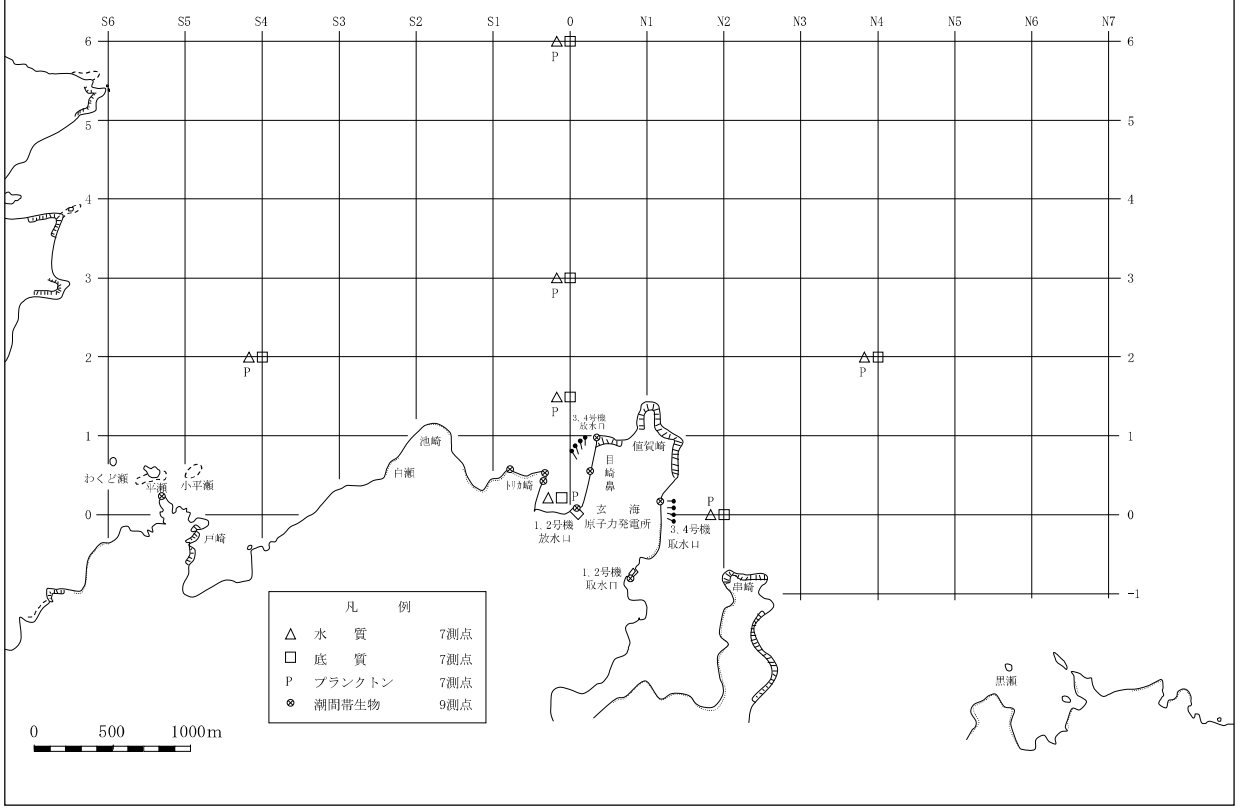
調査項目	内　　容	調査方法及び使用機器	点数	観　測　層
流　況	流　　向 流　　速	定点流況 15 日間連続測定 （JFE ｱﾚｯｸ（現 JFE ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ）INFINITY-EM 電磁流速計）	５ 測点	海面下　２ｍ層
水　温	水平分布	曳航式による連続測定 （JFE ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ）曳航式水温塩分測定装置(ADL-7)	１６ 測線	海面下　１ｍ層
	鉛直分布	電気伝導度水温水深計(多項目水質計)による測定 （JFE ｱﾄﾞﾊﾞﾝﾃｯｸ）多項目水質計(ASTD-102)	３８ 測点	海面下 0.3、１～10ｍは１ｍ間隔、10ｍ以深は５ｍ間隔、最深は海底上１ｍ
水　質	バンドーン採水器による採水			海面下 0.5、３、８、20ｍの４層 ただし、放水口周辺の２測点は、海面下 0.5、３、８ｍ（水深が８ｍ以浅の場合は、海底上１ｍ）の３層
	水　　温	電気伝導度水温水深計による測定	７ 測点	
	塩　　分	サリノメーター法		
	水素ｲｵﾝ濃度	ガラス電極法		
	溶存酸素量	よう素滴定法		
	化学的酸素要求量	ｱﾙｶﾘ性過ﾏﾝｶﾞﾝ酸ｶﾘｳﾑによる酸素消費量		
	濁　　度	カオリン標準溶液による吸光光度法		
	ｸﾛﾛﾌｨﾙｰa	ユネスコ法による吸光光度法		
底　質	スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥			表層土を３回採泥し、混合して試料とする。
	化学的酸素要求量	過マンガン酸カリウムによる酸素消費量	７ 測点	
	粒　　度	ふるい分け及び沈降法		
プランクトン	植　　物	バンドーン採水器により 10ℓ採水し 48 時間沈殿	７ 測点	海面下 0.5、３、８、15ｍの４層 ただし、放水口周辺の２測点は、海面下 0.5、３、８ｍ（水深が８ｍ以浅の場合は、海底上１ｍ）の３層
	動　　物	北原式閉鎖型定量ネット(NXX13)		海面下０～10、10～20ｍの２層 ただし、放水口周辺の２測点は、海面下０～10ｍ(水深が 10ｍ以浅の場合は、海面下０～海底上１ｍ）の１層
潮間帯生物	植　　物 動　　物	ベルトトランセクト法 岸側から海方向にメジャーを伸ばして、方形枠（50cm×50cm）を原則として連続的に設定し、各枠内の出現種を調査	９ 測点	潮間帯

注）１、２号機の取放水方式は「深層取水」・「表層放流」としている。
　　３、４号機の取放水方式は「深層取水」・「水中放流」としている。

第１図　周辺海域環境調査測定点位置図
（流況、水温調査）



第２図　周辺海域環境調査測定点位置図
（水質、底質、プランクトン、潮間帯生物調査）



3　調査結果の要約

（1）春　季

a　水　温

（a）水平分布

18～19℃台の範囲にあり、放水口前面に18～19℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

（b）鉛直分布

17～19℃台の範囲にあり、放水口から沖合にかけて下層に向かうにつれて降温していた。

b　水　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 水温　：18.0～19.8℃
- 塩分　：32.77～34.31
- 水素イオン濃度　：8.1～8.2
- 溶存酸素量　：7.7～8.8 mg/ℓ
- 化学的酸素要求量：0.3～0.5 mg/ℓ
- 濁度　：定量限界(0.5度未満)
- クロロフィルーａ：0.6～1.9μg/ℓ

c　まとめ

温排水拡散域は認められず、水質は過去の調査結果と同程度であった。

（2）夏　季

a　流　況

流向は、放水口前面の測点 02 では北から北北東と西及び北北西を主体とした流れがみられ、その他の測点では北から東及び西を主体とした流れがみられた。

流速は、海域全体で 0～90 ㎝/s 台の範囲にあり、全般的に沖合の北側海域でやや速く、陸側で０～10㎝/s 台の流れが主にみられた。

これは、過去の調査結果と同程度であった。

b　水　温

（a）水平分布

27～30℃台の範囲にあり、放水口前面に 28～29℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

（b）鉛直分布

24～29℃台の範囲にあり、放水口から沖合にかけて下層に向かうにつれて降温していた。

c　水　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温　：27.0～29.9℃
・塩分　：32.84～33.53
・水素イオン濃度　：8.1～8.2
・溶存酸素量　：6.8～7.2 ㎎/ℓ
・化学的酸素要求量：0.4～0.5 ㎎/ℓ
・濁度　：定量限界(0.5 度未満)
・クロロフィルｰａ：0.3～2.5μg/ℓ

d　底　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・化学的酸素要求量　：1.3～3.4 ㎎/g 乾泥
・粒度（礫分）：0%　（粗砂分）：1～45%
（細砂分）：30～75%　（ｼﾙﾄ＋粘土＋ｺﾛｲﾄﾞ分）：22～57%

e　プランクトン

（a）植　物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量：取水口側　15 mℓ/m^3　放水口側　20 mℓ/m^3
・種類数：取水口側　36 種　放水口側　38 種
・細胞数：取水口側　9.8×10^4細胞/ℓ　放水口側　11.3×10^4細胞/ℓ

（b）動　物

取水口側の沈殿量が多かった。その他の項目は過去の調査結果と同程度であった。

・沈殿量：取水口側　34.8 mℓ/m^3　放水口側　26.8 mℓ/m^3
・種類数：取水口側　36 種　放水口側　36 種
・個体数：取水口側　32,550 個体/m^3　放水口側　32,800 個体/m^3

f　潮間帯生物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・出現種類数：植物 32 種、動物 49 種

g　まとめ

温排水拡散域は認められず、流況、水質、底質、潮間帯生物は過去の調査結果と同程度であった。プランクトンは、動物プランクトンの沈殿量が過去の調査結果より多かった。その他の項目については、過去の調査結果と同程度であった。

（３）秋　季

ａ　水　温

（ａ）水平分布

20～22℃台の範囲にあり、放水口前面から値賀崎前面にかけて22℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められなかった。

（ｂ）鉛直分布

20～22℃台の範囲にあり、放水口前面周辺を除くと上層と下層でほぼ等温状態にあった。

ｂ　水　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

・水温　：20.8～21.3℃
・塩分　：33.99～34.19
・水素イオン濃度　：8.1～8.2
・溶存酸素量　：7.1～7.8 ㎎/ℓ
・化学的酸素要求量：0.2～0.4 ㎎/ℓ
・濁度　：定量限界(0.5度未満)
・クロロフィルーａ：0.6～1.1μg/ℓ

ｃ　まとめ

温排水拡散域は認められず、水質は過去の調査結果と同程度であった。

（4）冬　季

a　流　況

流向は、放水口前面の測点 02 では北と西南西から西を主体とした流れがみられ、その他の測点では北から東及び南から西を主体とした流れがみられた。

流速は、海域全体で 0～80 ㎝/s 台の範囲にあり、全般的に沖合の北側海域でやや速く、陸側で 0～10㎝/s 台の流れが主にみられた。

これは、過去の調査結果と同程度であった。

b　水　温

（a）水平分布

14～16℃台の範囲にあり、放水口前面に 16℃台の水温が分布しており、温排水拡散域は認められた。

（b）鉛直分布

14～16℃台の範囲にあり、放水口前面周辺を除くと上層と下層でほぼ等温状態にあった。

c　水　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 水温　：14.3～15.2℃
- 塩分　：34.40～34.58
- 水素イオン濃度　：8.2
- 溶存酸素量　：8.5～9.2 ㎎/ℓ
- 化学的酸素要求量：0.3～0.5 ㎎/ℓ
- 濁度　：定量限界(0.5 度未満)
- クロロフィルｰａ：0.3～1.5μg/ℓ

d　底　質

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 化学的酸素要求量　：1.4～4.3 ㎎/g 乾泥
- 粒度（礫分）　：　0～ 8%　（粗砂分）　：　1～64%
  （細砂分）　：18～76%　（ｼﾙﾄ＋粘土＋ｺﾛｲﾄﾞ分）　：10～48%

e　プランクトン

（a）植　物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 沈殿量：取水口側　23 ㎖/m^3　放水口側　12 ㎖/m^3
- 種類数：取水口側　19 種　放水口側　18 種
- 細胞数：取水口側　6.9×10^4細胞/ℓ　放水口側　7.6×10^4細胞/ℓ

（b）動　物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 沈殿量：取水口側　6.4 ㎖/m^3　放水口側　7.6 ㎖/m^3
- 種類数：取水口側　15 種　放水口側　17 種
- 個体数：取水口側　9,400 個体/m^3　放水口側　16,650 個体/m^3

f　潮間帯生物

各項目ともに過去の調査結果と同程度であった。

- 出現種類数：植物 36 種、動物 49 種

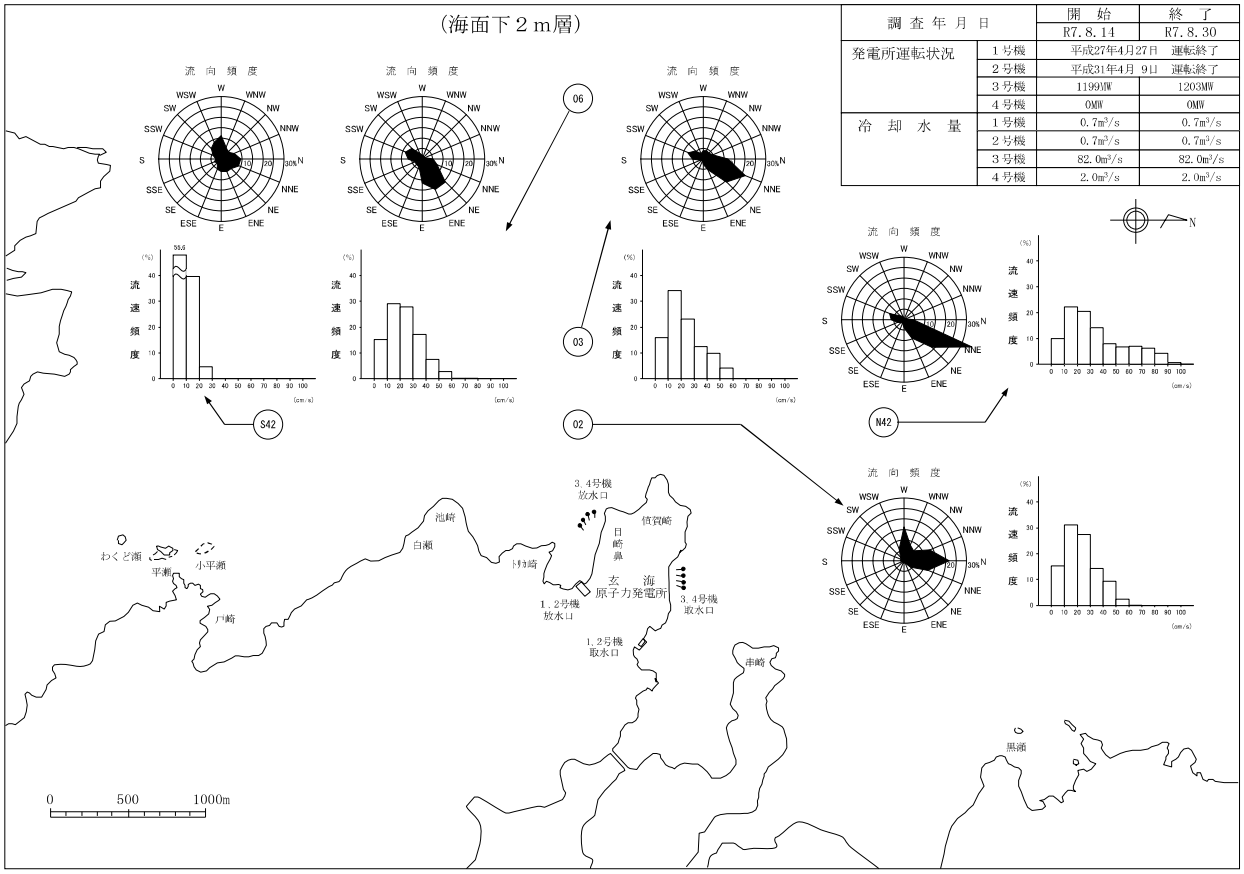
g　まとめ

温排水拡散範囲は放水口周辺に限られ、また、流況、水質、底質、プランクトン、潮間帯生物は過去の調査結果と同程度であった。

4　調査結果

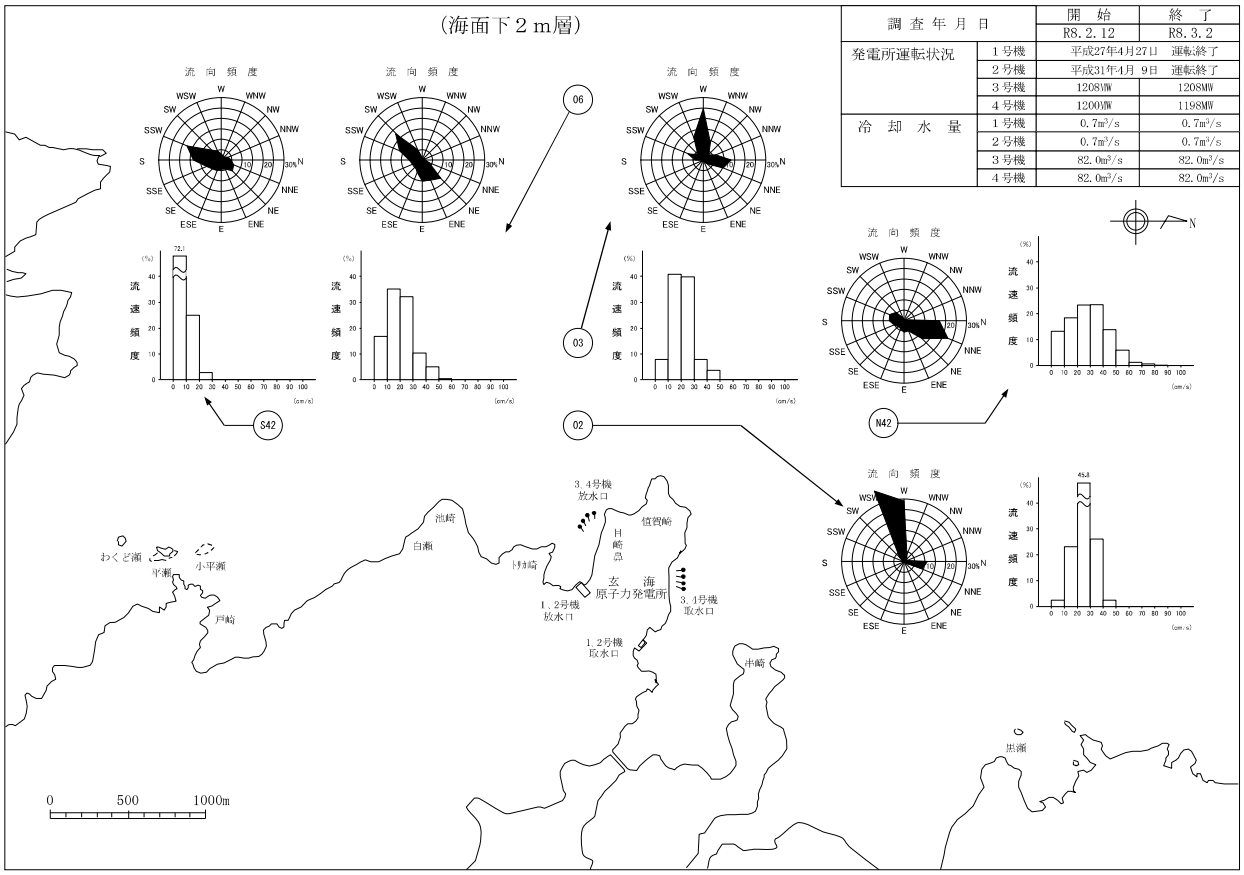
（1）流　況

a　夏　季



調査年月日		開始	終了
		R7.8.14	R7.8.30
発電所運転状況	1号機	平成27年4月27日　運転終了	
	2号機	平成31年4月 9日　運転終了	
	3号機	1199MW	1203MW
	4号機	0MW	0MW
冷却水量	1号機	0.7m³/s	0.7m³/s
	2号機	0.7m³/s	0.7m³/s
	3号機	82.0m³/s	82.0m³/s
	4号機	2.0m³/s	2.0m³/s

b　冬　季



調査年月日		開始	終了
		R8.2.12	R8.3.2
発電所運転状況	1号機	平成27年4月27日　運転終了	
	2号機	平成31年4月 9日　運転終了	
	3号機	1208MW	1208MW
	4号機	1200MW	1198MW
冷却水量	1号機	0.7m³/s	0.7m³/s
	2号機	0.7m³/s	0.7m³/s
	3号機	82.0m³/s	82.0m³/s
	4号機	82.0m³/s	82.0m³/s

（2）水　温

調査時諸元表

項目		時期 / 単位	春季 満潮時	春季 下げ潮時	春季 干潮時	夏季 満潮時	夏季 下げ潮時	夏季 干潮時
測定年月日		―	令和７年５月27日			令和７年８月23日		
測定時間		―	08：30～09：30	11：45～12：48	15：00～16：01	08：45～09：45	12：00～13：00	15：00～15：57
出力	１号機	MW	―	―	―	―	―	―
	２号機	MW	―	―	―	―	―	―
	３号機	MW	0	0	0	1200	1201	1200
	４号機	MW	1194	1194	1194	0	0	0
冷却水量	１号機	m^3／s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	２号機	m^3／s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	３号機	m^3／s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
	４号機	m^3／s	82.0	82.0	82.0	2.0	2.0	2.0
1、2号機取水口側水温		℃	17.9	18.6	19.4	30.4	31.1	31.6
1、2号機放水口側水温		℃	17.9	18.6	18.7	28.0	28.8	29.4
1、2号機取放水口水温差		℃	0.0	0.0	-0.7	-2.4	-2.3	-2.2
３号機取水口側水温		℃	17.8	18.2	18.6	27.7	27.8	27.9
３号機放水口側水温		℃	18.1	18.5	18.8	34.3	34.5	34.3
３号機取放水口水温差		℃	0.3	0.3	0.2	6.6	6.7	6.4
４号機取水口側水温		℃	17.8	18.3	18.6	27.8	28.0	28.1
４号機放水口側水温		℃	24.6	25.1	25.4	29.4	29.6	29.8
４号機取放水口水温差		℃	6.8	6.8	6.8	1.6	1.6	1.7
海象	気温	℃	17.8	21.0	23.5	30.8	34.6	34.6
	風向	―	S	NNE	N	SW	W	W
	風速	m／s	1.8	0.8	3.6	3.0	2.1	2.4
	海況	―	静穏	静穏	静穏	静穏	静穏	静穏
	潮位	cm	242～244～240	146～82	-6～-10～-5	257～260～258	174～118	41～36～38

注）1. 平成27年４月27日　１号機運転終了
　　2. 平成31年４月９日　２号機運転終了

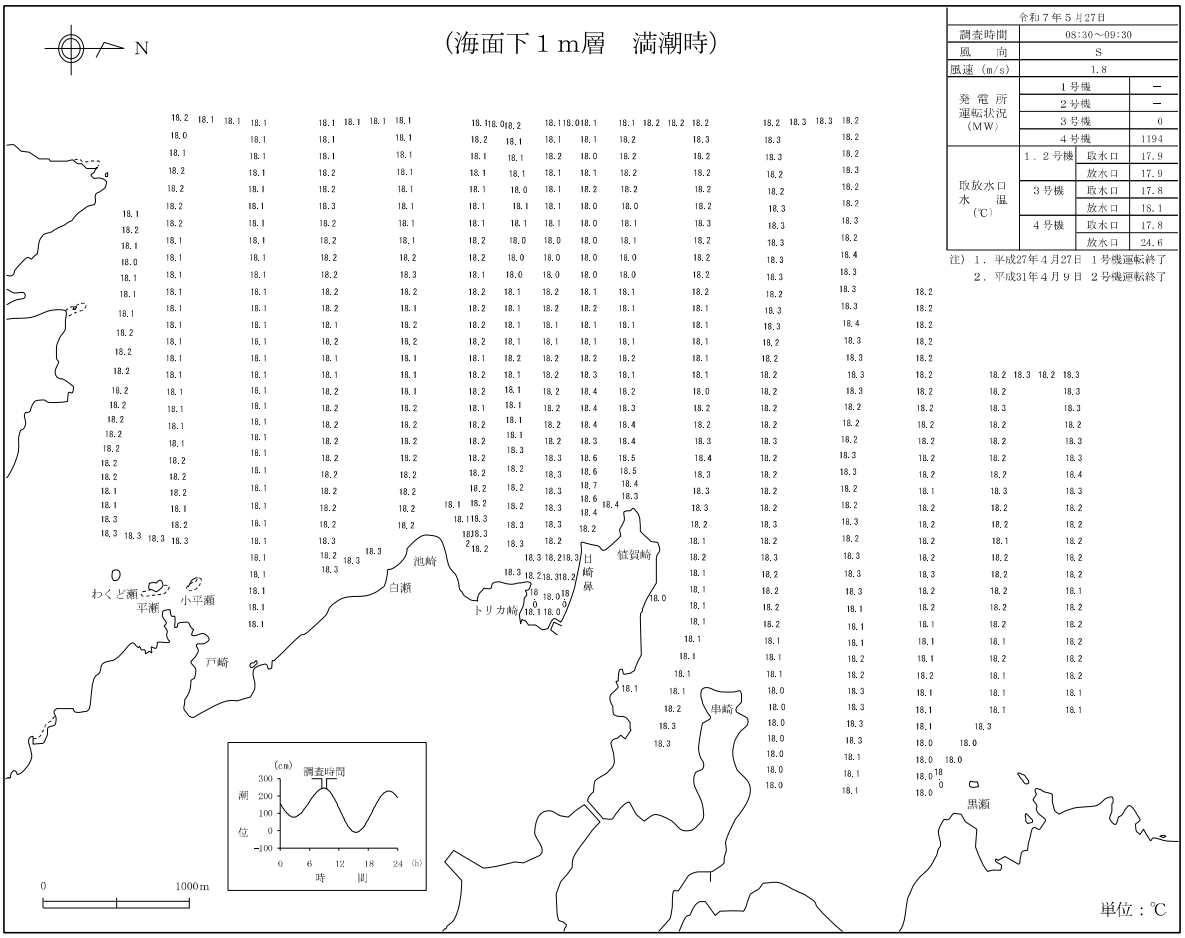
調査時諸元表

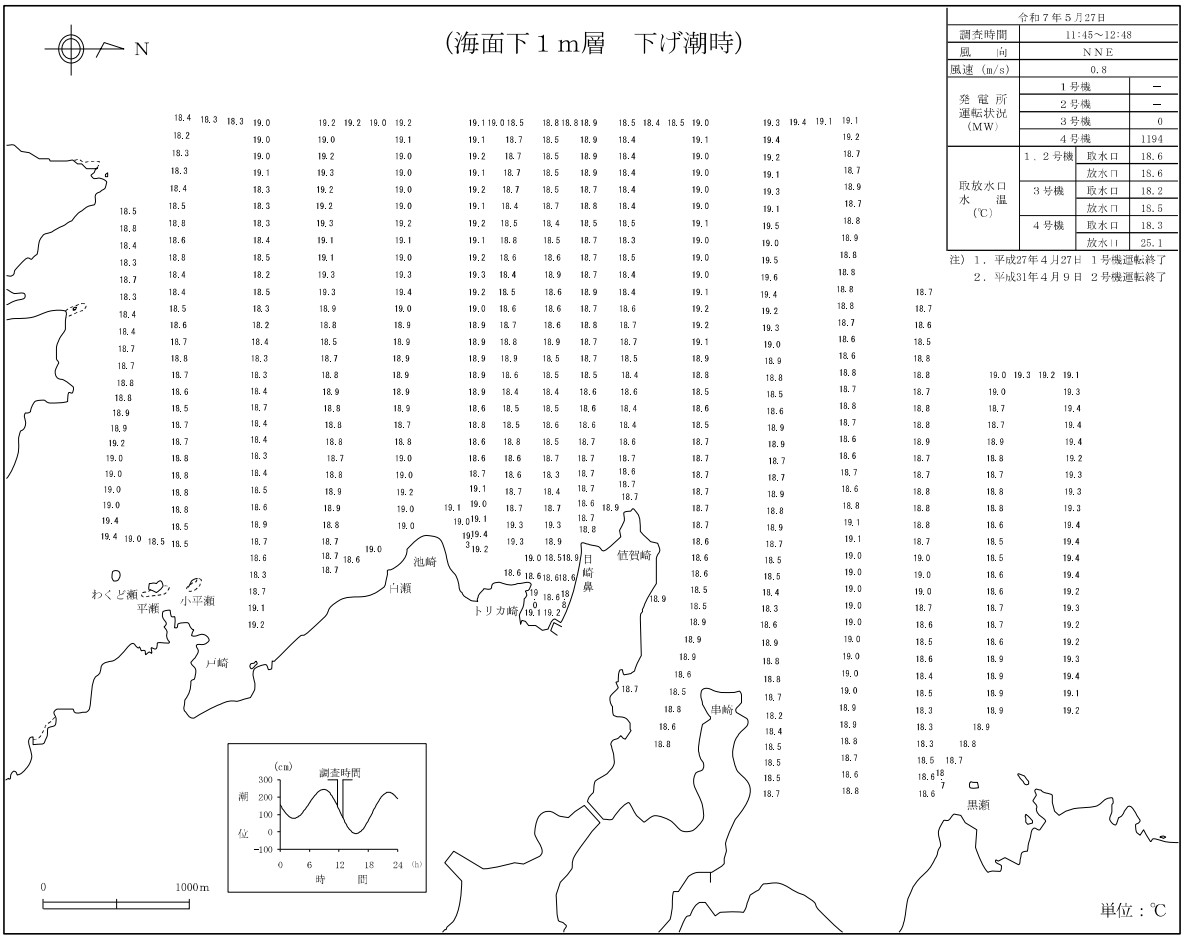
項目		時期 / 単位	秋季			冬季		
			満潮時	下げ潮時	干潮時	満潮時	下げ潮時	干潮時
測定年月日		―	令和７年11月22日			令和８年２月17日		
測定時間		―	10：15～11：23	13：00～14：05	15：30～16：34	09：30～10：49	12：20～13：20	15：00～15：58
出力	１号機	MW	―	―	―	―	―	―
	２号機	MW	―	―	―	―	―	―
	３号機	MW	1207	1209	1208	1207	1207	1206
	４号機	MW	1199	1199	1199	1199	1199	1199
冷却水量	１号機	m^3／s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	２号機	m^3／s	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7
	３号機	m^3／s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
	４号機	m^3／s	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0	82.0
1、2号機取水口側水温		℃	21.0	20.9	20.9	14.3	14.7	14.8
1、2号機放水口側水温		℃	20.7	20.9	20.5	14.3	14.7	14.8
1、2号機取放水口水温差		℃	-0.3	0.0	-0.4	0.0	0.0	0.0
３号機取水口側水温		℃	20.8	20.9	20.9	14.4	14.4	14.3
３号機放水口側水温		℃	27.7	27.8	27.8	21.3	21.3	21.2
３号機取放水口水温差		℃	6.9	6.9	6.9	6.9	6.9	6.9
４号機取水口側水温		℃	20.9	20.9	20.9	14.4	14.4	14.3
４号機放水口側水温		℃	27.6	27.6	27.6	21.2	21.2	21.1
４号機取放水口水温差		℃	6.7	6.7	6.7	6.8	6.8	6.8
海象	気温	℃	19.0	19.8	17.8	9.6	11.2	12.4
	風向	―	ＳＥ	ＷＳＷ	ＷＮＷ	ＥＮＥ	ＥＮＥ	ＮＥ
	風速	m／s	2.2	3.6	1.6	2.7	5.8	2.5
	海況	―	静穏	静穏	静穏	やや波あり	静穏	静穏
	潮位	cm	196～198～194	154～119	88～86～89	191～194～185	134～90	41～39～41

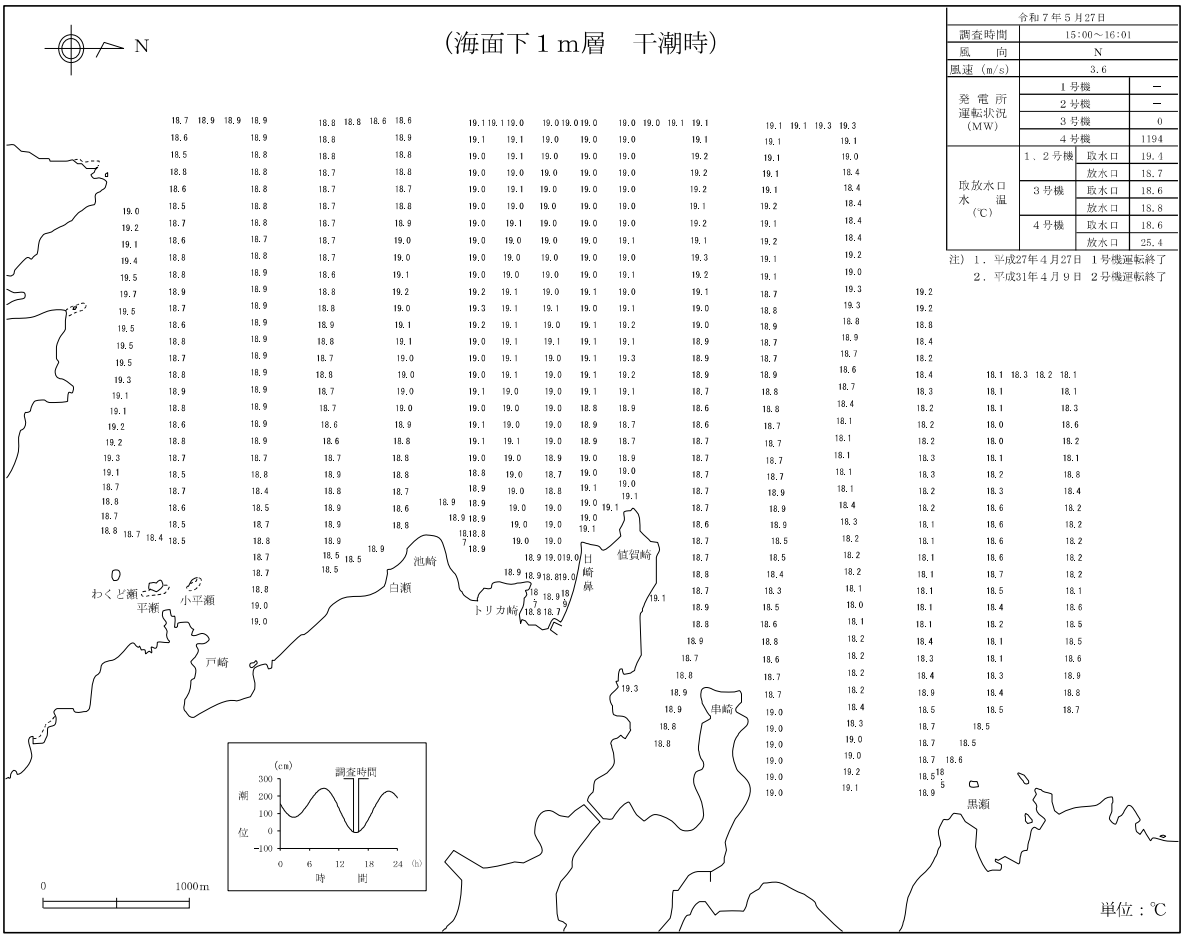
注）1. 平成27年４月27日　１号機運転終了
　　2. 平成31年４月９日　２号機運転終了

a　水温水平分布

（ａ）春　季


N
（海面下１ｍ層　満潮時）
令和７年５月27日
調査時間　08:30～09:30
風　向　S
風速（m/s）　1.8
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　0
４号機　1194
取放水口水温（℃）
１．２号機　取水口　17.9
放水口　17.9
３号機　取水口　17.8
放水口　18.1
４号機　取水口　17.8
放水口　24.6
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
平瀬
小平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
日崎鼻
笹貝崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位（cm）
時間（h）
0
1000m
単位：℃

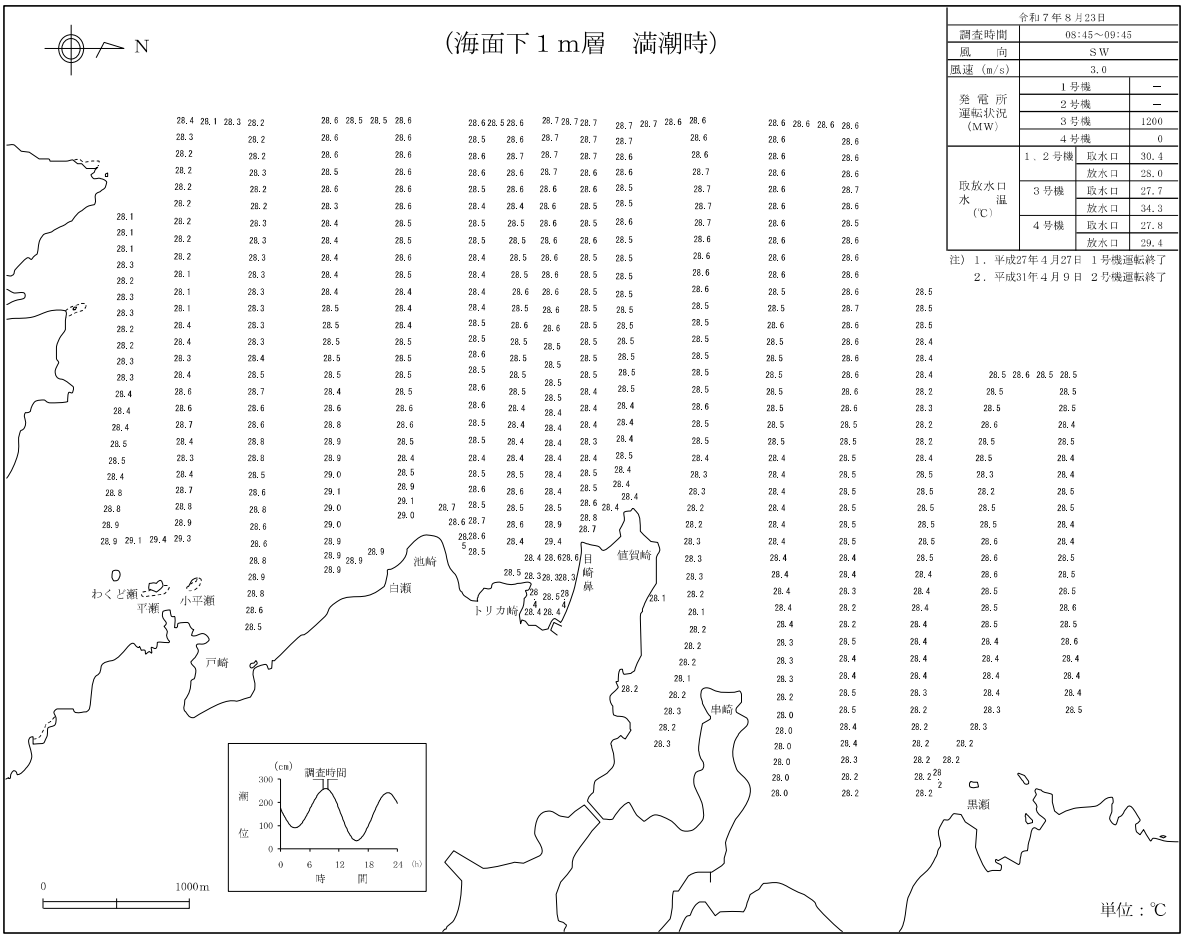

N
（海面下１ｍ層　下げ潮時）
令和７年５月27日
調査時間　11:45～12:48
風　向　NNE
風速（m/s）　0.8
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　0
４号機　1194
取放水口水温（℃）
１．２号機　取水口　18.6
放水口　18.6
３号機　取水口　18.2
放水口　18.5
４号機　取水口　18.3
放水口　25.1
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
平瀬
小平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
日崎鼻
笹貝崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位（cm）
時間（h）
0
1000m
単位：℃



令和７年５月27日		
調査時間	15:00～16:01	
風向	N	
風速（m/s）	3.6	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	0
	４号機	1194
取放水口水温（℃）	１、２号機 取水口	19.4
	１、２号機 放水口	18.7
	３号機 取水口	18.6
	３号機 放水口	18.8
	４号機 取水口	18.6
	４号機 放水口	25.4

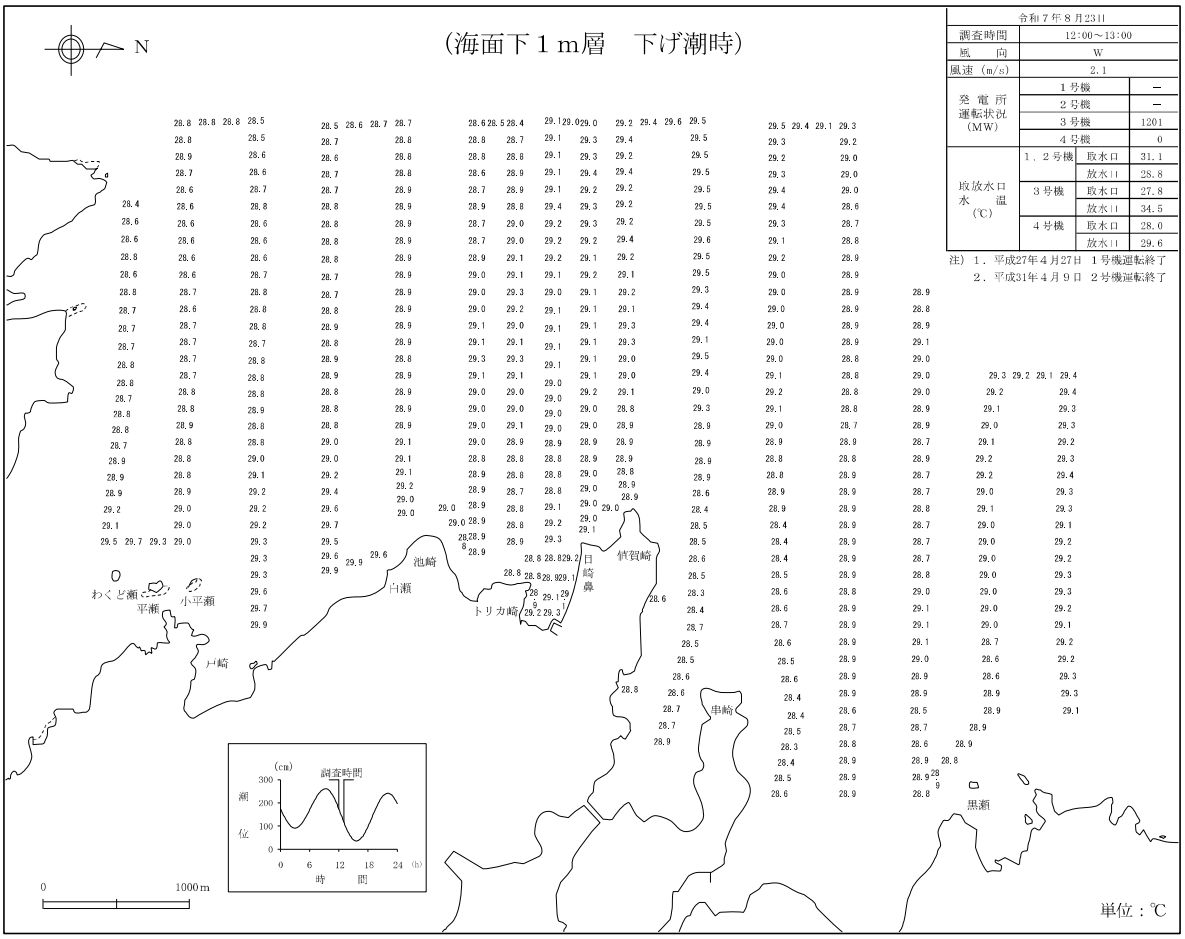
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了

（b）夏　季



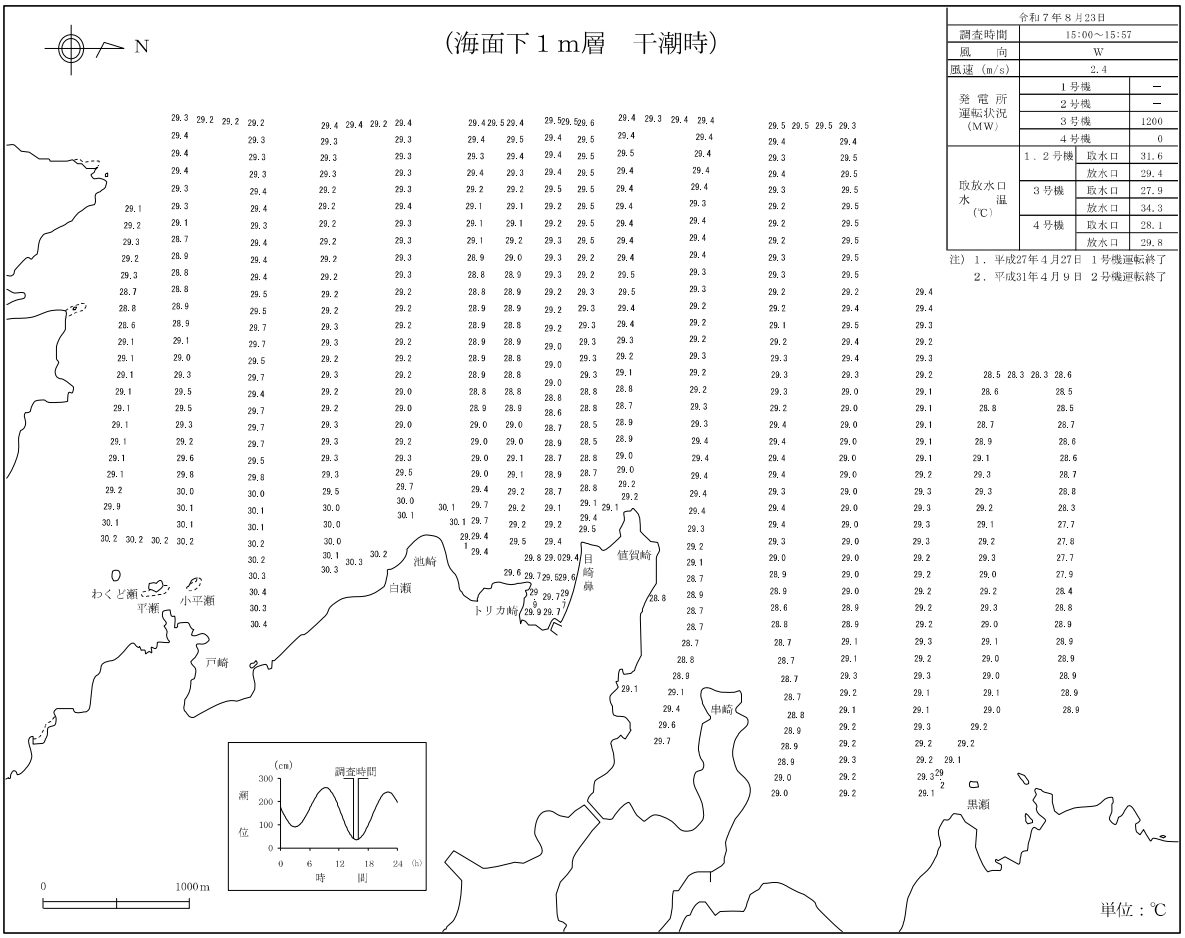
令和７年８月23日		
調査時間	08:45～09:45	
風　向	ＳＷ	
風速（m/s）	3.0	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1200
	４号機	0
取放水口水温（℃）	１，２号機　取水口	30.4
	放水口	28.0
	３号機　取水口	27.7
	放水口	34.3
	４号機　取水口	27.8
	放水口	29.4

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了

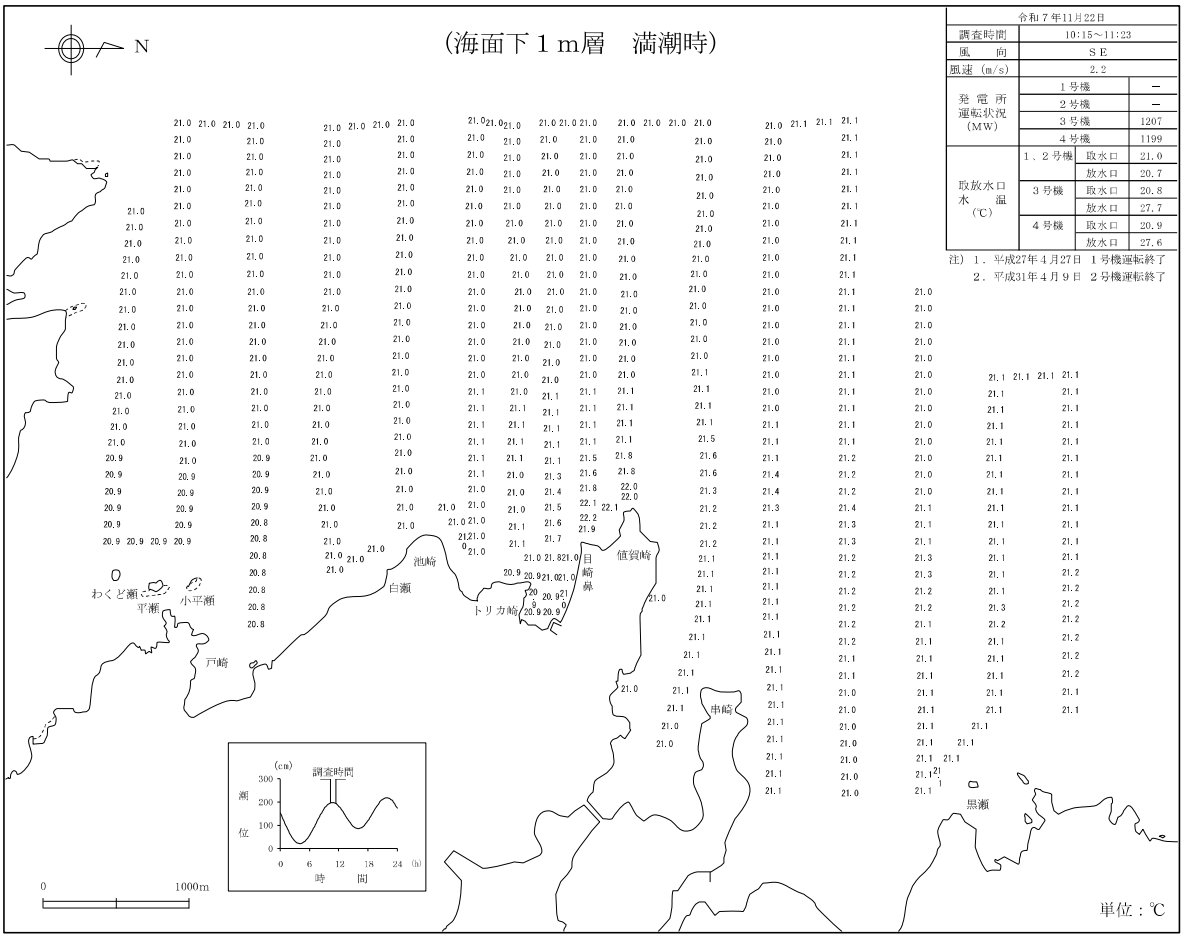


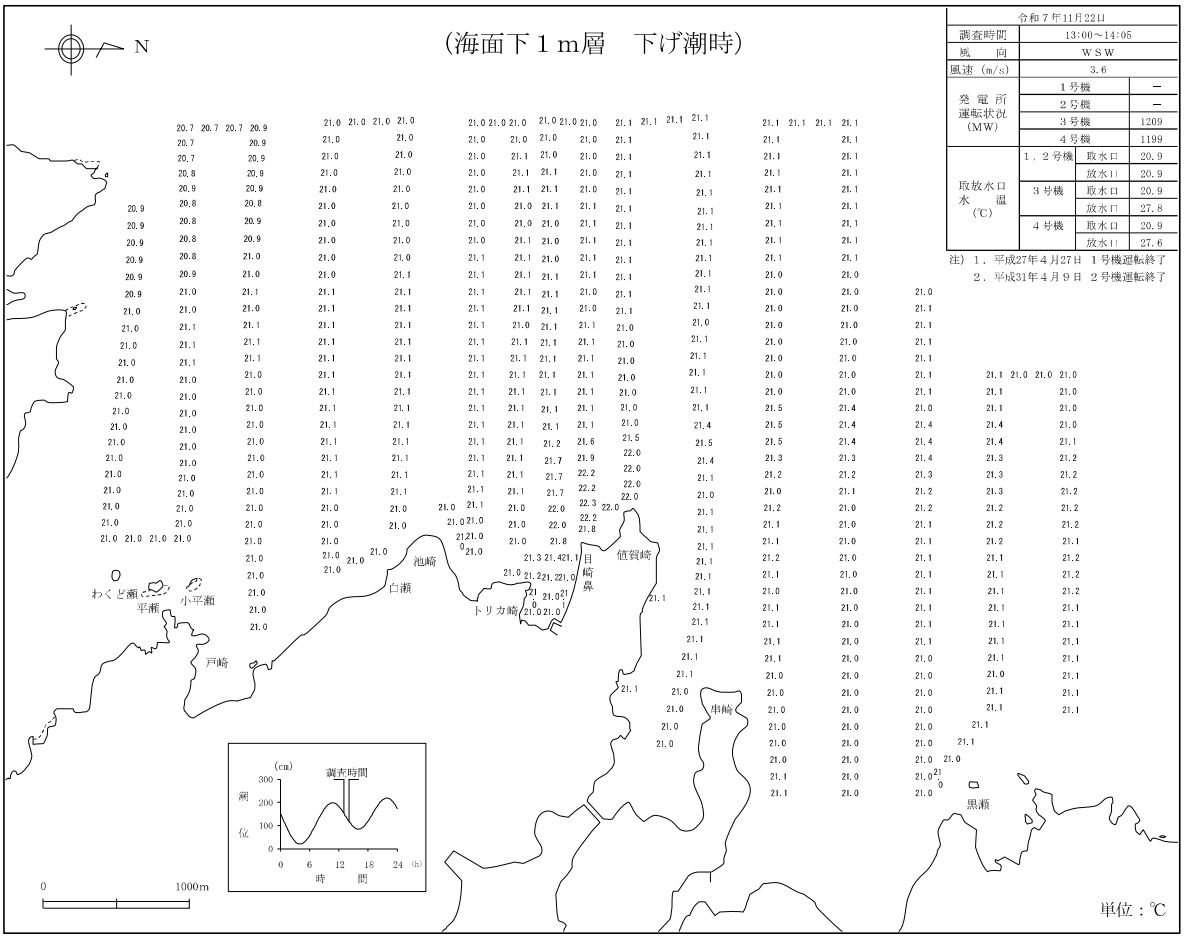
令和７年８月23日		
調査時間	12:00～13:00	
風　向	Ｗ	
風速（m/s）	2.1	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1201
	４号機	0
取放水口水温（℃）	１，２号機　取水口	31.1
	放水口	28.8
	３号機　取水口	27.8
	放水口	34.5
	４号機　取水口	28.0
	放水口	29.6

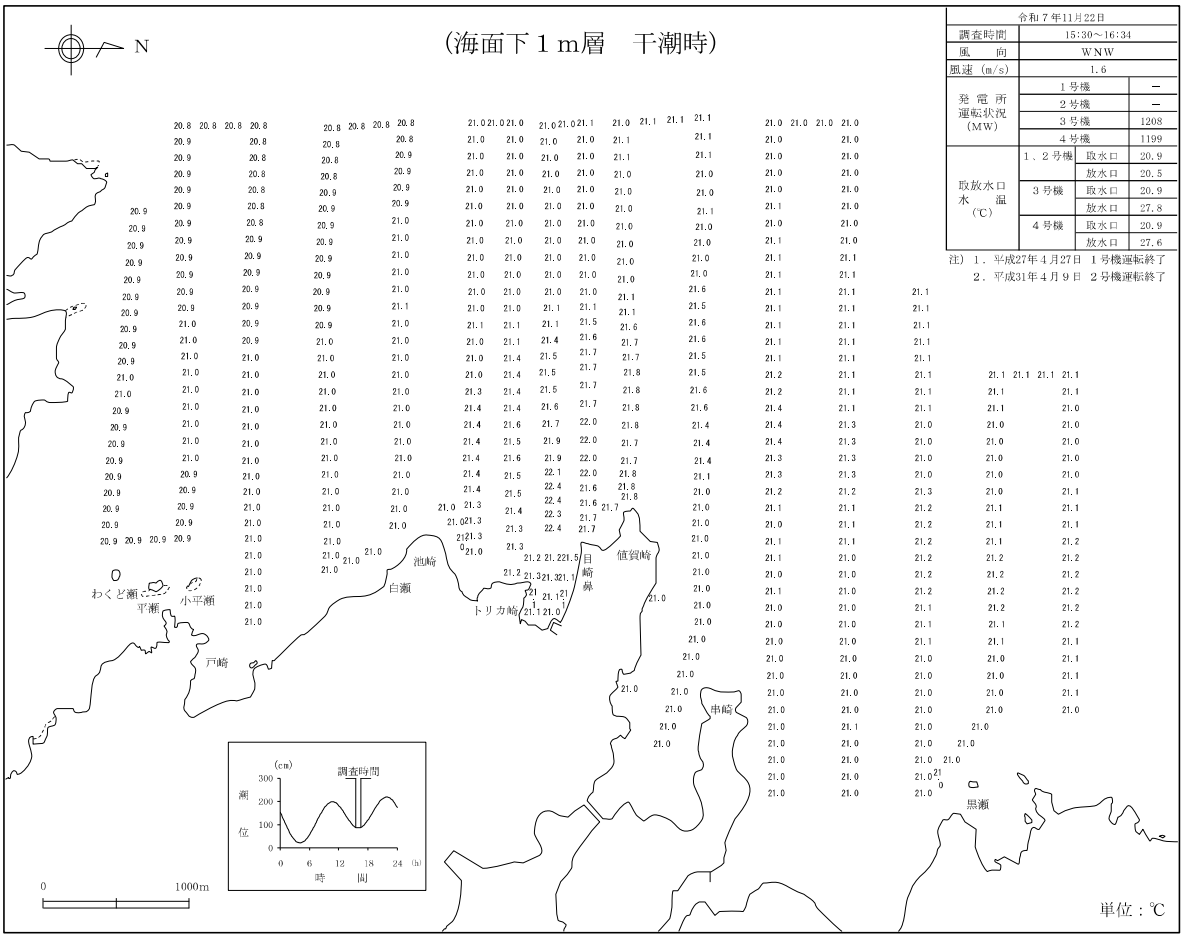
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了


N
（海面下１ｍ層　干潮時）
令和７年８月23日
調査時間　15:00～15:57
風　向　W
風速（m/s）　2.4
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1200
４号機　0
取放水口水温（℃）
１．２号機　取水口　31.6
放水口　29.4
３号機　取水口　27.9
放水口　34.3
４号機　取水口　28.1
放水口　29.8
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
平瀬
小平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
目崎鼻
笹貝崎
串崎
黒瀬
潮位
(cm)
調査時間
時間
(h)
0
1000m
単位：℃

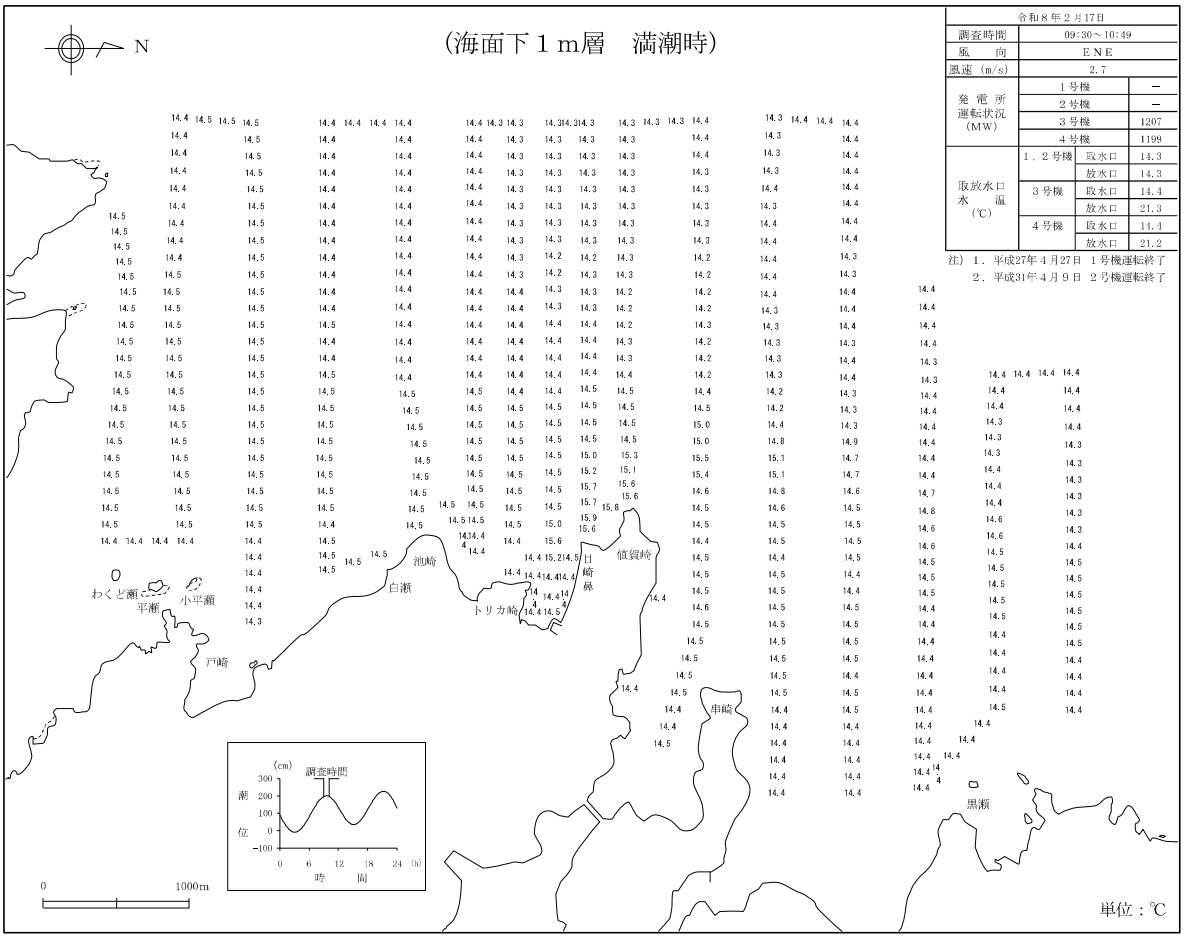
（ｃ）秋　季

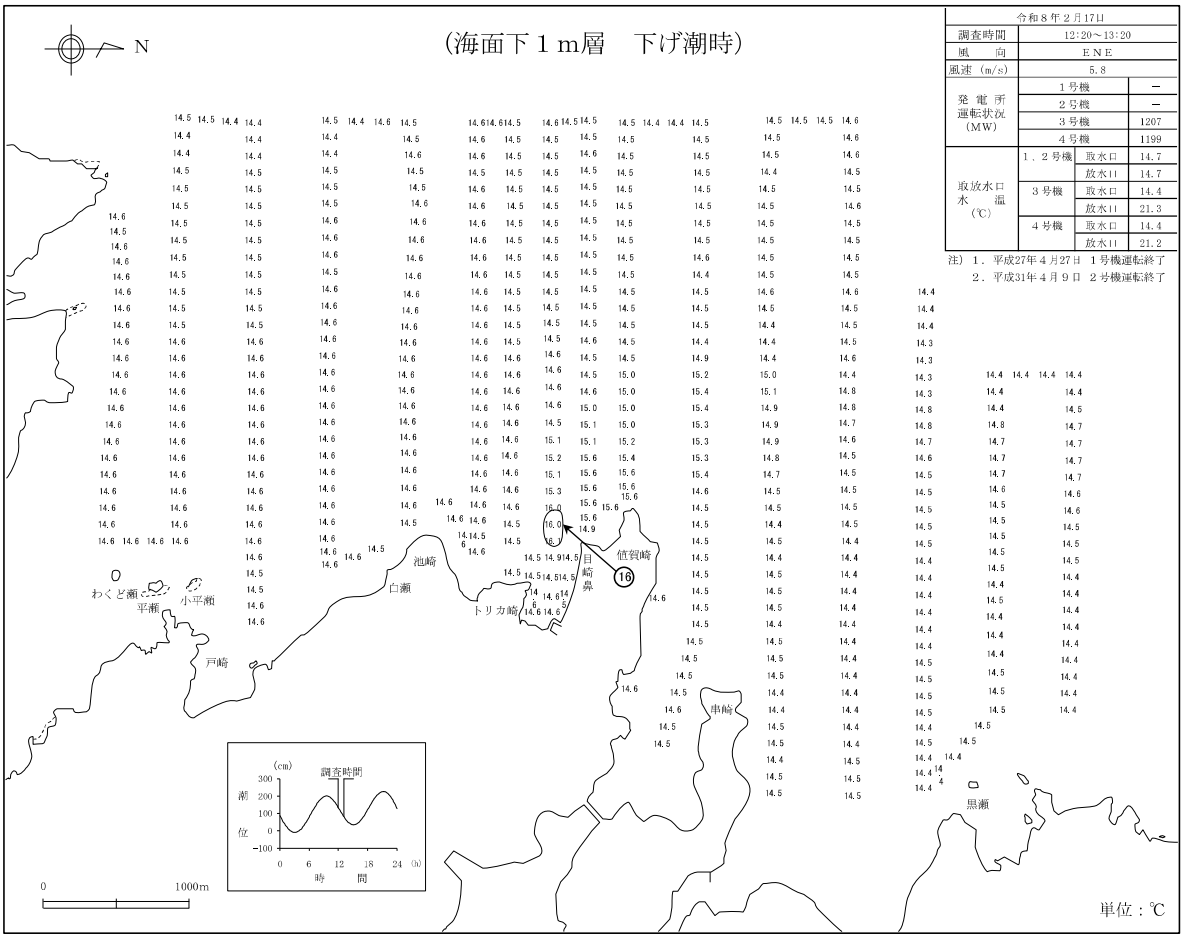

N
（海面下１ｍ層　満潮時）
令和７年11月22日
調査時間　10:15～11:23
風　向　ＳＥ
風速（m/s）　2.2
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1207
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　21.0
放水口　20.7
３号機　取水口　20.8
放水口　27.7
４号機　取水口　20.9
放水口　27.6
注）１、平成27年４月27日　１号機運転終了
２、平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
小平瀬
平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
目崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位
時間
0
1000m
単位：℃

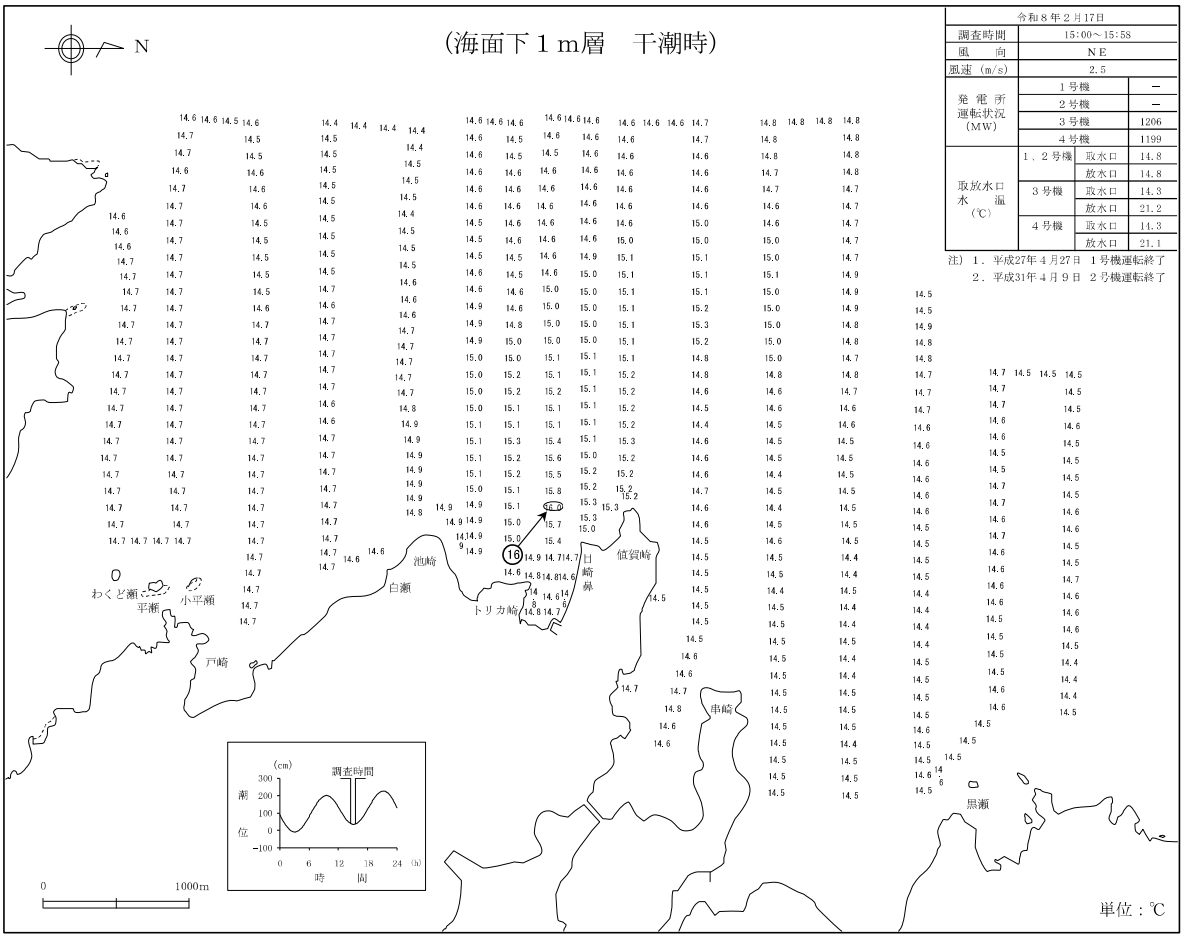

N
（海面下１ｍ層　下げ潮時）
令和７年11月22日
調査時間　13:00～14:05
風　向　ＷＳＷ
風速（m/s）　3.6
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1209
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　20.9
放水口　20.9
３号機　取水口　20.9
放水口　27.8
４号機　取水口　20.9
放水口　27.6
注）１、平成27年４月27日　１号機運転終了
２、平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
小平瀬
平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
目崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位
時間
0
1000m
単位：℃


N
（海面下１ｍ層　干潮時）
令和７年11月22日
調査時間　15:30～16:34
風　向　WNW
風速（m/s）　1.6
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1208
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　20.9
放水口　20.5
３号機　取水口　20.9
放水口　27.8
４号機　取水口　20.9
放水口　27.6
注）１、平成27年４月27日　１号機運転終了
２、平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
平瀬
小平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
目崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
(cm)
潮位
調査時間
時間
0
1000m
単位：℃

（d）冬　季


N
（海面下１ｍ層　満潮時）
令和８年２月17日
調査時間　09:30～10:49
風　向　ＥＮＥ
風速（m/s）　2.7
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1207
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　14.3
放水口　14.3
３号機　取水口　14.4
放水口　21.3
４号機　取水口　14.4
放水口　21.2
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
小平瀬
平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
日崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位（cm）
時間（h）
0
1000m
単位：℃


N
（海面下１ｍ層　下げ潮時）
令和８年２月17日
調査時間　12:20～13:20
風　向　ＥＮＥ
風速（m/s）　5.8
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1207
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　14.7
放水口　14.7
３号機　取水口　14.4
放水口　21.3
４号機　取水口　14.4
放水口　21.2
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
２．平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
小平瀬
平瀬
戸崎
池崎
白瀬
トリカ崎
日崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
調査時間
潮位（cm）
時間（h）
0
1000m
単位：℃


N
（海面下１ｍ層　干潮時）
令和８年２月17日
調査時間　15:00～15:58
風　向　NE
風速（m/s）　2.5
発電所運転状況（MW）
１号機　－
２号機　－
３号機　1206
４号機　1199
取放水口水温（℃）
１、２号機　取水口　14.8
放水口　14.8
３号機　取水口　14.3
放水口　21.2
４号機　取水口　14.3
放水口　21.1
注）１、平成27年４月27日　１号機運転終了
２、平成31年４月９日　２号機運転終了
わくど瀬
平瀬
小平瀬
戸崎
白瀬
池崎
トリカ崎
16
臼崎鼻
値賀崎
串崎
黒瀬
潮位
(cm)
300
200
100
0
−100
0
6
12
18
24
(h)
時間
調査時間
0
1000m
単位：℃

b　水温鉛直分布

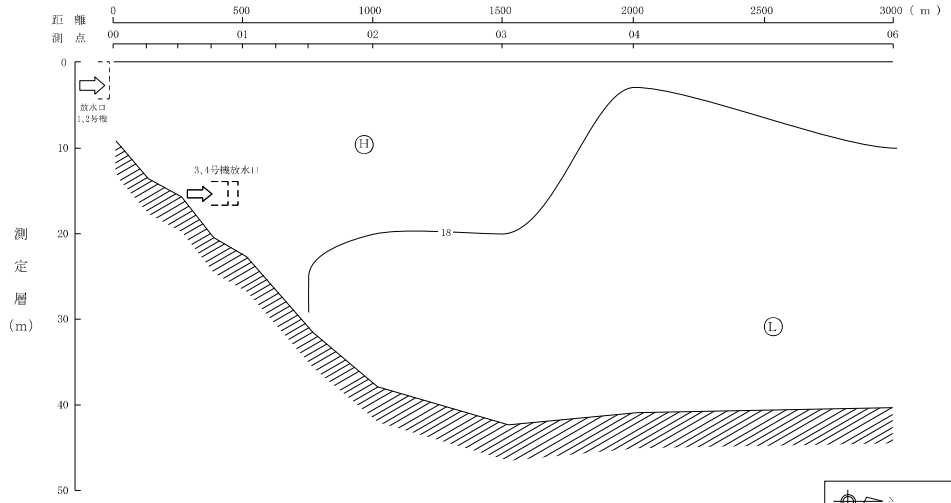
（a）春　季

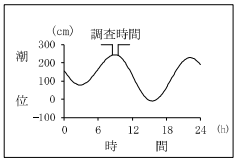
（満潮時）

令和７年５月27日		
調査時間	08:30～09:30	
風　向	S	
風速（m/s）	1.8	
発電所運転状況（MW）	1号機	－
	2号機	－
	3号機	0
	4号機	1194
取放水口水温（℃）	1，2号機 取水口	17.9
	1，2号機 放水口	17.9
	3号機 取水口	17.8
	3号機 放水口	18.1
	4号機 取水口	17.8
	4号機 放水口	24.6

注）1．平成27年4月27日　1号機運転終了
2．平成31年4月9日　2号機運転終了

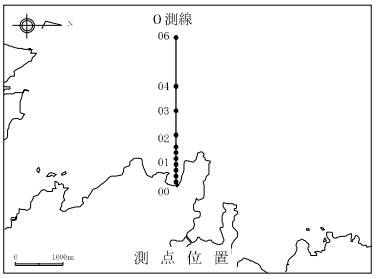
0測線水温断面分布





単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目



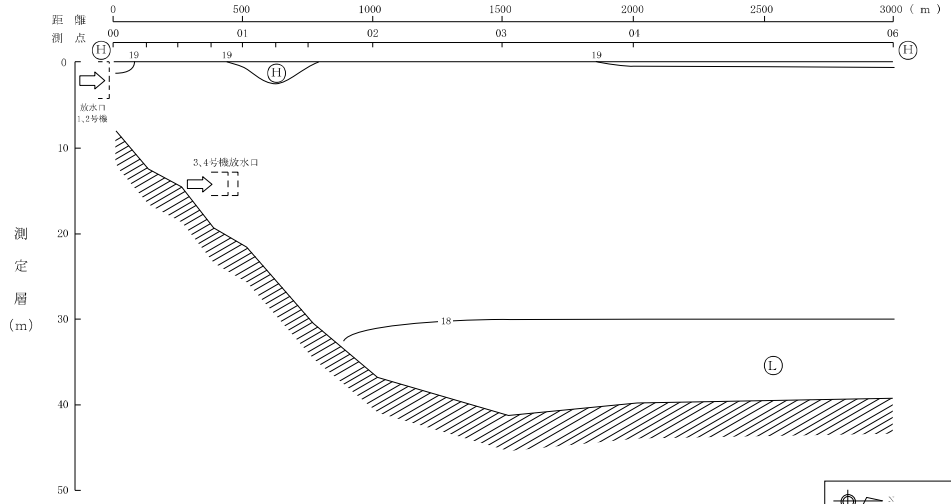
注）調査した38測点中、放水口前面にあたる0測線上の水温鉛直分布を記載

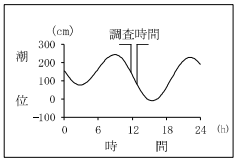
（下げ潮時）

令和７年５月27日		
調査時間	11:45～12:48	
風　向	NNE	
風速（m/s）	0.8	
発電所運転状況（MW）	1号機	－
	2号機	－
	3号機	0
	4号機	1194
取放水口水温（℃）	1，2号機 取水口	18.6
	1，2号機 放水口	18.6
	3号機 取水口	18.2
	3号機 放水口	18.5
	4号機 取水口	18.3
	4号機 放水口	25.1

注）1．平成27年4月27日　1号機運転終了
2．平成31年4月9日　2号機運転終了

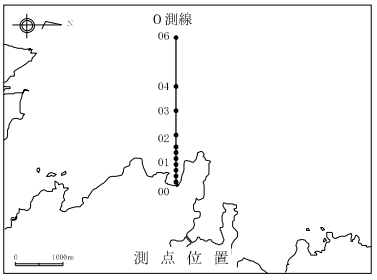
0測線水温断面分布





単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目



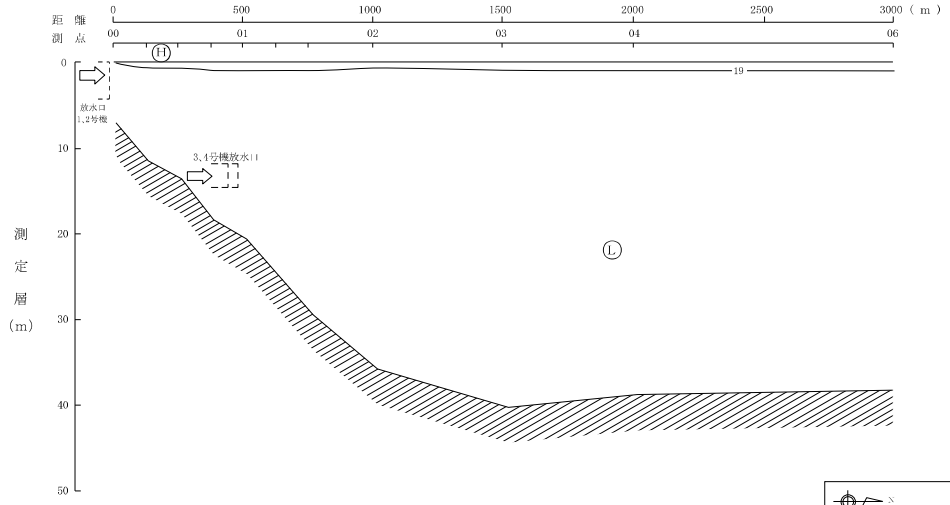
注）調査した38測点中、放水口前面にあたる0測線上の水温鉛直分布を記載

(干潮時)

令和７年５月27日		
調査時間	15:00～16:01	
風　向	N	
風速（m/s）	3.6	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	0
	４号機	1194
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	19.4
	１，２号機 放水口	18.7
	３号機 取水口	18.6
	３号機 放水口	18.8
	４号機 取水口	18.6
	４号機 放水口	25.4

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

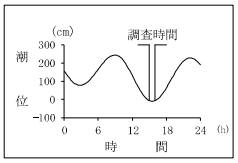
０測線水温断面分布

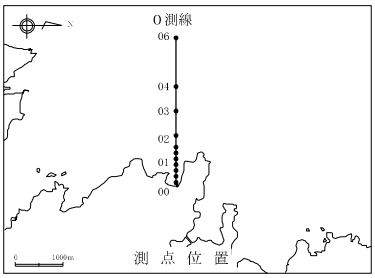


測定層（m）

単位：℃

凡　例
H：高目
L：低目





注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載

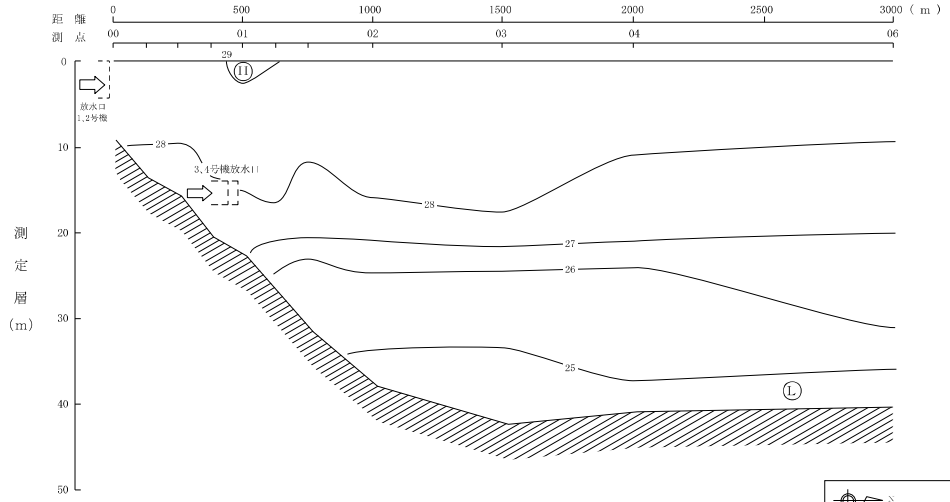
（b）夏　季

（満潮時）

令和７年８月23日		
調査時間	08:45～09:45	
風　向	SW	
風速（m/s）	3.0	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1200
	４号機	0
取放水口水温（℃）	１、２号機 取水口	30.4
	１、２号機 放水口	28.0
	３号機 取水口	27.7
	３号機 放水口	34.3
	４号機 取水口	27.8
	４号機 放水口	29.4

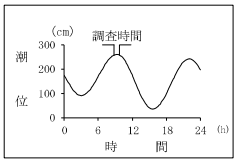
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

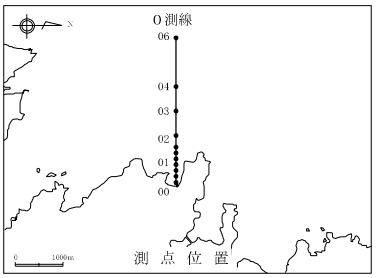
０測線水温断面分布



単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目





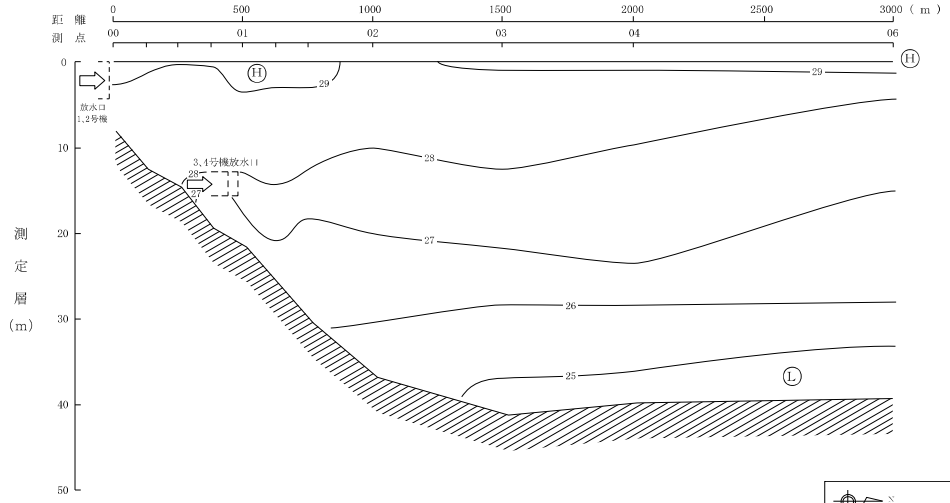
注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載

（下げ潮時）

令和７年８月23日		
調査時間	12:00～13:00	
風　向	W	
風速（m/s）	2.1	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1201
	４号機	0
取放水口水温（℃）	１、２号機 取水口	31.1
	１、２号機 放水口	28.8
	３号機 取水口	27.8
	３号機 放水口	34.5
	４号機 取水口	28.0
	４号機 放水口	29.6

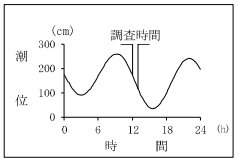
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

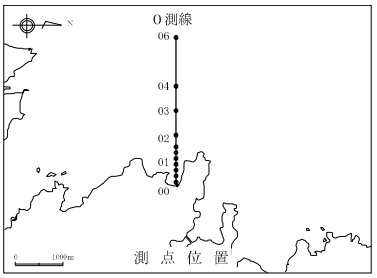
０測線水温断面分布



単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目





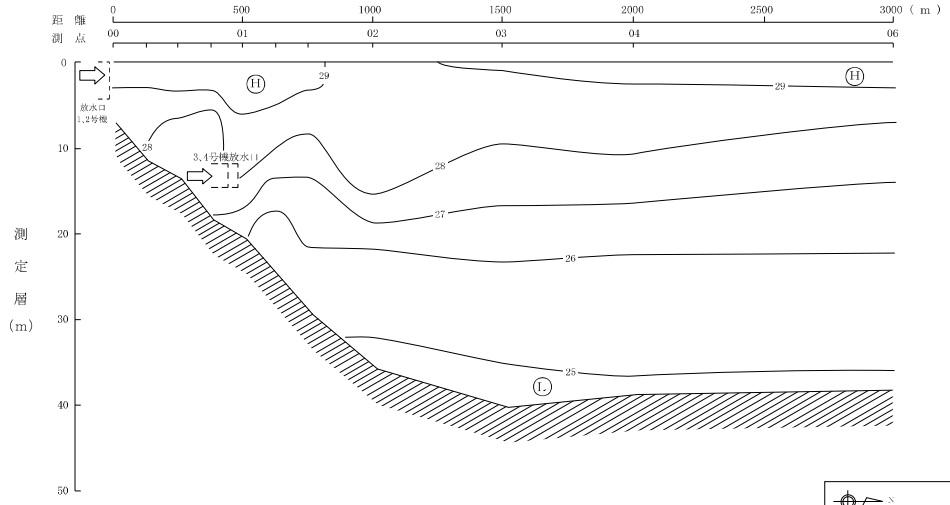
注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載

(干潮時)

令和７年８月23日		
調査時間	15:00～15:57	
風　向	W	
風速（m/s）	2.4	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1200
	４号機	0
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	31.6
	１，２号機 放水口	29.4
	３号機 取水口	27.9
	３号機 放水口	34.3
	４号機 取水口	28.1
	４号機 放水口	29.8

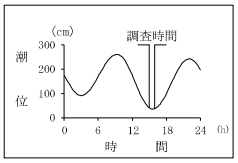
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

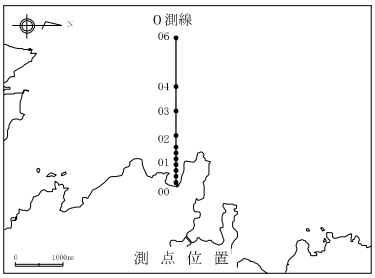
O 測線水温断面分布



単位：℃

凡　例
H：高目
L：低目





注）調査した38測点中、放水口前面にあたるO測線上の水温鉛直分布を記載

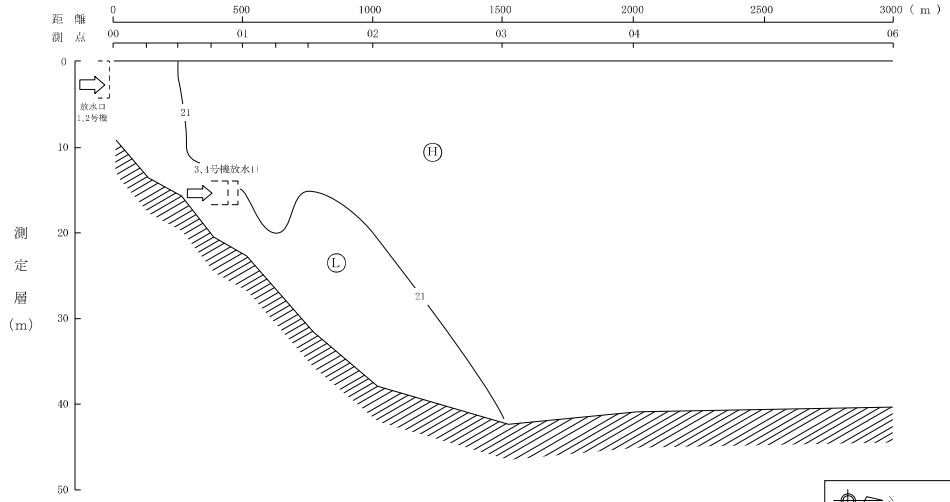
（c）秋　季

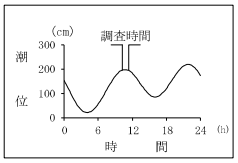
（満潮時）

令和７年11月22日		
調査時間	10:15～11:23	
風　向	ＳＥ	
風速（m/s）	2.2	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1207
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	21.0
	１，２号機 放水口	20.7
	３号機 取水口	20.8
	３号機 放水口	27.7
	４号機 取水口	20.9
	４号機 放水口	27.6

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

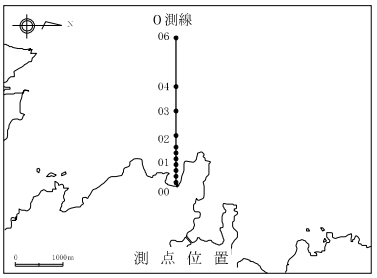
O 測線水温断面分布





単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目



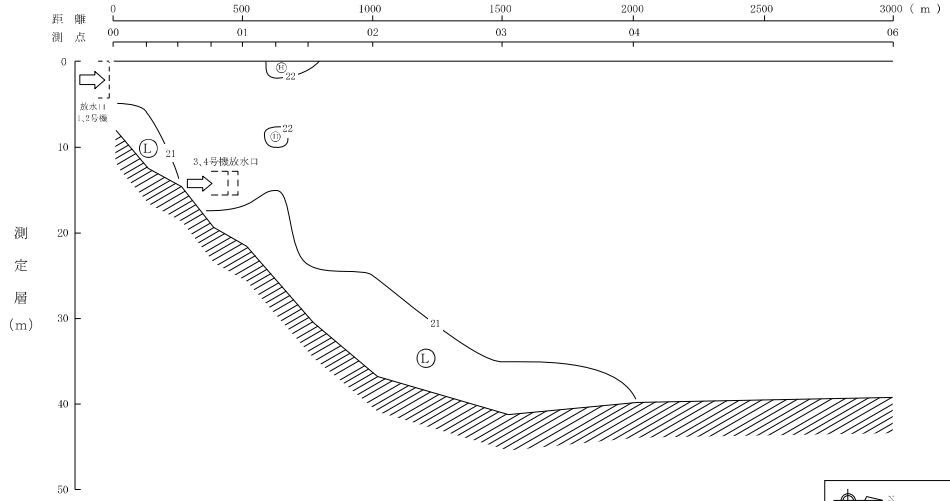
注）調査した38測点中、放水口前面にあたるO測線上の水温鉛直分布を記載

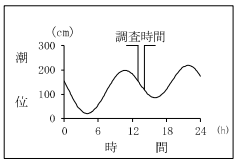
（下げ潮時）

令和７年11月22日		
調査時間	13:00～14:05	
風　向	ＷＳＷ	
風速（m/s）	3.6	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1209
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	20.9
	１，２号機 放水口	20.9
	３号機 取水口	20.9
	３号機 放水口	27.8
	４号機 取水口	20.9
	４号機 放水口	27.6

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

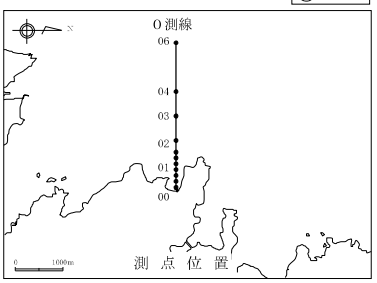
O 測線水温断面分布





単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目



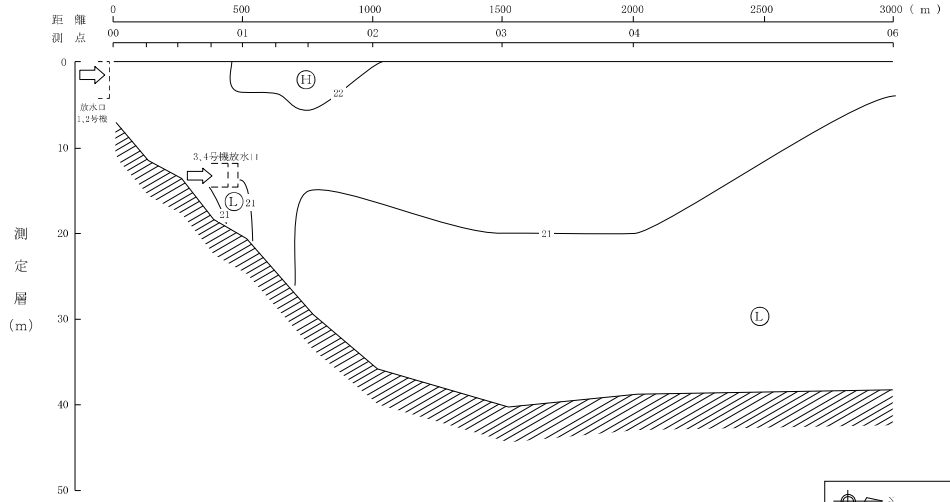
注）調査した38測点中、放水口前面にあたるO測線上の水温鉛直分布を記載

(干潮時)

令和７年11月22日		
調査時間	15:30～16:34	
風　向	WNW	
風速（m/s）	1.6	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1208
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	20.9
	１，２号機 放水口	20.5
	３号機 取水口	20.9
	３号機 放水口	27.8
	４号機 取水口	20.9
	４号機 放水口	27.6

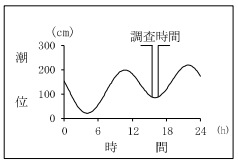
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

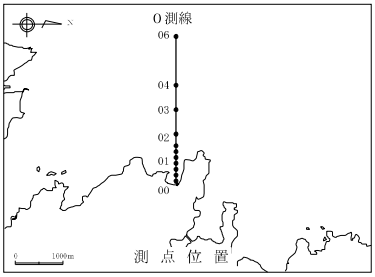
O 測線水温断面分布



単位：℃

凡　例
H：高目
L：低目





注）調査した38測点中、放水口前面にあたるO測線上の水温鉛直分布を記載

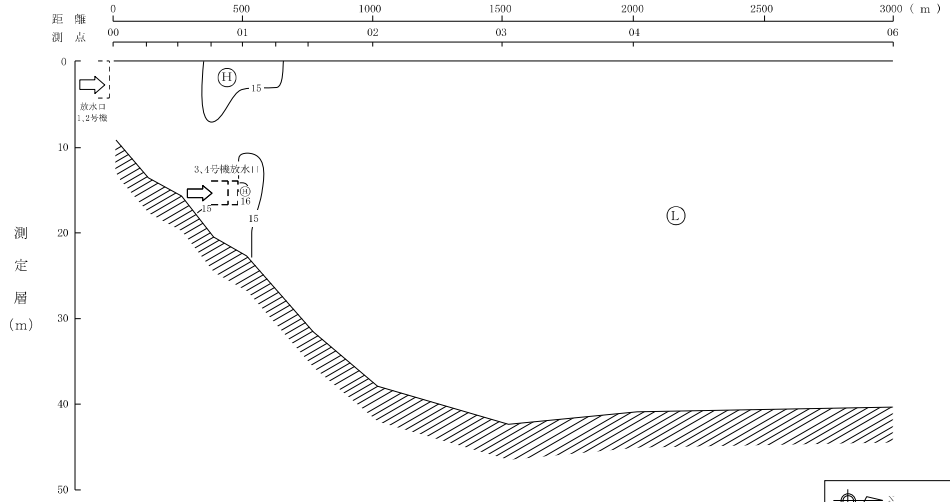
（d）冬　季

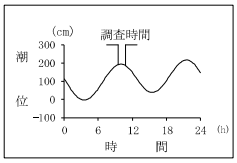
（満潮時）

令和８年２月17日		
調査時間	09:30～10:49	
風　向	ＥＮＥ	
風速（m/s）	2.7	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1207
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	14.3
	１，２号機 放水口	14.3
	３号機 取水口	14.4
	３号機 放水口	21.3
	４号機 取水口	14.4
	４号機 放水口	21.2

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

０測線水温断面分布

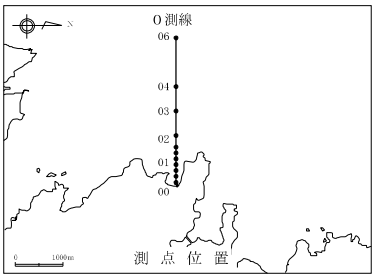




注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載

単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目

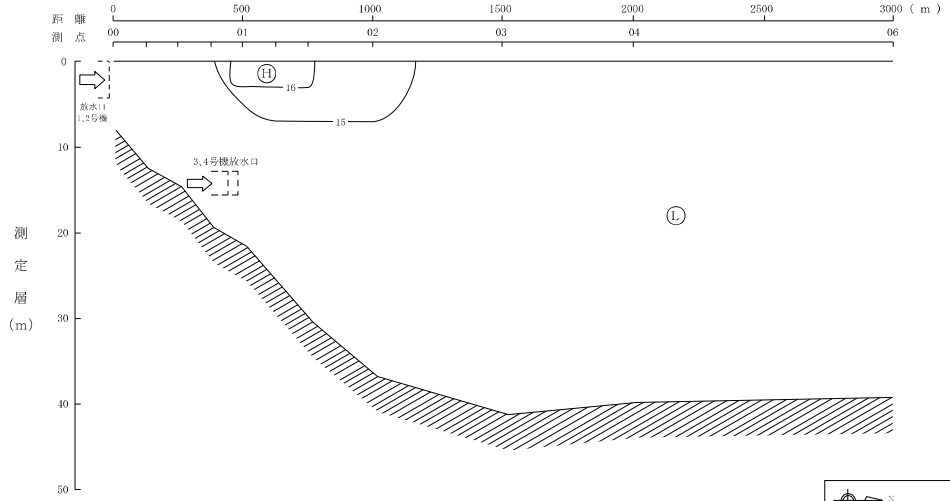


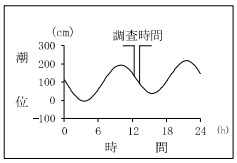
（下げ潮時）

令和８年２月17日		
調査時間	12:20～13:20	
風　向	ＥＮＥ	
風速（m/s）	5.8	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1207
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１，２号機 取水口	14.7
	１，２号機 放水口	14.7
	３号機 取水口	14.4
	３号機 放水口	21.3
	４号機 取水口	14.4
	４号機 放水口	21.2

注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

０測線水温断面分布

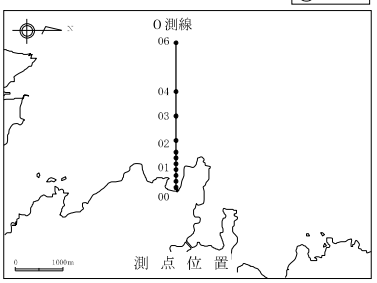




注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載

単位：℃

凡　例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目

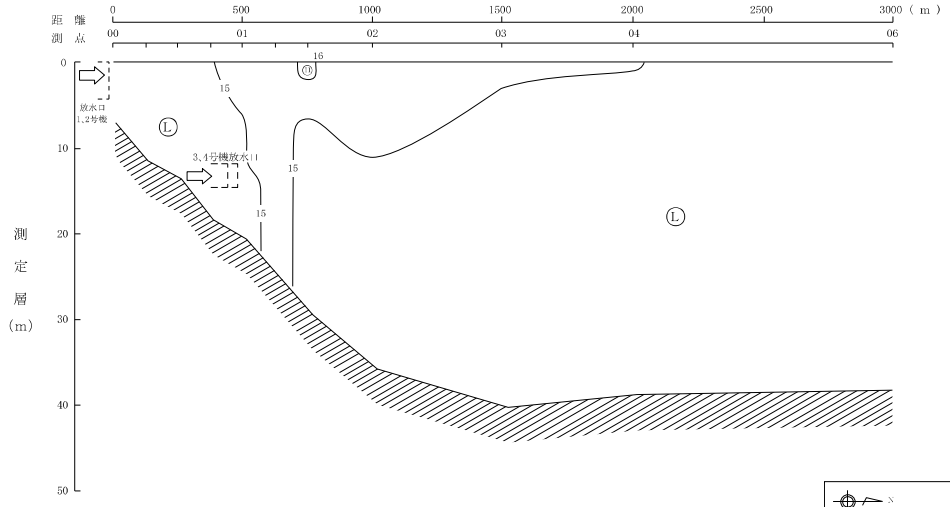


(干潮時)

令和８年２月17日		
調査時間	15:00～15:58	
風向	NE	
風速（m/s）	2.5	
発電所運転状況（MW）	１号機	－
	２号機	－
	３号機	1206
	４号機	1199
取放水口水温（℃）	１、２号機 取水口	14.8
	１、２号機 放水口	14.8
	３号機 取水口	14.3
	３号機 放水口	21.2
	４号機 取水口	14.3
	４号機 放水口	21.1

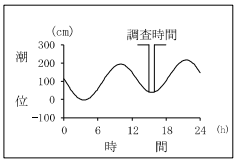
注）１．平成27年４月27日　１号機運転終了
　　２．平成31年４月９日　２号機運転終了

０測線水温断面分布

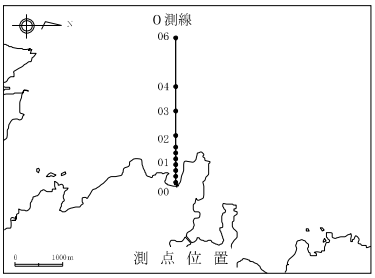


単位：℃

凡例
Ⓗ：高目
Ⓛ：低目



注）調査した38測点中、放水口前面にあたる０測線上の水温鉛直分布を記載



（３）水　質

項目＼調査年月日		春　季	夏　季	秋　季	冬　季
		令和７年５月28日	令和７年８月24日	令和７年11月23日	令和８年２月19日
水温（℃）		18.0 ～ 19.8 18.5	27.0 ～ 29.9 28.6	20.8 ～ 21.3 21.0	14.3 ～ 15.2 14.6
塩分（－）		32.77 ～ 34.31 34.14	32.84 ～ 33.53 33.29	33.99 ～ 34.19 34.09	34.40 ～ 34.58 34.51
水素イオン濃度（－） ｐＨ		8.1 ～ 8.2 8.2	8.1 ～ 8.2 8.1	8.1 ～ 8.2 8.1	8.2
溶存酸素量	酸素量（mg/ℓ）	7.7 ～ 8.8 8.0	6.8 ～ 7.2 7.0	7.1 ～ 7.8 7.3	8.5 ～ 9.2 8.7
溶存酸素量	飽和度（%）	97.3 ～ 113.5 101.6	98.9 ～ 107.5 104.7	94.3 ～ 103.9 96.3	100.0 ～ 109.2 102.3
化学的酸素要求量（mg/ℓ） ＣＯＤ（アルカリ性法）		0.3 ～ 0.5 0.4	0.4 ～ 0.5 0.4	0.2 ～ 0.4 0.3	0.3 ～ 0.5 0.3
濁度（度）		<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
クロロフィルｰａ（μｇ/ℓ）		0.6 ～ 1.9 1.4	0.3 ～ 2.5 1.3	0.6 ～ 1.1 0.8	0.3 ～ 1.5 1.0

注）上段は分析値の範囲、下段は平均値を示す。
　　塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

（４）底　質

項目＼調査年月日		夏　季	冬　季
		令和７年８月15日	令和８年２月13日
化学的酸素要求量（mg/ｇ乾泥） ＣＯＤ		1.3 ～ 3.4 2.3	1.4 ～ 4.3 3.6
粒度（%）	礫分 (2.0mm以上)	0 0	0 ～ 8 2
粒度（%）	粗砂分 (0.425～2.0mm)	1 ～ 45 11	1 ～ 64 15
粒度（%）	細砂分 (0.075～0.425mm)	30 ～ 75 56	18 ～ 76 54
粒度（%）	ｼﾙﾄ・粘土・ｺﾛｲﾄﾞ分 (0.075mm以下)	22 ～ 57 33	10 ～ 48 29

注）上段は分析値の範囲、下段は平均値を示す。

（５）プランクトン

項目＼調査年月日・測点		夏 季（令和７年８月 24 日）		冬 季（令和８年２月 19 日）	
		取水口側	放水口側	取水口側	放水口側
沈殿量	採 水 法（mℓ/m³）	15	20	23	12
	ネット法（mℓ/m³）	34.8	26.8	6.4	7.6
種類数	植物プランクトン（採水法）	36	38	19	18
	動物プランクトン（ネット法）	36	36	15	17
主要構成プランクトン	植物プランクトン（採水法）	・*Thalassionema nitzschioides*（ﾀﾗｼｵﾈﾏ ﾆｯﾁｵｲﾃﾞｽ） ・Chaetoceros spp.（ｷｰﾄｹﾛｽ ｴｽﾋﾟｰﾋﾟｰ） ・Haptophyceae（ﾊﾌﾟﾄ藻類）		・Thalassiosiraceae（ﾀﾗｼｵｼｰﾗｼｰ） ・Haptophyceae（ﾊﾌﾟﾄ藻類） ・*Chaetoceros sociale*（ｷｰﾄｹﾛｽ ｿｼｱﾚ）	
	動物プランクトン（ネット法）	・かいあし類のﾉｰﾌﾟﾘｳｽ期幼生 ・*Oithona*（ｵｲﾄﾅ）属のｺﾍﾟﾎﾟﾀﾞｲﾄ期幼生 ・*Sticholonche zanclea*（ｽﾁｺﾛﾝｹﾞｻﾞﾝｸﾚｱ）		・*Paracalanus*（ﾊﾟﾗｶﾗﾇｽ）属のｺﾍﾟﾎﾟﾀﾞｲﾄ期幼生 ・かいあし類のﾉｰﾌﾟﾘｳｽ期幼生 ・*Oithona*（ｵｲﾄﾅ）属のｺﾍﾟﾎﾟﾀﾞｲﾄ期幼生	
植物プランクトン	細胞数×10^4/ℓ（採水法）	9.8	11.3	6.9	7.6
動物プランクトン	個体数/m³（ネット法）	32,550	32,800	9,400	16,650

注）採水法の沈殿量、植物プランクトンの種類数及び細胞数は、取水口側は１測点の４層の平均値、放水口側は２測点の３層の平均値。
ネット法の沈殿量、動物プランクトンの種類数及び個体数は、取水口側は１測点の２層の平均値、放水口側は２測点の１層の平均値。

（６）潮間帯生物

項目＼調査年月日		夏 季	冬 季
		令和７年８月20日～22日	令和８年２月19日～21日、３月２日
出現種類数	植 物	32	36
	動 物	49	49
主要構成種	植 物	・サビ亜科 ・イワノカワ科 ・藍藻綱 ・ヒメテングサ ・イソガワラ科 ・サンゴモ亜科 ・ヒジキ ・ウミトラノオ ・イシゲ ・モサズキ属 ・イワヒゲ ・イソダンツウ	・サビ亜科 ・イワノカワ科 ・イソガワラ科 ・サンゴモ亜科 ・アマノリ属 ・カヤモノリ科 ・藍藻綱 ・ヒメテングサ ・フクロノリ ・イソダンツウ ・ヒジキ ・ウミトラノオ ・テングサ科 ・イシゲ ・シワノカワ ・アミジグサ科 ・珪藻綱
	動 物	・アラレタマキビ ・クロフジツボ ・ヒザラガイ ・シロガイ属 ・マツバガイ ・ヤッコカンザシ	・カラマツガイ科 ・シロガイ属 ・ヨメガカサ ・アラレタマキビ ・クロフジツボ ・マツバガイ ・ヤッコカンザシ ・イボニシ ・キクノハナガイ ・ヒザラガイ

注）全出現種については、参考資料に示した。

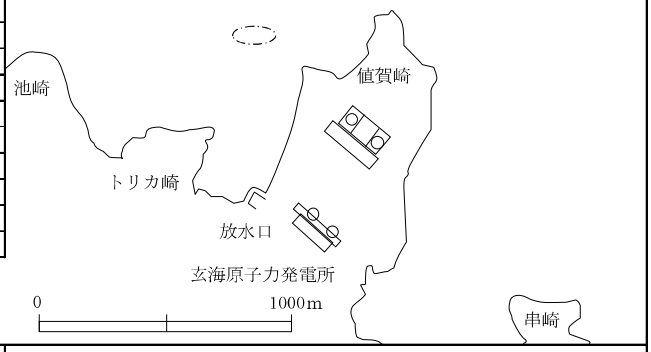
5　経年変化

（１）水温水平分布（海面下１ｍ層）

ａ　春　季

満潮時			令和２年度 (5/23)	令和３年度 (5/27)	令和４年度 (5/30)	令和５年度 (5/20)	令和６年度 (5/24)	令和７年度 (5/27)
調査時間		開始	09:00	09:00	08:30	09:00	08:45	08:30
		終了	10:14	09:55	09:30	10:02	09:49	09:30
天気			晴	晴	曇	晴	晴	晴
発電所運転状況（MW）	１号機		－	－	－	－	－	－
	２号機		－	－	－	－	－	－
	３号機		1209	1204	0	1210	1211	0
	４号機		1196	1195	0	1198	0	1194
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	19.0	19.8	21.4	19.1	19.9	17.9
		放水口	18.5	20.0	20.2	18.2	18.6	17.9
	３号機	取水口	18.2	19.4	20.1	18.4	18.7	17.8
		放水口	25.2	26.3	20.1	25.4	25.5	18.1
	４号機	取水口	18.2	19.4	20.1	18.4	18.7	17.8
		放水口	25.2	26.3	21.3	25.1	18.7	24.6
取放水温度差（℃）	1、2号機		-0.5	0.2	-1.2	-0.9	-1.3	0.0
	３号機		7.0	6.9	0.0	7.0	6.8	0.3
	４号機		7.0	6.9	1.2	6.7	0.0	6.8
温排水拡散域			+	－·－·	*	+	+	+

＊：　温排水の排出はなかった。
＋：　温排水拡散域は認められなかった。
注）　平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。



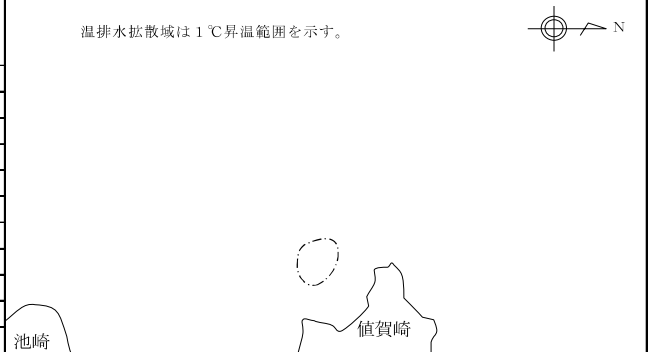
下げ潮時			令和２年度 (5/23)	令和３年度 (5/27)	令和４年度 (5/30)	令和５年度 (5/20)	令和６年度 (5/24)	令和７年度 (5/27)
調査時間		開始	12:15	12:15	12:00	12:00	12:00	11:45
		終了	13:22	13:11	13:14	13:19	13:08	12:48
天気			晴	曇	雨	晴	曇	快晴
発電所運転状況（MW）	１号機		－	－	－	－	－	－
	２号機		－	－	－	－	－	－
	３号機		1209	1204	0	1210	1209	0
	４号機		1196	1195	0	1198	0	1194
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	20.0	20.1	21.7	19.6	20.4	18.6
		放水口	18.8	20.4	20.3	18.7	19.1	18.6
	３号機	取水口	18.4	19.4	20.1	18.4	18.7	18.2
		放水口	25.3	26.3	20.1	25.4	25.6	18.5
	４号機	取水口	18.2	19.4	20.1	18.4	18.8	18.3
		放水口	25.2	26.3	22.1	25.1	18.8	25.1
取放水温度差（℃）	1、2号機		-1.2	0.3	-1.4	-0.9	-1.3	0.0
	３号機		6.9	6.9	0.0	7.0	6.9	0.3
	４号機		7.0	6.9	2.0	6.7	0.0	6.8
温排水拡散域			+	－·－·	*	+	+	+

＊：　温排水の排出はなかった。
＋：　温排水拡散域は認められなかった。
注）　平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。



干潮時			令和２年度 (5/23)	令和３年度 (5/27)	令和４年度 (5/30)	令和５年度 (5/20)	令和６年度 (5/24)	令和７年度 (5/27)
調査時間		開始	15:20	15:15	15:00	15:10	15:15	15:00
		終了	16:23	16:12	16:08	16:18	16:21	16:01
天気			晴	晴	曇	晴	曇	快晴
発電所運転状況（MW）	１号機		－	－	－	－	－	－
	２号機		－	－	－	－	－	－
	３号機		1209	1204	0	1210	1210	0
	４号機		1196	1195	0	1198	0	1194
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	20.5	21.0	21.9	19.9	20.8	19.4
		放水口	18.8	21.0	20.7	18.8	19.0	18.7
	３号機	取水口	18.6	19.6	20.1	18.7	19.3	18.6
		放水口	25.5	26.5	20.1	25.7	26.1	18.8
	４号機	取水口	18.4	19.6	20.1	18.5	19.2	18.6
		放水口	25.3	26.5	21.9	25.4	19.2	25.4
取放水温度差（℃）	1、2号機		-1.7	0.0	-1.2	-1.1	-1.8	-0.7
	３号機		6.9	6.9	0.0	7.0	6.8	0.2
	４号機		6.9	6.9	1.8	6.9	0.0	6.8
温排水拡散域			+	－·－·	*	+	+	+

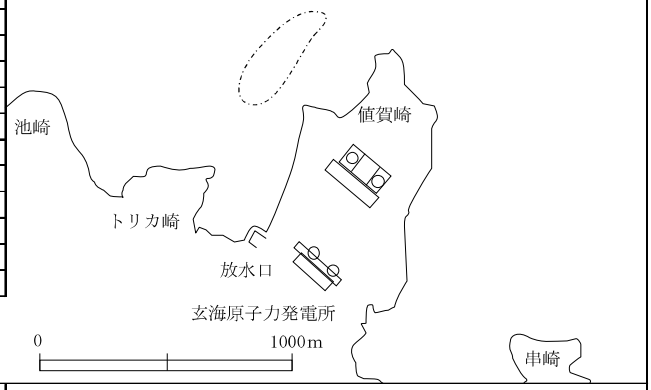
＊：　温排水の排出はなかった。
＋：　温排水拡散域は認められなかった。
注）　平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。



b 夏 季

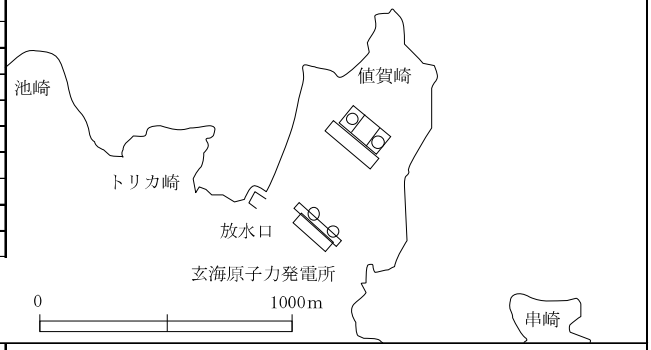
満潮時			令和2年度 (8/20)	令和3年度 (8/21)	令和4年度 (8/28)	令和5年度 (8/17)	令和6年度 (8/20)	令和7年度 (8/23)
調査時間		開始	09:30	07:45	09:30	09:20	09:00	08:45
		終了	10:28	08:51	10:33	10:22	09:58	09:45
天気			快晴	雨	晴	雨	晴	晴
発電所運転状況（MW）	1号機		—	—	—	—	—	—
	2号機		—	—	—	—	—	—
	3号機		1198	1202	0	1203	1210	1200
	4号機		1188	1191	1185	1192	1194	0
取放水口水温（℃）	1,2号機	取水口	28.0	25.9	28.0	25.5	27.9	30.4
		放水口	31.0	26.0	27.8	25.5	25.3	28.0
	3号機	取水口	27.6	25.7	27.8	25.4	25.1	27.7
		放水口	34.3	32.2	28.9	32.4	31.6	34.3
	4号機	取水口	27.8	25.7	26.7	25.4	25.1	27.8
		放水口	34.3	32.1	33.5	32.2	31.7	29.4
取放水温度差（℃）	1,2号機		3.0	0.1	−0.2	0.0	−2.6	−2.4
	3号機		6.7	6.5	1.1	7.0	6.5	6.6
	4号機		6.5	6.4	6.8	6.8	6.6	1.6
温排水拡散域			+	-·-·-	+	+	+	+

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。



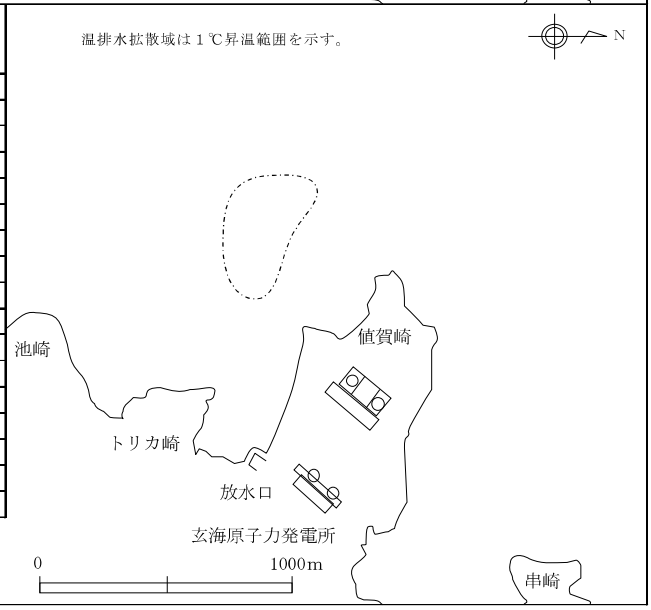
下げ潮時			令和2年度 (8/20)	令和3年度 (8/21)	令和4年度 (8/28)	令和5年度 (8/17)	令和6年度 (8/20)	令和7年度 (8/23)
調査時間		開始	12:45	11:00	12:30	12:30	12:15	12:00
		終了	13:41	12:03	13:34	13:32	13:13	13:00
天気			晴	曇	晴	曇	晴	晴
発電所運転状況（MW）	1号機		—	—	—	—	—	—
	2号機		—	—	—	—	—	—
	3号機		1196	1203	0	1203	1208	1201
	4号機		1186	1192	1188	1193	1193	0
取放水口水温（℃）	1,2号機	取水口	28.9	26.0	28.1	25.9	28.7	31.1
		放水口	32.0	25.9	27.4	25.9	26.2	28.8
	3号機	取水口	28.4	25.5	27.6	25.4	25.5	27.8
		放水口	35.0	32.1	28.8	32.3	32.0	34.5
	4号機	取水口	28.3	25.5	26.2	25.4	25.5	28.0
		放水口	34.7	32.0	33.0	32.2	32.1	29.6
取放水温度差（℃）	1,2号機		3.1	−0.1	−0.7	0.0	−2.5	−2.3
	3号機		6.6	6.6	1.2	6.9	6.5	6.7
	4号機		6.4	6.5	6.8	6.8	6.6	1.6
温排水拡散域			+	+	+	+	+	+

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。



干潮時			令和2年度 (8/20)	令和3年度 (8/21)	令和4年度 (8/28)	令和5年度 (8/17)	令和6年度 (8/20)	令和7年度 (8/23)
調査時間		開始	15:30	14:15	15:15	15:30	15:10	15:00
		終了	16:40	15:12	16:20	16:30	16:09	15:57
天気			快晴	曇	曇	曇	晴	晴
発電所運転状況（MW）	1号機		—	—	—	—	—	—
	2号機		—	—	—	—	—	—
	3号機		1193	1201	0	1204	1208	1200
	4号機		1185	1192	1189	1192	1193	0
取放水口水温（℃）	1,2号機	取水口	29.9	26.5	28.0	25.8	29.2	31.6
		放水口	32.1	26.5	27.3	25.8	26.9	29.4
	3号機	取水口	28.8	25.5	27.6	25.7	25.2	27.9
		放水口	35.4	32.0	28.0	32.7	31.7	34.3
	4号機	取水口	28.8	25.6	26.1	25.7	25.1	28.1
		放水口	35.3	31.8	32.9	32.5	32.1	29.8
取放水温度差（℃）	1,2号機		2.2	0.0	−0.7	0.0	−2.3	−2.2
	3号機		6.6	6.5	0.4	7.0	6.5	6.4
	4号機		6.5	6.2	6.8	6.8	7.0	1.7
温排水拡散域			+	-·-·-	+	+	+	+

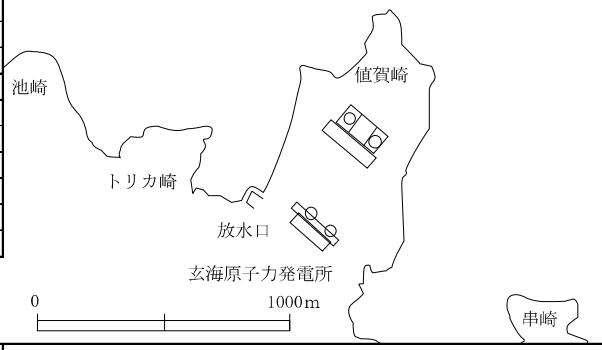
＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。



c 秋 季

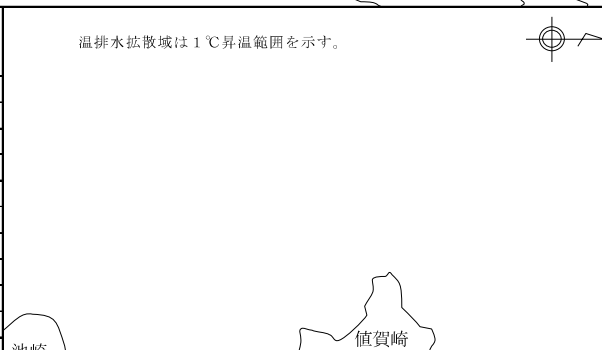
満潮時			令和2年度 (12/1)	令和3年度 (11/20)	令和4年度 (11/24)	令和5年度 (11/29)	令和6年度 (11/16)	令和7年度 (11/22)
調査時間		開始	09:30	09:45	09:20	10:15	09:15	10:15
		終了	10:30	10:58	10:26	11:24	10:20	11:23
天気			晴	快晴	晴	曇	曇	快晴
発電所運転状況（MW）	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1201	1193	0	0	1208	1207
	4号機		1194	1197	0	1199	1196	1199
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	19.3	20.2	19.7	18.9	21.6	21.0
		放水口	19.3	20.2	19.7	18.8	22.0	20.7
	3号機	取水口	19.3	20.4	19.8	18.9	22.0	20.8
		放水口	26.2	27.4	20.7	21.3	28.8	27.7
	4号機	取水口	19.3	20.4	−※	19.1	22.0	20.9
		放水口	26.1	27.2	20.8	25.6	28.6	27.6
取放水温度差（℃）	1、2号機		0.0	0.0	0.0	−0.1	0.4	−0.3
	3号機		6.9	7.0	0.9	2.4	6.8	6.9
	4号機		6.8	6.8	−※	6.5	6.6	6.7
温排水拡散域			＋	＋	＊	＋	＋	＋

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注） 平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。



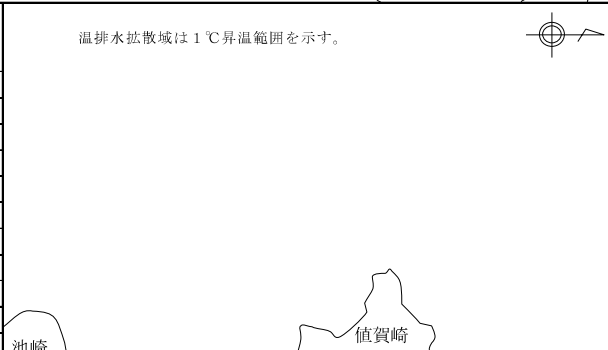
下げ潮時			令和2年度 (12/1)	令和3年度 (11/20)	令和4年度 (11/24)	令和5年度 (11/29)	令和6年度 (11/16)	令和7年度 (11/22)
調査時間		開始	12:30	12:30	12:00	13:00	12:00	13:00
		終了	13:28	13:33	13:30	14:08	13:00	14:05
天気			晴	快晴	晴	曇	曇	晴
発電所運転状況（MW）	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1200	1192	0	0	1210	1209
	4号機		1194	1197	0	1199	1196	1199
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	19.5	20.4	19.9	18.8	21.7	20.9
		放水口	19.6	20.4	19.9	18.8	22.0	20.9
	3号機	取水口	19.3	20.4	19.9	19.0	22.0	20.9
		放水口	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8	27.8
	4号機	取水口	19.3	20.4	−※	19.1	22.0	20.9
		放水口	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6	27.6
取放水温度差（℃）	1、2号機		0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
	3号機		6.9	7.0	0.8	2.2	6.8	6.9
	4号機		6.8	6.8	−※	6.5	6.6	6.7
温排水拡散域			＋	＋	＊	＋	＋	＋

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注） 平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。



干潮時			令和2年度 (12/1)	令和3年度 (11/20)	令和4年度 (11/24)	令和5年度 (11/29)	令和6年度 (11/16)	令和7年度 (11/22)
調査時間		開始	15:00	15:00	14:45	15:15	14:45	15:30
		終了	15:59	16:04	15:46	16:17	15:44	16:34
天気			晴	快晴	晴	曇	曇	快晴
発電所運転状況（MW）	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1200	1192	0	0	1209	1208
	4号機		1194	1197	0	1198	1196	1199
取放水口水温（℃）	1、2号機	取水口	19.4	20.2	19.8	18.8	21.8	20.9
		放水口	19.5	20.2	19.8	18.8	22.0	20.5
	3号機	取水口	19.3	20.4	19.9	19.1	22.0	20.9
		放水口	26.2	27.4	20.7	21.2	28.8	27.8
	4号機	取水口	19.3	20.4	−※	19.1	22.0	20.9
		放水口	26.1	27.2	20.9	25.6	28.6	27.6
取放水温度差（℃）	1、2号機		0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	−0.4
	3号機		6.9	7.0	0.8	2.1	6.8	6.9
	4号機		6.8	6.8	−※	6.5	6.6	6.7
温排水拡散域			＋	＋	＊	＋	＋	＋

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
※ 海水ポンプ取替に伴い、温度計付近の海水を水抜きしたため欠測。
注） 平成27年４月27日１号機運転終了。平成31年４月９日２号機運転終了。

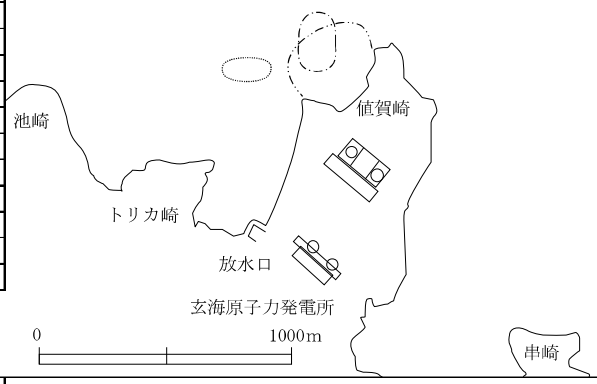


d 冬 季

満潮時			令和2年度 (2/28)	令和3年度 (2/18)	令和4年度 (2/22)	令和5年度 (2/25)	令和6年度 (2/27)	令和7年度 (2/17)
調査時間		開始	10:00	10:15	10:30	09:45	09:00	09:30
		終了	11:07	11:14	11:30	10:53	10:07	10:49
天気			晴	曇	快晴	曇	快晴	晴
発電所運転状況(MW)	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1203	0	1208	1203	1209	1207
	4号機		0	1195	1187	1200	1195	1199
取放水口水温(℃)	1、2号機	取水口	13.9	12.9	13.2	13.8	12.3	14.3
		放水口	13.9	12.8	13.2	13.9	12.2	14.3
	3号機	取水口	13.7	12.8	13.7	14.0	12.5	14.4
		放水口	20.7	14.9	20.7	20.9	19.5	21.3
	4号機	取水口	14.0	12.8	13.7	14.0	12.5	14.4
		放水口	15.1	19.7	20.6	20.8	19.2	21.2
取放水温度差(℃)	1、2号機		0.0	−0.1	0.0	0.1	−0.1	0.0
	3号機		7.0	2.1	7.0	6.9	7.0	6.9
	4号機		1.1	6.9	6.9	6.8	6.7	6.8
温排水拡散域			┈┈	-·-·-	−··−	+	+	+

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

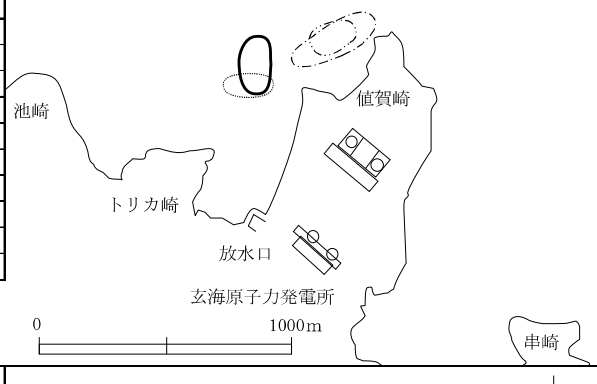
温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。



下げ潮時			令和2年度 (2/28)	令和3年度 (2/18)	令和4年度 (2/22)	令和5年度 (2/25)	令和6年度 (2/27)	令和7年度 (2/17)
調査時間		開始	13:00	13:00	13:30	12:45	12:00	12:20
		終了	14:04	13:58	14:30	13:51	13:07	13:20
天気			晴	晴	晴	晴	曇	晴
発電所運転状況(MW)	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1206	0	1208	1205	1209	1207
	4号機		0	1195	1187	1198	1196	1199
取放水口水温(℃)	1、2号機	取水口	14.1	13.0	13.6	14.0	12.4	14.7
		放水口	14.1	13.0	13.6	14.0	12.4	14.7
	3号機	取水口	13.8	12.7	13.8	14.1	12.5	14.4
		放水口	20.7	15.0	20.8	21.0	19.5	21.3
	4号機	取水口	13.8	12.7	13.7	14.1	12.5	14.4
		放水口	15.1	19.6	20.6	21.0	19.2	21.2
取放水温度差(℃)	1、2号機		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3号機		6.9	2.3	7.0	6.9	7.0	6.9
	4号機		1.3	6.9	6.9	6.9	6.7	6.8
温排水拡散域			┈┈	-·-·-	−··−	+	+	━━

＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

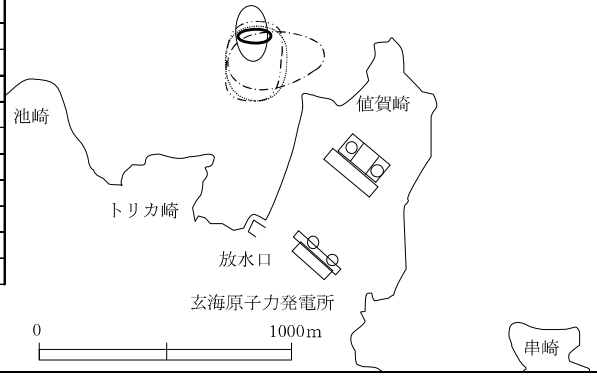
温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。



干潮時			令和2年度 (2/28)	令和3年度 (2/18)	令和4年度 (2/22)	令和5年度 (2/25)	令和6年度 (2/27)	令和7年度 (2/17)
調査時間		開始	15:15	15:30	16:00	15:00	14:30	15:00
		終了	16:30	16:30	17:07	16:10	15:31	15:58
天気			晴	晴	晴	曇	曇	晴
発電所運転状況(MW)	1号機		−	−	−	−	−	−
	2号機		−	−	−	−	−	−
	3号機		1202	0	1208	1205	1209	1206
	4号機		0	1194	1191	1200	1197	1199
取放水口水温(℃)	1、2号機	取水口	14.3	13.0	13.5	14.0	12.4	14.8
		放水口	14.1	13.0	13.5	14.0	12.4	14.8
	3号機	取水口	13.8	12.8	13.7	14.1	12.5	14.3
		放水口	20.7	15.0	20.7	21.0	19.5	21.2
	4号機	取水口	13.7	12.8	13.7	14.1	12.5	14.3
		放水口	16.0	19.7	20.6	21.0	19.3	21.1
取放水温度差(℃)	1、2号機		−0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3号機		6.9	2.2	7.0	6.9	7.0	6.9
	4号機		2.3	6.9	6.9	6.9	6.8	6.8
温排水拡散域			┈┈	-·-·-	−··−	+	──	━━

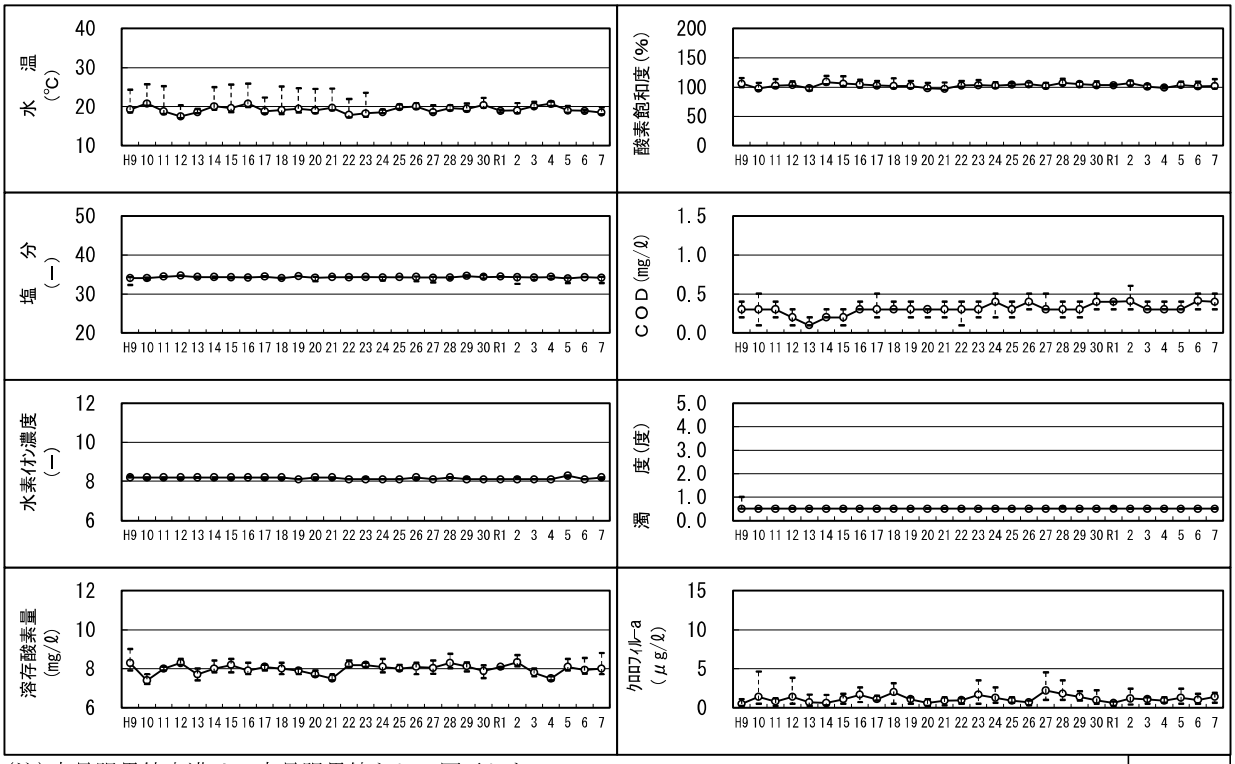
＊： 温排水の排出はなかった。
＋： 温排水拡散域は認められなかった。
注） 平成27年4月27日1号機運転終了。平成31年4月9日2号機運転終了。

温排水拡散域は1℃昇温範囲を示す。



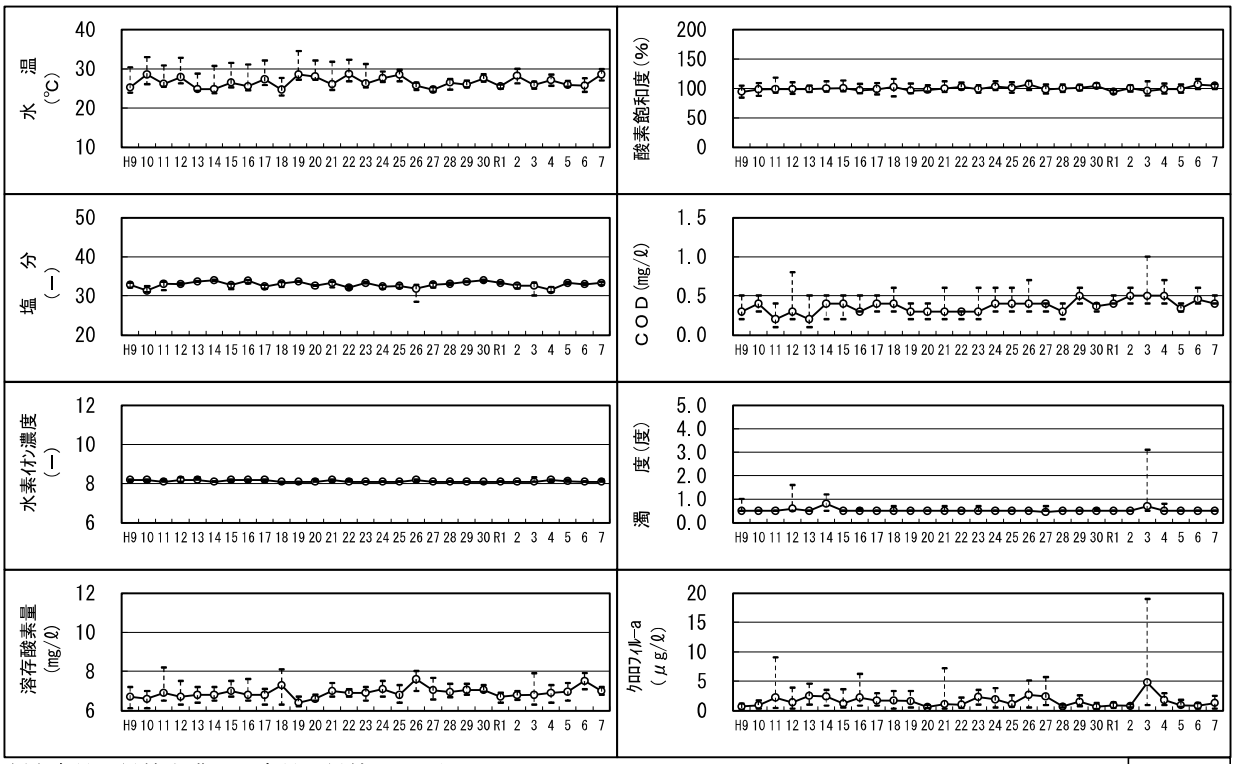
（２）水　質

平成９年～令和７年度　水質経年変化（春季）



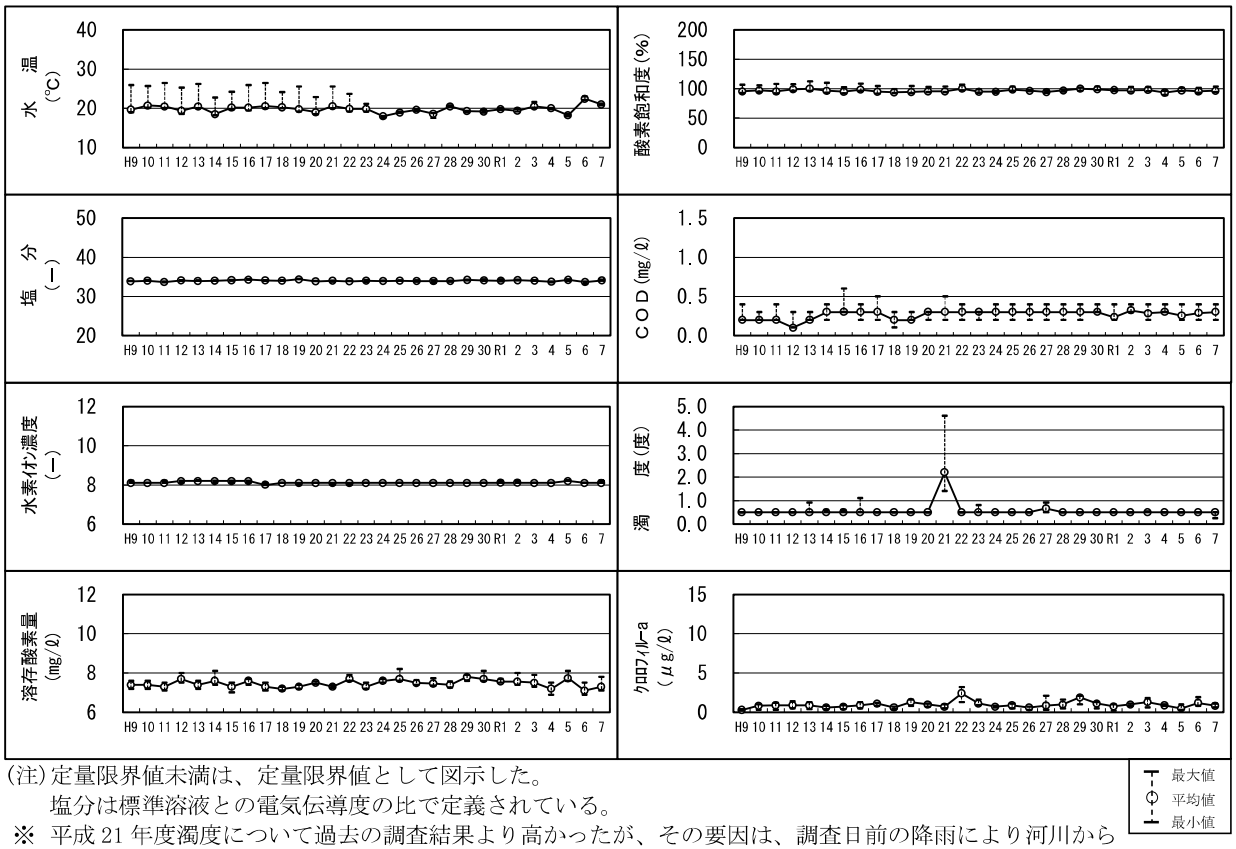
(注)定量限界値未満は、定量限界値として図示した。
塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

平成９年～令和７年度　水質経年変化（夏季）



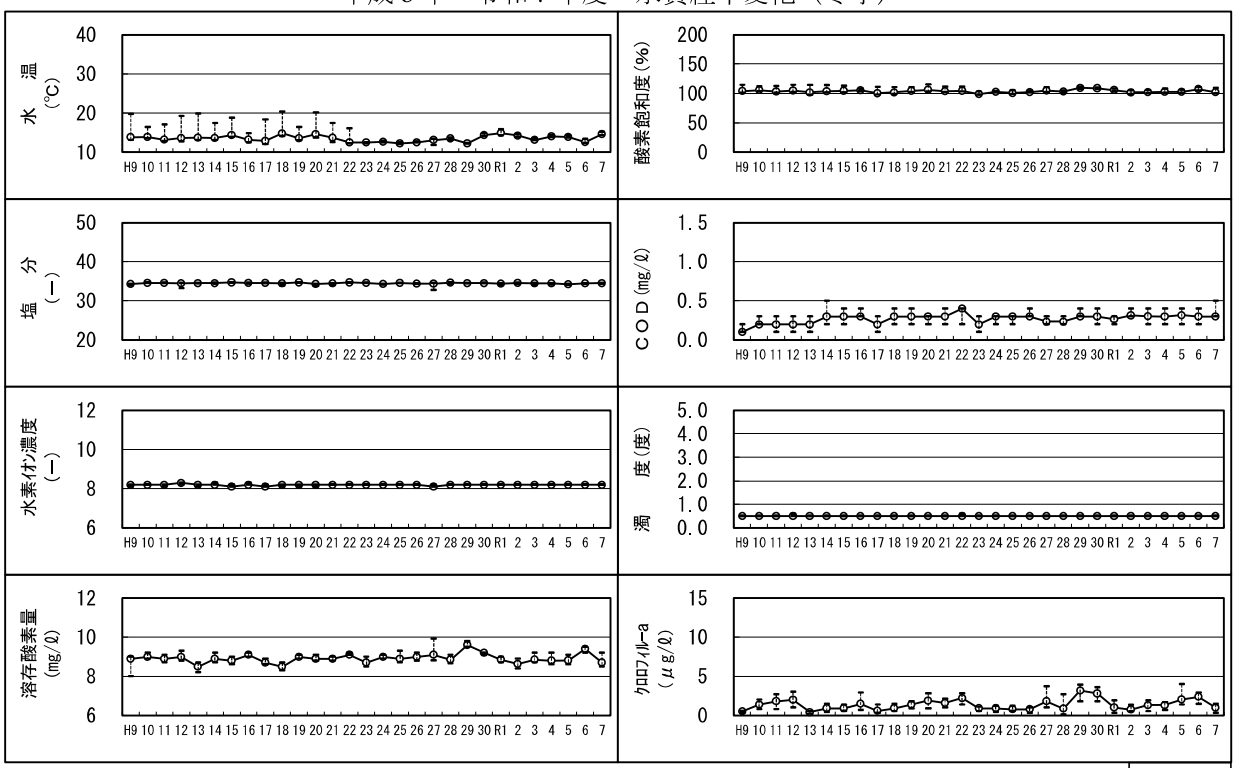
(注)定量限界値未満は、定量限界値として図示した。
塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。
令和３年度はクロロフィル-a が高く、ＣＯＤ、濁度及び塩分の結果から陸水の影響受けていたものと考えられる。

平成９年～令和７年度　水質経年変化（秋季）



(注)定量限界値未満は、定量限界値として図示した。
　　塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。
※　平成21年度濁度について過去の調査結果より高かったが、その要因は、調査日前の降雨により河川から流出した土砂が、時化により沈降できなかったためと考えられる。

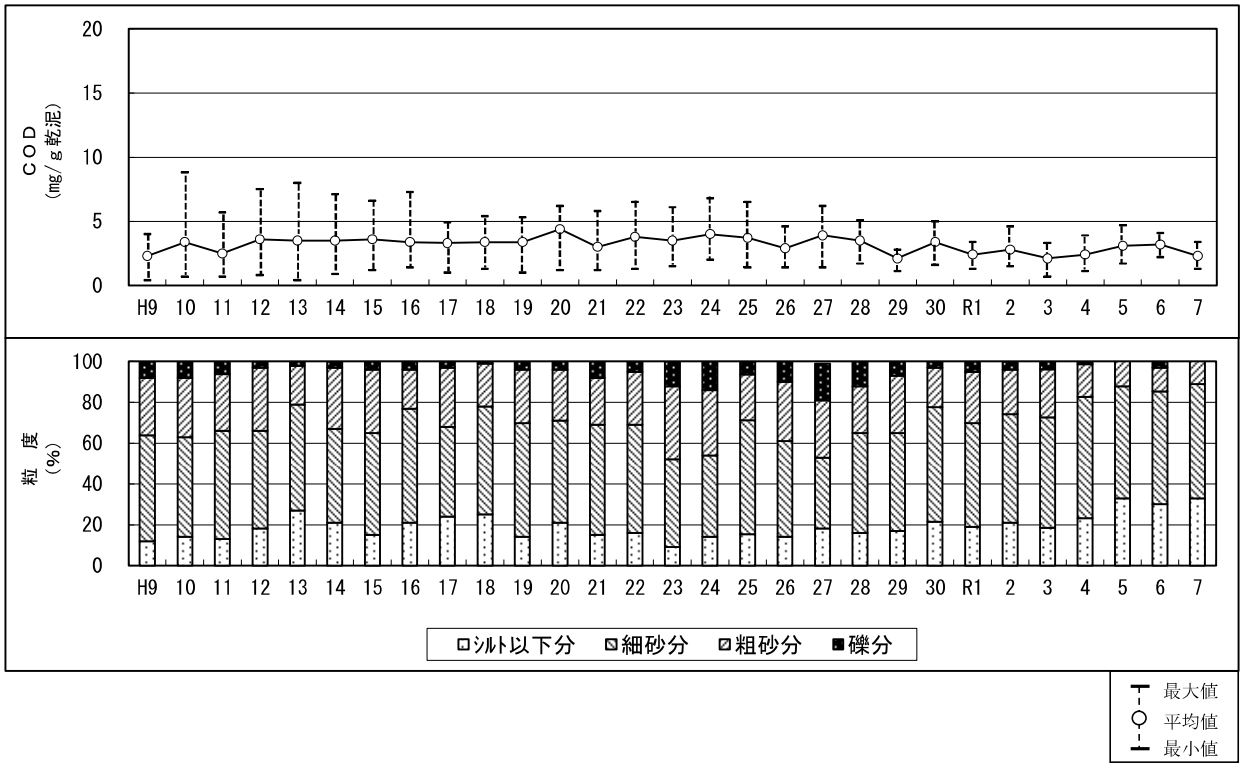
平成９年～令和７年度　水質経年変化（冬季）



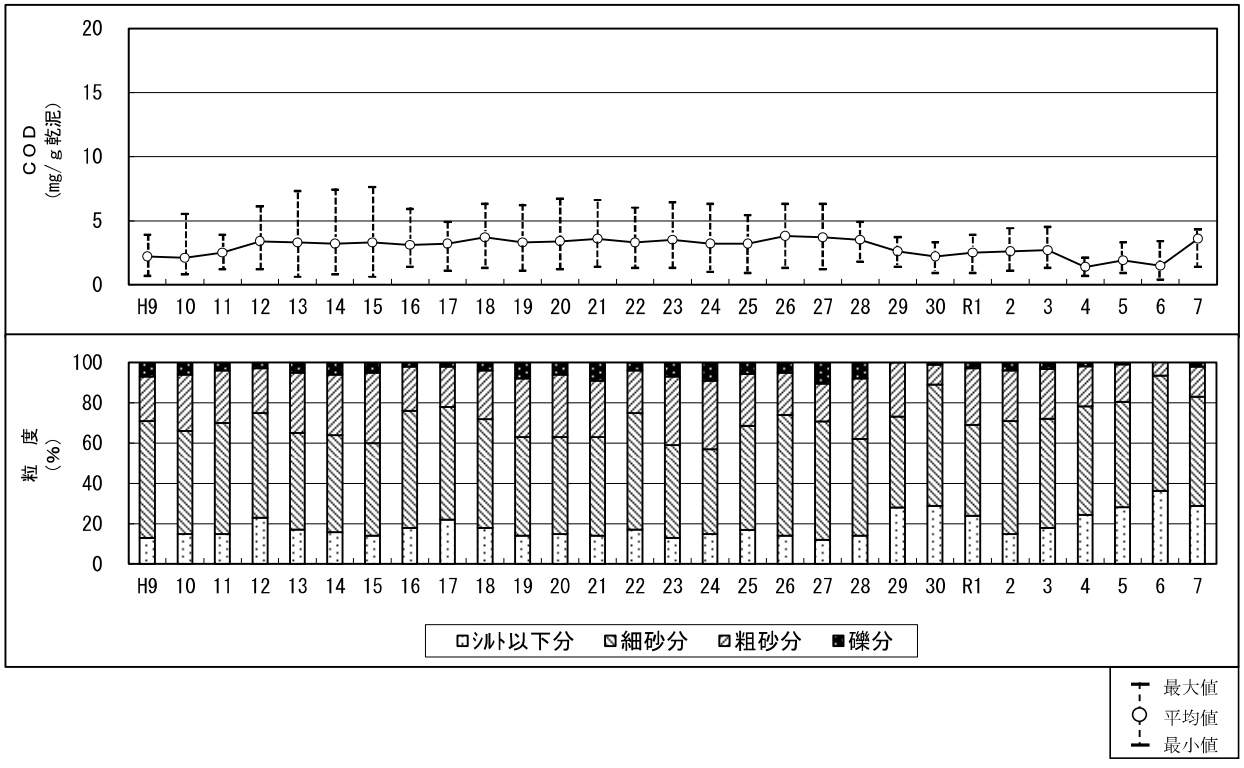
(注)定量限界値未満は、定量限界値として図示した。
　　塩分は標準溶液との電気伝導度の比で定義されている。

（３）底　質

平成９年～令和７年度　底質経年変化（夏季）



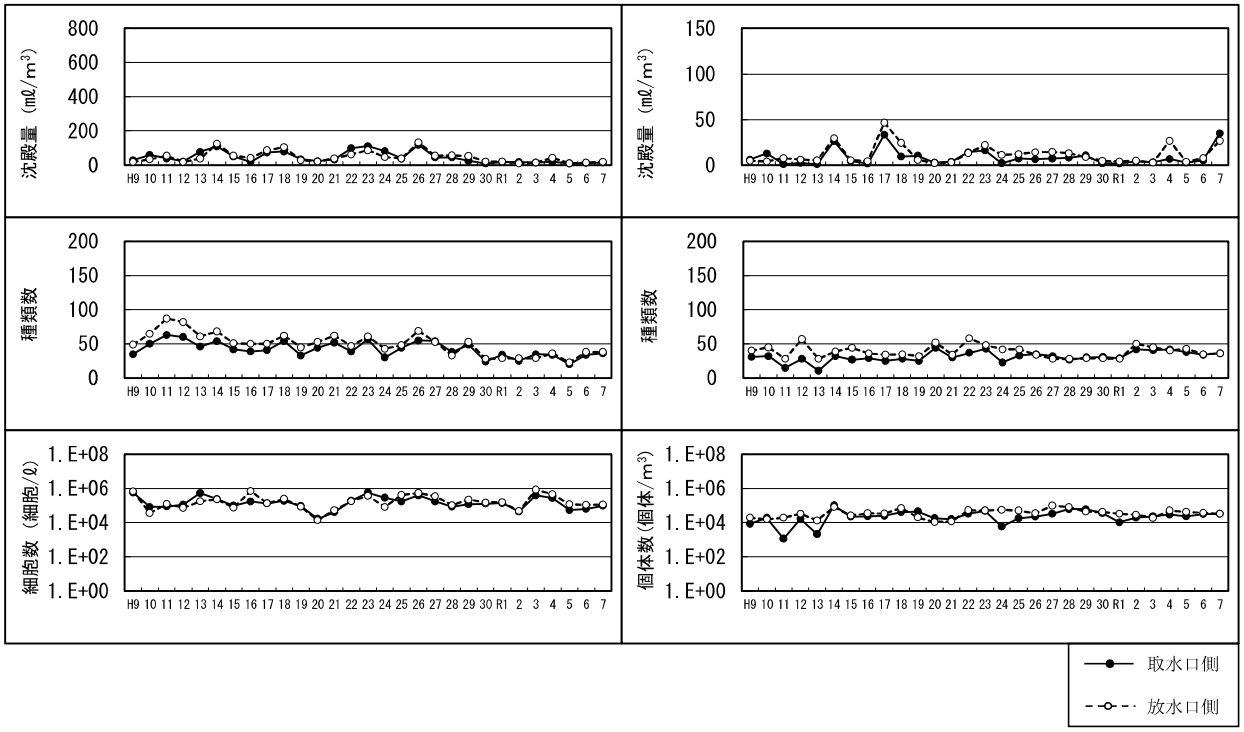
平成９年～令和７年度　底質経年変化（冬季）



（4）プランクトン

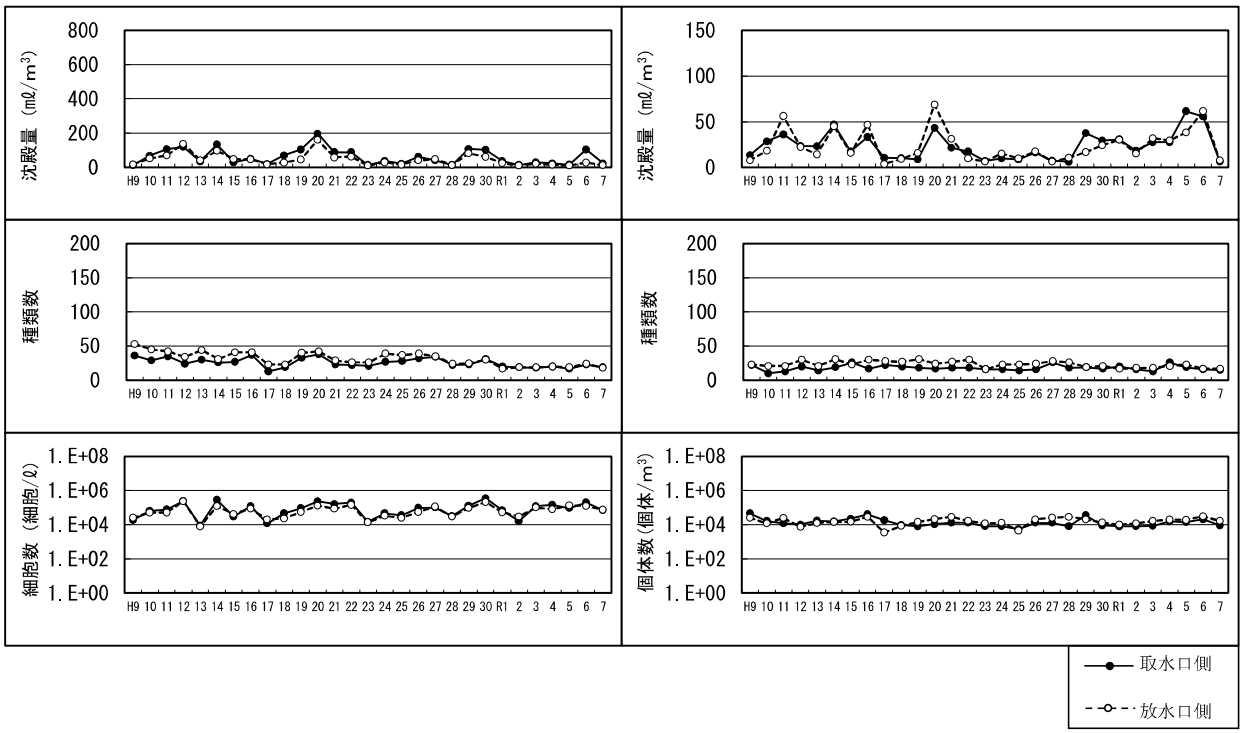
平成９年～令和７年度　プランクトン経年変化（夏季）

植物プランクトン　　動物プランクトン



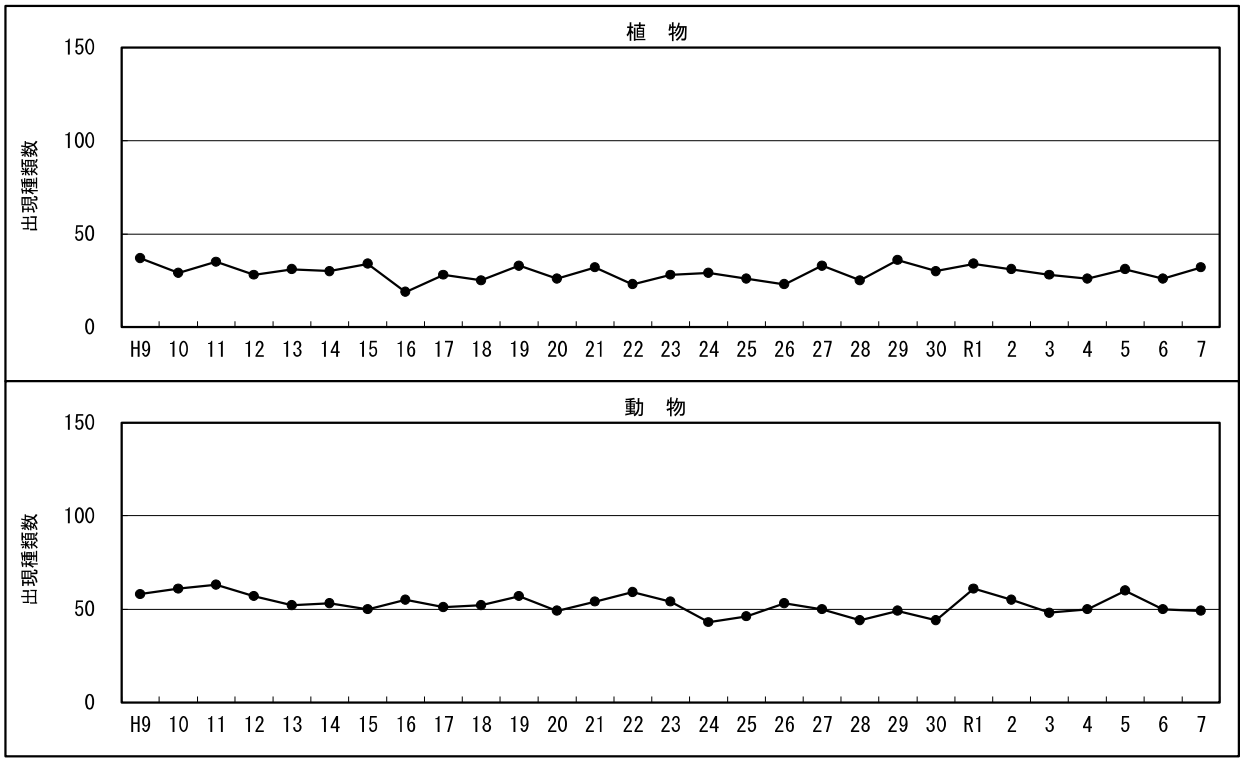
平成９年～令和７年度　プランクトン経年変化（冬季）

植物プランクトン　　動物プランクトン

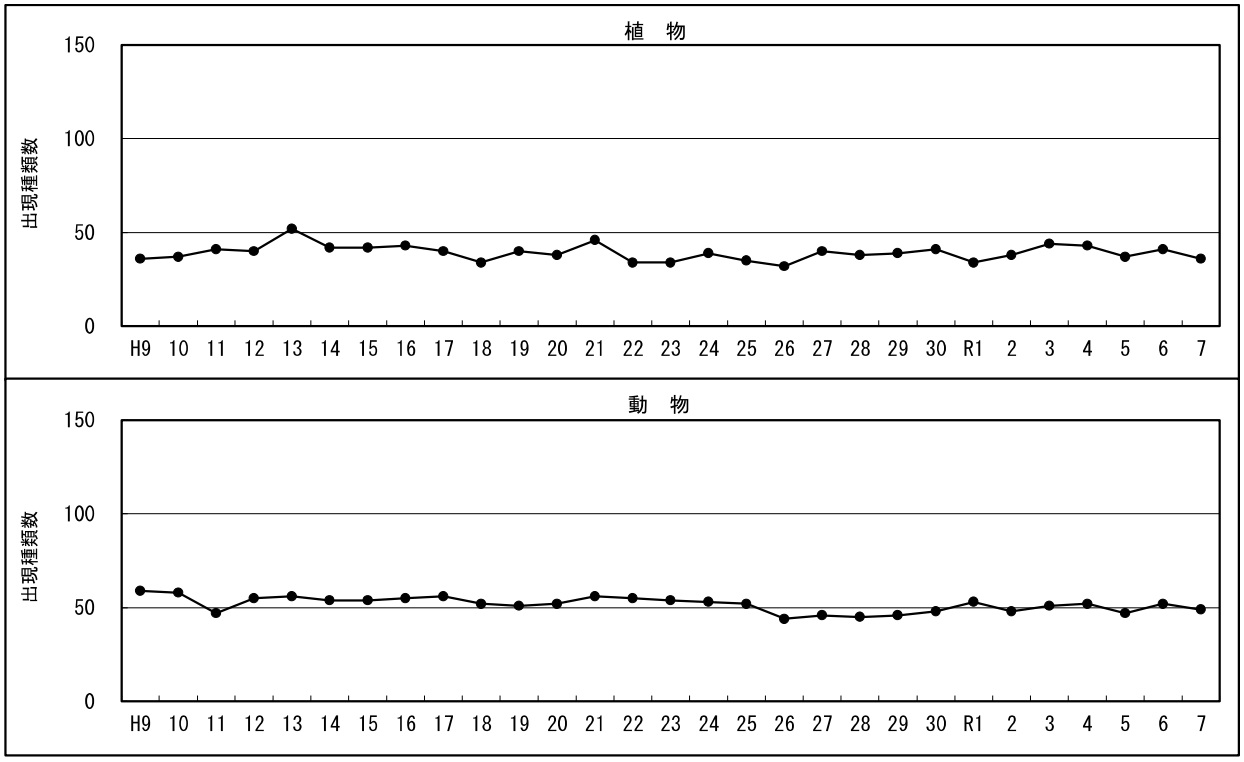


（５）潮間帯生物

平成９年～令和７年度　潮間帯生物経年変化（夏季）



平成９年～令和７年度　潮間帯生物経年変化（冬季）

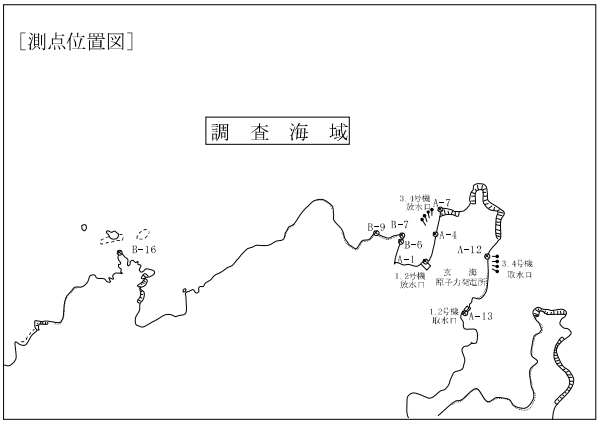


潮間帯生物出現一覧表（夏季）

植　物

No.	種名＼測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	ｻﾋﾞ亜科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	ｲﾜﾉｶﾜ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
3	藍藻綱	○	○	○	○		○	○	○	○	8
4	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
5	ｲｿｶﾞﾜﾗ科	○	○	○	○		○	○	○	○	8
6	ｻﾝｺﾞﾓ亜科			○	○	○	○	○	○	○	7
7	ﾋｼﾞｷ	○	○	○	○			○	○	○	7
8	ｳﾐﾄﾗﾉｵ	○		○			○	○		○	5
9	ｲｼｹﾞ			○	○		○	○	○		5
10	ﾓｻﾞｷ属			○	○	○		○			4
11	ｲﾜﾋｹﾞ	○		○	○				○		4
12	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ			○	○	○		○			4
13	ﾃﾝｸﾞｻ科			○		○				○	3
14	ｱｵｻ属			○		○		○			3
15	珪藻綱			○		○		○			3
16	ﾐﾄﾞﾘｹﾞ目			○	○						2
17	ｼｵｸﾞｻ属			○	○						2
18	ｶｲﾉﾘ			○	○						2
19	ｲｷﾞｽ科			○	○						2
20	ｲﾄｸﾞｻ属			○		○					2
21	ｿｿﾞ属			○				○			2
22	ｺﾝﾌﾞ科				○			○			2
23	ﾈｻﾞｼﾐﾙ					○					1
24	ﾏｸｻ			○							1
25	ｻｷﾌﾞﾄﾐﾙ			○							1
26	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科				○						1
27	ｲｿﾓｸ			○							1
28	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属			○							1
29	ﾂﾉﾏﾀ属				○						1
30	ﾐﾙ							○			1
31	ｱﾗﾒ				○						1
32	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属							○			1
出現種類数		8	5	25	19	11	8	17	9	9	

［測点位置図］



動　物

No.	種名＼測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
3	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
4	ｼﾛｶﾞｲ属	○	○	○		○	○	○	○	○	8
5	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	○	○		○	○	○	○	○	○	8
6	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ	○	○	○	○	○	○		○	○	8
7	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科			○	○	○	○	○	○	○	7
8	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ			○	○	○	○	○	○	○	7
9	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ			○	○	○	○	○	○	○	7
10	ｶﾒﾉﾃ			○	○	○	○	○	○	○	7
11	ﾖﾒｶﾞｶｻ	○	○	○			○	○	○	○	7
12	ｲﾎﾞﾆｼ			○	○		○	○	○	○	6
13	ｲｶﾞｲ科			○		○	○	○	○	○	6
14	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ			○	○	○	○		○	○	6
15	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			○		○	○	○	○	○	6
16	ｹｶﾞｷ			○	○	○		○		○	5
17	ｳﾉｱｼ	○	○	○	○			○			5
18	ﾌﾈｶﾞｲ科			○		○	○		○	○	5
19	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ			○	○		○	○	○		5
20	ﾑﾗｻｷｳﾆ			○			○	○		○	4
21	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ			○	○		○			○	4
22	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科			○		○			○	○	4
23	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科			○		○				○	3
24	ｶﾓｶﾞｲ					○		○	○		3
25	ｱｵｶﾞｲ属		○			○			○		3
26	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科				○	○				○	3
27	ｽｶｼｶﾞｲ科				○		○		○		3
28	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ科	○						○	○		3
29	海綿動物門			○		○			○		3
30	ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲﾓﾄﾞｷ			○		○	○				3
31	ｷｸｻﾞﾙ科			○	○	○					3
32	ｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ	○								○	2
33	ﾀﾏｷﾋﾞ					○		○			2
34	ﾚｲｼｶﾞｲ					○			○		2
35	ｸﾘﾌﾚｲｼ			○					○		2
36	ﾆｼｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			○				○			2
37	ｲｼﾀﾞﾀﾐ		○								1
38	ｱﾏｶﾞｲ									○	1
39	ｲｿﾆﾅ		○								1
40	ﾒｸﾗｶﾞｲ								○		1
41	ｸﾏﾉｺｶﾞｲ		○								1
42	ﾋﾒｸﾎﾞｶﾞｲ						○				1
43	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ						○				1
44	ｺﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞ		○								1
45	ｽｽﾞﾒｶﾞｲ科			○							1
46	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科					○					1
47	ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
48	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
49	ｽｶﾞｲ						○				1
出現種類数		9	12	28	18	28	24	21	26	24	

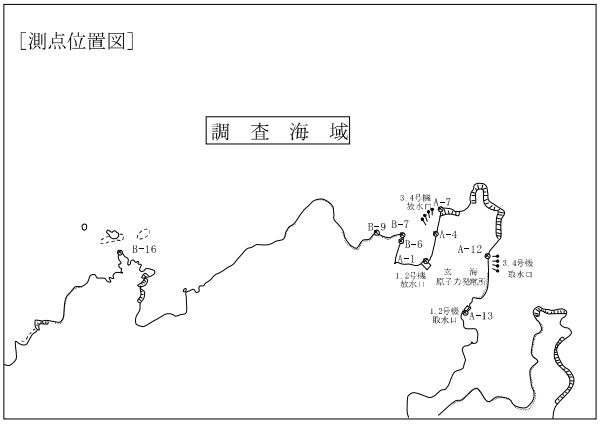
注）表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表（冬季）

植　物

No.	種名＼測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	ｻﾋﾞ亜科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	ｲﾜﾉｶﾜ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
3	ｲｿｶﾞﾜﾗ科		○	○	○	○	○	○	○	○	8
4	ｻﾝｺﾞﾓ亜科			○	○	○	○	○	○	○	7
5	ｱﾏﾉﾘ属		○	○	○	○	○	○	○		7
6	ｶﾔﾓﾉﾘ科			○	○	○	○	○	○	○	7
7	藍藻綱		○	○	○		○	○	○	○	7
8	ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ			○	○	○	○	○	○	○	7
9	ﾌｸﾛﾉﾘ	○		○	○	○	○			○	6
10	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ		○	○	○	○		○	○		6
11	ﾋｼﾞｷ		○	○	○			○		○	5
12	ｳﾐﾄﾗﾉｵ		○	○			○	○		○	5
13	ﾃﾝｸﾞｻ科		○	○	○	○	○				5
14	ｲｼｹﾞ	○		○	○		○	○			5
15	ｼﾜﾉｶﾜ		○		○		○			○	4
16	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科			○	○	○				○	4
17	珪藻綱			○		○		○	○		4
18	ﾕﾅ			○			○	○			3
19	ﾌｸﾛﾌﾉﾘ		○	○	○						3
20	ｱｵｻ属			○		○	○				3
21	ｲﾜﾋｹﾞ			○	○				○		3
22	ｲﾄｸﾞｻ属			○	○	○					3
23	ﾜｶﾒ	○					○			○	3
24	ﾓｻｽﾞｷ属			○	○						2
25	ｱｵﾉﾘ属						○				1
26	ｳﾐｳﾁﾜ			○							1
27	ｺﾝﾌﾞ科					○					1
28	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属			○							1
29	ﾏｸｻ			○							1
30	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科			○							1
31	ｵｷﾂﾉﾘ			○							1
32	ｶｲﾉﾘ			○							1
33	ﾂﾉﾏﾀ属				○						1
34	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ			○							1
35	ｲｷﾞｽ科				○						1
36	ｱﾗﾒ				○						1
	出現種類数	5	11	29	22	15	17	14	11	13	

［測点位置図］



動　物

No.	種名＼測点	A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
2	ｼﾛｶﾞｲ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
3	ﾖﾒｶﾞｶｻ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
4	ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
5	ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
6	ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	○	○		○	○	○	○	○	○	8
7	ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
8	ｲﾎﾞﾆｼ	○	○	○	○		○	○	○	○	8
9	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	○	○	○	○		○	○	○	○	8
10	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
11	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科			○	○	○	○	○	○	○	7
12	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ			○	○	○	○	○	○	○	7
13	ﾑﾗｻｷｲﾝｺ			○	○	○	○	○	○	○	7
14	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ			○	○	○	○	○	○	○	7
15	ｶﾒﾉﾃ			○		○	○	○	○	○	6
16	ｲｶﾞｲ科			○	○	○		○	○	○	6
17	ｱｵｶﾞｲ属		○	○		○		○	○		5
18	ｳﾉｱｼ	○	○	○	○					○	5
19	ﾀﾏｷﾋﾞ	○	○		○	○		○			5
20	ｶﾓｶﾞｲ			○	○		○	○	○		5
21	海綿動物門			○		○	○	○	○		5
22	ｷｸｻﾞﾙ科			○	○	○	○			○	5
23	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			○		○			○	○	4
24	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科			○	○		○	○			4
25	ｽｶｼｶﾞｲ科			○	○	○			○		4
26	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ		○	○			○			○	4
27	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科			○		○				○	3
28	ｹｶﾞｷ			○		○				○	3
29	ﾑﾗｻｷｳﾆ			○			○	○			3
30	ﾚｲｼｶﾞｲ			○		○		○			3
31	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科					○	○			○	3
32	ｲｼﾀﾞﾀﾐ		○				○				2
33	ﾌﾈｶﾞｲ科			○			○				2
34	ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲﾓﾄﾞｷ						○			○	2
35	ｸﾋﾞﾚｸﾛﾂﾞｹ		○								1
36	ﾁｸﾞｻｶﾞｲ属			○							1
37	ｱﾏｶﾞｲ									○	1
38	ｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ									○	1
39	ｺｼﾀﾞｶｳﾆ									○	1
40	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ				○						1
41	ﾒｸﾗｶﾞｲ			○							1
42	ｸﾙｽｶﾞｲ									○	1
43	ｳﾆﾚｲｼ					○					1
44	ｲｿﾆﾅ		○								1
45	ﾊﾈｶﾞﾔ科					○					1
46	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ科									○	1
47	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科			○							1
48	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
49	ｺｹﾑｼ綱					○					1
	出現種類数	10	15	32	22	28	25	23	21	29	

注）表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表（夏季・分類群別）

植　物

No.	種名					A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属			○		○		○			3
2			ﾐﾄﾞﾘｹﾞ目					○	○						2
3				ｼｵｸﾞｻ科	ｼｵｸﾞｻ属			○	○						2
4			ﾐﾙ目	ﾐﾙ科	ﾐﾙ							○			1
5					ｽｻﾞｼﾐﾙ					○					1
6					ｻｷﾌﾞﾄﾐﾙ			○							1
7	褐藻植物門	同形世代綱	ｼｵﾐﾄﾞﾛ目	ｲｿｶﾞﾜﾗ科		○	○	○	○		○	○	○	○	8
8			ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科					○						1
9		異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ			○	○		○	○	○		5
10			ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ	○		○	○				○		4
11			ｺﾝﾌﾞ目	ｺﾝﾌﾞ科					○			○			2
12					ｱﾗﾒ				○						1
13		円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ	○	○	○	○			○	○	○	7
14					ｳﾐﾄﾗﾉｵ	○		○			○	○		○	5
15					ｲｿﾓｸ			○							1
16					ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属							○			1
17	紅藻植物門	真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科				○		○				○	3
18					ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
19					ﾏｸｻ			○							1
20			ｶｸﾚｲﾄ目	ｲﾜﾉｶﾜ科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
21				ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
22					ﾓｻｽﾞｷ属			○	○	○		○			4
23					ｻﾝｺﾞﾓ亜科			○	○	○	○	○	○	○	7
24			ｽｷﾞﾉﾘ目	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ科	ｲﾊﾞﾗﾉﾘ属			○							1
25				ｷｼﾞﾉｵ科	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ			○	○	○		○			4
26				ｽｷﾞﾉﾘ科	ｶｲﾉﾘ			○	○						2
27					ﾂﾉﾏﾀ属				○						1
28			ｲｷﾞｽ目	ｲｷﾞｽ科				○	○						2
29				ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科	ｲﾄｸﾞｻ属			○		○					2
30					ｿｿﾞ属			○				○			2
31	藍藻植物門	藍藻綱				○	○	○	○		○	○	○	○	8
32	珪藻植物門	珪藻綱						○		○		○			3
出現種類数						8	5	25	19	11	8	17	9	9	

動　物

No.	種名					A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	海綿動物門							○		○			○		3
2	刺胞動物門	花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					○		○	○	○	○	○	6
3	軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾆｼｷﾋｻﾞﾗｶﾞｲ			○				○			2
4					ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
5				ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科					○	○				○	3
6		ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ｽｶｼｶﾞｲ科					○		○		○		3
7				ﾂﾀﾉﾊ科	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ			○	○	○	○		○	○	6
8					ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	○	○		○	○	○	○	○	○	8
9					ﾖﾒｶﾞｶｻ	○	○	○			○	○	○	○	7
10				ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ	○	○	○	○			○			5
11					ｶﾓｶﾞｲ					○		○	○		3
12					ｼﾛｶﾞｲ属	○	○	○		○	○	○	○	○	8
13					ｱｵｶﾞｲ属		○			○			○		3
14				ﾆｼｷｳｽﾞ科	ｲｼﾀﾞﾀﾐ		○								1
15					ﾒｸﾗｶﾞｲ								○		1
16					ｸﾏﾉｺｶﾞｲ		○								1
17					ﾋﾒｸﾎﾞｶﾞｲ						○				1
18				ﾘｭｳﾃﾝ科	ｽｶﾞｲ						○				1
19					ｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ	○								○	2
20				ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｶﾞｲ									○	1
21			ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科				○	○	○	○	○	○	○	7
22					ﾀﾏｷﾋﾞ					○		○			2
23					ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
24					ｺﾋﾞﾄｳﾗｳｽﾞ		○								1
25				ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ			○	○		○			○	4
26				ｽｽﾞﾒｶﾞｲ科				○							1
27			ﾊﾞｲ目	ｱｸｷｶﾞｲ科	ﾚｲｼｶﾞｲ					○			○		2
28					ｲﾎﾞﾆｼ			○	○		○	○	○	○	6
29					ｸﾘﾌﾚｲｼ			○					○		2
30				ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ科	ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ						○				1
31				ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ		○								1
32			ﾓﾉｱﾗｶﾞｲ目	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ科		○						○	○		3
33					ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ			○	○		○	○	○		5
34		ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ﾌﾈｶﾞｲ目	ﾌﾈｶﾞｲ科				○		○	○		○	○	5
35			ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科				○		○	○	○	○	○	6
36					ﾑﾗｻｷｲﾝｺ			○	○	○	○	○	○	○	7
37					ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲﾓﾄﾞｷ			○		○	○				3
38			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科				○		○				○	3
39					ｹｶﾞｷ			○	○	○		○		○	5
40			ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｷｸｻﾞﾙ科				○	○	○					3
41	環形動物門	ｺﾞｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科				○		○			○	○	4
42					ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ	○	○	○	○	○	○		○	○	8
43	節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞｶﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ			○	○	○	○	○	○	○	7
44				ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科						○					1
45					ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ			○	○	○	○	○	○	○	7
46				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
47					ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
48					ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
49	棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ			○			○	○		○	4
出現種類数						9	12	28	18	28	24	21	26	24	

注）表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

潮間帯生物出現一覧表（冬季・分類群別）

植　物

No.	種名					測点 A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	緑藻植物門	緑藻綱	ｱｵｻ目	ｱｵｻ科	ｱｵｻ属			○		○	○				3
2					ｱｵﾉﾘ属						○				1
3	褐藻植物門	同形世代綱	ｼｵﾐﾄﾞﾛ目	ｲｿｶﾞﾜﾗ科			○	○	○	○	○	○	○	○	8
4			ｱﾐｼﾞｸﾞｻ目	ｱﾐｼﾞｸﾞｻ科				○	○	○				○	4
5					ｳﾐｳﾁﾜ			○							1
6		異形世代綱	ﾅｶﾞﾏﾂﾓ目	ﾈﾊﾞﾘﾓ科	ｼﾜﾉｶﾜ		○		○		○			○	4
7				ｲｼｹﾞ科	ｲｼｹﾞ	○		○	○		○	○			5
8			ﾊﾊﾞﾓﾄﾞｷ目	ｺﾓﾝﾌﾞｸﾛ科	ｲﾜﾋｹﾞ			○	○				○		3
9				ｶﾔﾓﾉﾘ科				○	○	○	○	○	○	○	7
10					ﾌｸﾛﾉﾘ	○		○	○	○	○			○	6
11			ｺﾝﾌﾞ目	ｺﾝﾌﾞ科						○					1
12					ｱﾗﾒ				○						1
13					ﾜｶﾒ	○					○			○	3
14		円胞子綱	ﾋﾊﾞﾏﾀ目	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ科	ﾋｼﾞｷ		○	○	○			○		○	5
15					ｳﾐﾄﾗﾉｵ		○	○			○	○		○	5
16					ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ属			○							1
17	紅藻植物門	原始紅藻綱	ｳｼｹﾉﾘ目	ｳｼｹﾉﾘ科	ｱﾏﾉﾘ属		○	○	○	○	○	○	○		7
18		真正紅藻綱	ﾃﾝｸﾞｻ目	ﾃﾝｸﾞｻ科			○	○	○	○	○				5
19					ﾋﾒﾃﾝｸﾞｻ			○	○	○	○	○	○	○	7
20					ﾏｸｻ			○							1
21			ｶｸﾚｲﾄ目	ｲﾜﾉｶﾜ科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
22				ｻﾝｺﾞﾓ科	ｻﾋﾞ亜科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
23					ﾓｻｽﾞｷ属			○	○						2
24					ｻﾝｺﾞﾓ亜科			○	○	○	○	○	○	○	7
25				ﾑｶﾃﾞﾉﾘ科				○							1
26				ﾌﾉﾘ科	ﾌｸﾛﾌﾉﾘ		○	○	○						3
27			ｽｷﾞﾉﾘ目	ｷｼﾞﾉｵ科	ｲｿﾀﾞﾝﾂｳ		○	○	○	○		○	○		6
28				ｵｷﾂﾉﾘ科	ｵｷﾂﾉﾘ			○							1
29				ｽｷﾞﾉﾘ科	ｶｲﾉﾘ			○							1
30					ﾂﾉﾏﾀ属				○						1
31			ﾀﾞﾙｽ目	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ科	ﾜﾂﾅｷﾞｿｳ			○							1
32			ｲｷﾞｽ目	ｲｷﾞｽ科					○						1
33				ﾌｼﾞﾏﾂﾓ科	ｲﾄｸﾞｻ属			○	○	○					3
34					ﾕﾅ			○			○	○			3
35	藍藻植物門	藍藻綱					○	○	○		○	○	○	○	7
36	珪藻植物門	珪藻綱						○		○		○	○		4
出現種類数						5	11	29	22	15	17	14	11	13	

動　物

No.	種名					測点 A-1	A-4	A-7	A-12	A-13	B-6	B-7	B-9	B-16	出現測点数
1	海綿動物門							○		○	○	○	○		5
2	刺胞動物門	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ綱	ﾋﾄﾞﾛﾑｼ目	ﾊﾈｶﾞﾔ科						○					1
3		花虫綱	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目					○		○			○	○	4
4				ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ科	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ				○						1
5	軟体動物門	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ綱	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ目	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	○		○	○	○	○	○	○	○	8
6				ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ科				○	○		○	○			4
7		ﾏｷｶﾞｲ綱	ｵｷﾅｴﾋﾞｽ目	ｽｶｼｶﾞｲ科				○	○	○			○		4
8				ﾂﾀﾉﾊ科	ﾍﾞｯｺｳｻﾞﾗ			○	○	○	○	○	○	○	7
9					ﾏﾂﾊﾞｶﾞｲ	○	○		○	○	○	○	○	○	8
10					ﾖﾒｶﾞｶｻ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
11				ﾕｷﾉｶｻ科	ｳﾉｱｼ	○	○	○	○					○	5
12					ｶﾓｶﾞｲ			○	○		○	○	○		5
13					ｼﾛｶﾞｲ属	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
14					ｱｵｶﾞｲ属		○	○		○		○	○		5
15				ﾆｼｷｳｽﾞ科	ﾒｼﾀﾞﾀﾐ		○				○				2
16					ｸﾋﾞﾚｸﾛﾂﾞｹ		○								1
17					ﾒｸﾗｶﾞｲ			○							1
18					ﾁｸﾞｻｶﾞｲ属			○							1
19				ﾘｭｳﾃﾝ科	ｳﾗｳｽﾞｶﾞｲ									○	1
20				ｱﾏｵﾌﾞﾈ科	ｱﾏｶﾞｲ									○	1
21			ﾆﾅ目	ﾀﾏｷﾋﾞｶﾞｲ科				○	○	○	○	○	○	○	7
22					ﾀﾏｷﾋﾞ	○	○		○	○		○			5
23					ｱﾗﾚﾀﾏｷﾋﾞ	○			○	○	○	○	○	○	8
24				ﾑｶﾃﾞｶﾞｲ科	ｵｵﾍﾋﾞｶﾞｲ		○	○			○			○	4
25				ｶﾘﾊﾞｶﾞｻ科	ｸﾙｽｶﾞｲ									○	1
26			ﾊﾞｲ目	ｱｸｷｶﾞｲ科	ｳﾆﾚｲｼ					○					1
27					ﾚｲｼｶﾞｲ			○		○		○			3
28					ｲﾎﾞﾆｼ	○	○	○	○		○	○	○	○	8
29				ｴｿﾞﾊﾞｲ科	ｲｿﾆﾅ		○								1
30			ﾓﾉｱﾗｶﾞｲ目	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ科		○	○	○	○	○	○	○	○	○	9
31					ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	○	○	○	○		○	○	○	○	8
32		ﾆﾏｲｶﾞｲ綱	ﾌﾈｶﾞｲ目	ﾌﾈｶﾞｲ科				○			○				2
33			ｲｶﾞｲ目	ｲｶﾞｲ科				○	○	○		○	○	○	6
34					ﾑﾗｻｷｲﾝｺ			○	○	○	○	○	○	○	7
35					ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲﾓﾄﾞｷ						○			○	2
36			ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ目	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ科										○	1
37				ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ科				○		○				○	3
38					ｹｶﾞｷ			○		○				○	3
39			ﾊﾏｸﾞﾘ目	ｷｸｻﾞﾙ科				○	○	○	○			○	5
40				ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科				○							1
41	環形動物門	ｺﾞｶｲ綱	ｹﾔﾘ目	ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ科						○	○			○	3
42					ﾔｯｺｶﾝｻﾞｼ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
43	節足動物門	甲殻綱	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ目	ﾐｮｳｶﾞｶﾞｲ科	ｶﾒﾉﾃ			○		○	○	○	○	○	6
44				ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ			○	○	○	○	○	○	○	7
45				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ科	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ					○					1
46					ｸﾛﾌｼﾞﾂﾎﾞ		○	○	○	○	○	○	○	○	8
47	触手動物門	ｺｹﾑｼ綱								○					1
48	棘皮動物門	ｳﾆ綱	ﾎﾝｳﾆ目	ｻﾝｼｮｳｳﾆ科	ｺｼﾀﾞｶｳﾆ									○	1
49				ﾅｶﾞｳﾆ科	ﾑﾗｻｷｳﾆ			○			○	○			3
出現種類数						10	15	32	22	28	25	23	21	29	

注）表中の○は、その測点で観察されたことを示す。

Ⅴ　玄海原子力発電所周辺環境調査計画

＜令和８年度＞

Ⅴ　目　次

Ⅴ－Ⅰ　玄海原子力発電所周辺環境放射能調査計画＜令和８年度＞‥ Ⅴ－１

Ⅴ－Ⅱ　温排水影響調査計画（県実施分）＜令和８年度＞‥‥‥‥‥‥‥‥ Ⅴ－19

Ⅴ－Ⅲ　温排水影響調査計画（九州電力実施分）＜令和８年度＞‥‥‥ Ⅴ－23

Ⅴ－Ⅰ　玄海原子力発電所周辺環境放射能調査計画

＜令和８年度＞

Ⅰ　佐賀県

1　空間放射線

a　モニタリングポスト

測定項目	測定方法等	頻度	測定機器	地点名	地点図
空間放射線量率	モニタリングポスト（テレメータシステム）	連続	NaI（Tl）シンチレーション式検出器 電離箱式検出器	今村局	図1
				平尾局	
				串局	
				先部局	
				外津浦局	
				京泊先局	
			電離箱式検出器	屋形石局	
				大良局	
				諸浦局	
				入野局	
				寺浦局	
				名護屋局	
				石室局	
				加倉局	
				呼子局	
				波多津局	
				相知局	
				松浦局	
			Si 半導体式検出器	馬渡島局	
				加唐島局	
				向島局	
				小川島局	
				二タ子局	
				山本局	
				田野局	
				立花局	

b　走行サーベイ

測定項目	測定方法	頻度	測定機器	測定範囲（図4）	測定時期
空間放射線量率	走行サーベイ車（可搬型測定器）	3ルート/四半期（計 12 ルート）	CsI（Tl）シンチレーション式検出器	発電所から5km～30km	毎四半期

2　環境試料中の放射能

測定試料		頻度	試料名	地点名（図2、図3）	採取時期（四半期）				核種分析				
					1	2	3	4	γ ※1	^{131}I	^{90}Sr	^{3}H	Pu※2
農畜産物・植物	葉菜	年1回	たまねぎ	値賀	○				1				
				納所	○				1				
			きゃべつ	轟木			○		1	1			
	牛乳	年3回	牛乳	栄	○	○☆		○	3	3	1		
				田野	○	○		○	3	3			
	穀物	年1回	米	平尾		○			1	1			
				諸浦		○☆			1		1		
	指標生物	年1回	松葉	名護屋				○☆	1	1	1		
		年2回	杉葉	納所		○		○☆	2	2	1		
	その他	年1回	ばれいしょ	平尾	○				1				
				納所	○				1				
			みかん	平尾			○		1				
				串			○		1				
海産生物	魚	年2回	たい	発電所から10km圏内の海域		○	○		2				
			かわはぎ			○☆	○		2		1		
			えそ			○	○		2				
	無脊椎動物	年1回	なまこ	八田浦周辺				○☆	1		1		
	指標生物	年2回	ほんだわら類			○☆		○	2	2	1		
	その他	年1回	むらさきいんこがい			○			1				
水	陸水	年4回	水道水	値賀出張所	○☆	○	○	○	4	4	1	4	
		年1回	水道水	別表1	別表1				5	5	5	5	
		年2回	河川水	志礼川	○☆		○		2	2	1	2	
	海水	年1回	表層水	1、2号放水口付近		○☆			1	1	1	1	
				3、4号放水口付近		○☆			1	1	1	1	
				1、2号取水口付近				○☆	1	1	1	1	
				3、4号取水口付近				○☆	1	1	1	1	

※1　：ガンマ線放出核種として、^{60}Co、^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定
※2　：^{238}Pu 及び $^{239+240}$Pu を測定
○　　：核種分析の実施時期
○☆　：^{90}Sr を含む核種分析の実施時期

（続き）

測定試料		頻度	試料名	地点名 （図2、図3）	採取時期（四半期）				核種分析				
					1	2	3	4	γ ※1	^{131}I	^{90}Sr	^{3}H	Pu※2
土	土壌	年1回	表層土	串	○				1				
				九州電力値賀寮	○☆				1		1		
				別表 2	別表 2				10		10		1※3
	海底土	年1回	表層土	1、2号放水口付近		○☆			1		1		
				3、4号放水口付近		○☆			1		1		
				1、2号取水口付近				○☆	1		1		
				3、4号取水口付近				○☆	1		1		
計					—				59	28	33	15	1

※1 ：ガンマ線放出核種として、^{60}Co、^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定
※2 ：^{238}Pu 及び $^{239+240}$Pu を測定
※3 ：松浦局のみ測定
○ ：核種分析の実施時期
○☆ ：^{90}Sr を含む核種分析の実施時期

別表１　陸水（水道水）の採取地点（15 地点　令和６(2024)年度～令和８(2026)年度）

番号	地点名	調査年度	採取時期 (四半期)
1	楠浄水場	R6	1
2	瀬戸木場浄水場	R7	2
3	加唐島浄水場	R6	4
4	馬渡島浄水場	R7	4
5	向島浄水場	R8	4
6	松島浄水場	R8	1
7	木場浄水場	R6	2
8	波瀬簡易水道	R6	3
9	東分簡易水道	R6	3
10	城簡易水道	R7	3
11	大久保簡易水道	R8	2
12	西大久保飲料水供給施設	R7	1
13	日南郷飲料水供給施設	R7	3
14	岩立飲料水供給施設	R8	3
15	田代飲料水供給施設	R8	3

別表２　土壌（表層土）の採取地点（50 地点　令和４(2022)年度～令和８(2026)年度）

番号	地点名	調査年度	採取時期(四半期)
1	屋形石局	R6	3
2	大良局	R5	3
3	諸浦局	R5	3
4	入野局	R5	2
5	寺浦局	R5	2
6	加倉局	R6	3
7	呼子局	R6	3
8	馬渡島局	R6	2
9	加唐島局	R6	2
10	向島局	R6	2
11	小川島局	R6	2
12	二タ子局	R7	3
13	山本局	R7	3
14	波多津局	R5	2
15	田野局	R5	2
16	相知局	R8	3
17	松浦局	R8	3
18	立花局	R4	2
19	轟木公民館	R5	3
20	佐志小学校	R7	3
21	唐津第一中学校	R7	3
22	鏡山小学校	R7	2
23	ひれふりランド	R7	2
24	切木小学校	R5	2
25	竹木場小学校	R5	3

番号	地点名	調査年度	採取時期(四半期)
26	旧半田児童館	R7	2
27	唐津市浜玉林業構造改善センター	R7	2
28	池原集会所	R8	2
29	七山小中学校	R7	2
30	北波多浄水場跡	R5	3
31	佐里地区公民館	R8	3
32	旧田頭小学校	R8	2
33	旧厳木小学校広川分校	R8	2
34	平山地区公民館	R8	2
35	旧厳木小学校	R8	2
36	ｽﾎﾟｰﾂﾗﾝﾄﾞ馬渡	R6	2
37	松島	R6	3
38	旧神集島小学校	R6	3
39	高島公民館前	R7	3
40	黒川ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	3
41	南波多ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	3
42	大川運動広場	R8	3
43	牧島ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	3
44	大坪ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	3
45	松浦運動広場	R8	3
46	山代ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	2
47	東山代ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	2
48	旧滝野小中学校	R4	2
49	二里ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	2
50	大川内ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	R4	3

3　大気浮遊じん中の放射能

測定核種	測定方法等	頻度	測定機器	地点名	地点図
^{60}Co ^{134}Cs ^{137}Cs	ダストサンプラで連続捕集し、回収した試料（ろ紙）を灰化後、測定	月1回	Ge 半導体検出器 （環境センター内設置）	今村（いまむら）局	図4
^{131}I	ヨウ素サンプラで捕集し、回収した捕集材を測定	年1回	Ge 半導体検出器 （環境センター内設置）	9地点 （別表3）	図4

別表３　大気浮遊じん中の ^{131}I 採取地点（県：26 地点　令和６(2024)年度～令和 12(2030)年度）

番号	地点名(地点)	調査年度						
		R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
1	今村(いまむら)局	○	○	○	○	○	○	○
2	平尾(ひらお)局						○	
3	串(くし)局			○				
4	先部(さくべ)局	○						
5	外津浦(ほかわづうら)局					○		
6	京泊先(きょうどまりさき)局							○
7	屋形石(やかたいし)局					○		
8	大良(だいら)局	○						
9	諸浦(もろうら)局		○					
10	入野(いりの)局				○			
11	寺浦(てらうら)局			○				
12	名護屋(なごや)局		○					
13	石室(いしむろ)局				○			
14	加倉(かくら)局						○	
15	呼子(よぶこ)局				○			
16	馬渡島(まだらしま)局						○	
17	加唐島(かからしま)局							○
18	向島(むくしま)局					○		
19	小川島(おがわじま)局	○	○	○	○	○	○	○
20	二タ子(ふたご)局	○	○	○	○	○	○	○
21	山本(やまもと)局			○				
22	波多津(はたつ)局	○	○	○	○	○	○	○
23	田野(たの)局		○					
24	相知(おうち)局	○	○	○	○	○	○	○
25	松浦(まつうら)局	○						
26	立花(たちばな)局	○	○	○	○	○	○	○

Ⅱ　九州電力

1　空間放射線

a　モニタリングポスト、放水口モニタ

測定項目	測定方法等	頻度	測定機器	地点名	地点図
空間放射線量率	モニタリングポスト（テレメータシステム）	連続	NaI(Tl)シンチレーション式検出器	正門南局	図1
				岸壁局	
				値賀崎（ちかざき）局	
				ダム南局	
放水口計数率	放水口モニタ（テレメータシステム）	連続	NaI(Tl)シンチレーション式検出器	1、2 号放水口	
				3 号放水口	
				4 号放水口	

b　走行サーベイ

測定項目	測定方法	頻度	測定機器	測定範囲（図4）	測定時期
空間放射線量率	モニタリングカー	年2回（1ルート）	NaI(Tl)シンチレーション式検出器	発電所から5km 未満	第1四半期 第3四半期

2　環境試料中の放射能

測定試料		頻度	試料名	地点名（図2、図3）	採取時期（四半期）				核種分析			
					1	2	3	4	γ※	^{131}I	^{90}Sr	^{3}H
農畜産物・植物	葉菜	年3回	ほうれん草	今村（いまむら）	○		○	○☆	3	3	1	
	牛乳	年4回	牛乳	浜野浦（はまのうら）	○	○	○☆	○	4	4	1	
	穀物	年1回	米	普恩寺（ふおんじ）			○☆		1	1	1	
				下宮（しもみや）			○		1			
	指標生物	年4回	松葉	敷地内	○☆	○	○	○	4	4	1	
	その他	年1回	かんしょ	普恩寺（ふおんじ）			○☆		1		1	
				今村（いまむら）			○		1			
海産生物	魚	年2回	たい	発電所から10km圏内の海域	○		○☆		2		1	
	無脊椎動物	年2回	いか		○		○		2			
		年1回	さざえ	八田浦周辺（はったうら）			○		1			
			なまこ					○☆	1		1	
	海藻類	年1回	わかめ		○☆				1	1	1	
	指標生物	年2回	ほんだわら類		○☆		○		2	2	1	
水	陸水	年4回	河川水	志礼川（しれがわ）	○	○★	○	○☆★	4	4	1	2
		年2回	ダム水	敷地内		○★		○☆★	2	2	1	2
	海水	年4回	表層水	1、2号放水口付近	○☆★	○	○★	○	4	4	1	2
				3、4号放水口付近	○★	○	○☆★	○	4	4	1	2
				1、2号取水口付近	○☆★	○	○★	○	4	4	1	2
				3、4号取水口付近	○★	○	○☆★	○	4	4	1	2
土	土壌	年2回	表層土	岸壁側	○		○		2			
				正門南	○☆		○		2		1	
		年1回	表層土	九州電力今村寮（いまむら）	○☆				1		1	
		年2回	ダム底土	敷地内	○☆		○		2		1	
	海底土	年2回	表層土	1、2号放水口付近		○☆		○	2		1	
				3、4号放水口付近		○☆		○	2		1	
				1、2号取水口付近		○☆		○	2		1	
				3、4号取水口付近		○☆		○	2		1	
計					—				61	37	22	12

※　：ガンマ線放出核種として、^{60}Co、^{134}Cs 及び ^{137}Cs を測定
○　：核種分析の実施時期
○☆　：^{90}Sr を含む核種分析の実施時期
○★　：^{3}H を含む核種分析の実施時期

3　大気浮遊じん中の放射能

測定核種	測定方法等	頻度	測定機器	地点名	地点図
^{60}Co ^{134}Cs ^{137}Cs	ダストサンプラで連続捕集し、回収した試料（ろ紙）を灰化後、測定	四半期1回	Ge 半導体検出器 （発電所内設置）	正門南局	図4
^{131}I	ヨウ素サンプラ及びヨウ素モニタで捕集、測定 （ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｶｰ）	年1回	ヨウ素モニタ （ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞｶｰ内設置）	10 地点 （別表4）	

別表４　大気浮遊じん中の ^{131}I 採取地点（九州電力）

番号	地点名（地点）
1	発電所口（玄海町大字今村）
2	串崎（唐津市鎮西町）
3	外津（玄海町大字今村）
4	普恩寺（玄海町大字普恩寺）
5	串公民館（唐津市鎮西町）
6	今村交差点（玄海町大字今村）
7	串浦（唐津市鎮西町）
8	値賀取水場（玄海町大字今村）
9	名護屋南（唐津市鎮西町）
10	玄海町値賀出張所（玄海町大字平尾）

Ⅲ 測定方法及び測定機器

調査項目 ＼ 調査機関		測定法	測定器	
			佐賀県	九州電力
空間放射線	空間放射線量率（モニタリングポスト） 放水口計数率（放水口モニタ）	固定型モニタリングポスト（県・九電）、放水口モニタ（九電）による連続測定（テレメータシステム） 「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 日立アロカメディカル （多重波高分析器付） MSR-R69-22234 電離箱式検出器 14L 球形加圧型（N_2＋Ar ガス） 日立アロカメディカル MSR-R69-21090R1 MSR-R69-22205 Si 半導体式検出器 富士電機 検出部：NLF-TA7D4901C01 測定部：NLF-TA7D4900C01	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2″φ×2″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 富士電機 NDS3AAA2-BYYYY-S NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 富士電機 N16E-116 NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償回路付） 日立製作所 ADP-1132
	空間放射線量率（走行サーベイ車、モニタリングカー）	車載型検出器による連続走行測定 「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	CsI(Tl)シンチレーション式検出器 松浦電弘社 MAC-2531	NaI(Tl)シンチレーション式検出器 3″φ×3″円柱型 （温度補償・ｴﾈﾙｷﾞｰ補償回路付） 日立製作所 ADP-1132
環境試料中の放射能	ガンマ線放出核種 ・^{60}Co ・^{131}I ・^{134}Cs ・^{137}Cs	「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」（令和2年改訂 原子力規制庁）及び「放射性ヨウ素分析法」（平成8年改訂 文部科学省）に準ずる。	高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a	高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a
	ストロンチウム90（^{90}Sr）	「放射性ストロンチウム分析法」（令和7年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4502	低バックグラウンド放射能自動測定装置 日立製作所 LBC-4602
	トリチウム（^{3}H）	「トリチウム分析法」（令和5年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB7	低バックグラウンド液体シンチレーション計数装置 日立製作所 LSC-LB8

（注）メーカ名は購入時。

（続き）

調査項目＼調査機関		測　定　法	測　定　器	
			佐　賀　県	九　州　電　力
大気浮遊じん中の放射能	ガンマ線放出核種 ・^{60}Co ・^{134}Cs ・^{137}Cs	・捕集 県：ダストサンプラで1か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 九電：エアーサンプラで3か月吸引し、ろ紙上に捕集後灰化 ・測定 環境試料中の放射能−ガンマ線放出核種と同様	・捕集 ダストサンプラ アロカ MDR-69AB00001297 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a	・捕集 ダストサンプラ 富士電機 NAD-TA7C5463C01 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 キャンベラジャパン GC3018 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a
	放射性ヨウ素 ・^{131}I （固定型ヨウ素サンプラ、可搬型ヨウ素サンプラ、モニタリングカー）	「緊急時における放射性ヨウ素測定法」（令和5年改訂 原子力規制庁）に準ずる。	・捕集 ヨウ素サンプラ アロカ DSM-1401BU1R1 富士電機 NAL-TA7C3413C01 アロカ DSM-R60 ・測定 高純度ゲルマニウム半導体検出器 オルテック GEM30-70-LB-C-HJ 多重波高分析器 セイコー・イージーアンドジー MCA-7a	・捕集 ヨウ素サンプラ 日立製作所 DSM-362BU3R1 ・測定 ヨウ素モニタ NaI(Tl)シンチレーション式検出器 2″φ×2″円柱型 日立製作所 ADP-1122

（注）メーカ名は購入時。

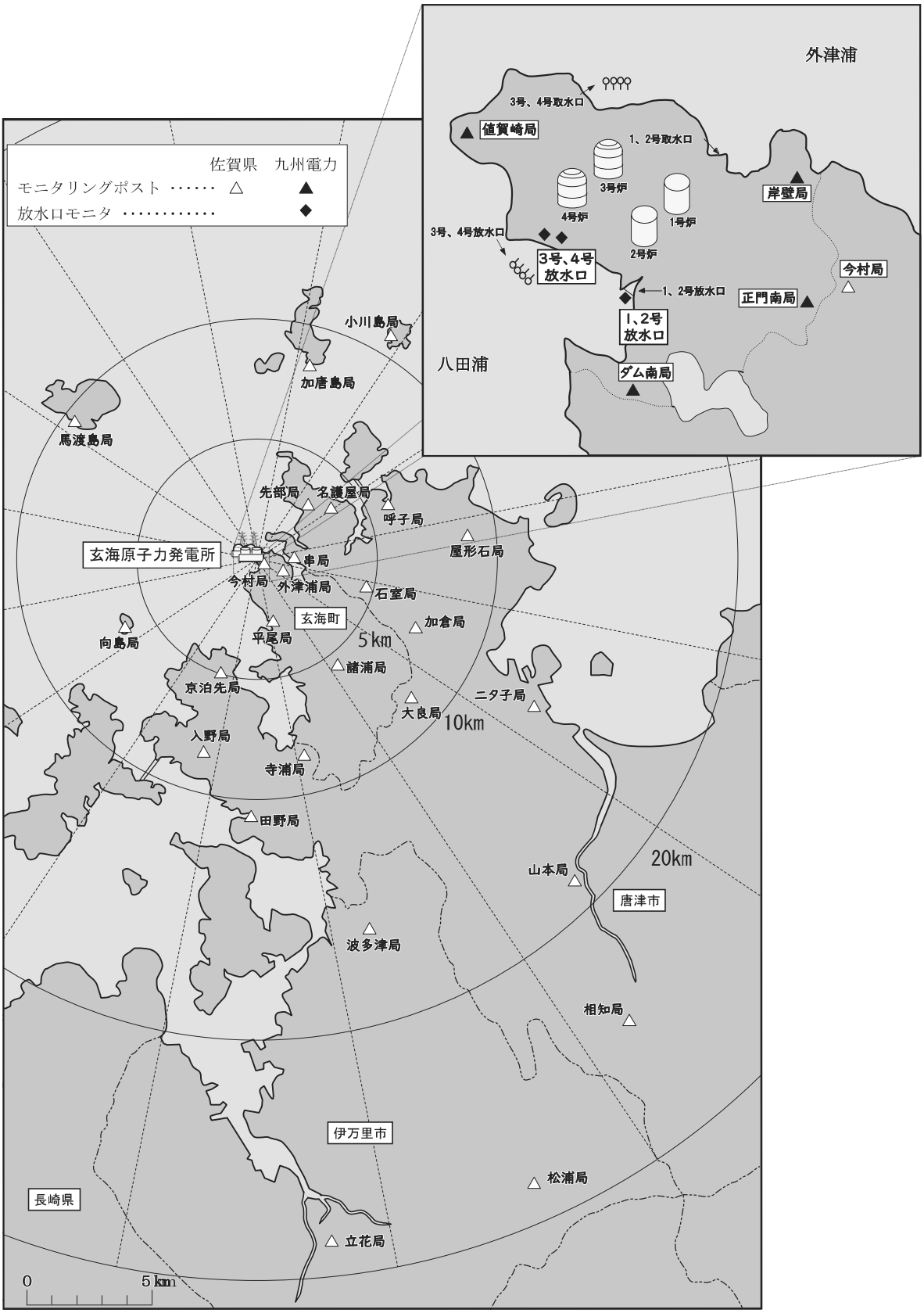


図１　空間放射線測定地点

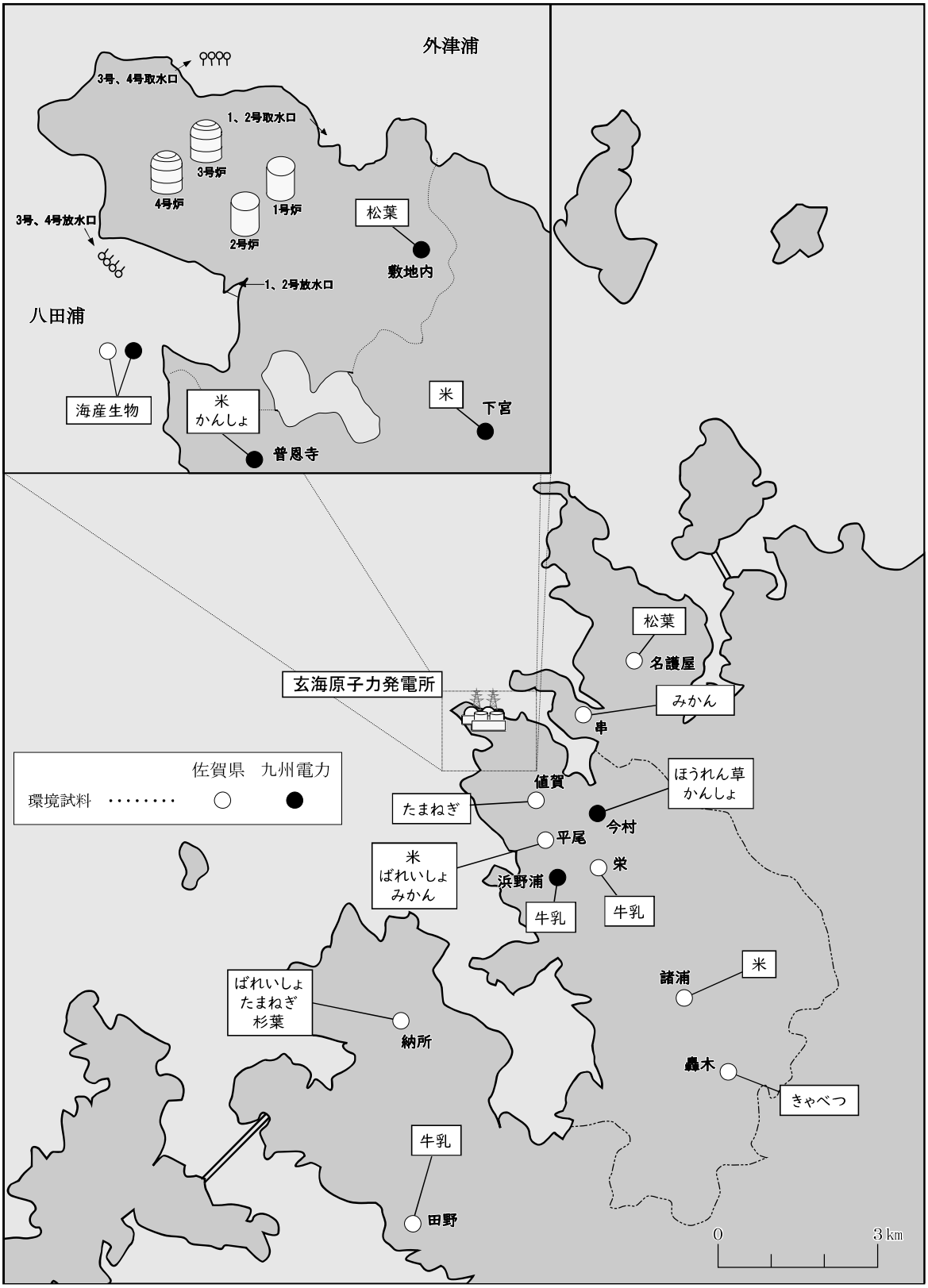


図２　環境試料採取地点（農畜産物・植物、海産生物）

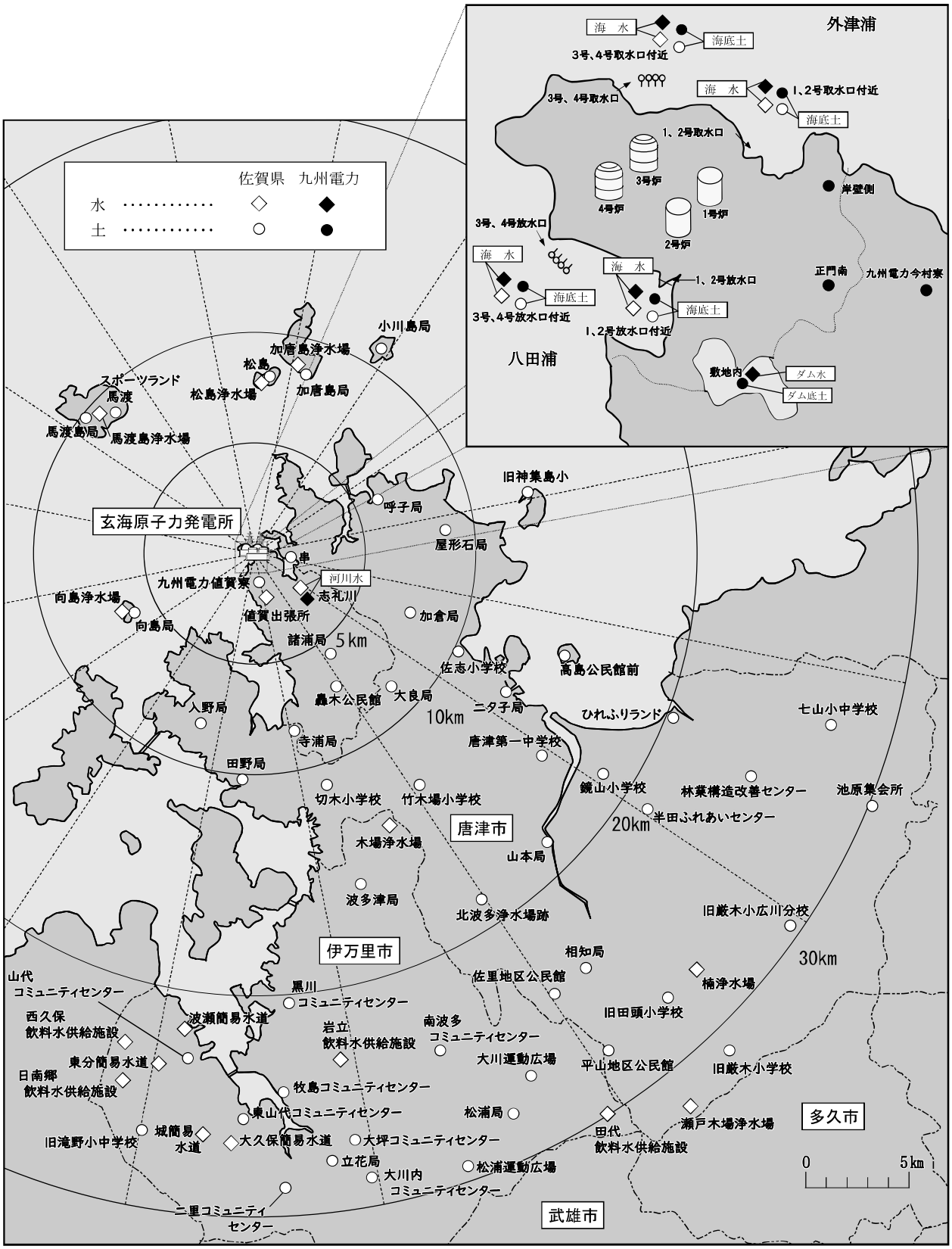


図３　環境試料採取地点（水、土）

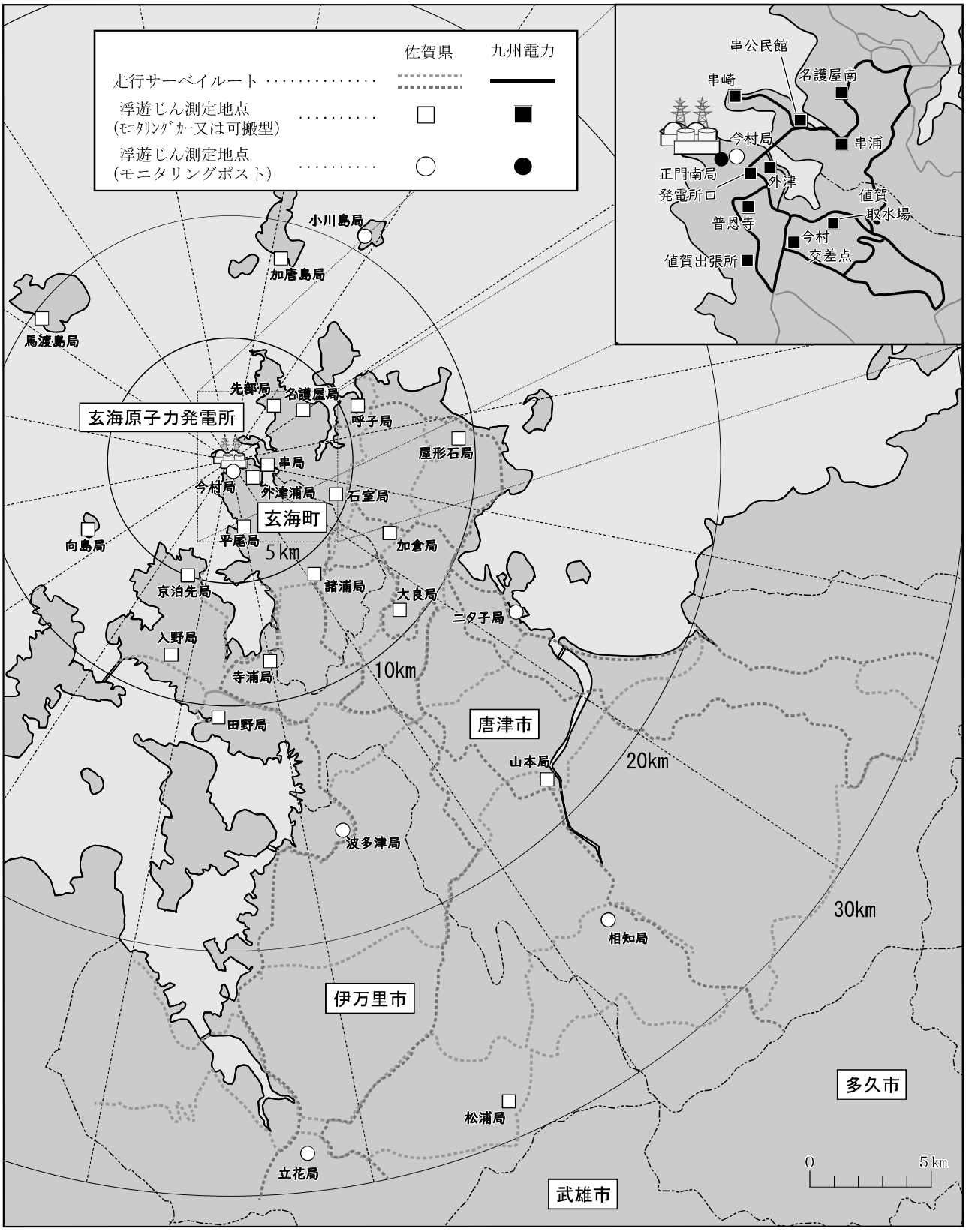


図４　空間放射線等測定地点（走行サーベイ、大気浮遊じん）

Ⅴ－Ⅱ　温排水影響調査計画（県実施分）

＜令和８年度＞

令和8年度調査計画

項　目	調査月	内　容	調査回数	点数	観　測　層	調査方法および使用機器
拡散調査	夏季 冬季	水温 塩分	2	74	水温 0.3(表層),1,2, 3,4,5,7,10,15,20m 塩分 0.3(表層)m	・水温、塩分:多項目水質計による現場測定 (JFEアドバンテック社　ASTD102)
流動調査	夏季	流向 流速	1	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・流向・流速計による現場測定 (JFEアドバンテック社　AEM213-D)
水質調査	夏季 冬季	水温 pH DO 濁度 ｸﾛﾛﾌｨﾙｰa	2	5	0.3(表層),5,10, B-1(底層)m	・ナンセン転倒採水器による採水 ・水温、DO、濁度:多項目水質計による現場測定 (JFEアドバンテック社　ASTD102) ・pH:卓上測定器による測定 (HORIBA社 卓上pH計) ・クロロフィルーa:蛍光法
底質・底生生物調査	夏季	粒度組成 COD ベントス	1	10	海底土	・スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥 ・粒度組成:ふるい分け法、沈殿分析法 ・COD:アルカリ法 ・ベントス:マクロベントスについて同定・計数
付着生物調査	夏季 冬季	動物 植物	2	10	潮間帯	・ベルトトランセクト法 岸側各点から海方向にメジャーを伸ばし、1.5m毎に50cm枠中の種類，数量(被度)を調査

※付着生物調査は、民間業者へ委託

※夏季(7～9 月)、冬季(1～3 月)

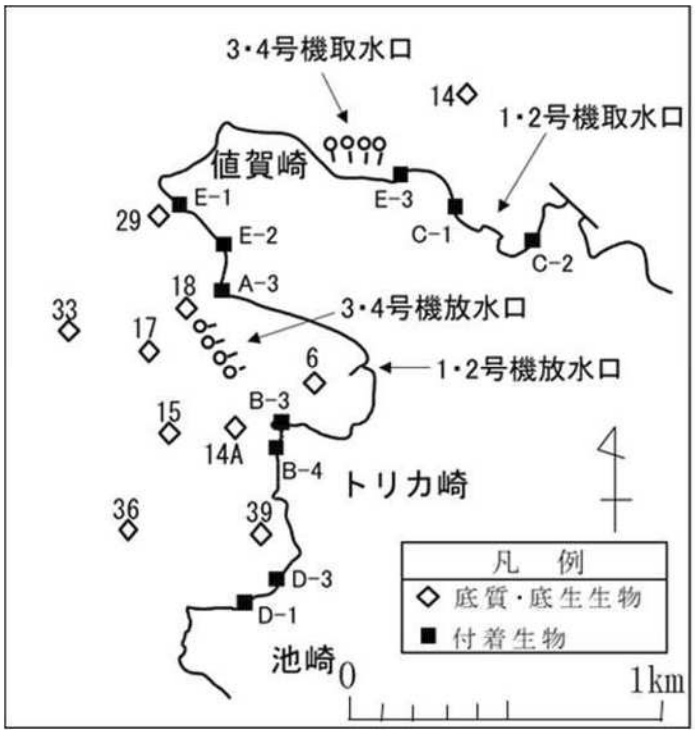


図1　調査点-1 （底質・底生生物調査、付着生物調査）

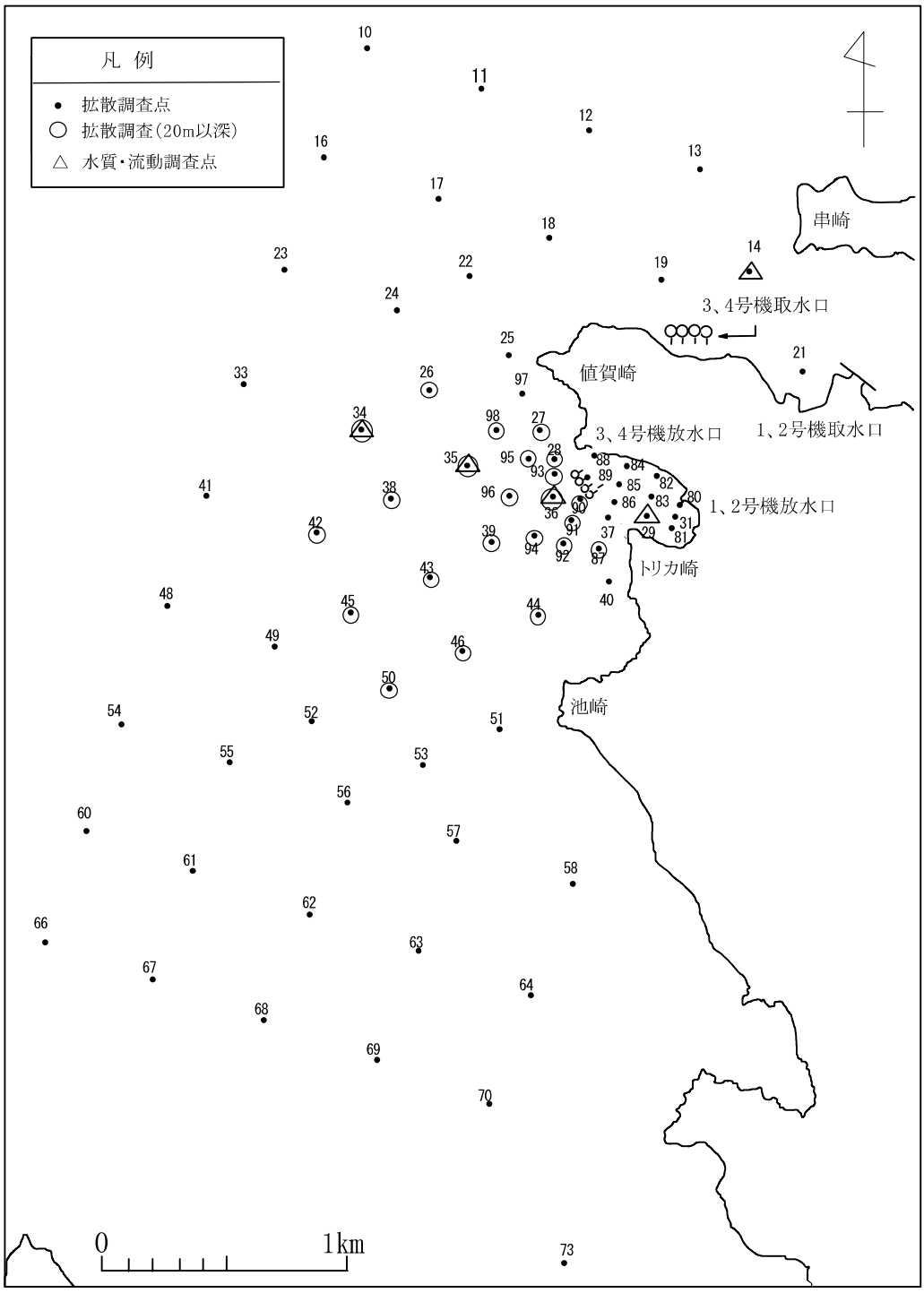


図２　調査点-2 （拡散調査、流動調査、水質調査）

Ⅴ－Ⅲ　温排水影響調査計画（九州電力実施分）

＜令和８年度＞

項　　目	調査頻度	調　　査　　内　　容	備　考
流　　況	年２回	電磁流速計による定点流況連続測定 ・５測点：海面下２ｍの１層　（測点については第１図参照）	・調査時期:夏季、冬季 ・15日間連続測定
水　　温	年４回	曳航式水温塩分測定装置による連続測定 ・水平分布　16 測線：海面下 0.3、１、２、３ｍの４層 多項目水質計による測定 ・鉛直分布　38 測点：海面下 0.3、１～10mは１ｍ間隔、 10m以深は５ｍ間隔、最深は海底上１ｍ （測線及び測点については第１図参照）	
水　　質	同　上	バンドーン採水器による採水 ・７測点　５測点：海面下 0.5、３、８、20ｍの４層 ２測点：海面下 0.5、３、８ｍまたは海底上１ｍの３層 （分析項目等及び測点については表－１、第２図参照）	
底　　質	年２回	スミス・マッキンタイヤ採泥器による採泥 ・７測点　（分析項目等及び測点については表－２、第２図参照）	・調査時期:夏季、冬季
ﾌﾟﾗﾝｸﾄﾝ	同　上	動物プランクトン 北原式閉鎖型定量ネットによる採集 植物プランクトン バンドーン採水器による採集（採水後、沈殿し採集） ・７測点　５測点：植物 海面下 0.5、３、８、15ｍの４層 動物 海面下０～10、10～20ｍの２層 ２測点：植物 海面下 0.5、３、８ｍまたは海底上１ｍの３層 動物 海面下０～10ｍまたは海面下０ｍ～海底上１ｍの１層 （分析項目等及び測点については表－３、第２図参照）	同　上
潮間帯生物	同　上	ベルトトランセクト法による観察 ・９測点　（観察方法及び測点については表－４、第２図参照）	同　上

※全調査項目を民間業者へ委託

表－１　水　質

項　　目	内　　容		
測　　点	７測点　（第２図）		
採 水 層	海面下 0.5、３、８、20mの４層 ただし、放水口周辺の２測点は、海面下 0.5、３、８ｍ（８ｍ以浅の場合は海底上１ｍ）の３層		
分析項目及び分析方法	分　析　項　目	分　　析　　方　　法	出　　典
	水　　温	電気伝導度水温水深計による測定	海洋観測指針 (1999)
	塩　　分	サリノメーター法	海洋観測指針 (1999)
	水素イオン濃度 （ｐＨ）	ガラス電極法	昭和 46 年　環境庁告示第 59 号 (JIS K 0102-1-2023)
	溶 存 酸 素 量 （ＤＯ）	よう素滴定法	昭和 46 年　環境庁告示第 59 号 (JIS K 0102-1-2023)
	化学的酸素要求量 （ＣＯＤ） (ｱﾙｶﾘ性法)	アルカリ性過マンガン酸カリウムによる酸素消費量	JIS K 0102-1-2023
	濁　　度	カオリン標準溶液による吸光光度法	JIS K 0102-1-2023
	ｸﾛﾛﾌｨﾙ－ａ	ユネスコ法による吸光光度法	海洋観測指針 (1996)

表－２　底　質

項　　目	内　　容		
測　　点	７測点　（第２図）		
分析項目及び分析方法	分　析　項　目	分　　析　　方　　法	出　　典
	化学的酸素要求量 （ＣＯＤ）	過マンガン酸カリウムによる 酸素消費量	平成 24 年 環水大水発 120725002 号
	粒　　度	ふるい分け及び沈降法	JIS A 1204-2020

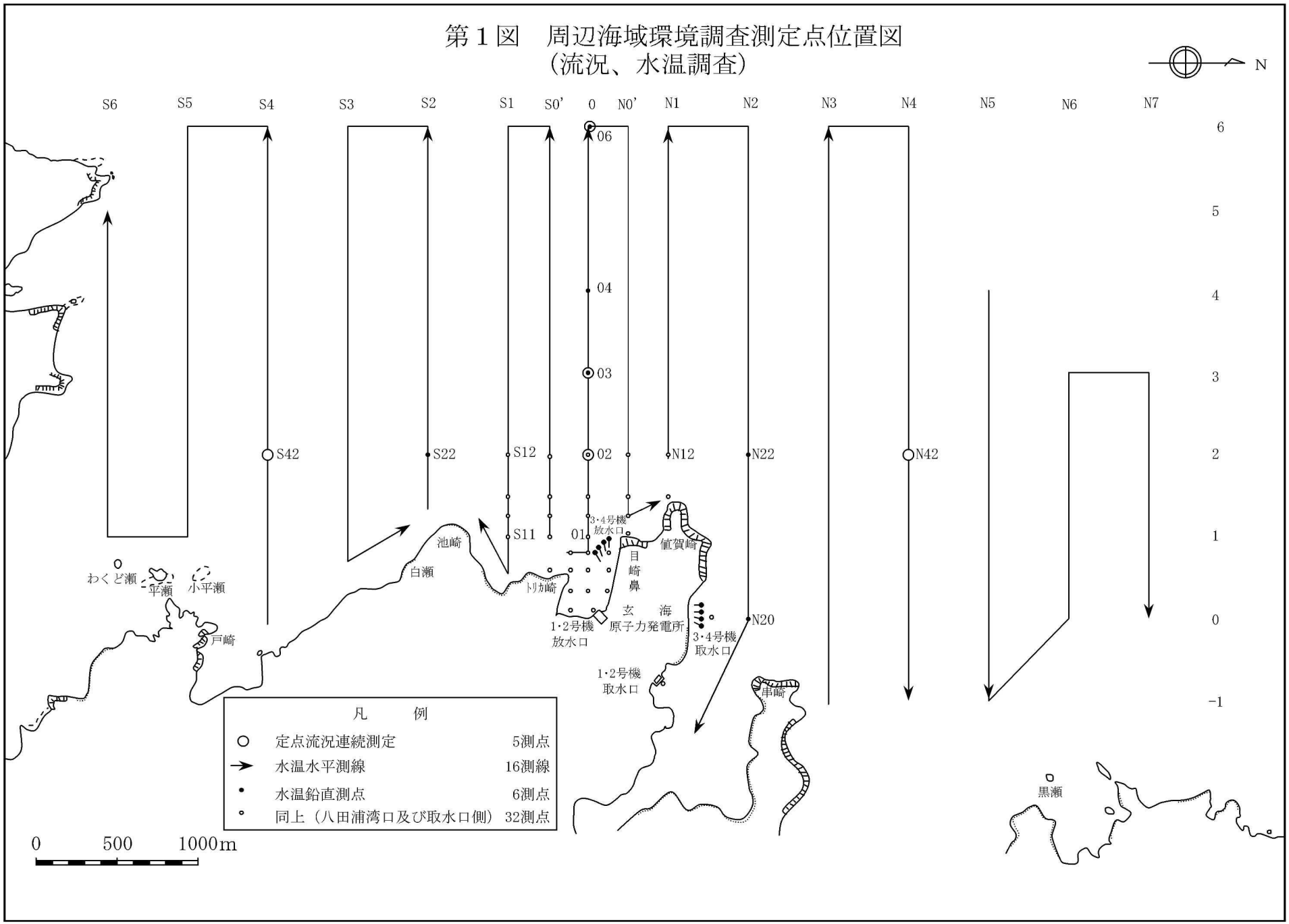
表－３　プランクトン

項　　目	内　　容	
測　　点	７測点　（第２図）	
調査項目	動物プランクトン	植物プランクトン
採集器	北原式閉鎖型定量ネット ＮＸＸ１３	バンドーン採水器
採集層	海面下０～10、10～20mの２層 ただし、放水口周辺の２測点については、海面下０～10m（10m以浅の場合は海面下０～海底上１ｍ）の１層	海面下0.5、３、８、15mの４層 ただし、放水口周辺の２測点については、海面下0.5、３、８ｍ（８ｍ以浅の場合は海底上１ｍ）の３層
採集法	ネットの鉛直曳網による方法	10ℓ 採水による方法
試料保存	ホルマリン固定	ホルマリン固定
分析項目	沈殿量（mℓ ／m^3） 種の同定と計数（個体／m^3）	沈殿量（mℓ ／m^3） 種の同定と計数（細胞／ℓ ）

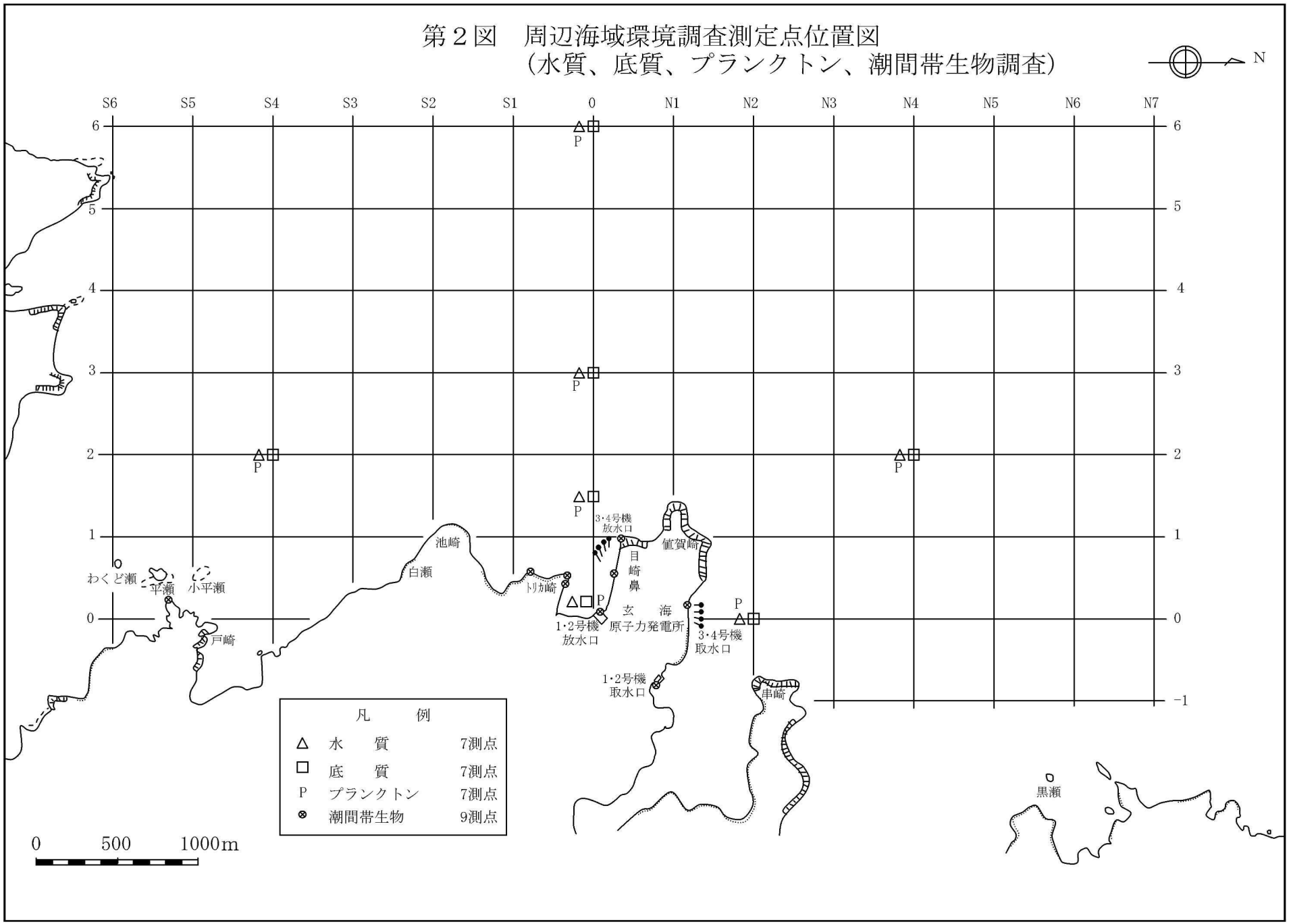
表－４　潮間帯生物

項　　目	内　　容
測　　点	９測点　（第２図）
観察方法	ベルトトランセクト法 岸側から海方向にメジャーを伸ばして、方形枠（50cm×50cm）を原則として連続的に設定し、各枠内の出現種を調査 単位：個体／0.25m^2または被度（%）

第１図　周辺海域環境調査測定点位置図
（流況、水温調査）



第２図　周辺海域環境調査測定点位置図
（水質、底質、プランクトン、潮間帯生物調査）



Ⅵ　原子力発電所の安全確保に関する協定書等

原子力発電所の安全確保に関する協定書

佐賀県及び玄海町（以下「甲」という。）と九州電力株式会社（以下「乙」という。）とは、乙が玄海町に設置する玄海原子力発電所（以下「発電所」という。）の周辺地域住民の安全確保等について、次のとおり協定を締結する。

（関係法令及び協定の遵守等）

第１条　乙は、発電所の保守運営に当たっては、関係法令及びこの協定を遵守し、周辺地域住民の安全確保と周辺環境の保全のために万全を期するものとする。

２　乙は、発電所の保守運営に当たっては、発電所職員等に対する教育訓練の徹底を図ること等により、安全管理体制の強化に努めるものとする。

（環境放射能及び温排水の測定等）

第２条　甲及び乙は、発電所周辺の環境放射能及び温排水に関する測定を実施する。

２　前項の測定については、あらかじめ甲、乙協議して定めるものとする。

３　甲は、乙の行う第１項の測定に立ち会うことができるものとする。

４　甲は、第１項の規定に基づき実施した甲及び乙の測定結果について公表するものとする。

（佐賀県原子力環境安全連絡協議会）

第３条　甲は、発電所の周辺地域における環境の保全と原子力に関する知識の普及を図ることを目的として佐賀県原子力環境安全連絡協議会を設置するものとする。

２　乙は、前項の協議会の運営については積極的に協力するものとする。

（事前了解等）

第４条　乙は、次に規定する場合は、事前に甲の了解を得るものとする。

(1) 発電用原子炉施設を変更しようとするとき。

(2) 土地の利用計画及び冷却水の取排水計画を変更しようとするとき。

(3) 新燃料、使用済燃料及び放射性廃棄物の輸送計画（輸送上の安全対策を含む。）を策定しようとするとき。

(4) 廃止措置を講じようとするとき。

２　乙は、発電所の運転状態に関して公衆に特別の広報を行う場合は、甲に対し、事前に連絡するものとする。

（平常時における連絡）

第５条　乙は、甲に対し、次に掲げる事項について、定期的に又は甲の求めに応じ、連絡するものとする。

(1) 環境放射能の測定結果

(2) 温排水の測定結果

(3) 発電所職員等に対する教育訓練の実施計画及び実施状況

(4) 廃止措置の実施状況

(5) その他発電所の保守運営状況

（異常時における連絡）

第６条　乙は、甲及び唐津市に対し、次に掲げる場合は、発生時に連絡するものとする。

(1) 原子炉が運転中又は停止中（定期検査等の計画停止を含む。）の発電用原子炉施設及び廃止措置期間中の発電用原子炉施設について機能を維持すべき施設に故障があったとき。

(2) 核燃料物質の盗取又は所在不明が生じたとき。

(3) 発電所敷地内において火災が発生したとき。

(4) 放射線業務従事者その他の者の放射線による被ばくが、法令に定める線量当量限度を超えたとき又は基準以下の放射線による被ばくであっても被ばく者に対して特別の措置を行ったとき。

(5) 核燃料物質又は核燃料物質によって汚染されたものが管理区域外に漏えいし、一時的に管理区域の設定をしたとき。

(6) 放射性物質の輸送中に事故が発生したとき。

(7) その他緊急事態が発生したとき。

（立入調査）

第７条　甲は、前条に規定する場合及び周辺地域住民の安全確保のため必要があると認める場合は、発電所施設内その他必要な場所に立入調査することができるものとする。

２　前項の立入調査を行う場合は、甲は乙に対し、立入者の職、氏名その他必要な事項を通知するものとする。

（措置の要請）

第８条　甲は、立入調査の結果、周辺地域住民の安全確保のため必要があると認める場合は、乙に対し、国を通じ又は直接、適切な措置を講ずることを求めるものとする。

（連絡の方法）
第９条　乙は、甲に対し、次に掲げるところにより連絡するものとする。
(1) 第４条第１項の事前了解を得ようとするとき並びに同条第２項及び第５条の連絡については、文書をもって行う。
(2) 第６条の連絡は、直ちに電話で行った後、文書をもって行う。
２　乙が、唐津市に連絡する場合は､前項第２号の規定を準用するものとする。

（損害の補償）
第 10 条　乙は、発電所の保守運営に起因して周辺地域住民に損害を与えた場合は、すみやかに補償するものとする。

（協定の改定）
第 11 条　この協定に定めた事項につき、改定すべき事由が生じたときは、甲、乙いずれからもその改定を申し出ることができる。この場合において、甲及び乙は、誠意をもって協議に応ずるものとする。

（覚書）
第 12 条　この協定の施行に必要な事項については、甲、乙協議のうえ、別に覚書を交換するものとする。

（その他）
第 13 条　この協定に定めた事項について疑義を生じたとき又はこの協定に定めのない事項について定めをする必要が生じたときは、甲、乙協議して定めるものとする。

この協定の締結を証するため、この協定書３通を作成し、甲及び乙において記名押印のうえ、当事者各１通を保有する。

昭和４７年１１月　６日
昭和６２年１２月２８日　　一部変更
平成 元 年　７月２４日　　一部変更
平成１０年　６月　１日　　一部変更
平成１７年　１月　１日　　一部変更
平成２７年１１月１８日　　一部変更

甲　佐賀県佐賀市城内一丁目１番５９号
　　佐賀県知事

甲　佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦３４８番地
　　玄海町長

乙　福岡県福岡市中央区渡辺通二丁目１番８２号
　　九州電力株式会社
　　代表取締役社長

※ 上記は最終変更時点の締結当事者

原子力発電所の安全確保に関する協定書に基づく覚書

佐賀県及び玄海町（以下「甲」という。）と九州電力株式会社（以下「乙」という。）は原子力発電所の安全確保に関する協定書（以下「協定書」という。）第12条に基づき、次のとおり覚書を交換する。

１　乙は、周辺環境の保全のため、公害関係法規のみならず、次に掲げる事項を遵守するものとする。

(1) 大気汚染防止対策

補助ボイラーに使用する重油の含有いおう分は、０．５％以下とする。

(2) 水質汚濁防止対策

イ　冷却水の取水口と放水口における温度差は、おおむね７℃以内とする。

ロ　冷却水については、放水口において残留塩素が検出されないこととする。

ハ　排水については、排水処理施設出口において、次の排水処理基準に適合するよう処理する。

項　　目	基　準　値
水素イオン濃度	５．８～８．６
化学的酸素要求量	２０mg/ℓ以下
浮遊物質量	３０mg/ℓ以下
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱物油)	日間平均　１mg/ℓ以下 （最大　２mg/ℓ以下）
処理施設排水量	５，７００m^3/日以下

(3) 騒音防止対策

騒音を発生するおそれのある機器については、高性能の消音装置の設置等により、騒音の低減に努め、周辺の生活環境を損なわないように措置する。

２　乙は、次に掲げる測定を行いその結果を記録し、毎月甲に報告する。

(1) 大気関係

補助ボイラーに使用する重油中の含有いおう分を毎月測定する。

(2) 水質関係

イ　取水口及び放水口において水温を連続測定する。

ロ　冷却水の放水口において残留塩素を毎日測定する。

ハ　排水処理施設出口において水素イオン濃度、化学的酸素要求量については、毎週１回以上、浮遊物質量及びノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱物油)については、毎月１回以上測定する。

(3) 前記各号の測定は、日本産業規格に定める方法による。

3　甲及び乙は、協定書第２条第４項の測定結果についてクロスチェック等技術的事項の検討を行うものとする。

4　協定書第４条第１項に規定する事前了解は、次に掲げるところによる。

(1) 協定書第４条第１項第１号に規定する発電用原子炉施設を変更しようとするときとは、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（昭和３２年法律第１６６号。以下「炉規法」という。）第４３条の３の５第２項第５号に規定する発電用原子炉施設について、炉規法第４３条の３の８第１項の規定に基づき許可を受けて変更しようとする場合をいう。

(2) 協定書第４条第１項第４号に規定する廃止措置を講じようとするときとは、廃止措置に関する計画（以下「廃止措置計画」という。）について、炉規法第４３条の３の３４第２項の規定による認可(以下「廃止措置計画認可」という。）又は同条第３項において準用する炉規法第１２条の６第３項の規定による変更の認可（以下「廃止措置計画変更認可」という。）を受けて、廃止措置を講じようとする場合をいう。

5　協定書第５条に規定する平常時における定期的な連絡は、次に掲げるところによる。

(1) 協定書第５条第１号の環境放射能の測定結果については、次により行う

イ　モニタリングポイント	毎四半期
ロ　サーベイルート	毎半期
ハ　モニタリングポスト	毎月
ニ　環境試料	毎四半期

(2) 協定書第５条第２号の温排水の測定結果については、年１回文書により行う。

(3) 協定書第５条第３号の発電所職員等に対する教育訓練については、次により行う。

イ　実施計画	毎年度
ロ　実施状況	毎四半期

(4) 協定書第５条第４号の廃止措置の実施状況については、次により行う。

イ　廃止措置計画認可又は廃止措置計画変更認可を受けて実施する廃止措置の実施状況	毎月
ロ　炉規法第４３条の３の３４第３項において準用する炉規法第１２条の６第３項ただし書に規定する廃止措置計画の軽微な変更	変更の都度

(5) 協定書第５条第５号のその他発電所の保守運営状況については、次により行う。

イ　発電実績	毎月

ロ　原子炉本体の入口及び出口における冷却材の温度圧力及び流量
毎四半期

ハ　核燃料物質の状況

受入・払出状況	その都度
消費状況	毎月
管理状況	毎半期（７月及び１月）

ニ　放射線管理の状況　毎半期（５月及び 11 月）

ホ　放射性廃棄物の管理状況　毎月

ヘ　定期検査の実施計画及びその結果　定期検査の都度

ト　原子炉施設保安規定　変更の都度

チ　炉規法第４３条の３の５第２項第５号に規定する発電用原子炉施設について、炉規法第４３条の３の８第４項に規定する変更
変更の都度

6　協定書第６条の異常時における連絡は、同条に規定するもののほか、次に掲げるところによる。

(1) 協定書第６条第１号の廃止措置期間中の発電用原子炉施設について機能を維持すべき施設とは、実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則（昭和５３年通商産業省令第７７号）第１１６条第２項第６号の規定により添付する書類に掲げる施設・設備及び機器をいう。

(2) 協定書第６条第１号の原子炉が運転中又は停止中（定期検査等の計画停止を含む。）の発電用原子炉施設及び廃止措置期間中の発電用原子炉施設について機能を維持すべき施設に故障があったときには、次に掲げる場合が該当するものとする。

イ　原子炉施設保安規定で定める放射性物質の放出管理目標値に照らして、異常な量の放射性物質を放出した場合又はそのおそれがある場合

ロ　燃料、原子炉冷却材圧力バウンダリの放射性物質障壁機能が喪失した場合

ハ　前記ロ以外の放射性物質を内包する系統、機器の放射性物質保持機能が喪失した場合

ニ　安全保護系、工学的安全施設等の安全系が作動した場合

ホ　安全保護系、工学的安全施設等の安全系の機能が喪失した場合

ヘ　その他安全上必要な構築物、系統及び機器等の機能喪失により、安全確保のための特別な措置を行う必要がある場合

(3) 協定書第６条第４号の特別の措置とは、電離放射線障害防止規則（昭和４７年労働省令第４１号）第４４条に規定する医師の診察又は処置を行ったときとする。ただし、同条第２号は除く。

(4) その他緊急事態として国へ報告する事項については、その都度速やかに報告するものとする。

7　協定書第９条第１項第２号に規定する文書による連絡は、１週間以内に行うものとする。

8　この覚書について疑義が生じたとき、この覚書に定めのない事項について新たに定めをする必要が生じたとき又はこの覚書に定めた事項について変更する必要が生じたときは、甲、乙協議のうえ、定めるものとする。

以上のとおり覚書を交換した証として、この証書３通を作成し、当事者記名押印のうえ、当事者各１通を保有する。

昭和４９年１２月２３日
昭和５２年　９月　２日　　一部変更
昭和５５年　２月　４日　　一部変更
昭和５５年　３月１４日　　一部変更
昭和５７年　３月３０日　　一部変更
昭和６２年１２月２８日　　一部変更
平成 元 年　７月２４日　　一部変更
平成　４年１２月２５日　　一部変更
平成１０年　６月　１日　　一部変更
平成１４年　４月　１日　　一部変更
平成１７年　１月　１日　　一部変更
平成２５年　７月　８日　　一部変更
平成２７年１１月１８日　　一部変更
令和 元 年１０月２５日　　一部変更

甲　佐賀県佐賀市城内一丁目１番５９号
　　佐賀県知事

甲　佐賀県東松浦郡玄海町大字諸浦３４８番地
　　玄海町長

乙　福岡県福岡市中央区渡辺通二丁目１番８２号
　　九州電力株式会社
　　代表取締役社長執行役員

※ 上記は最終変更時点の締結当時者

令和８年１０月

佐　賀　県　県　民　環　境　部
原　子　力　安　全　対　策　課

〒840-8570
佐賀県佐賀市城内一丁目１番５９号
TEL　(0952)25-7081(直通)
FAX　(0952)25-7269

＜インターネットによる情報公開＞

本県の原子力行政に関する情報などは、佐賀県庁ホームページ(https://www.pref.saga.lg.jp/)のトップページにあるバナー「佐賀県の原子力安全行政」で公開しています。

佐賀県
SAGA PREFECTURAL GOVERNMENT

この冊子は再生紙を使用しています。